

山梨県韮崎市

I SHI NO TSUBO

石之坪遺跡(東地区)

— 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



4号住出土土器の抽象文

2000

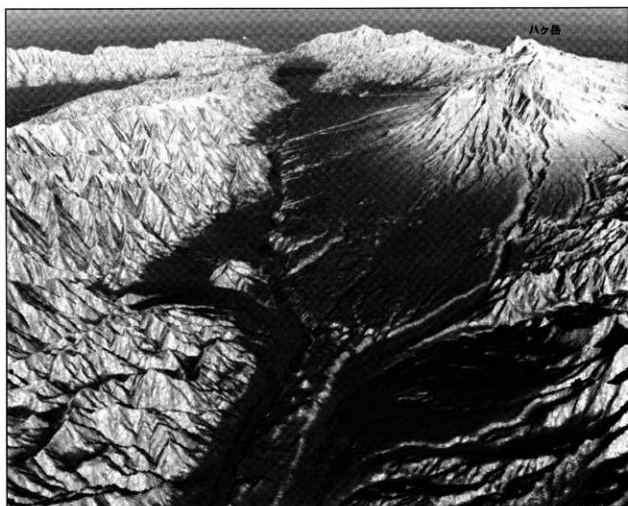
韮崎市教育委員会
石之坪遺跡発掘調査会
峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

I SHI NO TSUBO

石之坪遺跡(東地区)

— 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



○印が石之坪遺跡

2000

韮崎市教育委員会
石之坪遺跡発掘調査会
峡北土地改良事務所

序

石之坪遺跡は、今から約4500年前の縄文時代中期を中心とした集落遺跡です。さらに平安時代末から中世の遺構や遺物も発見されており、貴重な歴史資料を提供しています。

遺跡発見の経緯は、県の主導による昭和47年に行われた分布調査で縄文土器が採集され、周知の埋蔵文化財包蔵地「石の坪遺跡」として遺跡台帳に登録されたことによります。遺跡は甲州街道沿いに形成された上戸井集落の後背台地上にあり、台地は南北方向に細長く南側に向かって緩やかに傾斜した地形で、畑地となっていました。現在は国道20号線が台地中央を南北方向に、遺跡を東と西に分断するように走っています。

平成8年度に県営圃場整備事業が当該地域に実施されることになり、畑の区画整理と水路・道路の付け替えが計画されました。本市教育委員会では文化財保護の立場から山梨県学術文化財課・峡北土地改良事務所と協議を行い、その結果工事に先立って遺跡の発掘調査を実施する運びとなりました。圃場整備事業対象地は約20000m²で、その全域に遺跡の存在が予測されたため、当初、平成12年度までの5カ年で、現地調査を終了する予定でしたが、圃場整備事業の完了が平成12年度に決定され、調査と報告書の刊行が急務となりました。そこで再度本市教育委員会・山梨県学術文化財課・峡北土地改良事務所で協議を行い、調査の進捗状況や市教委の調査体制等を考慮して、国道から東側部分については(財)山梨文化財研究所に調査の委託を行い、平成10年度に発掘調査実施、平成11年度に報告書刊行、西側部分については教育委員会による発掘調査事業とし、平成11年度まで調査、平成12年度に報告書作成としました。

今回の報告書は、(財)山梨文化財研究所に調査委託を行った国道東側部分の発掘調査をまとめたものです。細かい内容は報告文を参照していただきたいと思いますが、縄文時代・弥生時代・平安時代・中世など各時代にわたって重要な発見があり、貴重な成果がもたらされました。本報告書が学術的に考古学研究や歴史学研究の一助となるとともに、地域文化の発展に寄与することを願っております。

最後になりましたが、発掘調査実施にあたり多大なご理解とご協力を賜りました関係各機関、各位に厚くお礼を申し上げます。

平成12年3月31日

韭崎市教育委員会

教育長 興石 薫

- 1 本書は山梨県韮崎市川野町上門井石之坪所在の石之坪遺跡(東地区)の発掘調査報告書である。韮崎市の委託を受け、石之坪遺跡発掘調査会が発掘調査を平成10年度に、また整理作業を平成11年度に行った。
- 2 本書の原稿執筆・編集は、第3章第1・2節を除き藤原が行った。写真図版の空中写真および土器写真、展開写真は(株)シン技術コンサルによる。
- 3 発掘調査、整理作業において次の分析・業務を委託した。
基準点設置・杭打設・航空測量
(株)シン技術コンサル
火山灰分析
(財)山梨文化財研究所 地質研究室
炭化種実分析
古代の森研究會
金属製品保存処理
(財)山梨文化財研究所 保存修復研究室
- 4 本書で用いた地図は建設省国土地理院発行の地形図(1:25,000、1:50,000)、地勢図(1:200,000)、韮崎市発行都市計画図(1:2,500、5,000)である。また中原の縮図作成は村石真澄氏(山梨県埋蔵文化財センター)による。
- 5 石器石材名は河西学氏(財)山梨文化財研究所)に、陶磁器類に関しては藤沢良祐氏・青木修氏(財)瀬戸市埋蔵文化財センター)、出土人骨に関しては茂原信生氏(京都大学霊長類研究所)にご教示いただいた。
- 6 本書に関わる出土品・諸記録は韮崎市教育委員会にて保管されている。
- 7 発掘調査から本報告書刊行までの間、以下の諸氏、諸機関から多大な助言、ご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい。(順不同)
小野正文・中山誠二・森原明廣(山梨県教委学術文化財課)、新津健・三田村美彦(山梨県立考古博物館)、今福利恵・野代幸和・村石真澄(山梨県埋蔵文化財センター)、佐野隆・秋山圭子(明野村教委)、室伏敬(勝沼町教委)、佐々木満(甲府市教委)、堀内真(富士吉田市教委)、佐藤勝廣(小淵沢町教委)、岡野秀典(豊富村教委)、雨宮正樹(高根町教委)、竹田眞人(武川村教委)、杉本充(白州町教委)、石川日出志(明治大学)、原田昌幸(文化庁)、原正人(駿台甲府中)、歌田昌敏、内藤巧、山口博之、荒川正夫、飯村均、斉木秀雄、八重樫忠郎、谷山一夫(湯之美山資料館)、田村晃一・清水信行・合田芳正・林克彦(青山学院大学)、大上原豊(安中市教委)、降矢哲男、斉藤春美、内藤まさの、内藤陽子、内藤寿美江、庄司太一、秩北土地改良事務所、東京大学考古学研究会、都留文科大学考古学研究会、甲斐丘陵考古学研究会、東八代郡文化財担当者会、北巨摩郡文化財担当者会、藤沢市教育委員会
- 8 西地区(韮崎市教委調査地区)を含めた石之坪遺跡全体の遺構分布及び変遷、土器群の様相に関しては、平成12年度刊行予定の『石之坪遺跡(西地区)』にまとめられる予定である。

- 1 道路全体図におけるX・Y数値は、平面直角第8系(原点:北緯36度00分00秒、東経138度30分00秒)に基づく各座標数値である。各遺構平面図中の北を示す方位は、全て座標北を示す。磁針方位は西偏約6°。
- 2 遺構および遺物の縮尺は原則として次の通りである。
(遺構) 聖穴住居址 1/60
土坑・竈・炉 1/40
溝・全体図 任意
(遺物) 完形・図上復元土器 1/4
土器片(拓本)・石器・石製品・瓦 1/3
石鏃・石錐・ユーストフレイク等 2/3
鉄製品・土製品・小瓶 1/2
銭貨 1/1
五輪塔・宝篋印塔 1/6
- 3 遺構図版中の手書き点文は焼上分布を、2点線線は硬化した床面の範囲を、破線は掘り方面のピットや凹みを意味する。また遺構図版中の遺物マークは次の通りである。
● 石器、十師器 ▲ 須恵器、灰釉陶器、陶磁器
■ 石器 ○ 土製品 ○ 金属製品
- 4 遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号と一致する。また遺構図版中の遺物接合線については、実線は接合した2点の遺物接合関係を、また破線は同一個体であることを意味する。
- 5 磨石の磨り面は断面に実線で範囲を表示し、また印き面は破線で表示している。
- 6 遺構図版中の柱穴内の数値は基準床レベルからの深さ(cm)である。
- 7 遺物図版中の断面図が黒塗りは須恵器、白抜きは土器、土師器、陶磁器、斜かけは灰胎陶器、山茶埴である。
- 8 十層断面図、遺物観察表中の色調名は『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄 1990)を参照した。
- 9 聖穴住居の床面積は壁下端ラインをプランメーターで計測した。使用機種はウシカタX-PLAN360d。

第1章 序説	
第1節 遺跡の位置と歴史・環境	1
第2節 調査に至る経過・調査体制	1
第3節 調査の方法と経過	4
第2章 遺構と遺物	
第1節 聖穴住居址と遺物	9
第2節 土坑と遺物	14
第3節 方形集石と遺物	15
第4節 方形周溝遺構と遺物	16
第5節 溝と遺物	17
第6節 その他の出土遺物	17
第3章 自然科学分析	
第1節 韮崎市石之坪遺跡のテフラ(河西学)	34
第2節 韮崎市石之坪遺跡より産出した炭化種実(吉川純子)	36
第3節 出土人骨	39
第4章 考察	
第1節 土器の分布状況と遺構の変遷	39
第2節 五輪塔の変遷	41
第3節 方形周溝遺構の基準床	43
第4節 庭衣埋納に関する留意	44
第5章 成果と課題	45

第1章 序 説

第1節 遺跡の位置と歴史・環境

山梨県北西部にある韭崎市には、かつて八ヶ岳の山体崩壊によって生じた大規模な泥流台地が細長く浸食されて特徴的な景観を形成した「七里ヶ岳」台地がある。その台地東側には塩川が、西側には暴れ川で知られる釜無川が南へと流れ、それぞれの流域は県内有数の米どころとなっている。七里ヶ岳台地上には山梨の代表的な縄文遺跡である坂井遺跡が所在し、また武田家最後の城、新府城跡(岡史跡)が残る。

石之坪遺跡は釜無川右岸、韭崎市円野町上丹井(かみつぶらい)石之坪にあり(図1・2)。麓沢の小扇状地が東側へと発達した台地の南端、標高460m付近に立地する。遺跡付近は突き出すように緩やかに南に傾斜した地形で、台地中央には昭和40年頃開通した国道20号線が通過し、遺跡を東西に分断している。この国道東側が本書で報告する石之坪遺跡東地区である。遺跡東方には、釜無川対岸に屹立した七里ヶ岳の屏風が視界を閉ざし、また西側は南アルプスの山々の山麓となり、北西と南東に開けた地形となっている。長野県境へと続く北西方面には八ヶ岳の山々が裾野を広げ、また南東正面には甲府盆地の先に富士山の優美な姿を拝することができる。台地下東側には上丹井集落が旧甲州街道に沿って旧宿場町を形成し、かつての面影をとどめている。

この上丹井地区では、県営圃場整備事業に伴う発掘調査が市教委によって平成8年(1996)から計画的に実施されてきた。また前段階の調査として、平成4年には石之坪遺跡北端で堂地遺跡が、また平成5年には堂地遺跡(2次)が調査され、さらに本遺跡北700mでは、平成2年に北堂地遺跡が調査され、縄文時代中期中葉の住居址1軒が見つかった。堂地遺跡の調査地点2箇所は、ともに本遺跡内に含まれるもので、堂地遺跡では円形の石組井戸1基が見つかり、付近には明治以前に建物が存在したといわれている。

石之坪遺跡西地区(市教委調査地区)では、これまでに中期前半から後半にかけて多数の住居址が検出され、各時期に集落としての環状配置やまとまりがいくつか想定されている。釜無川右岸では最大級の縄文中期の集落遺跡で、北巨摩郡内では坂井遺跡(韭崎市)、酒肴場遺跡(長坂町)、甲ツ原遺跡(大泉村)と並ぶ規模の拠点集落である。後期前半には柄形住居址1軒をはじめ数軒の住居址が検出され、晩期では終末期の浮線文系土器が出土している。弥生時代中期前半では条痕文土器を含む土坑があり、平安時代になると竪穴住居址が全体的に散在している。また2条の平行した区画溝が断続的に見つかり、東地区にも及んでいることが予測された。溝の時期は定かではないが、平安末以降の遺物が住居址等から出土し、平安末～鎌倉初期の館跡とも考えられている。

地帯図をみると、国道を斜めに横切る農道に沿って短冊形地割が認められることから(図2E)、現農道が古道を示すものではないかという指摘がある。また農道を北に進むと東地区北側に隣接して方形の地割があり、館跡の可能性もあるといわれている。地元では現在の旧甲州街道成立以前には、信州への道が台地上を通過していたと伝えられる。また地元研究者所有の古地図写しにも、台地には道は描かれておらず、山裾に「丹井七郎敷」ともいわれるいくつかの屋敷名をもつ家々が点在する様子が見える。また圃場整備が進んだ現在でも、台地上の農

道跡などには中・近世の六地蔵石幢や五輪塔などの石造物が点在し、かつての古道を示す手がかりを残している。

遺跡北側には妙淨寺(清水山妙淨寺、日蓮宗)がある。万治年間、江戸深川の徳嶋兵左衛門俊正が釜無川右岸の灌漑を目的として堰を計画し(後の徳島堰)、その折神寺として建立された寺院で、徳嶋兵左衛門夫妻の墓所がある。また遺跡東側の竹藪には巨石があり、「おじょうさん」と呼ばれる石祠が祀られている(写真1)。子供の夜泣きで激しい時など、油揚げなどをお供えしたといわれる。「おじょうさん」と書き、検地の縄を埋めた場所とも、甲府城の船荷郭からお稲荷さんを移したとも、あるいは伊藤三右衛門なる者が天正5年、譜ノ城攻めの際に円珠姫なる姫君を捕らえ連れてきたが、勝頼が本国へ返したことに因むともい伝えられている(1979 内藤)。また出産時の後産を埋納した胎衣墓地がその付近にあった、ということも調査前にうかがっていたが、調査の結果、石祠の西側、台地上の中央東寄りにある上丹井地区共有地がそれであったことが判明した。なお、『甲斐国志』土庶部の「円井氏」には「武田系國五郎信光ノ末男十郎光経ノ丹井・増坪ノ祖トアリ」とみえ、今回の調査で確認された遺構と時期的に関連性がある。『甲斐国志』の記載を単なる伝承として軽々に扱うべきではなく、慎重に検討する価値があろう。



写真1「おじょうさん」の石祠

第2節 調査に至る経緯・調査体制

調査に至る経緯は本書序文にあるように、平成10年、峡北土地改良事務所から示された上丹井地区圃場整備計画案に対し、韭崎市教育委員会の現体制では調査を行うことが難しいとの判断から、県学術文化財課を交えて相談した結果、東地区の調査が山梨文化財研究所に委託された。研究所側では遺跡調査会を組織して調査にあたることとし、



図1 遺跡の位置

A : 1/200,000
 地勢図 (甲府)
 B : 1/50,000
 地形図 (並崎)





図2 遺跡の位置

C : 1/25,000
 地形図(若神子)
 D : 1/5,000
 E : 1/2,500



平成10年5月、韭崎市と石之坪遺跡調査会との間で契約を交わした。この調査会の目的は石之坪遺跡の発掘調査、研究、整理、調査報告書の作成であり、組織は以下の通りである。また事務局は研究所内に置いた。

会長 萩原三雄(山梨文化財研究所 所長代行)
 副会長 鈴木 聡(山梨文化財研究所 研究室長)
 参与 口野道男(韭崎市教育委員会 教育長 平成10年度)
 参与 奥石 薫(韭崎市教育委員会 教育長 平成11年度)
 参与 山本雄次(韭崎市教育委員会 社会教育課 課長)
 参与 山下孝司(韭崎市教育委員会 社会教育課 主査)
 参与 関根俊明(韭崎市教育委員会 社会教育課 主事)
 調査員 榎原功一(山梨文化財研究所 研究室長)
 事務局員 五味芳子(山梨文化財研究所 事務主任)

調査は平成10年度の委託事業とし、平成10年5月～11年3月まで行われた。また整理作業、報告書原稿作成は平成11年度の委託事業とし、平成11年4月～平成12年3月まで山梨文化財研究所内で行われた。なお発掘調査にあたっては、榎原とともに阿部繁が調査員として指導を行った。

<発掘調査参加者> (敬称略・順不同)

戸島義和・望月等・伊藤豊子・望月磯男・功刀正彦・功刀とよ子・鈴木節夫・高左右一光・清水知恵・小野幸江・大衆欣子・保坂実香子・五味ゆき子・粟沢たけ子・飯窪利江・井手研二・井手正美・守屋敏子・川村みゆき・宮川昌哉・樋口信也・阿部恵子・山本栄一

<整理作業参加者> (敬称略・順不同)

佐野靖子・矢野静江・斉藤ひろみ・岩崎清佐子・小沢恵津子・崎田貴子・林紀子・田中真紀美・井出研二・井出正美・小林小路・保坂真澄・電沢みち子・梶原薫・斉藤春美・神庭さつき・高橋大地・山口あずさ・法月麻友美・林雅彦・神原豪・児嶋貴行・松本貴智・根岸洋・川中裕二・斉藤拓弥・初鹿野博之

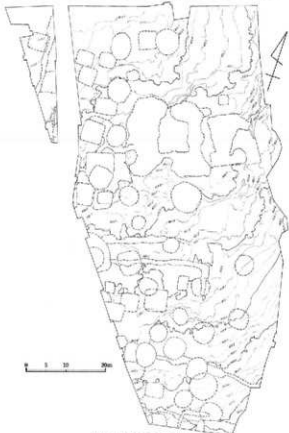


図5 遺跡コンタ図

第3節 調査の方法と経過

(対象地区) 調査面積は約4,900㎡。事前に試掘調査は行われていなかったが、西地区での遺構の検出状況、および踏査での状況から全面的に遺構が存在することが予想されたため、全域を調査対象地区とした。

(基準点設置) 国家座標に基づく5mメッシュの杭設置を委託した。北方向(X軸方向)を1～50、東方向(Y軸方向)をA～Zとし、起点は西地区全域もカバーできるようにA1をX=-26400、Y=-9000とした。なお市教委によるグリッド設定にあわせた形になっているが、グリッド番号は一致していない。

(基本層序) J37グリッド、道際で深掘りを行い、地下約4mまでの層序を捉え、火山灰分析を行った。分析の結果、御岳三岳スコリア(約5.7万年前)が地下約3mで検出された(第3章第1節参照)。なお10層付近からは水が染み出す。(遺構番号) 竪穴建物(住居)址・竪穴状遺構は「住居」、柱穴状ピットは「ピット」、それ以外の穴は「土坑」とした。

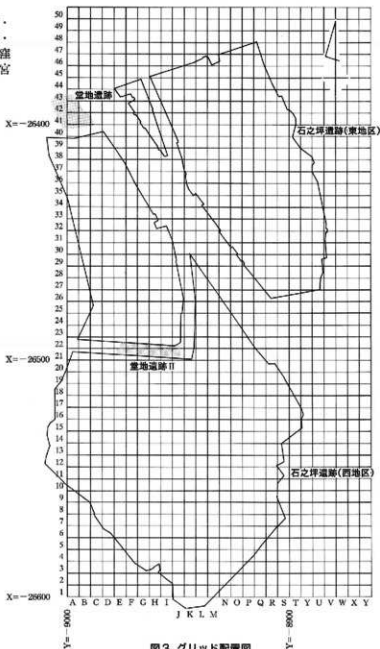


図3 グリッド配置図

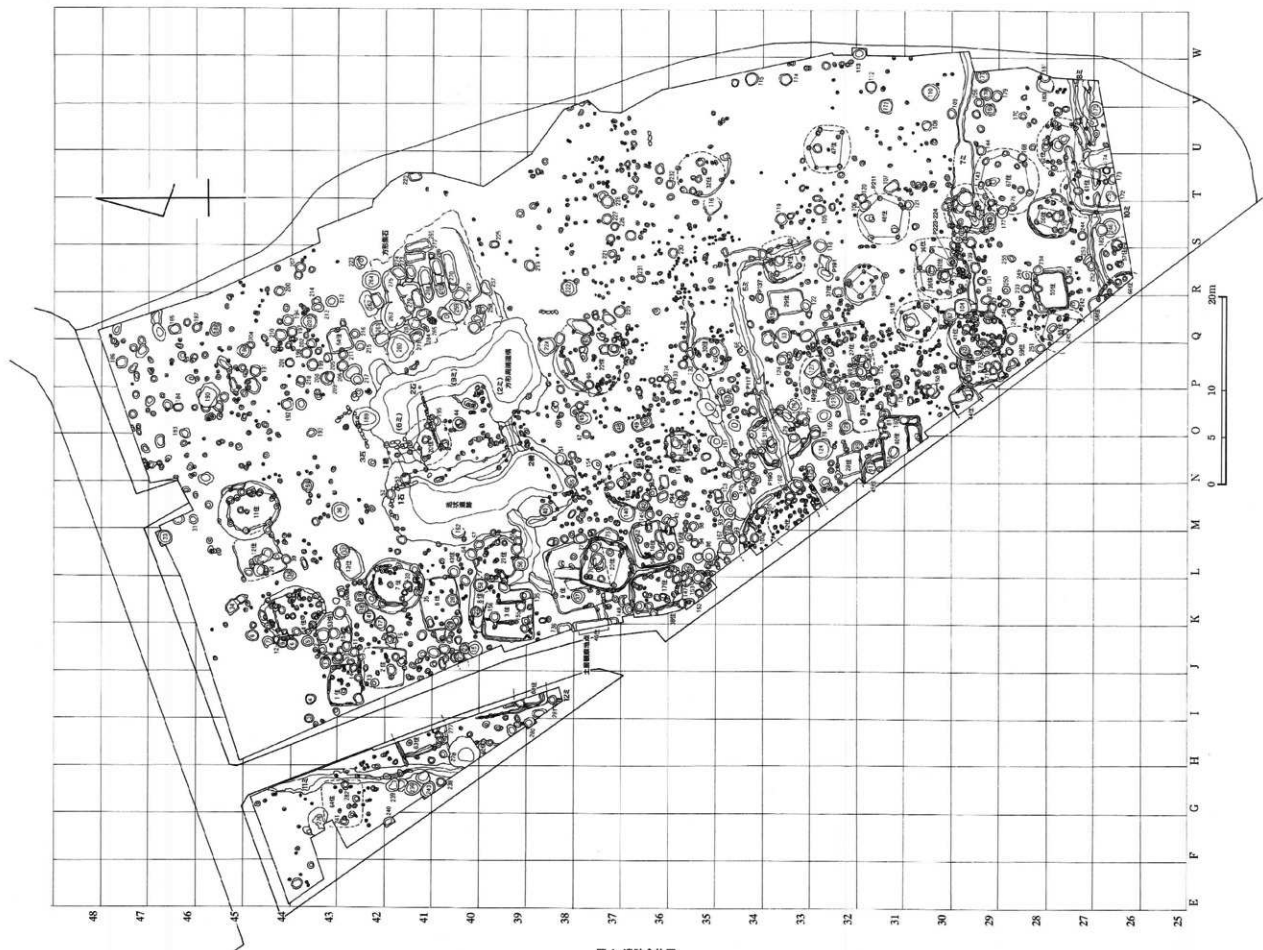


图4 周园全图

番号	位置	図版	時期	形態	主軸方向	主軸長m	交軸長m	面積㎡	遺・炉	柱穴	備考
1	I・I42・43	1	11C?	隅丸方	N-1°-W	3.74	4.48	12.97	西南隅礎1	—	—
2	I・I41・42	1	13C?	隅丸方	N-0°-W	4.18	4.32	16.21	地床礎1	—	—
3	I・E38・39	2・3	11C	隅丸方	N-1°-E	5.46	5.68	27.38	西南隅礎1	—	厨仕切り溝
4	I・E43・44	3・4	扉内	楕円	N-10°-E	7.20	9.72	26.81	地床礎1(石圍炉?)	7本	3回の建て替え
5	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	J・K40・41	5	12C?	隅丸長方	N-4°-W	4.14	5.65	20.55	東南隅礎・地床礎1	—	—
7	K・I41・42	5・6	扉内	楕円	N-4°-W	6.28	5.98	26.19	礎梁?1	7本	—
8	J・K39・40	3	?	隅丸方	—	—	—	—	—	—	住居ではない?
9	K・I37・38	7・8	11C	隅丸方	N-6°-W	6.50	7.50	40.08	西南隅礎1・地床礎1	—	—
10	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	L・M44・45	8・9	扉内	楕円	N-8°-W	6.86	6.14	28.97	石圍炉?	7本・6?本	2軒の重複
12	L44	10	12C?	隅丸方	N-8°-W	4.76	4.62	19.75	—	—	—
13	K・I42・43	10	12C?	隅丸方?	N-17°-W	2.80	3.26	5.80	—	—	廊り方のみ
14	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	L・K35・36	10・11	12C前	隅丸方	N-5°-W	4.98	4.20	15.51	東南隅礎1	—	—
16	L・K36	11	10C前	隅丸方	N-7°-W	3.12	4.00	10.04	東礎1	—	内部に配石
17	K・I35・36	12	10C前	隅丸方	N-5°-W	5.88	4.30	22.36	西南隅礎1・地床礎1?	4本?	—
18	N・N36・37	13	資料Iva	—	—	—	—	—	—	—	—
19	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	N・O40・41	14	扉内	—	N-8°-W	(4.46)	(4.54)	(17.34)	地床礎1	5本	—
21	K・I38・40	14・15	新築	円?	N-18°-W	5.20	5.16	22.70	礎梁?1	5本?	2回の建て替え
22	O・Q36・38	14・16	築礎	円	N-2°-E	(7.70)	(7.70)	(44.77)	地床礎1	7本	—
23	K・I36・37	16・17	資料IVb	隅丸方	N-5°-E	6.16	5.67	25.09	石礎?1	4本	埋梁1
24	R・S33・34	17	資料IVa	隅丸方?	N-8°-W	4.55	4.55	16.47	地床礎1(石圍炉?)	1本	—
25	N・S35・36	18	資料Iva	円	N-2°-W	3.56	3.44	9.38	地床礎1(石圍炉?)	4本	石置付礎梁1
26	Q・K31・32	18	築表	楕円	N-20°-W	4.74	3.94	12.26	礎梁?1	4本	—
27	P・Q31・32	19	11C	隅丸方	N-5°-W	5.82	5.74	27.17	—	6本?	—
28	N31・32	19	13C?	隅丸方	N-6°-W	2.76	2.62	4.93	—	2本?	—
29	Q・K33	19	11C	隅丸長方	N-5°-W	3.60	2.72	7.79	—	—	—
30	P・Q34・35	20	築礎	楕円	N-10°-W	4.00	4.46	11.69	地床礎1	4本	2〜3回の建て替え
31	N・O33・34	20・21	資料IVb	隅丸方	N-16°-W	6.16	6.10	27.17	石圍炉?	4本	—
32	T・U34・36	21・22	築礎c	楕円	N-7°-W	(4.92)	(4.44)	(16.32)	地床礎2	5本?	—
33	P29	22	11C	隅丸方	N-5°-W	4.88	(4.80)	(18.85)	西南隅礎1	—	—
34	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35	R29・30	23	?	隅丸方?	N-3°-W	(3.53)	(3.20)	(11.01)	—	—	—
36	R・S29・30	23	12C	隅丸方?	N 3°	(4.28)	(4.04)	(15.57)	東南隅礎?1	—	—
37	Q・K30	23	弥生中	—	—	—	—	—	—	—	円形石圍炉?
38	K3・36	12	10C中	隅丸方	N-8°-W	5.60	—	—	礎梁1	—	—
39	O・P31・32	24・25	11C	隅丸方	N-4°-W	(4.72)	(4.54)	(20.01)	—	—	—
40	N・O30・31	24・25	9C前	隅丸方	N-2°-W	4.66	—	—	北礎1	—	—
41a	P・Q28・30	25	扉内	楕円	N-10°-W	6.22	5.12	22.19	石圍炉?	7本	厨仕切り溝
41b	P・Q28・30	25	築表	楕円?	N-6°-E	—	—	—	礎梁?1	4本?	—
42a	L・M32・34	26・27	築礎c	楕円	N-17°-W	10.60	—	—	地床礎3	4本以上	大宮住居、3回の建て替え
42b	L・M32・34	26・27	築表	—	N-5°-E	—	—	—	礎梁?1	4本	42a住と重複
43	L40	28	—	—	—	—	—	—	—	—	床のみ
44	O・P29	28	11C	隅丸方	N-14°-W	3.10	—	—	—	—	—
45	*N31	28	資料II	円?	—	—	—	—	—	—	—
46	J・K37	28	11〜12C	隅丸方	N 15°	4.74	—	—	—	—	—
47	T・E32・33	28	—	円?	N-1°-W	4.76	5.20	20.79	地床礎1(石圍炉?)	5本	—
48	S31	29	—	円?	N 1°	(5.46)	(5.42)	(24.17)	地床礎1(石圍炉?)	5本?	—
49	O・P32・33	29	資料IVb	円?	N 4° E	(4.20)	(4.34)	(14.59)	石圍炉?	4本?	埋梁1
50	S・T29・30	29・30	資料IVa	円?	N-4°-E	(5.38)	(5.26)	(20.50)	石圍炉?	5本	—
51	Q・K30・31	30	資料IVb	円?	N-8°-E	4.80	4.40	(15.66)	地床礎1(石圍炉?)	4本	埋梁1
52	R・S29・30	33	資料II	円?	N-2°-E	(5.98)	(5.56)	(26.78)	石圍炉?	5本+2	埋梁1
53	J・K42・43	31	—	隅丸方?	N-0°	3.70	4.46	15.26	—	—	—
54	P・Q42・43	31	13C?	隅丸方	N-7°-W	2.56	2.66	4.30	—	2本	—
55	Q・K27・28	31	9C前	隅丸方	N-3°-W	3.86	4.42	14.14	北礎1	—	—
56	S・T27・28	32	築表	楕円	N-8°-E	5.02	4.36	15.40	地床礎1	4本	—
57	R・S26	33	井戸礎	円?	N-11°-W	—	—	—	—	石圍礎梁?1	4本以上
58	Q26・27	34	—	隅丸方?	N-7°-W	—	—	—	—	—	—
59	P・Q28・29	33	資料II	円?	N-16°-E	(5.26)	(6.60)	—	—	石圍炉?	5本?
60	H39・40	34	13C	隅丸方?	N 11° E	—	—	—	—	—	—
61	S・T28・27	34	資料IV?	楕円	N-5°-E	(5.58)	(5.04)	(21.06)	地床礎1(石圍炉?)	5本	—
62a	T・U27・27	34・35	資料IV	円?	N 0°	(4.70)	(5.20)	(19.75)	地床礎1(石圍炉?)	5本	—
62b	T・U27・28	34・35	資料IV	円?	N-22°-E	4.64	5.26	20.53	地床礎1(石圍炉?)	5本	—
63	H40・41	35	12C	隅丸方?	N-9°-W	5.34	—	—	—	4本	厨仕切り溝
64	F・G42・43	36	11C?	隅丸方?	N-0°	(4.80)	(5.10)	(24.67)	東隅礎・西南隅礎各1	—	—
65	P・Q27・28	36	資料V	円?	N-1°-E	—	—	—	—	—	礎梁?1
66	K36	34	資料II	円?	—	—	—	—	—	—	5本?
67	S・T28・29	37	井戸礎	円	N-2°-W	(6.70)	(7.14)	(37.82)	地床礎1(石圍炉?)	7本	—
68	I38・39	37	10C	隅丸方	N-2°-W	3.92	—	—	—	—	—

表1 竪穴住居(建物)址一頁表

選手	所属	時期	距離	時間	備考	選手	所属	時期	距離	時間	備考
1 28 143	平塚	1:25.10	10.85	104 48 Q29	劣走	1:06.17	1.56	浦下武夫			
2 28 143	平塚	1:25.10	10.85	105 53 Q2	劣走	1:29.10	1.34				
3 28 143	平塚	1:05.09	9.29	106 16 S31		1:04.02	0.82				
4 28 143	平塚	1:05.09	9.29	107 16 T31		1:72.1.09	0.47				
5 28 143	平塚	1:30.11	20.55	108 46 S20		1:13.1.06	0.12				
6 28 143	平塚	1:25.10	10.85	109 46 Q29		1:07.09	0.30				
7 28 144	平塚	1:20.11	10.25	110 46 Q30	劣走	1:94.1.65	0.94	ワニ状			
8 28 144	平塚	1:25.1.09	0.15	111 16 Q31	劣走	1:81.1.51	0.33				
9 28 144	平塚	1:37.1.24	0.30	112 46 Q31		1:12.1.06	0.41				
10 28 144	平塚	1:25.1.19	0.29	113 17 Q32	ワニ状	1:17.1.21	0.32				
11 28 144	平塚	1:13.01	10.49	114 47 Q32		1:40.21	0.31				
12 28 144	平塚	1:05.80	9.32	115 47 Q34	劣走	1:43.1.24	0.50				
13 28 144	平塚	0:57.22	8.51	116 47 S34-35		2:09.1.08	0.36				
14 28 144	平塚	1:25.1.09	0.29	121 47 S30		1:21.1.07	0.41				
15 28 144	平塚	1:05.42	9.61	118 47 S32		1:42.1.34	0.29				
16 28 144	平塚	1:20.11	10.25	119 47 S32		1:48.1.18	0.13				
17 28 144	平塚	1:01.79	9.19	120 45 Q3		0:59.80	0.90				
18 28 144	平塚	1:25.1.09	0.29	121 47 S30	劣走	0:72.09	0.62				
19 28 144	平塚	1:15.10	10.30	120 47 Q33		1:21.09	0.59				
20 28 144	平塚	1:18.04	10.49	173 47 Q32	劣走	1:68.1.01	0.45				
21 28 144	平塚	1:10.97	9.59	174 48 S37	劣走	2:47.2.29	0.88	ワニ状			
22 28 144	平塚	2:52.04	1.24	127 48 S32-33		1:42.09	0.62				
23 28 144	平塚	1:21.01	10.38	126 48 P31		0:96.02	0.38				
24 28 144	平塚	1:30.10	10.20	127 48 P32-33	劣走	1:38.1.25	0.97	ワニ状			
25 28 144	平塚	1:50.13	10.51	128 48 P33	劣走	1:4.1.15	1.10				
26 28 144	平塚	1:30.10	10.20	129 48 Q32		3:37.0.82	0.41				
27 28 144	平塚	1:26.1.09	0.55	130 48 Q29		1:00.09	0.23				
28 28 144	平塚	1:25.1.09	0.55	131 48 Q29		0:87.0.84	0.10				
29 28 144	平塚	1:25.1.09	0.55	132 48 P35		1:10.06	0.54				
30 28 144	平塚	1:25.1.09	0.55	133 48 P35		0:59.09	0.28				
31 28 144	平塚	1:50.1.30	0.60	134 48 P35-36		0:84.07	0.14				
32 28 144	平塚	1:40.1.32	0.45	135 49 Q32		1:13.09	0.40				
33 28 144	平塚	1:49.1.35	0.24	136 49 P38		3:08.2.30	0.35				
34 28 144	平塚	1:35.1.17	1.02	137 49 Q30		1:50.24	0.26				
35 28 144	平塚	0:54.79	9.77	138 49 Q31	劣走	1:20.11	0.29				
36 28 144	平塚	2:08.1.77	0.7	139 49 Q32		1:20.1.05	0.12				
37 28 144	平塚	1:45.1.32	0.41	140 49 Q36-37		1:83.1.71	0.69				
38 28 144	平塚	0:53.04	9.27	141 49 Q31		1:62.1.42	0.33				
39 28 144	平塚	1:45.1.32	0.41	142 49 Q30		1:51.1.45	0.36				
40 28 144	平塚	1:20.1.14	1.13	143 49 T29		0:86.03	0.51	ワニ状			
41 28 144	平塚	1:19.0.97	0.51	144 49 Q29		0:96.08	0.62				
42 28 144	平塚	1:35.1.17	1.02	145 49 Q36		1:10.09	0.45				
43 28 144	平塚	1:37.1.12	0.31	146 49 N34	競走	1:08.07	0.40				
44 28 144	平塚	1:54.1.47	0.60	147 49 Q35		1:82.0.68	0.38				
45 28 144	平塚	1:45.1.32	0.41	148 49 Q36		1:19.01	0.66				
46 28 144	平塚	0:52.1.17	0.38	149 49 Q34		1:54.1.34	0.17				
47 28 144	平塚	0:50.85	0.16	150 50 Q30	競走	1:42.1.23	0.54				
48 28 144	平塚	1:37.1.12	0.39	151 50 N34-35	競走	2:12.1.29	0.62				
49 28 144	平塚	1:24.1.12	0.69	152 50 Q35		0:89.0.67	0.23				
50 28 144	平塚	1:14.1.13	0.82	153 50 Q36		1:12.06	0.39				
51 28 144	平塚	1:30.05	0.50	154 50 S37		1:19.00	0.34				
52 28 144	平塚	0:54.90	0.19	155 50 Q38-39		0:17.05	0.48				
53 28 144	平塚	1:47.1.04	0.27	156 52 Q39		2:34.2.20	0.62				
54 28 144	平塚	1:30.05	0.50	157 50 Q37		0:56.03	0.27				
55 28 144	平塚	1:30.05	0.50	158 50 Q33		1:42.1.30	0.66				
56 28 144	平塚	1:12.70	0.36	159 50 Q34		1:52.1.31	0.27				
57 28 144	平塚	1:22.98	0.26	160 50 Q30-31		1:05.08	0.19				
58 28 144	平塚	1:22.98	0.26	161 50 Q31	競走	1:31.17	0.29				
59 28 144	平塚	0:50.79	0.17	162 50 L40	劣走	1:63.1.00	0.16				
60 28 144	平塚	0:97.07	0.42	163 50 P31-32		1:70.1.10	0.66				
61 28 144	平塚	1:08.1.02	0.14	164 50 Q35	競走	0:82.09	0.23				
62 28 144	平塚	1:12.70	0.36	165 50 Q34		1:42.1.23	0.22				
63 28 144	平塚	1:11.64	0.34	166 51 Q34		1:72.1.10	0.53				
64 28 144	平塚	1:30.1.21	0.67	167 51 L34		1:20.1.78	0.57				
65 28 144	平塚	0:52.87	0.37	168 51 P38		1:20.1.61	0.37				
66 28 144	平塚	1:02.09	0.56	169 51 Q39		1:31.17	0.74				
67 28 144	平塚	1:48.09	0.63	170 51 Q38		0:85.08	0.14				
68 28 144	平塚	1:14.08	0.54	171 51 Q39		1:24.1.16	0.25				
69 28 144	平塚	1:45.01	0.71	172 51 T26		0:93.06	0.19				
70 28 144	平塚	0:50.74	0.29	173 51 T26		0:83.07	0.22				
71 28 144	平塚	0:51.07	0.42	174 51 T26		0:85.08	0.36				
72 28 144	平塚	0:51.07	0.28	175 51 Q38-39		1:56.1.29	0.46				
73 28 144	平塚	0:51.07	0.28	176 51 S28		0:93.07	0.60				
74 28 144	平塚	0:51.07	0.28	177 51 Q38-39		1:39.1.01	0.11				
75 28 144	平塚	0:51.07	0.28	178 51 Q39		1:28.1.24	0.21				
76 28 144	平塚	0:51.07	0.28	179 51 Q39		1:08.1.02	0.39				
77 28 144	平塚	0:51.07	0.28	180 51 Q37-38		1:60.1.14	0.19				
78 28 144	平塚	0:51.07	0.28	181 51 Q37		0:51.07	0.28				
79 28 144	平塚	0:51.07	0.28	182 56 S26		2:26.02	0.46				
80 28 144	平塚	0:51.07	0.28	183 52 M16		1:10.1.04	0.32				
81 28 144	平塚	0:51.07	0.28	184 52 Q46		1:00.09	0.21				
82 28 144	平塚	0:51.07	0.28	185 52 Q46		1:40.1.30	0.45				
83 28 144	平塚	0:51.07	0.28	186 52 P47		2:28.2.4	0.46				
84 28 144	平塚	0:51.07	0.28	187 52 Q45-46		1:00.08	0.24				
85 28 144	平塚	0:51.07	0.28	188 52 Q45		1:45.1.31	0.89				
86 28 144	平塚	0:51.07	0.28	189 52 Q45		1:54.2.48	0.81				
87 28 144	平塚	0:51.07	0.28	190 52 Q45	電走	2:14.2.19	1.11	ワニ状			
88 28 144	平塚	0:51.07	0.28	191 53 P44		1:21.1.13	0.23				
89 28 144	平塚	0:51.07	0.28	192 53 Q43-44		1:30.1.30	0.62				
90 28 144	平塚	0:51.07	0.28	193 53 Q43		1:17.1.10	0.58				
91 28 144	平塚	0:51.07	0.28	194 53 Q43-44		1:30.1.31	0.41				
92 28 144	平塚	0:51.07	0.28	195 53 Q40-41		0:96.0.80	0.30				
93 28 144	平塚	0:51.07	0.28	196 53 P44-45		1:53.1.45	0.33				
94 28 144	平塚	0:51.07	0.28	197 53 Q43-44		1:23.1.19	0.27				
95 28 144	平塚	0:51.07	0.28	198 53 P43		1:12.1.16	0.30				
96 28 144	平塚	0:51.07	0.28	199 53 P43		1:21.1.18	0.48				
97 28 144	平塚	0:51.07	0.28	200 53 Q44		1:24.1.23	0.24				
98 28 144	平塚	0:51.07	0.28	201 53 P43-44		1:15.1.09	0.18				
99 28 144	平塚	0:51.07	0.28	202 53 Q43		1:40.1.41	0.39				
100 28 144	平塚	0:51.07	0.28	203 53 Q43		1:80.1.70	0.51				
101 28 144	平塚	0:51.07	0.28	204 53 P44		0:94.0.65	0.25				
102 28 144	平塚	0:51.07	0.28	205 54 P43		1:11.08	0.24				
103 28 144	平塚	0:51.07	0.28	206 54 P43-44		1:33.1.18	0.14				
104 28 144	平塚	0:51.07	0.28	207 54 P43		1:11.08	0.24				
105 28 144	平塚	0:51.07	0.28	208 54 P43-44		1:33.1.18	0.14				

表2 土坑一覽表

(自然科学分析) 前述のように深掘り地点(断面観察地点)で火山灰分析を委託したほか、壁穴住居の竈内、床面直上の炭化層、弥生時代の土坑覆土等を採集し、整理段階で乾燥・浮遊選別を行ない、得られた種実等の同定を委託した(第3章第2節参照)。

(調査経過) 平成10年5月19日、調査区西側に重機を入れて表土剥ぎを開始。5月25日より本格的な調査開始。7月7日、池状遺構確認。当初は方形周溝遺構の一部とは想像できず、大型住居かと考えた。方形周溝遺構と判明したのは、調査の後半段階に入ってからである。これ

は表土剥ぎを調査区中央で振り分けた関係上、壇状遺構中央付近で方形周溝遺構を半分ずつ調査する結果となったためである。11月13日、調査区西半分の調査を終え、東半分の表土剥ぎを開始。重機を入れて早々に集石が検出され、多数の五輪塔を含んでいることがわかり、その実測作業に予想外の時間を割かれることとなった。現場での一応の調査が終了したのは平成11年3月9日であった。(整理作業) 平成11年4月から平成12年3月まで(財)山梨文化財研究所内で実施した。

第2章 遺構と遺物

第1節 壁穴住居址と遺物

細かなデータに関しては表1を参照。

1号住(第1・72図 図版7) 南西コーナー竈をもち、中央から東南隅にかけて床が硬化する。遺物がほとんどない。
2号住(第1・72図 図版7) 中央から東側にかけて床面が硬化する。竈はないが、南壁中央の立ち上がり部分が被熱し、また床面にがらしき焼土堆積がある。遺物には内型の手づくね整形による環(1)、灰色軟質の陶製こね鉢(6・7)、羽釜(3)のほか、小破片ではあるが外耳土器片(4)がある。13世紀代と思われる。2・3は混入の可能性がある。

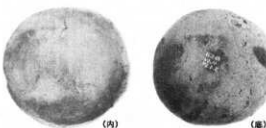


写真2 手づくね土器(2号住1)

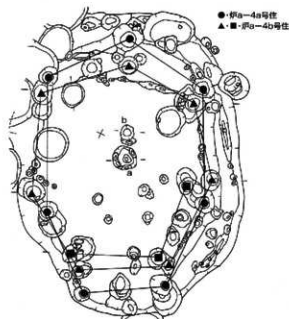


図6 4号住柱穴配置圖

3号住(第2・3・72・73図 図版7・8) 南西にコーナー竈を持つ住居で、焼土が床面に広がる火災住居である。屋内に南側に開口部をもつ「コ」状の間仕切り溝をもち、溝中には東西に柱穴状のピットがある(P1・2)。南壁中央東寄りには礎石入りのピットがあるが、本址にともなうとは考えられず、孤立建遺物址が周辺に想定できるものの、ほかに関連した柱穴はない。把手釜が竈内を中心に出土し、また手づくね整形と思われる環(1)などがある。11は竈の支脚状の円柱状土製品、12は鎌、13はノミ状の鉄製品である。

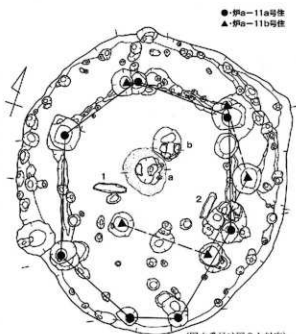
4号住(第3・4・73~79図 図版8・9) 7本柱穴からなる楕円形住居で、柱穴をつなぐようにわずかな段差が床面にみられ、壁隙がベッド状に高くなっている。炉は2カ所あり、ともに地床炉であるが、本来は埋燗炉であった状況から、炉bから炉aへという変遷が想定される。柱穴も2~3本ずつの重複を示し、主軸、柱穴数を変えずに、同一地点で拡張・建て替えを行っている。P1内には、抽象文をもつ深鉢が故意に割られたような状態で、破片を重ねて何かに被せられたように底面から浮いて出土した。復元すると一部破片が不足するものの、ほぼ1個体分であった(1)。5は床面直上に、横に押し潰された状態でも出土した。10はやや浮いて形を保って出土し、連続した円形押圧文が特徴的である。6は胴部文様を竹管文で施した土器で、雰囲気は違っている。全体に土器は藤内式古段階がやや目立つが、新道式~藤内新段階までの時期を含む。石器では86の大型石錘と思われる例が特殊である。

6号住(第4・5図 図版9) 南東隅にコーナー竈をもつ方形竈穴で、床面には焼土が分布する。4本の柱穴(P1~4)が住居と方向を同じくして南寄りに配置され、本址に伴う柱穴と考えられる。遺物はほとんどないが、時期は11世紀から12世紀であろう。

7号住(第5・6・79~88図 図版9・10) 7本柱穴(P1~4・6~8)の円形に近い楕円形住居で、柱穴を結ぶ間仕切り溝が一部あり、周囲が一段高くなっている。柱穴には重複を示すものがあり、また段差も一部2重になっているので、同一地点、同一規模で2回以上の建て替えが行われたことがわかる。P5内には多数の土器が詰め込まれた状態で出土した。約11m離れた21号住床面上出土の厨下平と接合してほぼ完全になった50をはじめ、有孔貯土器、浅鉢などがあるが、中でも50の出土状況は興味深い。7号住の住居内で使用し、胴部上半は屋内ピット中に入れ、同時に廃棄場として厨下平が21号住に廃棄されたのであろうか。7号住床直上の土器としては1・4などがあり、覆土全体では新道式から藤内古段階の土器がある。21号住の炉土器が新道式で、本址よりやや古いことから、両



写真3 縄文土器



(図中番号は図8と対応)

図7 11号住柱穴配置図

者の間には形態時の時間差があることが推定できる。9は8と同一個体であり、口縁部に顔面表現がある。15は杯体土器で、下半の破片は同一の可能性の強い土器片であるが、確実ではない。20・21にはペン先状工具による何らかの記号的な文様が有り、図示しておいた。抽象文土器にはこうした文様がつく土器が多く、製作者の識別マーク(サイン)あるいは言語的なものではなまいかと想像される。50は平たい頭の大把手と小把手が交互につき、大把手は見方によっては顔面表現にみえる。胴部には渦巻状の手の表現があり、土器全体を人体に見立てているようである。底部には乾壁あるいは焼成時の割れが入り、粘土をなでつけて補修したような形跡がみられる。口縁部内面にはスズ状の付着があるが、胴部内面には使用痕がほとんどない。文様は極めて緻密で、本道跡を代表する優品である。石器では打斧28点、剥片石器17点と多くの硬質石器が出土している。

8号住 (第2・88図) 3号住北側の隅丸形状の落ち込みで、3号住の床面とはほぼ連続する。方形円溝遺構の1号溝から連続しているように見え、溝の一部ではなかったかと考えられる。

9号住 (第7・8-88-89図 図版10) 一辺6.5~7mのやや大きい方形竪穴で、竪らしき痕跡が南西隅にある。また中央東寄りには地床跡があり、いろいろ遺構かと推測される。床面中央には2条の溝状遺構があり、方形集石下層の土坑群の形態にも似るが、どのような性格の遺構かわからない。やや浅いが柱穴と考えられるピットが4本程度ある(P1~4)。土器には口縁部に2個ずつ対の孔を開けた皿(1)や、杯(2)などがあり、柱状高台坪の出現段階、あるいは出現以前の段階である可能性がある。

11号住 (第8・9-89~92図 図版11) 炉は2カ所あり、炉bから炉aへと変遷する。炉aに伴う住居は円形に近い7本柱の楕円形住居で、間仕切り溝、ベッド状遺構がある。炉aの炉体土器は13の浅鉢で、覆土中の土器片と接合関係をもつ。炉bの石囲いは完存し、南側と西側の礎が接合した。炉の東西には長さ60~70cmの棒状自然礎(図8 1・2)があり、用途については立石であったのか、あるいは椅子として機能したのかわからないが、屋内空間で炉を挟んで対照的な位置関係を保っている点、興味深い。土

器には藪内占段階から新段階まであり、最も面白いのは15の土偶裝飾付土器(写真4)である。土偶そのものを土器に貼付したような土器であり、頭部は7号住出土で、本住居出土土器とは約17m離れて接合した。腕は口縁部に縦く掛け、土器の内側を向いて直立し、肩に2つの刺突文をもつ瘤状の盛り上がりがある。他道跡での類似もボーズは同じで、首筋には人状の隆起があることが多い。16は内面に赤色塗彩のある小型土器、あるいは浅鉢のミニチュアで、口縁部には2個の孔が貫通する。**12号住** (第10図 図版11) 11号住横にあり、礎が管無であったが硬化面で住居と認定し、掘り方の範囲でプランを推測した。遺物はないが、11号住出土の18の杯は本址の遺物であろう。

13号住 (第10・92図) 小型の長方形竪穴で、礎はない。時期を示す土器がなく、時期不明。

15号住 (第10・11-92図 図版12) 16号住に貼り床をして構築している。南東隅に礎があり、石組が良好に遺存した。1~5は16号住の遺物の可能性が高く、本址の時期は耳皿(6)、柱状高台皿(7)から12世紀前半であろう。

16号住 (第11-92~94図 図版12) 15号住下層にある。東壁をもつ住居で、礎は手前の天井石を除き完存する。礎土が堅固に厚く堆積した火災住居である。中央床面に集石がある。時期は10世紀前半で、甲斐型杯、甲斐型壺、須恵器凸帯壺等がある。

17号住 (第12-94図 図版13) 南西隅にコーナー竪と思われる石組をもつ住居で、西側に38号住が重複し、電付近がわかりにくくなっている。柱穴が4本程度ある。土器は10世紀前半の甲斐型皿のほか、灰刷陶器類がある(4)。1には墨書「公」がある。

18号住 (第13-95-96図 図版13) 礎がなく、柱穴もはっきりしないため、プランは全く不明であるが、4本柱の住居か。壁溝の外側に磨弁2点(19-20)を接して置いた場所があり、その場所までは住居内に入るであろうと思われる。また西寄りに黒曜石原石(大型素材剥片)7点の集石が見つかっている。炉は方形石囲かと思われるが、礎は遺存せず、小礎多数が覆土上層に堆積していた。時期は曾利IV a式期(曾利式土器編年に関しては1999 椋原空を参照)。



写真4 土偶裝飾付土器(11住15、頭部は7号住内出土)

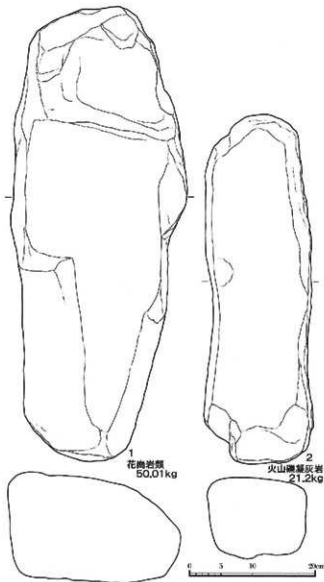


図8 11号住 棒状自然産

20号住 (第14・96図 図版14) 方形周溝遺構の壇状部北側から6号溝にかかる位置にある。壇状遺構の積造中に確認。壁はないが、5本の柱穴配置(P1~5)から円形であろう。中央には地床砦がある。時期は藤内古段階。
 21号住 (第14・15・97~100図 図版14) 柱穴が完全に検出できなかったが、おそらく5本または7本柱穴で、円形に近い楕円形であろう。南西側は1号溝で切られ、プランが不明瞭である。柱穴を結ぶように壁際にベッド状遺構がある。埴土器は新道式土器で、床面上の土器は藤内古段階~中段階の土器である。また7号住土器と接合した胴下半(7号住50)は床面からやや浮いて出土した。また50の磨石は3号住との接合資料である。

22号住 (第15・16・100図 図版14) 径約8mの円形住居。7本程度のやや細い柱穴が2回の重複を示して巡る。如はごく浅い皿状の地床砦で、西側を中心に5カ所が認められ、いずれも壁寄りに分布する。北東側には溝状の掘り方があるが、どのような性格であるか不明。土器は少なく、諸磯c式新段階を主とする。また銅屋町タイプも混じる。

23号住 (第16・17・100~102図 図版15) 9号住下層で検出。隅丸方形の住居で、4本柱穴(P1~4)があるが、ほかに如の両脇手前に主柱穴より径の大きな柱穴2本(P5・6)がある。出入り口がわずかに突出し、曾利IVb期の正位埋塞がある。如は70号土坑上層にあり、北・西側の如石が遺存するが、ほかの石は床面上に按いて置かれている。土器は曾利IVa期から曾利Vb期まであり、曾利IVb期がやや多い。

24号住 (第17・102・103図 図版15) 5号溝に中央付近を切られる。4本主柱(P1~4)の隅丸方形で、如は方形石囲帯であったと思われるが、石は遺存していない。土器は曾利IIa~IIIa期で、6は土器製作台といわれる台形土器。11は釣手土器釣手部である。

25号住 (第18・103図 図版15) 小型円形住居で、4本柱穴(P1~4)。石蓋付の正位埋塞を持ち、埋塞内には別個体の土器が入れ子になっている。両方とも曾利IVa期である。それ以外には土器はほとんどない。如は石の抜かれた地床砦である。

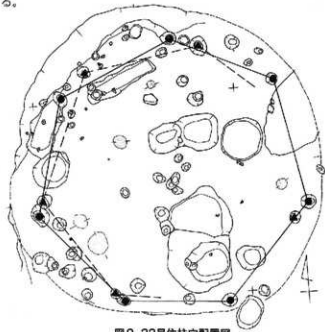


図9 22号住柱穴配置圖

26号住 (第18・104・105図 図版16) 4本土柱(P1~4)の楕円形住居。中央に狹沢中段階の炉土器を埋設する(1)。遺物にはそのほか狹沢新段階の上器(4・5)や有孔鈔付土器(6)がある。

27号住 (第19・105図 図版16) 一辺約5.5mの方形竪穴で、コーナー竪と思われる焼土が南東隅にある。また中央付近にも焼土の堆積があり、地床炉であった可能性がある。床は中央から南側にかけて硬化する。柱穴が多数存在し、本址に伴うものが4本程度考えられるが(P1~4)、そのほかにも多数の柱穴があり、中世以降のピットと思われる。土器は11世紀後半代であろう。

28号住 (第19・105図 図版16) 一辺2.7m程度の方形小竪穴。西を除く各壁中央に柱穴がある。時期は不明。

29号住 (第19・105図 図版17) 長さ約3.5mの長方形竪穴。11世紀後半代であろう。

30号住 (第20・105・106図 図版17) 諸磯c新段階の小型住居。柱穴はP1~10の4本土柱穴で、同じ場所で2~3回の柱の建て替えがある。炉は中央の1カ所のみ。遺物は少ない。

31号住 (第20・21・106・107図 図版17) 5号溝に切れ、または86号土坑と重複する。隅丸方形の4本柱(P1~4)の住居である。炉は一辺約1mの方形石囲炉で、南側の竪は5号溝により欠失し、北側の竪は起こされている。東南壁は不明瞭。遺物は曾利IV b~曾利V a期を上とし、加曾利土系もある(1)。

32号住 (第22・107図 図版18) 諸磯c新段階の円形住居。柱穴はP1~5の5本で、地床炉が西寄りに3カ所ある。東側は攪乱により削平される。遺物は大変少ない。

33号住 (第22・108図 図版18) 東側に41号住と重複し、プランがわかりにくくなっている。南西隅にコーナー竪をもつ住居で、中央西寄りに南北の間仕切り溝があり、また中央やや南側には、わずかに下がった土間状の区画があり、室内の間取りがうかがえる。遺物は、竪内を中心に把手釜が2点出土している。

35号住 (第23・108図 図版18) 36号住に切られる。南東隅に焼土堆積があるが、竪であった可能性もある。床は中央から西側が硬化する。遺物はほとんどない。

36号住 (第23・108図 図版18) 南東・南西隅に焼土堆積があり、南東についてはコーナー竪であった可能性がある。遺物は把手釜があるのみ(1)。床面は北西側が主に硬化する。

37号住 (第23・109図 図版18) 26号住北側に径1.2mの円形土坑があり、炉石状の竪が壁面に立ち、覆土は焼土を多く含んでいることから炉と推定した。炉内、炉外(南東側)から弥生中期初頭と思われる土器片が多く出土した。弥生中期前半の住居。炉形態は定かではないが、この炉は縄文晩期的な炉形態である。周囲に床面や柱穴は確認できなかった。

38号住 (第12・109図 図版19) 17号住に上層に重複し、西側はほとんどが道路によって失われている。東壁をもつ住居で、10世紀第2四半期の甲変型土器が5件出ている。覆土には鉄滓の小片が多く散在し、また塩漬からは鉄滓が溶融・付着した円礫が出ており(10)、小竪治遺構であった可能性がある。

39号住 (第24・25・109・110図 図版19) 竪はなく、南西隅にあった可能性もあるが、こね鉢や杯の形態から13世紀代であり、竪を持たない住居と思われる。床面やや西寄りに乗石がある。

40号住 (第24・110・111図 図版19・20) 焼土が堆積することから火災住居である。北壁東寄りに竪をもつ。北側の床面は硬化し、南側にL状の間仕切り溝がある。遺物は

は9世紀前半の土師器環(1~3)、ロクロ寛、須恵器高台杯、釜、壺G類(12)等がある。

41号住 (第25・26・111~115図 図版20) 41a号住は、藤内中段階の7本柱の楕円形住居で、柱穴を結ぶように段

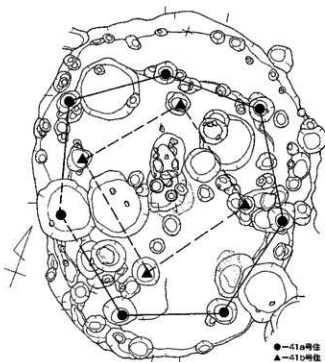


図10 41号住柱穴配置図

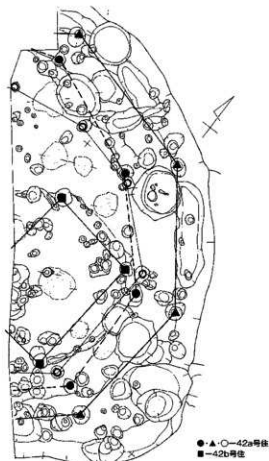


図11 42号住柱穴配置図

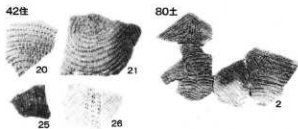


写真5 諸畿C式土器

道があり、壁隙がベッド状になっている。炉は長方形の石囲炉(炉a)である。41b号住は落沢新段階の4本柱の住居で、3個の炉体土器(炉b~d)が正位で埋設され、その順番はc-d-bと思われる。炉体土器はいずれも落沢新段階の土器で、炉の重複に対応する柱穴の建て替えは明確ではない。なお41a号住では炉を挟んで東西の柱穴内に同じ位の大きさの板状の礫が斜位に入り込んでいるが注意される。覆土中の土器は新道~蒸内中段階までと時間幅があるが、ほとんどはa号住の遺物であろう。石器では打斧が16点、剥片石器が6点と打製石器が多い。なお27・28の土師質土器は重複する33号住に帰属する土器である。

42号住 (第26・27・116~121図 図版21) 道路にかかり、半分のみ調査した。長軸長10.5mの諸畿C期の楕円形大型住居(42a号住)内中央に、4.2mの落沢期の住居(42b号住)が床面レベルをほとんど同一にして、入れ子になっている。42a号住は柱が3回の建て替えを示し、1回に4本以上は存在し、全体では10本以上と推定される。炉は地床炉が7カ所程度あり、いずれもほとんど掘り込みを伴わない。42b号住は中央に炉体土器をもつ円形住居で、柱穴は4本程度であろう。42a号住では、諸畿C中~新段階の土器が主で、異系統の銅原町系の土器がある(28~32)。42b号住は落沢古~中段階を主とし、新道式まで含まれる。炉体土器(56)は五領ヶ台Ⅱ式新段階~落沢式段階の土器であるが、被熱が著しく残念ながらもよく取り上げることができなかった。また42は平出3A系土器である。

43号住 (第28図 図版22) 21号住北側に床の硬化面が残っていたことから住居としたが、プランは不明で、遺物もない。おそらく平安時代末の住居であろう。

44号住 (第28・122図 図版22) 12世紀以降と思われる壁穴で、竈はない。北壁の壁寄りから1本と思われた鉄製品が出土しているが、保存修復後は4点となっている。

45号住 (第28・122図 図版22) 28号住と40号住の間で、円形と思われる住居の一部が出ている。床面は軟弱。曽利Ⅱ式期の土器片が少量出土した。

46号住 (第28・122図 図版22) 隅丸方形住居の西壁付近が出ている。南東隅には竈の可能性のある焼土堆積がわずかにあった。遺物は少ない。

47号住 (第122図 図版22) 壁・床面は遺存していないが、5本の柱穴(P1~5)が5角形に並び、炉が北側にある。炉石はすべて残っていない。遺物はほとんどない。

48号住 (第29・122図) 壁・床面は遺存していないが、炉石のない炉があり、柱穴4本が確認された(P1~4)。柱穴の配置から炉竈にさらに1本が想定され、柱穴は計5本であろう。

49号住 (第29・122図 図版22) 127号土坑横にあり、27号住と重複する。27号住西壁に埋塞があり、また北南の辺に炉石の残る炉がある。柱穴は3本(P1~3)検出されたが、4本であろう。遺物はない。

50号住 (第30・123図 図版23) 8号溝に切り入れ、また多数の柱穴と重複し、壁はほとんどない。柱穴は5本(P1~5)。遺物は北半分と溝中から出土し、曽利Ⅳa~Ⅳb式が多い。

51号住 (第30・124図 図版23) 当初、上層に34号住を設定したが、住居ではなく穴番とした。本址はその下層からの検出で、142号土坑上層に炉があり、柱穴は5本(P1~5)である。埋塞は口縁部を欠き、正位埋設されている。曽利Ⅳb期。

52号住 (第124図) 35・36号住の掘り方調査中に炉が確認され、住居と判明。柱穴は5本(P1~5)で、埋塞をもつ。

炉は北側のみ石囲いが残り、南側には礫が敷まれている。土器は少ないが、住居の時期は曽利Ⅱ式期か。

53号住 (第31図) 床の硬化面があり、壁がないためプランを確認できなかったが、掘り方の調査によっておおよその輪郭を捉えられた。竈はない。また遺物もない。

54号住 (第31・124図 図版23) 小型の方形竈穴。竈はない。東西に1本ずつ柱穴(P1・2)がある。伴う遺物はほとんどなく、時期は不明。

55号住 (第31・125図 図版23) 北壁中央わずかに東寄りには竈がある。住居に伴う遺物は1・2のみで、小破片のため時期ははっきりしないが、9世紀前半であろう。

56号住 (第32・126・127図 図版24) 4本主柱(P1~4)の小判形住居。炉は地床炉であるが、11は炉内から出土し、炉体土器であった可能性があり、炉体土器が壊かれたのであろう。落沢新段階を主とし、平出3A系土器(2)や球脚で高台をもつ有孔罌付土器(5)などがある。

57号住 (第33・127図 図版24) 井戸尻式の円形住居で、柱穴は7本程度かと思われるが、3・4本検出できた。炉は石囲埋燬的で、把手付のいわゆる多喜窟タイプの深鉢を転用している。

58号住 (第34・128図 図版24) 66号住を切る方形竈穴の一部で、遺物はなく、時期は不明。

59号住 (第33・129図 図版25) やや小型の方形石囲炉があり、周囲にビッドが多数存在するが、壁はなく、柱穴配置は明確ではない。遺物には曽利Ⅱ~Ⅴ式期の土器が少量ある。

60号住 (第34・129図) 青磁片が出土し、方形竈穴の一部と思われるが、特に床の硬化面はなく、プランも明確ではないので、住居として認定するに躊躇する。青磁碗(1)は片切りの蓮弁をもつ龍泉窯系11類で、13世紀代か。

61号住 (第34・129図 図版25) 10溝(方形溝溝溝)付近で検出。床面は削平されているが、5本柱穴(P1~5)と炉が遺存する。曽利Ⅳa期の遺物が若干伴っている。

62号住 (第34・35・129・130図 図版25) 床面は削平され、プランは不明確。炉は2基が重複し、また5本からなる主柱穴も建て替え2回分があり、同一地点で主軸をずらして建て替えが行われたことがわかる。なお炉aに伴う柱穴はP1~5、炉bに伴う柱穴はP6~11と考えられ、61b号住からa号住へ変遷する。炉aに伴う土器(1)は曽利Ⅳa期。

63号住 (第35・130図 図版25) 11号溝に切り入れ、また農道にかかっているため、全形は見えていない。床面上に細かな炭化材や焼土が分布し、火災住居であることがわかる。竈はなく、南西隅の焼土も竈関連の焼土とは考えにくい状況であった。土師質土器(1)とともに、小破片ながら白磁碗Ⅳ類(2)があり、12世紀後半代と思われる。柱穴が4本(P1~4)あり、また西側の2本の柱穴に沿うように間仕切り溝が検出された。床面は全体に整い、

64号住 (第36・130図 図版26) 壁はないが、硬化した床面があり、南東隅、南西隅に焼土の堆積層があることから2カ所にコーナー竈をもつ住居と考えられる。竈bには方形の皿が合せて焼土上に遺存し(1・2、2とb)、なんらかの地鎮行為、あるいは竈祭祀に関わる行為が行

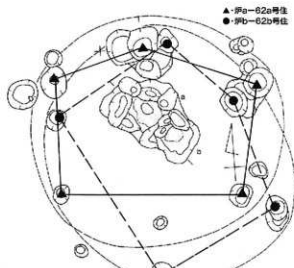


図12 62号住(a-b)柱穴配置図



写真6 64号住土師器

われたことが考えられる。

65号住 (第36・130図 図版26) 床面は削平されているが、炉が存在することから住居とした。周辺には多数のピットがあるが、柱穴配置は不明確で、4本ないしは5本柱穴が推測される。時期は1の土器から曽利V a期か。

66号住 (第34・130図) 壕溝と柱穴から住居と判断した。曽利IV式かと思われる把手壺(1)が床面上から出土している。

67号住 (第37・130図 図版26) 削平され、炉はわずかに遺存する。柱穴配置は明確で、南側に入り口をもつ7本柱穴(P1~7)である。炉が小さいこと、1の土器から井戸尻式期か。

68号住 (第37・130図 図版26) 床面に焼土がほぼ全体的に分布した火災住居。灰釉陶器の小片があること等から10世紀前半代か。

第2節 土坑と遺物

土坑は286基の番号を設定した。それらの中で237号土坑は風倒木痕、または埋れで、88号土坑は104号土坑との結合のため欠番である。その他、73・74・266は欠番とした。

(1) 踏碓c式期の土坑 53・80・99~102・143・146・150・151・158・161・213・229号土坑がある。うち60・61・99~102は住居内に存在する例で、貯蔵穴など住居に伴う可能性がある。その他には円形の浅い土坑が多い。

(2) 蓄沢~藤内式期の土坑 3・35・42・58・75・247号土坑がある。42号土坑では覆土層に完形、同形の小型無文土器2個体が出土した。

(3) 中期後半の土坑 52・67・69・164・235・246・252・254・255・280号土坑等がある。

(4) 弥生中期の土坑 いわゆる水沖平系といわれる条痕文土器群を出した遺構には 37・40・45・47・76・110・111・123・127・230号土坑等がある。それらの条痕文土器中には岩濤式(45号土坑)、遠賀川系土器(123・230号土坑)

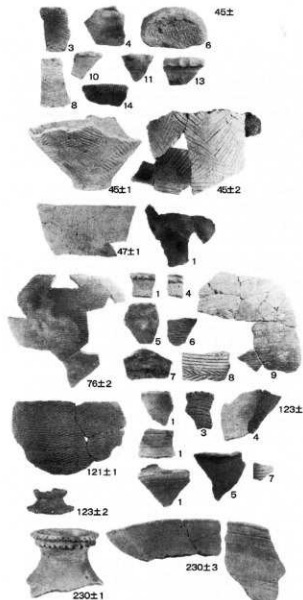


写真7 弥生土器

のほか、木式の系譜をもつと思われる土器群(37号住、230号土坑)などがあり、土器の交流や縄文晩期からの系譜がうかがえる。土坑のうち45・56・58・76・110・111・115・123・124・127・224・230号土坑はフラスコ状土坑で、中でも45・76・123号土坑は典型的である。それらは貯蔵穴であろうと思われ、弥生の土坑全般の炭化種実の同定を依頼したところ、栽培種ではイネが123号土坑をはじめとして45.56.135土坑から、またオオムギ、コムギ、アワ、キビがいくつかの土坑で検出されたほか、オニグルミ、クリなどの堅果類も出ている(第3章第2節参照)。イネ等の穀類は地中で保存することはないと思われるので、当時の食料が何らかの理由で混在したのであり、本来は堅果類の貯蔵穴であろう。また45号土坑は焼土を底面に敷き詰めた中にわずかに焼骨がみられた。また焼土面から内面失墜りの壺底部が出土するなど、再葬墓的な様相を示している。土坑中からは土器のほか、黒曜石の剥片類や石核等の石器が多数出土したが、とくに黒曜石製の明確な製品が土坑中に伴っていない。弥生時代の黒曜石利用については、黒曜石の剥片を用いて取穂具として使用するという見解があるが、土坑中での黒曜石の出土状

況は不可解である。また224号土坑出土の石像は大聖品で、形體的には木製鐃の写しではないかとと思われる。実用的ではなく、祭祀具ではないかという見方もあるが、各地での石像の出土例から実用性が高く、打ち下ろす癖ではなく、スcoop状に跡んで使う物であろうと考えたい。

(5) 平安末～鎌倉初期の土坑 1・4・10・12・14・30・31・38・39・41・71・72・89・90・210号土坑が該当し、調査地北西に集中部があり、切り合いをみせるなど密集する。直径約90～130cm、深さ約10～60cm、円筒形で、底面は平坦。覆土はロームブロックを混合した暗褐色土1層のみである例が多い。これは一気に埋め戻された状況を示している。遺物は6号土坑に11～12世紀代と思われる山茶碗の小杯がある程度で、遺物をまとないという特徴がある。そのためこれまで時期不明、あるいは漠然と平安、あるいは中世とされてきた。おそらく11～13世紀代の墓例であろう。

(6) 地下式坑 34・104・190号土坑の3基がある。壱坑の方向はいずれも南で、天井部は崩落していた。104号土坑のみ閉塞石らしき礎が壱坑付近にあり、覆土中には15・16世紀と考えられる若干の遺物が伴っていた。3基の配置にまともではないが、方形集石付近を避け、北と南側に分布するように見える。

(7) 方形集石下部の土坑群 257～265・267～275・279A～C・284～286号土坑が該当する。これらの中で265・268・269・270・272・279A・Bは長方形の掘り方もち、いずれも内部に五輪塔多数を含む集石がみられる。土坑の主軸方向には南北軸例(265・272号土坑)、東西軸(268～270・279A・B)の2者がある。並列し、重複しないことから、同時期に構築された可能性がある。それらの長軸長は2.2～4.2mで、幅は0.9～1.2mである。また東西軸の一群は、一つの土坑中に小段差があることから、二つ以上の土坑の結合の可能性もある。礎は底面まで密に詰めた状態であるが、269号土坑では中層から上層にかけて集石があり、土坑底面との間に隙間が確保されている。五輪塔には原位置を保つ事例はない。

そのほかの上坑は楕円形、または円形で、集石をもつ。257号土坑は地輪が磨えられたような状況で出土した土坑である。258号土坑は3基程度の重複で、隙間に人骨が混在していた。260号土坑は上層に非常に細かな小礎を入れ、下層にはやや大きめの礎が入り、人骨が混在している。279C号土坑は1×0.9m、深さ40cm程度の円形土坑で、土坑中には礎と人骨が充填されていた。中には牛の骨も混じることから墓改修の際に整理、片付けが行われ、再び一括埋葬されたのであろう。285号土坑は小型の石組をもつ土坑で、五輪塔に伴う下部道徳の残存かと考えられた。全体的に、出土人骨にはわずかに焼骨もあったが、ほとんどは焼かれていない骨である。

(8) 近世墓 113号土坑は江戸時代の墓坑である。単独で1基のみ、上戸井の集落を見下ろすように台地縁辺に位置する。地表面から底面までは1.4m、上層1.2×1m、下層0.75×0.85mの円形の土坑で、底面に人骨1体分が遺存し、中央付近には六文銭が存在した。鍍金は寛永通宝で、文銭2枚が含まれることから、17世紀後半以降の埋葬であろう。骨の特徴については第3章第3節参照。埋葬形態は座棺か。単独埋葬であることから、死因等に何らかの理由があったとも考えられる。

なお、44号土坑については方形周溝遺構ともなる土坑であり、第4節で触れる。

第3節 方形集石と遺物

地籍図上、上戸井地区共有地とされた一辺約10mの方形区画部分からは、多数の礎や五輪塔約420個で形成された方形集石が検出され、「寿」印のある胎衣容器、土瓶、行平、徳利、ガラス瓶、薬瓶、碗、鉗子、洗面器、重蓋(写真8参照)、ビニール袋などが出土した。また上戸井地区での聞き取り調査によって、明治30年頃から昭和40年頃まで上戸井地区の人々が利用した胎衣墓地であることがわかった(第4章第4節参照)。胎衣容器(写真9)は素焼きの土師器的な色をもつ胎衣を入れる専用容器で、蓋、容器ともに内面に「寿」印が押され、印文周辺に雲母が散らされた例がある。その他の容器類の多くは胎衣容器への転用品であろうと考えられる。また徳利、瓶には2本一対で立てられている例があった(写真15)。この立瓶遺構は、乳の出が良いことを願って胎衣とともに埋めたものと考えられている。また下層からは前節で述べたように、溝状の土坑中に礎や五輪塔が詰まった状態に密に検出され、いくつかの土坑からは人骨が出土した。寛永通宝が伴うことから江戸期の土坑群であり、五輪塔群との関連を示すものではないと考えられる。また五輪塔には原位置をとどめるものはない。五輪塔は火輪軒に反りがある15世紀代かと思われる一群を主とするほか、火輪底面が平らになる16世紀代と思われる一群がある。また大型の資料がいくつかあり、14世紀にさかのぼるのではないかと考えられる。つまり墓坑としては把握できなかったが、14～16世紀に五輪塔を築祀、あるいは供養塔とする墓坑群が方形集石のあたりに存在したことがわかる。また集石中からは最も古い遺物として古瀬戸の四耳壺があり、13世紀後半以降の年代が与えられるほか、時期不詳ながら常滑甕片が数片ある。したがって隣接する方形周溝遺構と時期的に関連することから、蓋骨器を埋納した墓が付近にあったことが予想され、五輪塔による集団墓地となる以前の葬出現段階のありかたを示している(第4章第2節参照)。



壺蓋には顔出しがあり、中には肥料として炭灰を入れた。

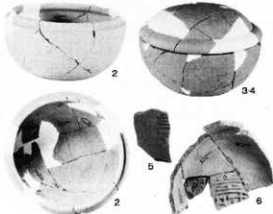


写真9 胎衣容器

第4節 方形周溝遺構と遺物

中央に一辺約8mの方形壇(壇状遺構)を掘り残し、周囲には西側に池状遺構、東には9号溝を設け、池状遺構と連結するために2・6号溝をつなぐ。全体では中央の壇状遺構周囲に溝が巡る方形周溝遺構となる。2・6号溝の西寄りには土橋状に盛り上がり、外部と壇状遺構をつなぐ橋脚状遺構(1・2号橋脚状遺構)が設けられ、南側(2号橋脚状遺構)は1間×1間、北側(1号橋脚状遺構)は1間×2間で、両者は主軸方向、幅が同一である。1号橋脚の両脇には石列(1号石列)があり、また東側には白色の粘質土の広がりがあった。2号橋脚にはそういった石列はないことから、低い位置にある南側は水が行き来できるように溝が開放され、1号橋脚脇にはある時期に石列を設けて溝を封鎖したと考えられる。池状遺構は主軸長20m、短軸長7mで、西側に1号溝が付き、西側から取り込んだ水が池に溜まるようになり、池部は全体が錆色の褐色土で覆われている。断面は緩やかなU字状で、壁は緩い傾斜面である。内部に柱穴はないが、西側の縁には小規模な柱穴列がある。

壇状遺構には北側に石列(2号石列)が東西に延び、一部は9号溝にかかっている。6号溝を挟んで北側に石列(3号石列)が存在したが、二つの石列は壇とは関連がなく、おそらく中世以降の町屋的な地割構造に関連した短冊形の区画であろう。また中央や東寄りには44号土坑があり、底面には礎石状の花崗岩の大型板状礎が水平に据えられていた。土坑の径は1.5m、深さ0.9mで、礎石は厚さ18cm、長さ75cmである。土層の断面観察では径35~50cmの直立した柱礎がみられ、何らかの建物の心柱的な柱、または標柱的な柱(卒塔婆か)が直立していたと思われる(写真16)。あるいは蔵骨器の埋納坑かもしれない。ただし、確認には錆が覆い、短冊的な柱であったようだ。また礎石脇には土師質土器片があり、12世紀代と考えられることから、方形周溝遺構と时期的に合致する。なお礎石をはずして下部を調査したが、すぐ地山となり、埋納物はいっさい存在しなかった。

壇面には2号石列端部(西側)に板状の礎があり、その下部には浅い掘り方と根石状の礎が数個みられた。ただし当初、44号土坑を検出する前であったので、石列と同時期の所産かと考え、不用意に撤去してしまったが、これが建物の礎石であった可能性がある。仮に礎石とすること、壇状遺構の規模と44号土坑の位置から、2間×2間程度の建物が考えられる(第4章第3節参照)。他に礎石状の礎が44号土坑北側(195号土坑横)にあり、地中に埋設した状況がみられたが、地中にあること、小型の内蔵であることから礎石と認定しなかった。壇面には礎石下部の掘り方があるかと考えて壇面を幾度となく精査したが、検出できなかった。壇面には20号住をはじめ縄文時代の土坑の確認面となっていたことから、壇は版築で積み上げたのではなく、掘り残して形成していることがわかったため、あえて断ち割りはせず、調査終了後、慎重に埋設して保存の形をとった。

池状遺構を中心に、周溝部からは土師質土器皿を主と

する多くの遺物が出土し、少量ではあるが瓦片、貿易陶磁、鉄製品も出している。土師質土器は1~3・13~17・20~27・37~57で、小皿、皿、杯、柱状高台杯があり、12世紀代~13世紀初頭の特徴がある。国産陶器には18(築山茶碗、12世紀中葉)、28(美濃山茶碗、13世紀初頭)がある。貿易陶磁には白磁碗(4・5・7・29・30・59)、白磁壺(6・61)、青磁碗(60)があり、白磁を主とすることから全体には12世紀後半~13世紀前半の様相が強い。また白磁壺には内耳壺(6)や、広東省潮州窯産と考えられる瓜形割壺(61)があり、量は少ないながら高価な品が流入し

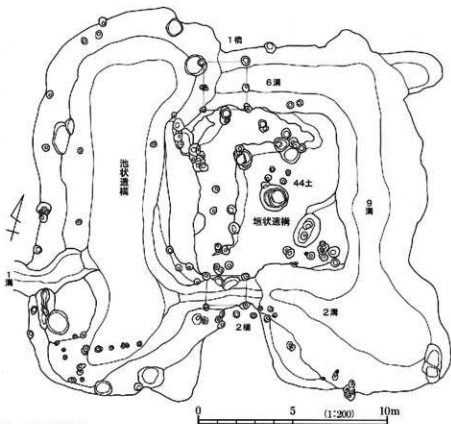


図13 方形周溝遺構

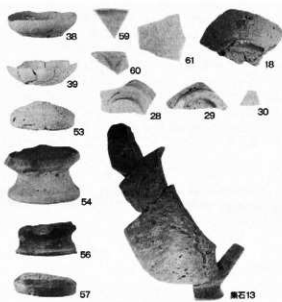


写真10 方形周溝遺構・方形集石の遺物

ている。瓦には軒丸瓦(62~64)、丸瓦玉縁部(8・65)、丸瓦片(66)があり、いずれも酸化焼成で色調は赤色である(写真11)。軒丸瓦はいずれも珠文帯をもつ三巴文である。65には玉縁に釘孔をもち、側辺が斜めにヘラで削られている。丸瓦部の表面には縦位の網目き痕が、内面には布目痕があり、技法的には古代とあまり変わらない。個体数は軒丸瓦部から2~3点、丸瓦は軒丸瓦と同一の可能性があるものの最大3点と非常に少ない。また平瓦が皆無であるのも特徴で、棟の一部を丸瓦のみで葺いていたと思われるが、かなり小規模な建物であったと思われる。他に瓦は29号土坑で軒丸瓦片が出ている。瓦の時期は12世紀末~14世紀まで考えられるが、土師質土器と同じく池状遺構底部直上で出ている例があること、方形周溝遺構の初期段階の何らかの建物址に伴うと考えられることから12世紀後半~13世紀前半と考えておきたい。また釘が数本出土している。瓦にみられた釘穴と対応するものかどうかはわからないが、建物の存在を示唆する資料である。なお、本遺構の設計基準線に関し、第4章第3節に2案を提示した。

第5節 溝と遺物

ここでは方形周溝遺構に関する溝(2・6・9号溝)以外の主な溝について説明をする。

4・5号溝 平行する2条の区画溝で、長さ約24m以上にわたって2条の平行した溝(4・5号溝)が東西方向に走る。その幅は約5.5~6mで、内側の溝が南に折れ、9mほど進んだところでわからなくなっている。縄文の遺物のほか、わずかに平安末(11世紀代)の土師器が出ているが、そのほかに時期的に関連しそうな遺物はない。この溝は国道を越えて西地区でも検出されており、西地区ではコ状に巡ることから東地区にも存在すると当初から予測されていたものであった。全体では外溝一辺90~94m、内溝76~80mのわずかに菱形に歪んだ方形区画となり、規模としては船跡的である。また11・12号溝が4・5号溝の延長線上に取り付くと考えられる。この区画溝の北東に位置する方形周溝遺構は軸交方向が4・5号溝とほぼ同一で、4・5号溝と11・12号溝に囲まれた一角に収まっているこ

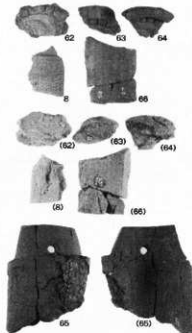


写真11 中世瓦(池状遺構)

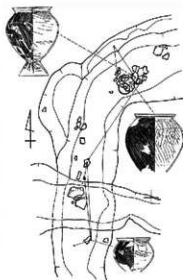


図15 10号溝(方形周溝?)土器出土状況

とから、方形周溝遺構は4・5号溝、11・12号溝を含む全体的な設計・配置の中で組み込まれ、時期的にも同じ頃の所産であろう。

10号溝 方形周溝溝と思われるし字の溝で、東西7m、南北5m程度を検出した。南北の東辺溝は検出できていない。北西コーナー部からはS字甕が3個体見つかった(1~3)。小林健二氏の甲斐地域のS字甕変遷案(1993 小林)にあてはめると5~6期で、4世紀後半~5世紀前半となる。

11・12号溝 幅5.5mで南北方向に平行し、方形周溝遺構あるいは4・5号溝の延長線上に取り付いていたようである

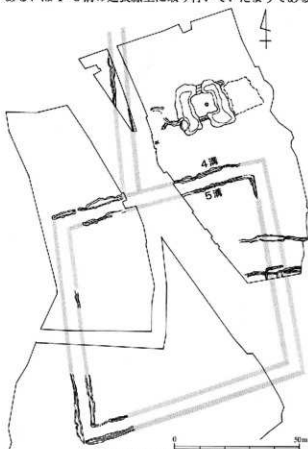


図14 方形区画溝とその周辺

が、12号溝が細い上に浅く、同時併存想定は難しい。11号溝は断面がV字で、砂層が堆積し、水が流れたことがわかり、遺物には12世紀後半代の土師質土器皿(1)、13世紀代の中津川産壺(5)、青磁碗(2)、14世紀前半の反軸平碗(3)があり、12世紀後半~14世紀前半の時期が推定できる。

第6節 その他の出土遺物

遺構外からは早期末の貝殻腹線文をもつ打越式土器片が出土し、また同時期の地元土器群と思われる織線土器もわずかにあるが、量的には断然前者が目立っている(図21参照)。諸磯c式期以降中期まで断続的に存在し、後期では称名寺~加曾利B1式期、晩期末では浮線文系土器が1~数片あるのみで、後期から晩期では主体は西地区にあるらしい。そのほか、弥生中期では条痕文土器が遺構外からやや多く出土している。

胎土略名 長一長石 安一安山岩 角一角閃岩 瓷一瓷磚 輝一輝石
 赤一赤色砂子 黒一黒色砂子 白一白色砂子
 多一多い 少一少ない 小一小粒

原産地	種類	規格	単位	品質	備考	備考	備考
104	104	104	104	104	104	104	104
105	105	105	105	105	105	105	105
106	106	106	106	106	106	106	106
107	107	107	107	107	107	107	107
108	108	108	108	108	108	108	108
109	109	109	109	109	109	109	109
110	110	110	110	110	110	110	110
111	111	111	111	111	111	111	111
112	112	112	112	112	112	112	112
113	113	113	113	113	113	113	113
114	114	114	114	114	114	114	114
115	115	115	115	115	115	115	115
116	116	116	116	116	116	116	116
117	117	117	117	117	117	117	117
118	118	118	118	118	118	118	118
119	119	119	119	119	119	119	119
120	120	120	120	120	120	120	120
121	121	121	121	121	121	121	121
122	122	122	122	122	122	122	122
123	123	123	123	123	123	123	123
124	124	124	124	124	124	124	124
125	125	125	125	125	125	125	125
126	126	126	126	126	126	126	126
127	127	127	127	127	127	127	127
128	128	128	128	128	128	128	128
129	129	129	129	129	129	129	129
130	130	130	130	130	130	130	130
131	131	131	131	131	131	131	131
132	132	132	132	132	132	132	132
133	133	133	133	133	133	133	133
134	134	134	134	134	134	134	134
135	135	135	135	135	135	135	135
136	136	136	136	136	136	136	136
137	137	137	137	137	137	137	137
138	138	138	138	138	138	138	138
139	139	139	139	139	139	139	139
140	140	140	140	140	140	140	140
141	141	141	141	141	141	141	141
142	142	142	142	142	142	142	142
143	143	143	143	143	143	143	143
144	144	144	144	144	144	144	144
145	145	145	145	145	145	145	145
146	146	146	146	146	146	146	146
147	147	147	147	147	147	147	147
148	148	148	148	148	148	148	148
149	149	149	149	149	149	149	149
150	150	150	150	150	150	150	150
151	151	151	151	151	151	151	151
152	152	152	152	152	152	152	152
153	153	153	153	153	153	153	153
154	154	154	154	154	154	154	154
155	155	155	155	155	155	155	155
156	156	156	156	156	156	156	156
157	157	157	157	157	157	157	157
158	158	158	158	158	158	158	158
159	159	159	159	159	159	159	159
160	160	160	160	160	160	160	160
161	161	161	161	161	161	161	161
162	162	162	162	162	162	162	162
163	163	163	163	163	163	163	163
164	164	164	164	164	164	164	164
165	165	165	165	165	165	165	165
166	166	166	166	166	166	166	166
167	167	167	167	167	167	167	167
168	168	168	168	168	168	168	168
169	169	169	169	169	169	169	169
170	170	170	170	170	170	170	170
171	171	171	171	171	171	171	171
172	172	172	172	172	172	172	172
173	173	173	173	173	173	173	173
174	174	174	174	174	174	174	174
175	175	175	175	175	175	175	175
176	176	176	176	176	176	176	176
177	177	177	177	177	177	177	177
178	178	178	178	178	178	178	178
179	179	179	179	179	179	179	179
180	180	180	180	180	180	180	180
181	181	181	181	181	181	181	181
182	182	182	182	182	182	182	182
183	183	183	183	183	183	183	183
184	184	184	184	184	184	184	184
185	185	185	185	185	185	185	185
186	186	186	186	186	186	186	186
187	187	187	187	187	187	187	187
188	188	188	188	188	188	188	188
189	189	189	189	189	189	189	189
190	190	190	190	190	190	190	190
191	191	191	191	191	191	191	191
192	192	192	192	192	192	192	192
193	193	193	193	193	193	193	193
194	194	194	194	194	194	194	194
195	195	195	195	195	195	195	195
196	196	196	196	196	196	196	196
197	197	197	197	197	197	197	197
198	198	198	198	198	198	198	198
199	199	199	199	199	199	199	199
200	200	200	200	200	200	200	200

表3(4) 土器・陶磁器観察表

胎土略名 長一長石 灰一灰山石 角一角閃石 菊一菊母 輝一輝石

種別	品名	品番	備考	品名	品番	備考	種別	品名	品番	備考
130	130	1	土師	長石	130	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
131	131	1	土師	長石	131	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
132	132	1	土師	長石	132	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
133	133	1	土師	長石	133	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
134	134	1	土師	長石	134	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
135	135	1	土師	長石	135	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
136	136	1	土師	長石	136	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
137	137	1	土師	長石	137	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
138	138	1	土師	長石	138	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
139	139	1	土師	長石	139	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
140	140	1	土師	長石	140	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
141	141	1	土師	長石	141	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
142	142	1	土師	長石	142	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
143	143	1	土師	長石	143	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
144	144	1	土師	長石	144	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
145	145	1	土師	長石	145	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
146	146	1	土師	長石	146	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
147	147	1	土師	長石	147	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
148	148	1	土師	長石	148	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
149	149	1	土師	長石	149	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
150	150	1	土師	長石	150	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
151	151	1	土師	長石	151	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
152	152	1	土師	長石	152	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
153	153	1	土師	長石	153	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
154	154	1	土師	長石	154	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
155	155	1	土師	長石	155	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
156	156	1	土師	長石	156	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
157	157	1	土師	長石	157	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
158	158	1	土師	長石	158	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
159	159	1	土師	長石	159	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
160	160	1	土師	長石	160	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
161	161	1	土師	長石	161	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
162	162	1	土師	長石	162	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
163	163	1	土師	長石	163	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
164	164	1	土師	長石	164	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
165	165	1	土師	長石	165	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
166	166	1	土師	長石	166	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
167	167	1	土師	長石	167	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
168	168	1	土師	長石	168	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
169	169	1	土師	長石	169	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
170	170	1	土師	長石	170	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
171	171	1	土師	長石	171	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
172	172	1	土師	長石	172	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
173	173	1	土師	長石	173	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
174	174	1	土師	長石	174	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
175	175	1	土師	長石	175	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
176	176	1	土師	長石	176	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
177	177	1	土師	長石	177	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
178	178	1	土師	長石	178	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
179	179	1	土師	長石	179	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
180	180	1	土師	長石	180	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
181	181	1	土師	長石	181	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
182	182	1	土師	長石	182	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
183	183	1	土師	長石	183	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
184	184	1	土師	長石	184	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
185	185	1	土師	長石	185	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
186	186	1	土師	長石	186	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
187	187	1	土師	長石	187	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
188	188	1	土師	長石	188	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
189	189	1	土師	長石	189	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
190	190	1	土師	長石	190	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
191	191	1	土師	長石	191	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
192	192	1	土師	長石	192	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
193	193	1	土師	長石	193	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
194	194	1	土師	長石	194	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
195	195	1	土師	長石	195	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
196	196	1	土師	長石	196	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
197	197	1	土師	長石	197	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
198	198	1	土師	長石	198	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
199	199	1	土師	長石	199	長石	輝石	輝石	輝石	輝石
200	200	1	土師	長石	200	長石	輝石	輝石	輝石	輝石

表3-(6) 土師・南磁器観察表

開採地点	番号	分類	長×幅×厚	合計	用途	備考	石材種名		備考
							砂一砂岩	粘一粘板岩	
71	11	砂岩	13.4×4.6×1.0	24	建築				
72	11	砂岩	17.4×4.0×1.2	232	建築				
73	15	砂岩	4.3×3.2×1.2	8	建築				
74	3	砂岩	10.5×5.0×1.2	174	建築				
75	3	砂岩	6.0×4.7×1.2	34	建築				
76	3	砂岩	5.9×3.9×1.9	17	建築				
77	29	砂岩	14.2×4.4×1.0	372	建築				
78	30	砂岩	13.3×4.4×2.0	165	建築				
79	41	砂岩	8.9×4.1×0.9	45	建築				
79	41	砂岩	6.0×3.8×0.8	24	建築				
79	41	砂岩	9.4×3.9×1.0	24	建築				
79	42	砂岩	11.1×4.9×1.2	87	建築				
79	44	砂岩	10.5×4.1×1.1	64	建築				
79	45	砂岩	6.0×5.0×0.7	22	建築				
79	46	砂岩	9.8×4.1×2.4	124	建築				
79	47	砂岩	11.0×5.5×1.9	372	建築				
79	48	砂岩	7.0×6.0×1.3	61	建築				
79	49	砂岩	6.7×5.1×0.9	148	建築				
79	49	砂岩	11.7×6.8×1.4	186	建築				
79	51	砂岩	18.9×5.2×0.8	44	建築				
79	52	砂岩	9.8×5.0×0.9	30	建築				
79	53	砂岩	10.1×6.9×0.7	84	建築				
79	54	砂岩	10.3×5.2×0.6	71	建築				
79	55	砂岩	8.9×7.4×1.0	86	建築				
79	56	砂岩	8.0×6.4×1.0	80	建築				
79	57	砂岩	9.6×6.7×1.1	65	建築				
79	58	砂岩	9.3×5.5×1.0	163	建築				
79	59	砂岩	6.4×6.0×0.9	31	建築				
79	60	砂岩	8.8×6.2×1.6	91	建築				
79	61	砂岩	6.4×6.0×0.9	31	建築				
79	62	砂岩	8.9×5.8×1.9	184	建築				
79	63	砂岩	8.9×7.4×1.0	86	建築				
79	64	砂岩	7.3×5.1×1.0	42	建築				
79	65	砂岩	8.2×6.5×0.8	52	建築				
79	66	砂岩	7.1×4.8×0.8	39	建築				
79	67	砂岩	8.9×7.4×1.0	86	建築				
79	68	砂岩	7.7×5.1×1.0	30	建築				
79	69	砂岩	6.3×3.9×0.5	17	建築				
79	70	砂岩	6.7×5.3×0.8	30	建築				
79	71	砂岩	8.9×5.0×1.0	39	建築				
79	72	砂岩	7.3×6.5×0.9	42	建築				
79	73	砂岩	7.0×4.8×1.5	68	建築				
79	74	砂岩	3.7×3.0×0.5	22	建築				
79	75	砂岩	11.0×5.0×1.0	44	建築				
79	76	砂岩	8.2×4.4×2.0	184	建築				
79	77	砂岩	14.6×4.5×3.4	347	建築				
79	78	砂岩	3.1×3.7×1.2	55	建築				
79	79	砂岩	11.7×5.0×1.0	49	建築				
79	80	砂岩	9.3×7.6×1.0	59	建築				
79	81	砂岩	13.6×8.0×1.0	91	建築				
79	82	砂岩	12.1×4.3×1.0	66	建築				
79	83	砂岩	10.8×5.0×1.0	190	建築				
79	84	砂岩	10.5×7.8×1.0	195	建築				
79	85	砂岩	9.0×6.8×2.2	368	建築				
79	86	砂岩	11.0×7.8×4.8	920	建築				
79	87	砂岩	7.7×3.1×0.8	190	建築				
79	88	砂岩	6.4×5.7×1.2	29	建築				
79	89	砂岩	5.1×5.0×1.6	12	建築				
79	90	砂岩	4.5×3.0×3.3	28	建築				
79	91	砂岩	7.0×3.9×0.8	61	建築				
79	92	砂岩	3.9×4.0×1.2	36	建築				
80	7	砂岩	15.2×3.0×1.2	22	建築				
80	7	砂岩	14.9×3.1×1.9	144	建築				
80	7	砂岩	19.8×3.1×1.0	32	建築				
80	7	砂岩	18.5×3.1×1.1	113	建築				
80	7	砂岩	13.4×6.0×1.3	104	建築				
80	7	砂岩	13.2×6.4×2.8	217	建築				
80	7	砂岩	16.2×2.4×0.8	82	建築				
80	7	砂岩	11.6×2.3×0.9	32	建築				
80	7	砂岩	10.8×6.7×1.2	129	建築				
80	7	砂岩	10.9×4.9×1.3	97	建築				
80	7	砂岩	7.2×3.1×0.8	61	建築				
80	7	砂岩	10.4×4.1×1.6	77	建築				
80	7	砂岩	9.5×5.6×1.7	131	建築				
80	7	砂岩	10.3×5.4×2.1	140	建築				
80	7	砂岩	10.2×4.5×2.0	96	建築				
80	7	砂岩	9.2×4.3×1.0	61	建築				
80	7	砂岩	8.5×6.1×1.4	90	建築				
80	7	砂岩	9.8×3.1×1.0	65	建築				
80	7	砂岩	7.3×3.1×1.4	64	建築				
80	7	砂岩	16.2×3.1×0.8	82	建築				
80	7	砂岩	10.7×4.8×2.6	120	建築				
80	7	砂岩	11.6×4.4×2.7	70	建築				
80	7	砂岩	12.7×5.2×1.6	143	建築				
80	7	砂岩	12.8×2.2×0.9	83	建築				
80	7	砂岩	11.5×5.9×1.7	142	建築				
80	7	砂岩	13.0×6.1×1.6	113	建築				
80	7	砂岩	12.5×4.1×1.1	122	建築				
80	7	砂岩	7.2×3.1×0.8	64	建築				
80	7	砂岩	9.1×8.1×1.4	110	建築				
80	7	砂岩	10.0×6.1×1.8	110	建築				
80	7	砂岩	14.5×6.0×2.2	157	建築				
80	7	砂岩	12.6×4.1×1.0	83	建築				
80	7	砂岩	7.0×7.1×1.5	85	建築				
80	7	砂岩	8.1×5.7×1.5	70	建築				
80	7	砂岩	10.7×3.2×1.0	69	建築				
80	7	砂岩	7.2×3.1×0.8	64	建築				
80	7	砂岩	10.5×5.1×1.3	86	建築				

表5(1) 石種観察表

石材略名 砂一砂岩 粘一粘板岩 安一安山岩 黒一黒曜石 赤一ホルンフェルス
 緑一緑色岩 凝一凝灰岩 緑凝一緑色変質凝灰岩 閃一閃輝石 頁一頁岩
 緑片一緑色片岩 デーアサイト 花一花崗岩 花崗 火災一火山凝灰岩

建設地点	地層	層名	層厚	石種	色調	建設内容	備考
134 134	砂岩	10.5-6.4-1.1	294	粘	49	114	
134 135	砂岩	8.5-6.9-3.9	294	粘	49	114	
134 136	砂岩	10.5-6.4-1.1	294	粘	49	114	
134 137	砂岩	10.5-6.4-1.1	294	粘	49	114	
134 138	砂岩	14.2-13.6-6.0	1100	粘	49	114	
134 139	砂岩	9.2-8.7-4.3	372	粘	49	114	
134 140	砂岩	8.5-6.4-2.2	252	粘	49	114	
134 141	砂岩	2.4-1.7-1.1	0.9	粘	49	114	
134 142	砂岩	3.2-2.1-1.1	1.1	粘	49	114	
134 143	砂岩	9.2-8.7-4.3	372	粘	49	114	
134 144	砂岩	6.5-5.7-2.2	100	粘	49	114	
134 145	砂岩	8.0-5.6-1.0	51	粘	49	114	
134 146	砂岩	5.1-5.0-0.9	30	粘	49	114	
134 147	砂岩	9.2-8.7-4.3	372	粘	49	114	
134 148	砂岩	3.5-3.0-0.9	21	粘	49	114	
134 149	砂岩	6.4-5.3-0.9	180	粘	49	114	
134 150	砂岩	2.2-3.3-0.2	0.3	粘	49	114	
134 151	砂岩	4.0-3.9-1.0	3.2	粘	49	114	
134 152	砂岩	11.9-9.5-2.1	124	粘	49	114	
134 153	砂岩	9.9-7.9-0.8	53	粘	49	114	
134 154	砂岩	7.0-4.1-1.3	43	粘	49	114	
134 155	砂岩	12.4-9.1-0.4	980	粘	49	114	
134 156	砂岩	2.4-1.2-1.0	1170	粘	49	114	
134 157	砂岩	20.4-6.2-0.9	743	粘	49	114	
134 158	砂岩	1.8-1.3-0.4	0.3	粘	49	114	
134 159	砂岩	0.8-0.8-0.3	0.8	粘	49	114	
134 160	砂岩	7.4-5.1-1.1	43	粘	49	114	
134 161	砂岩	8.0-6.3-1.3	80	粘	49	114	
134 162	砂岩	9.3-8.0-3.0	211	粘	49	114	
134 163	砂岩	6.4-3.1-0.8	29	粘	49	114	
134 164	砂岩	9.2-8.7-4.3	372	粘	49	114	
134 165	砂岩	8.5-6.4-2.2	214	粘	49	114	
134 166	砂岩	15.0-12.1-5.6	1350	粘	49	114	
134 167	砂岩	7.8-7.4-3.7	655	粘	49	114	
134 168	砂岩	4.0-3.1-0.1	0.4	粘	49	114	
134 169	砂岩	10.9-8.4-1.6	110	粘	49	114	
134 170	砂岩	6.6-5.0-1.6	78	粘	49	114	
134 171	砂岩	14.9-7.9-3.8	1186	粘	49	114	
134 172	砂岩	17.9-8.5-5.7	1740	粘	49	114	
134 173	砂岩	10.6-8.3-3.9	474	粘	49	114	
134 174	砂岩	6.4-3.2-1.8	59	粘	49	114	
134 175	砂岩	6.2-4.1-1.3	26	粘	49	114	
134 176	砂岩	4.0-3.1-0.1	0.4	粘	49	114	
134 177	砂岩	3.8-3.3-0.7	12	粘	49	114	
134 178	砂岩	13.2-7.7-3.6	602	粘	49	114	
134 179	砂岩	9.0-6.1-2.7	72	粘	49	114	
134 180	砂岩	7.8-7.4-3.7	655	粘	49	114	
134 181	砂岩	8.1-6.2-1.0	48	粘	49	114	
134 182	砂岩	7.8-7.4-3.7	655	粘	49	114	
134 183	砂岩	5.5-5-2.0	150	粘	49	114	
134 184	砂岩	4.2-1.3-0.8	80	粘	49	114	
134 185	砂岩	5.0-3.4-1.0	28	粘	49	114	
134 186	砂岩	4.4-1.1-1.6	70	粘	49	114	
134 187	砂岩	4.0-3.1-0.1	30	粘	49	114	
134 188	砂岩	3.9-3.2-1.1	22	粘	49	114	
134 189	砂岩	6.3-3.3-0.9	34	粘	49	114	
134 190	砂岩	9.1-5.8-1.1	74	粘	49	114	
134 191	砂岩	12.9-12.8-8.2	1150	粘	49	114	
134 192	砂岩	15.3-9.1-5.0	860	粘	49	114	
134 193	砂岩	11.0-5.8-1.2	69	粘	49	114	
134 194	砂岩	20.2-9.1-3.3	1440	粘	49	114	
134 195	砂岩	5.8-5.1-1.3	38	粘	49	114	
134 196	砂岩	5.8-5.1-1.3	38	粘	49	114	
134 197	砂岩	11.1-3.6-1.6	65	粘	49	114	
134 198	砂岩	8.3-5.9-0.8	54	粘	49	114	
134 199	砂岩	5.8-5.1-1.3	38	粘	49	114	
134 200	砂岩	6.5-3.4-0.7	29	粘	49	114	
134 201	砂岩	10.0-1.4-0.3	1980	粘	49	114	
134 202	砂岩	2.1-0.9-0.3	6	粘	49	114	
134 203	砂岩	2.1-0.9-0.3	6	粘	49	114	
134 204	砂岩	2.3-1.5-2.3	19	粘	49	114	
134 205	砂岩	8.3-8.2-2.3	23	粘	49	114	
134 206	砂岩	5.3-5.5-3.5	32	粘	49	114	
134 207	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 208	砂岩	3.2-2.8-0.8	27	粘	49	114	
134 209	砂岩	9.8-9.2-1.6	250	粘	49	114	
134 210	砂岩	11.9-5.4-1.2	104	粘	49	114	
134 211	砂岩	8.3-5.2-1.8	100	粘	49	114	
134 212	砂岩	12.9-12.8-8.2	1150	粘	49	114	
134 213	砂岩	5.3-4.9-0.9	19	粘	49	114	
134 214	砂岩	8.5-5.1-1.3	221	粘	49	114	
134 215	砂岩	2.1-0.9-0.3	6	粘	49	114	
134 216	砂岩	2.1-0.9-0.3	6	粘	49	114	
134 217	砂岩	2.2-1.6-0.7	1	粘	49	114	
134 218	砂岩	5.2-3.2-2.2	39	粘	49	114	
134 219	砂岩	6.9-5.9-1.2	54	粘	49	114	
134 220	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 221	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 222	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 223	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 224	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 225	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 226	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 227	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 228	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 229	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 230	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 231	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 232	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 233	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 234	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 235	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 236	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 237	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 238	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 239	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 240	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 241	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 242	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 243	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 244	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 245	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 246	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 247	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 248	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 249	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 250	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 251	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 252	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 253	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 254	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 255	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 256	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 257	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 258	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 259	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 260	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 261	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 262	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 263	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 264	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 265	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 266	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 267	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 268	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 269	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 270	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 271	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 272	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 273	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 274	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 275	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 276	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 277	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 278	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 279	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 280	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 281	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 282	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 283	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 284	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 285	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 286	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 287	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 288	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 289	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 290	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 291	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 292	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 293	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49	114	
134 294	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 295	砂岩	7.2-6.1-2.3	100	粘	49	114	
134 296	砂岩	2.4-2.0-0.4	3	粘	49	114	
134 297	砂岩	6.2-4.5-1.1	78	粘	49	114	
134 298	砂岩	7.7-6.5-1.1	32	粘	49	114	
134 299	砂岩	10.1-7.7-0.4	434	粘	49	114	
134 300	砂岩	11.8-5.1-2.8	149	粘	49		

図版	番号	表	A	B	C	D	E	F	G	石	kg	注	焼%	備考	
165	1	9.7	9.3	8.9	8.1	1.4	-	-	-	磁	5.99,321	95D			
165	2	8.6	11.9	10.4	8.9	6.4	1.4	-	-	磁	1,000,602	100D			
165	3	8.6	11.8	11.7	10.6	9.8	1.5	-	-	磁	1,492,226	100D			
165	4	8.6	12.7	11.6	10.1	8.1	1.4	-	-	磁	1,129,283	100D			
165	5	8.6	12.7	11.6	10.1	8.1	1.1	-	-	磁	1,253,303	100D			
165	6	8.6	12.7	11.6	10.1	7.9	1.4	-	-	磁	9,967,687	100C			
165	7	8.6	12.7	11.6	10.1	7.1	1.8	-	-	磁	1,795,983	100D			
165	8	8.6	11.4	11.2	10.1	8.1	1.4	-	-	磁	1,129,283	100D			
165	9	8.6	12.7	12.5	11.1	7.9	1.1	-	-	磁	1,540,674	100D			
165	10	8.6	12.7	11.6	10.1	6.9	1.1	-	-	磁	1,10,324	75C			
165	11	8.6	13.3	11.8	11.1	7.7	1.6	-	-	磁	1,867,701	90C			
165	12	8.6	13.3	11.8	11.1	7.7	1.6	-	-	磁	1,867,701	90C			
165	13	8.6	13.4	11.4	10.6	2.7	3.2	0	-	磁	1,22,394	100D			
165	14	8.6	13.4	11.6	11.3	7.9	2.3	0	-	磁	1,733,327	90C			
165	15	8.6	13.4	11.7	11.1	7.6	1.9	-	-	磁	1,49,692	100D			
165	16	8.6	14.2	12.7	12.1	9.1	2.0	-	-	磁	1,794,294	100D			
165	17	8.6	13.4	13.3	12.3	8.1	1.9	-	-	磁	1,872,772	100D			
165	18	8.6	13.6	11.6	11.1	7.8	1.8	-	-	磁	1,44,580	85C			
165	19	8.6	13.6	11.8	11.1	8.2	1.7	-	-	磁	1,32,245	100C			
165	20	8.6	13.4	12.9	12.1	8.1	2.0	-	-	磁	1,87,794	100C			
165	21	8.6	14.3	13.0	12.0	7.5	1.3	-	-	磁	1,36,699	100C			
165	22	8.6	13.4	13.3	12.7	1.9	9.1	7	-	磁	1,65,284	70C			
165	23	8.6	14.5	13.1	12.6	8.6	1.7	-	-	磁	1,86,613	100D			
165	24	8.6	14.5	13.1	12.6	9.7	2.0	-	-	磁	1,86,585	100D			
165	25	8.6	14.0	12.1	11.1	8.8	1.3	-	-	磁	2,81,252	100D			
165	26	8.6	14.1	11.9	10.9	7.9	-	-	-	磁	1,44,580	100C			
165	27	8.6	13.9	11.1	10.6	8.1	3.3	-	-	磁	1,70,599	90D			
165	28	8.6	13.8	11.2	10.1	8.1	1.6	-	-	磁	1,36,699	100C			
165	29	8.6	13.3	12.5	12.0	8.9	1.6	-	-	磁	2,32,598	95D			
165	30	8.6	13.4	12.7	11.1	9.5	1.4	-	-	磁	1,91,240	85D			
165	31	8.6	14.2	13.4	11.7	8.9	2.0	-	-	磁	1,54,298	100D			
165	32	8.6	14.4	13.9	13.1	8.1	2.0	-	-	磁	1,67,267	90C			
165	33	8.6	14.8	13.0	12.6	8.1	1.6	-	-	磁	1,85,711	90C			
165	34	8.6	15.1	12.2	11.1	8.2	2.5	-	-	磁	1,93,508	85D			
165	35	8.6	14.8	11.8	11.2	8.2	0.2	1	-	磁	1,80,280	100D			
165	36	8.6	14.4	13.8	12.7	8.9	8.1	1.8	-	磁	1,84,568	100D			
165	37	8.6	15.1	13.2	12.1	8.1	1.7	-	-	磁	1,67,631	85C			
165	38	8.6	15.6	11.1	11.2	8.1	2.4	-	-	1.8.1.8	安山	1,54,238	100A		
165	39	8.6	14.9	12.1	11.1	8.9	2.2	-	-	磁	2,20,684	100D			
165	40	8.6	15.5	13.2	12.1	8.1	1.8	-	-	磁	1,28,628	100D			
165	41	8.6	15.5	13.2	12.1	8.1	1.8	-	-	磁	1,28,628	100D			
165	42	8.6	15.5	13.1	12.0	8.6	2.0	-	-	磁	1,66,278	70D			
165	43	8.6	15.7	13.9	12.6	7.1	1.0	-	-	磁	1,57,336	100D			
165	44	8.6	16.1	13.1	12.1	8.2	2.5	-	-	磁	1,80,292	85D			
165	45	8.6	16.1	13.1	12.1	8.2	2.5	-	-	磁	1,80,292	85D			
165	46	8.6	16.4	11.1	11.2	7.8	2.2	-	-	磁	2,35,661	100C			
165	47	8.6	16.9	12.1	11.1	9.8	-	-	-	磁	2,06,685	100D			
165	48	8.6	16.5	13.0	12.6	9.7	1.1	1.9	-	磁	1,75,619	90A			
165	49	8.6	16.4	13.2	12.1	8.1	1.6	-	-	磁	1,93,667	85C			
165	50	8.6	16.1	12.2	12.3	8.0	1.6	-	-	磁	2,21,297	100D			
165	51	8.6	15.8	12.2	12.3	8.7	2.4	-	-	磁	1,80,557	100C			
165	52	8.6	15.3	12.6	12.2	8.9	2.1	-	-	磁	1,56,291	90C			
165	53	8.6	15.3	12.6	12.2	8.9	2.1	-	-	磁	1,56,291	90C			
165	54	8.6	15.4	13.2	12.1	8.1	1.9	-	-	磁	1,60,629	85C			
165	55	8.6	15.4	13.2	12.1	8.1	1.9	-	-	磁	2,24,652	100D			
165	56	8.6	15.9	13.1	12.4	8.7	1.8	-	-	磁	1,87,581	55B			
165	57	8.6	16.3	13.4	13.2	8.2	-	-	-	磁	2,57,638	100A			
166	58	8.6	16.3	13.4	13.2	8.2	-	-	-	磁	2,57,638	100A			
166	59	8.6	16.4	12.1	12.2	7.9	2.3	15	1	1.8	1.8	9.9	70C		
166	60	8.6	15.9	12.7	12.0	7.9	1.4	-	-	磁	1,93,599	100D			
166	61	8.6	15.5	13.3	13.2	8.1	1.1	-	-	磁	2,16,637	90D			
166	62	8.6	15.4	13.9	13.5	10.2	2.5	-	-	磁	1,64,279-605	90D			
166	63	8.6	16.5	13.9	13.2	8.1	1.9	-	-	磁	1,93,667	85C			
166	64	8.6	16.7	13.8	13.2	8.6	2.2	1.1	-	磁	2,83,263	85D			
166	65	8.6	16.7	13.8	13.2	8.6	2.2	1.1	-	磁	2,83,263	85D			
166	66	8.6	16.5	13.2	13.2	8.1	1.9	-	-	磁	2,37,560	100A			
166	67	8.6	16.5	13.2	13.2	8.1	1.9	-	-	磁	2,37,560	100A			
166	68	8.6	16.8	13.2	13.1	8.1	2.2	-	-	磁	2,46,628	90C			
166	69	8.6	17.4	13.7	13.1	8.3	2.3	-	-	磁	2,58,749	65B			
166	70	8.6	17.5	13.2	13.2	8.8	2.2	-	-	磁	2,47,313	100D			
166	71	8.6	17.5	13.2	13.2	8.8	2.2	-	-	磁	2,47,313	100D			
166	72	8.6	18.2	13.5	13.2	9.1	1.2	4	-	磁	2,66,599	70C			
166	73	8.6	18.9	13.4	13.1	8.1	3.5	-	-	磁	3,37,329	88B			
166	74	8.6	18.9	13.4	13.1	8.1	3.5	-	-	磁	3,37,329	88B			
166	75	8.6	18.4	14.1	13.1	8.1	2.8	-	-	磁	1,90,981	100D			
166	76	8.6	17.2	14.2	13.5	9.9	2.2	-	-	磁	1,65,251	93B			
166	77	8.6	18.2	14.4	14.3	9.9	3.2	-	-	磁	4,18,237	100D			
166	78	8.6	18.1	13.9	13.2	9.6	3.1	-	-	磁	2,68,584	85D			
166	79	8.6	18.1	13.9	13.2	9.6	3.1	-	-	磁	2,68,584	85D			
166	80	8.6	18.5	13.8	13.2	8.1	3.5	-	-	磁	2,84,591	100D			
166	81	8.6	18.9	14.7	14.3	10.1	1.3	-	-	磁	3,74,290	100D			
166	82	8.6	19.3	14.4	14.1	9.5	1.9	-	-	安山	1,94,231	100C			
166	83	8.6	-	-	-	-	-	-	-	磁	1,16,672	30D			
166	84	8.6	-	-	-	-	-	-	-	磁	1,89,332	90D			
166	85	8.6	13.3	14.4	13.2	8.1	-	-	-	磁	2,37,560	60D			
166	86	8.6	-	-	-	-	-	-	-	磁	1,60,682	60B			
166	87	8.6	15.7	13.2	13.1	8.1	1.8	-	-	磁	1,75,756	50			
166	88	8.6	17.0	12.7	12.4	8.9	2.0	-	-	磁	2,54,220	100B,表に焼			
166	89	8.6	13.7	9.9	8.7	6.5	1.9	-	-	磁	1,19,637	90D,表に焼			
166	90	8.6	14.9	13.9	13.1	7.8	1.4	-	-	磁	2,32,323	85D,表に焼			
166	91	8.6	17.1	13.4	13.4	9.8	2.5	1.3	2	磁	2,32,323	58B			
166	92	8.6	8.5	11.1	8.1	8.1	3.0	-	-	磁	1,69,632	100D			
172	249-251	17.5	13.1	13.2	8.1	1.3	0	-	-	磁	2,69,259+3	100D			
172	250-260	13.6	13.9	12.1	9.9	7.2	1	-	-	磁	1,59,260-47	98C			
172	251-260	13.9	13.9	13.0	8.9	7.1	-	-	-	磁	1,47,765-45	95C			
172	252-260	15.7	13.1	13.1	8.1	2.8	-	-	-	磁	2,62,265	11.0.0.0			
172	253-260	16.1	12.2	11.8	7.9	2.5	-	-	-	磁	2,50,260-8	100B			
172	254-260	16.8	12.4	12.2	7.4	2.3	-	-	-	磁	2,43,260-32	100B			
172	255-260	16.3	14.3	13.3	9.5	2.4	-	-	-	磁	3,32,260-24	100C			
172	257-260	14.8	12.3	13.0	8.1	2.8	-	-	-	磁	1,94,260-2	100D			
172	257-262	15.8	12.1	11.1	8.4	2.4	-	-	-	磁	1,88,262-12	100D			
172	260-263	12.9	13.0	11.0	8.1	8.1	-	-	-	磁	1,30,263-19	90C			
172	261-263	12.9	13.0	11.0	8.1	8.1	-	-	-	磁	1,10,263-21	70D			
172	262-263	15.2	11.1	11.1	8.2	1.7	-	-	-	磁	2,26,263-29	85D			

表7-(1) 五輪塔観察表(空丸輪) (計数位置については図5参照)

</

図版	番	品	名	S	T	U	石材	kg	片数	残%	備考
170	211	黒石	10.0	17.1	14.4	凝灰	3.90	365		100	C
170	212	黒石	10.8	17.0	14.9	凝灰	5.30	361		100	C
170	213	黒石	10.5	19.0	15.6	凝灰	4.20	359		100	C
170	214	黒石	11.3	17.4	15.6	凝灰	4.80	366		95	C
170	215	黒石	11.8	17.2	15.8	凝灰	5.40	360		95	B
170	216	黒石	11.5	18.3	17.2	凝灰	5.60	628		95	B
170	217	黒石	11.8	18.2	17.6	凝灰	6.70	368		100	C
170	218	黒石	12.0	18.6	16.5	凝灰	5.10	673		80	C
170	219	黒石	12.6	17.2	16.5	凝灰	6.00	597		85	C
170	220	黒石	12.8	15.0	14.9	凝灰	4.40	645		100	C
170	221	黒石	13.0	19.8	19.9	凝灰	8.00	675		100	C
171	222	黒石	13.7	22.2	23.2	凝灰	12.20	263		85	B
170	223	黒石	13.9	20.2	20.4	凝灰	8.60	358		100	B
170	224	黒石	14.7	21.3	19.2	凝灰	7.60	333		100	C
171	225	黒石	14.9	18.8	18.0	凝灰	7.50	377		100	B
171	226	黒石	14.8	20.6	20.5	凝灰	12.20	689		100	B
171	227	黒石	15.4	19.8	19.3	凝灰	8.00	656		95	B
171	228	黒石	15.6	21.7	21.2	凝灰	8.20	352		95	B
171	229	黒石	15.6	21.7	21.2	凝灰	8.60	648		85	B
171	230	黒石	16.0	21.1	18.6	凝灰	9.40	578		90	C
171	231	黒石	16.1	21.0	19.2	凝灰	12.20	585		95	B
171	232	黒石	16.3	19.5	20.6	凝灰	10.60	357		100	B
171	233	黒石	16.5	17.3	18.0	凝灰	9.30	356		85	A
171	234	黒石	17.0	19.7	19.8	凝灰	9.65	629		98	A
171	235	黒石	17.6	21.1	21.7	凝灰	13.60	371		100	B
171	236	黒石	17.7	20.4	20.2	凝灰	11.40	362		90	A
171	237	黒石	17.8	20.5	20.0	凝灰	7.20	363		85	B
171	238	黒石	19.5	20.4	21.2	凝灰	17.20	334		90	A
171	239	黒石	19.9	20.7	19.9	凝灰	14.00	643		95	A
171	240	黒石	20.4	22.6	22.3	凝灰	9.20	359		45	A
171	241	黒石	21.7	23.6	23.9	凝灰	19.30	369		95	A
171	242	黒石	22.0	21.8	22.0	凝灰	12.20	367		70	A
171	243	黒石	23.0	23.2	22.9	凝灰	17.40	370		85	A
171	244	黒石	16.2	19.9	21.5	凝灰	7.30	372		60	B
171	245	黒石	16.7	18.5	19.7	凝灰	9.50	364		90	A
172	248	257±	13.1	19.0	17.3	凝灰	8.20	257±1		100	C
172	268	260±	17.0	20.2	19.3	凝灰	9.40	260±4		95	A
172	269	260±	12.8	17.9	18.0	凝灰	7.20	260±40		90	B
172	270	260±	19.7	17.7	18.1	凝灰	7.40	260±3		100	A
172	277	262±	11.2	17.9	16.2	凝灰	4.60	262±7		100	C
172	278	262±	12.8	18.9	17.5	凝灰	5.70	262±10		100	C
172	279	262±	13.9	19.9	19.2	凝灰	9.50	262±11		100	B
173	293	263±	10.6	15.7	15.8	凝灰	4.80	263±28		100	B
173	292	263±	13.3	19.6	17.1	凝灰	7.80	263±1		100	C
173	293	263±	18.9	19.7	19.2	凝灰	13.20	263±4		100	A
173	315	265±	8.8	17.4	16.2	凝灰	3.70	265±13		100	C
173	316	265±	10.3	15.8	14.6	凝灰	4.30	265±15		100	C
173	317	265±	11.5	19.4	18.2	凝灰	6.50	265±16		100	C
173	318	265±	13.6	15.8	15.6	凝灰	7.20	265±20		100	B
174	329	268±	20.7	21.7	21.0	凝灰	13.40	268±1		90	A
174	343	269±	11.2	19.1	18.0	凝灰	5.50	269±16		100	C
174	344	269±	15.7	18.7	18.7	凝灰	9.60	269±12		100	A
174	345	269±	16.0	18.2	18.5	凝灰	8.44	269±1		100	A
174	346	269±	20.2	22.3	21.7	凝灰	12.15	269±17		100	A
174	347	269±	13.5	23.0	22.2	凝灰	7.30	269±7		60	B
175	369	270±	10.0	18.8	18.1	凝灰	4.50	270±25		95	B
175	370	270±	12.3	20.6	17.3	凝灰	7.20	270±3		100	C
175	371	270±	19.7	19.9	20.6	凝灰	12.80	270±16		95	A
175	379	272±	17.1	20.2	20.9	凝灰	10.60	272±7		100	A
175	381	275±	11.3	19.2	18.3	凝灰	7.20	275±2		95	B
175	382	275±	13.1	20.8	20.0	凝灰	7.10	275±1		90	B
175	383	275±	14.4	22.3	21.8	凝灰	11.70	275±16		95	B
176	404	279±	12.7	18.4	16.5	凝灰	5.30	279±10		100	C
176	405	279±	12.4	19.0	19.6	凝灰	6.90	279±17		95	B
176	406	279±	14.4	18.8	16.0	凝灰	6.40	279±1		100	C
176	407	279±	13.5	20.4	18.4	凝灰	10.00	279±15		100	C
176	408	279±	19.2	22.4	21.8	凝灰	11.80	279±20		100	A

表7-(4) 五輪塔観察表(地輪)
(計測位置については図25参照)

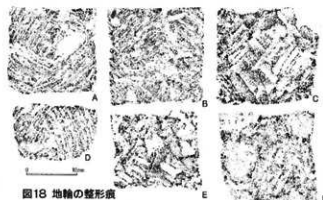


図18 地輪の観察写真

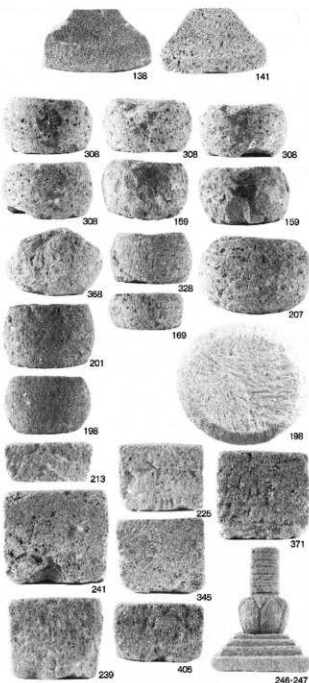


写真13 五輪塔・宝篋印塔(2)

A-277上
B-213上
C-239下
D-277側
E-277下
F-248下

※石材の加工面には、①荒削り(F)、
②荒削り(C・E)、③削り(A・B・D)、
④仕上げがある。通常、地輪下面は①・
②で止めた例が多い。また、一般的
に古相は④まで行方が、新しくなる
と行わない傾向がある。

第3章 自然科学分析

第1節 藤崎市石之坪遺跡のテフラ

河西 学(朝山梨文化財研究所)

1. はじめに

本遺跡は、北部巨摩山地東麓における小武川合流後の釜無川右岸に形成された段丘上に位置する。この段丘は、持久神社付近を扇頂とするきわめて急傾斜の小扇状地に覆われている。小扇状地上では褐色ローム質土層の分布は認められず水田などに利用されているが、遺跡周辺の崖線付近の段丘上にはローム層が分布し、畑として利用されている場合が多い。縄文時代・平安時代・中世・近世遺構が確認されている北盆地遺跡も同様の立地環境にある(幸崎市教育委員会, 1991)。約10mの崖線の下には上円井集落をのせる低位段丘面が形成されている。遺跡の西側において小扇状地と本遺跡のゆる平坦面との境界付近には、南北性の緩やかな濃度の円形が認められる。ここではローム層の層位を確認するためにテフラ分析を行ったので以下に報告する。

2. 試料・分析方法

遺跡での基本土層は、最下位に段丘構成礫層(10層)があり、その上位の砂質ローム層(9層)が御岳三岳テフラOn-Mt(Pm-IV)(8層)とローム層(7層)に覆われ、砂礫層(6, 6'層)および砂質ローム層(5層)の堆積後、風成堆積環境となり4~1層が形成されている。試料は風成堆積物から採取した。分析方法は、河西(1997)などと同様である。

3. 分析結果

火山ガラスの屈折率測定値を表8に示す。偏光顕微鏡下での火山ガラスの計数結果を表9に示す。これをもとに浸重基準の含水率、粒徑組成、1/4~1/16mmの火山ガラス含有率、形態別火山ガラス含有率を算出し図17に示した。なお1/4~1/16mm全火山ガラス含有率、形態別火山ガラス含有率は、試料単位重量当たりの1/4~1/16mm粒徑の火山ガラスの割合で表した。

含水率は、下部のNo.17(51.3%)、No.16(45.6%)が高く、No.15(25.8%)を極小として緩やかに増し、No.10(37.9%)で極大を示し上方に緩やかに減少して、No.1で23.4%を示す。粒徑組成では、下部のNo.17~16で粒徑で1/4mm以上の粒子が30.7~38.7%を占める。また4層下部のNo.15で1/4mm以上の粒子が46.0%の極大を示し上方に減少しているが、これは下位の砂質ローム層(5層)の影響によるものと考えられる。1/4~1/16mmの粒徑砂は、全体を通じて6.6~10.6%の比較的安定した値を示す。1/4~1/16mm粒徑の全ガラス含有率は、No.2を中心にNos.1~4において極大値1.74%の顕著な極大を示す。形態別では、立体的な泡壁型(バブルウォール型)である無色A'型がもっとも多く、平板状泡壁型の無色A型がこれに続き、両者ともにNo.2で極大を示す。これらの泡壁型火山ガラスは、No.2での屈折率が1.499~1.501(モード1.500)を示すことから、約2.5(±0.2)万年前に噴出した給良Tnテフラ(AT)に同定される。ATの降灰層準は、火山ガラスの急激な増加が認められるNo.2付近に推定される。そのほか塊状のB型、中間型のC型、多孔質籠右型のD型などがきわめてわずかに検出される。

No.17はPm-IVあるいは御岳三岳スコリアOn-Mtに對比される。外観は特徴的な橙色を呈する風化スコリア質テフラである。表10・図18の重鉱物組成は、斜方輝石・単斜輝石・不透明鉱物が多い点で、On-Mtの記載と調和する(竹本ほか, 1987)。また普通角閃石・黒雲母などを伴うが、これらはテフラ以外の堆積物からの影響が考えられる。On-Mtの年代は約5.7万年前と推定されている(竹本ほか, 1987)。

6層の砂礫層は、分級が良好ではなく、中礫から細礫および砂粒から構成される。花崗片岩や中性の緑色変質した火山岩類および泥岩・砂岩などを伴う特徴がある。八ヶ岳火山や非崎岩層流堆積物を構成する安山岩や大武川に特徴的なホルンフェルスなどが認められないこと、および付近の巨摩山地が花崗岩類および緑色変質火山岩類などから構成されることなどから、これらの砂礫層は、小武川あるいは持久神社付近を流れる小河川によって形成された堆積物であると推定される。

北部巨摩山地東麓には活断層が分布している(浅川・平川, 1986; 活断層研究会, 1990)。浅川・平川(1986)は、巨摩山地北部東麓の地形分類を行い、Pm-IVを含む新期ローム層以上に覆われるかPm-IVを段丘堆積層上部に挟む面(IV面)が、活断層よりも西側の巨摩山地側に分布していることを示した。宇波川井集落北側でのIV面は、寺沢川扇頂部から北方に標高480m等高線に沿って分布している。今回On-Mtが確認された本遺跡のゆる平坦面(標高465m)が浅川・平川(1986)のIV面に相当するものが明らかになった。したがってIV面は、約6万年前に約0.3m/1000年程度の断層変位があったことが推定される。

4. おわりに

テフラ分析によってATとOn-Mtが確認された。活断層や地殻活動の歴史を解明するために、この地域における考古学的発掘調査においても層位の確認を重視していく必要があると考える。

文献

- 新井/夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, 254-269。
- 浅川・平川・巨(1986)巨摩山地北部東麓の活断層。活断層研究, 2, 33-42。
- 遠藤邦彦・鈴木正章(1980)立川・武蔵野ローム層の層序と火山ガラス濃集層。考古学と自然科学, 13, 19-30。
- 河西学(1997)高根町社口遺跡のテフラ。『社口遺跡第3次調査報告書』, 199-200。
- 活断層研究会(1991)『新編1/10万の活断層—分布図と資料』。東京大学出版会。
- 幸崎市教育委員会(1991)『官ノ前第2遺跡・北盆地遺跡』。竹本弘幸・百瀬賢・平林滋・小林武彦(1987)新期御岳テフラ層の層序と時代—中部日本における編年上の意義—。第四紀研究, 25(4), 337-352。

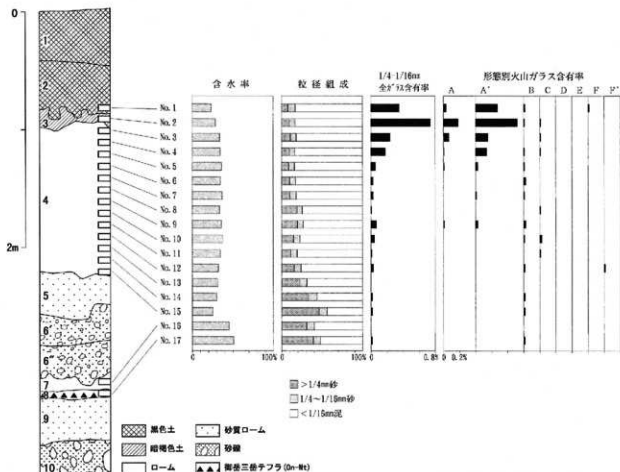


図17 火山ガラス含有率

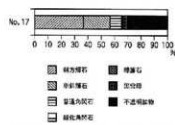


図18 三岳スコリアの重鉱物組成

表8 火山ガラス屈折率測定値

試料番号	火山ガラスの形態	色調	屈折率 (モード)	対比されるテフラ
No. 2	泡壁型 (A・A'型)	無色	1.499-1.501 (1.500)	鈴良T n テフラ A T

表9 火山ガラス粒数 (+は計数以外の検出を示す)

	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17
A 無色		2	13	5	1	1			1								
A 褐色																	
A' 無色		15	35	11	10	2		1	2								
A' 褐色			1														
B 無色		1	1		1	1	2	1	2	1		1		1	1		1
B 褐色																	
C 無色			1	1	1			1	2								
C 褐色											1						
D 無色																	
E 無色																	
F 無色		1															
F' 無色														1			
その他	481	449	483	487	496	498	498	499	495	497	499	488	500	459	499	500	499
合計	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500

表10 三岳スコリアの重鉱物粒数

試料	No. 17
斜方輝石	73
単斜輝石	40
普通角閃石	17
酸性角閃石	1
綠泥石	1
黒雲母	8
不透明鉱物	60
合計	200

第2節 葦崎市石之坪遺跡より産出した炭化種実 古川 純子(古代の森研究会)

1. はじめに

本遺跡は縄文時代前期末葉から中世鎌倉時代初期までの複遺跡である。各時代で住居跡の炉及び土坑、鍍金時代では溝状遺構からも炭化種実が採取された。炭化種実の産出結果から食生活の傾向が認識できるかどうか時代ごとに検討する。

2. 各時代から産出した炭化種実

(1) 縄文時代

前期末葉の住居の炉からは、オニグルミ、炭化塊、不明果皮のほか、殻類のムギに類似した形像をもつ破片を産出した。中期中葉では、炉や床覆土から多数のオニグルミ破片、ブナ科の果皮片のほか、雑草のヌグ属、アカネ属、薔薇など、キハダの種子、炭化した果実も産出した。中期後半では、炉、埋室からオニグルミ、薔薇、炭化塊などを産出した。

縄文時代では、焼燗様式が炉という開かれた構造となっていること、および人鍋で強い火力で長時間の調理をするという推測がなされている(小林1999)ことから、炭化物が残りやすいと思われる。一般に縄文時代では床覆土には炭化材以外には肉眼的に炭化物が目立たず、そのた住居覆土の分析例が少ない。また残存している炭化物も構造的に硬く緻密で燃え残りやすいオニグルミ、あるいはここで産出したキハダのように液果ごと燃焼した場合に果実ごと残る例がある。

(2) 弥生時代

すべて中期前半の堆積物からなり、住居の炉覆土は1試料のみ、8試料はフラスコ状土坑の内部に堆積していた土中から産出した炭化種実である。炉からはトチノキの楕円片と葉類のほか、サシショウ、オニグルミや、穀類であるアワを産出した。フラスコ状土坑からはオニグルミ、コナラ属、クリ、ブナ科、ムクノキ、イタヤカエデ、トチノキといった木本の炭化種実と草本のヌグ属、カヤツリグサ科、サナエダダ近縁種、ザクロコウ、シソ科、アカネ属、メナモミのほか、栽培植物のイネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ、アサ、それにササガ属に類似したマメ科も産出した。コムギは123号土坑で1粒産出しているが、弥生時代のコムギの産出例は少なく、前期は福岡県板付遺跡、山口県宮原遺跡などの産出例がある。

フラスコ状土坑内部の堆積物を分析した例はほとんどないが、これは炭化物が生成される場所ではないと認識されていることによる。土坑の堆積物中に炭化物が入る機会としては、土坑放棄のため自然に埋まっていく段階と、人為的埋積段階の両方が考えられる。前者の場合、最下層は放棄直後の堆積物であるが、上部は土坑内部でも後世の堆積物である可能性がある。土坑の中でも76号、127号、230号は炭化物の種類、数ともに非常に少なく、放棄後あるいは使用中に自然に埋まった堆積物中に炭化物が含まれていたと考えられる。これに比べて、45号、56号、135号、138号は37号住居の炉に匹敵するほど多くの炭化物があり、123号に至っては炉の堆積物よりも種類、数ともに上回る。また、138号は焼土もよく堆積していることから、これらは炉の内部や周囲の燃え残りを人為的に土坑内に廃棄した可能性が考えられる。なお人為的廃棄とは異なるが、炭化材などの炭化物に消臭や吸湿効果があることから、生成された炭化材などを土坑の下部に敷いた可能性も考えられる。この場合、土坑に炭化した種実が土坑内に堆積する可能性がある。山梨県内での

は弥生時代の炭化種実の産出特徴として、イネの占める割合が多く雑穀類が少ない(橋原1999)という傾向があり、本遺跡でもその傾向が見られる。

(3) 平安時代

住居内の竈及び炉からはイネ、オオムギ、アワを比較的多く産出した。また、オニグルミ、ブナ科、モモ、メマガキ、穀類のコムギ、キビのほかダイズ属、雑草ではイネ科、スゲ属、シロザ近縁種、ヘビイチゴ属、シソ科、ナス属を産出した。また床覆土からは栽培植物のモモ、メマガキ、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ、キビ、アサ、ササガ属のほか、スゲ属、ホタルイ属、カヤツリグサ科、シロザ近縁種、キンボウグ属、ヘビイチゴ属、マメ科、シソ科を産出した。

平安時代ではイネについてオオムギが多く産出しており、コムギもわずかにあるが粒状で産出している。また、68号住居の床覆土はわずかに炭化塊を産出するのみであるが、9号住と3号住は総数で比較してもヒエやアワの堆積物より種類、数ともに床覆土が上回っている。これは住居使用中あるいは焼燗後に堆積物が移動したとも考えられる。竈はその構造上、燃焼効率をよくするため住居使用中は竈の清掃を欠かさないという民俗例もあり、燃焼のための施設であるにもかかわらず炭化物の産出数が比較的小さいと推測される。

(4) 鎌倉時代

中世鎌倉時代初期では2軒の炉・竈と方形溝造構の池状遺構を分析しているが、両者に種類、数の大きな差はなかった。栽培植物はモモ、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビで、ほかに雑草のカヤツリグサ科、ハナタダ近縁種、マメ科を産出している。

比較できる住居数は少ないが、平安時代に比べると炭化種実の種類、数はかなり減少している。平安時代と同様、竈という構造から、住居使用中は燃焼効率をあげるため細やかに清掃していたと考えられる。また、中世でも個数は少ないもののコムギは粒状で産出している。橋原はコムギが硬くて粒食に向かないことに触れ、「なぜ粒の状態では炭化してコムギが多く出ることという大きな問題」(橋原1999)を提起している。これは自家消費であればコムギを栽培し取り入れてどのように保存しどこで粉に挽くか、粉食か粒食かという加工過程と、粉粒いずれの状態でも流通していたということにも関わっているのではないだろうか。

3. 炭化種実の記載

オニグルミ：内果皮破片を産出した。破片は1cmより細かいものが多く、内果皮の4分の1より小さい破片のみであった。

クリ：完形の子葉と破片を産出した。現在栽培されているクリよりかなり小さい野生のシバクリと同程度の大きさである。

コナラ属、ブナ科：果皮の破片と子葉破片を産出した。果皮片は表面に縦の細い筋があり、子葉破片の大きいものは外形からコナラ属とわかる。

ムクノキ：内果皮のほぼ半分が割れた破片を産出した。基部にやや突出したへそがあり、割れ口で縦の構造的組織が確認できる。

モモ：核のやや大きい破片を産出した。

サシショウ：内果皮を産出した。

キハダ：種子及び種子の抜け跡のある果実の破片を産出した。キハダは現在でも樹皮から染料と医薬品を抽出しているが、果実はアイヌなど北方民族で甘酸っぱいおやつや、薬品として最近まで用いられていたようである(飯

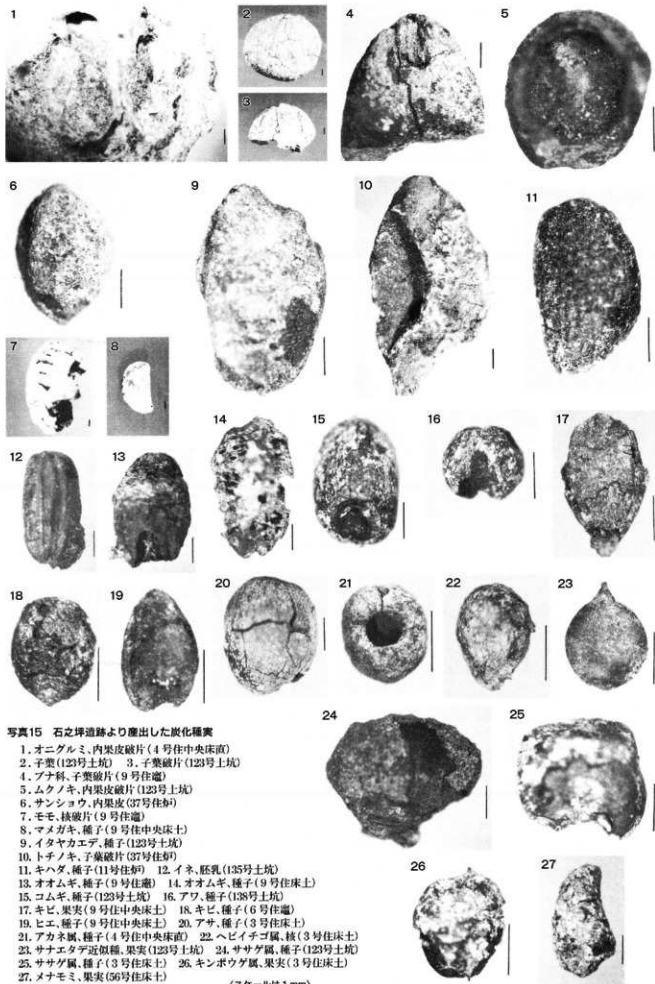


写真15 石之坪遺跡より産出した炭化種實

1. オニグルミ、内果皮破片(4号住中央床直)
2. 子葉(123号土坑) 3. 子葉破片(123号土坑)
4. ブナ科、子葉破片(9号住遺)
5. ムクノキ、内果皮破片(123号土坑)
6. サンショウ、内果皮(37号住6)
7. モモ、核破片(9号住遺)
8. マメガキ、種子(9号住中央床土)
9. イタヤカエデ、種子(123号土坑)
10. トチノキ、子葉破片(37号住6)
11. キハダ、種子(11号住6)
12. イネ、胚乳(135号土坑)
13. オオムギ、種子(9号住遺) 14. オオムギ、種子(9号住床土)
15. コムギ、種子(123号土坑) 16. アワ、種子(138号土坑)
17. キビ、果実(9号住中央床土) 18. キビ、種子(6号住遺)
19. ヒエ、種子(9号住中央床土) 20. アサ、種子(3号住床土)
21. アカネ属、種子(4号住中央床直) 22. ヘビイチゴ属、核(3号住床土)
23. サナエタデ近似属、果実(123号土坑) 24. ササゲ属、種子(123号土坑)
25. ササゲ属、種子(3号住床土) 26. キンボウグ属、果実(3号住床土)
27. メナモミ、果実(56号住床土)

(スケールは1mm)

はほぼこの状態で産出されるのではないかとみられる。

引用文献

- 小林正史 1999「煮炊き用土器の作り分けと使い分け」
—「道具としての土器」の分析— 食の復元—遺跡遺物から何を読みとるか 研究集会報告集2 帝京大学山梨文化財研究所 p.1-59 東京
- 藤原功一 1999「炭化種実から探る食生活」—古代〜中世を中心に— 食の復元—遺跡遺物から何を読みとるか 研究集会報告集2 帝京大学山梨文化財研究所 p.81-98 東京
- 萩中央校・畑井朝子・藤村久和・古原敏弘・村木美幸
1992「聞き書きアイヌの食事」農山漁村文化協会
319p. 東京

第3節 出土人骨

石之坪遺跡出土人骨に関し、1999年6月24日、茂原信生氏(京都大学霊長類研究所)に鑑定していただき、堀原が聞き書きした。なお本文の文責は全て堀原にある。

1. 113号土坑の人骨

- 乳様突起：大きい。男性か。
頭蓋上隆起：大。男性的。
頭骨の厚さ：非常に薄い(ただし病的ではない)。
老齢変化：歯を除き、ほとんどない。
下顎骨：歯は全て抜け、孔はふさがり、顎の幅も細くなっている。(上顎の歯もなかった可能性あり)
上腕骨：太い。三角筋粗面が非常に発達(三角筋が発達)。

多少老齢化がすすむ。

- 頸骨：太い。断面四角形に変形。筋内の発達を示す。
大腿骨粗線の発達：やや弱く、扁平さみ。
身長：骨端部が欠けているため、明らかにできない。
その他：肩間の骨にゆがみあり。ただ骨に残るような大きな病変はみられない。
年齢：熟年(40〜60歳)後半。

2. 279C号土坑の人骨群

- 後頭骨・外後頭隆起：4個体分
乳様突起：右4個体分
頭骨：4個体分
大腿骨：6〜7個体分。扁平なものが多く、腎筋隆起の発達大。しかも扁平が多い。こうした特徴は山岡地の人にも多い。男性であろう。
頸骨骨：4〜5個体。
上腕骨：男女あり。足の骨よりも数は少ない。骨の厚いものが多い。
眉間の残る頭骨：男性。
歯：山歯がいくつかみられる。エナメル質減形成(成長期のストレス)は少ない。
No.777下顎骨：がっちりしている。熟年よりは若い。歯が抜けた。奥歯は歯根のみ存在か。
その他：全体に若い骨はない。足・腕・頭のみ。残りのいとも、厚みのあるものを集めた感じである。男女とももあり。集め方に偏りはないだろう。焼けているものは少ない。牛の骨No.122(右大腿骨)が混じる。
以上により順次埋納した骨ではなく、ある時点で一括して片づけた骨であろう。

第4章 考 察

第1節 土器の分布状況と遺構の変遷

遺構の時期別変遷と遺構外出土土器の分布状況を重ねることによって、各時期の土地利用のあり方を探る。

<早期末〜前期初頭> 明確な遺構はないが、貝殻腹縁文を施した打箱式土器小片が128号土坑等から出たほか、広い範囲に散在し、また織維土器もみられる。西地区でも出上していることから、遺構としては確認できなかったものの、住居が存在したのであろう。

<隣畿c式期> 隣畿b式期までは遺物は皆無であるが、本期になると東地区を中心に集落が出現する。住居は径8〜10mの中〜大型住居2軒(22-42号住)とともに、中〜小型の2軒(30-32号住)があり、隣畿c式期の中でも後半段階を主としている。本期には、他遺跡でも住居が大小で組み合わせを示すことがあり、また大型住居では骨が多数あることから、通常の住居とともに複合居住形態の大型住居がセットをなす可能性がある。この時期に住居軒数が減少して見えるのも、居住形態の変化に対応するのであろう。遺構外土器は、住居のある付近から南側にかけて集中的に分布し、また土坑も上にそうした部分に位置する。

<格沢式期> 瓦領ヶ台式期には87号土坑から2片の瓦領ヶ台1式土器が出ているので、集落が再び現れるのは格沢式期であり、南側に4軒が検出されている(26-41a・42b・56号住)。土坑は散在し、遺構外遺物も南側を中心にわずかに出上っている。住居はいずれも4本柱穴で中央に埋壘がもつ。

<新道式期> 21号住の1軒のみであるが、藤内式期の住居址にも多く入っている。遺構外遺物は少量ながら地区全体に広がりを見せている。

<藤内式期> 本地区北側に4軒の住居がコンパクトにまとまり、土坑もその付近にある。うち4・7・11号住の3軒は住居の形、規模、柱穴配置はよく類似し、ベッド状遺構を伴っている。遺構外遺物は新道式期と同様に南側まで広く分布する。

<井戸尻式期> 南端に1軒(57号住)があるのみであるが、遺構外遺物は調査区中央付近に散在している。

<曾利Ⅱ・Ⅲ式期> 井戸尻式期と同様に南側を中心に住居があり、遺構外遺物もその周辺に分布している。住居は一応3軒確認したが、細かな時期が不明なものが多い。

<曾利Ⅲ・Ⅳ式期> 本期では11軒もの住居数を数え、全体では西地区にかけての大きな環状配置となる。ただ時期細別すると曾利Ⅲa期(24号住)、曾利Ⅳa期(25号住)、曾利Ⅳb期(23・31・49・51)などとなる。遺構外遺物は住居の西側に主として分布し、土坑も住居域中に散在する。

<曾利Ⅴ式期> 住居としては1軒(65号住)があり、また23号住にも多数の本期の土器が遺棄されている。遺構外遺物は曾利Ⅲ・Ⅳ式期とほぼ同様であるが、分布はより薄くなっている。

<後・晩期> 後期初頭(称名寺式期)、加曾利BⅠ式期、晩期終末の浮線文系土器が各1片程度あるのみ。西地区では称名寺式期の柄線形住居等があり、遺物も多いようであるが、本地区では時期不明の後期土坑が1基(S1号土坑)あるだけで、遺物の山方も非常に薄い。

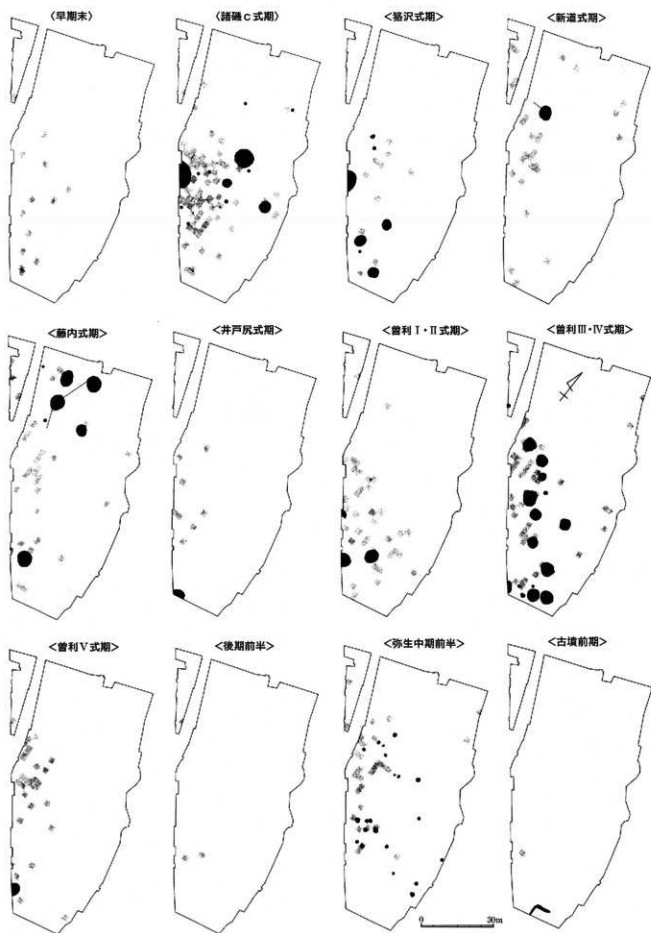


図19 遺構と遺物の分布変遷(1)

(薄い網は1～5点、濃い網は6点以上の土器出土を示す、点線は遺物の場合を示す。)

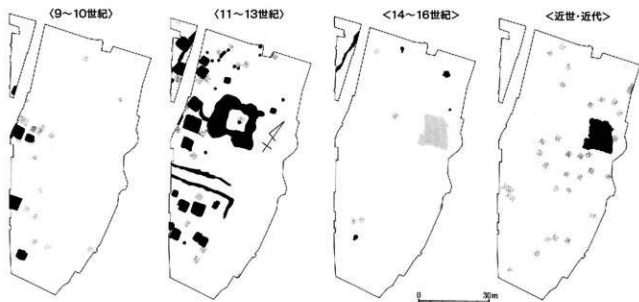


図20 遺構と遺物の分布変遷(2)

<弥生中期> 条痕文土器を中心に本地区中央に遺構外遺物が分布し、また土坑には特徴的なプラスチック状を呈すけて分布する。中でもO・P32・33グリッド付近には集中的に存在し、石圍が状の遺構もある(37号住)。この時期の住居形態が明確ではないが、掘り込みがごく浅い堅穴住居、もしくは平地式住居であったと思われる、住居址は検出されにくいのであろう。西地区でも国道に近い部分に土坑が出ているが、中心的なのは東地区である。

<古墳> 本区南端にL字の溝(10号溝)があり、古墳時代前期の方形周溝墓と思われる。

<平安> 9～10世紀代では本区中央と南に住居が分布し、中央付近には3軒がまとまっている。遺構外遺物も住居周辺に散在する。

<11～13世紀> 11世紀以降の本区のあり方は活発である。土器を伴わない方形堅穴があり、詳細な時期を決めることができない例があるが、本期の時期に一応含めておいた。本期では11世紀代に堅穴が密に構築され、12世紀後半から13世紀代に方形周溝遺構が構築される。これは方形区画溝(4・5号溝)の設置と同時期と思われる、両者の有機的な関連が予想される。また池状遺構に水を引くための溝があり、この時期に台地上が耕地として整備された可能性を示す。この方形区画溝はこの地域一帯の拠点的な施設で、方形周溝遺構は宗教的な施設であろう。

方形集石中からは、古くは13世紀中頃の古瀬戸四耳壺も出ていることから、方形集石付近には方形周溝遺構に付随した墓地があったことが予想される。

<14～16世紀> 方形集石には五輪塔が多数存在し、方形集石形成以前の本期には集団墓地であったことがわかる。また地下式坑が3基出ている。地跡図を見ると、調査区北方に方形の館跡らしき地割があり、また現農道の西脇には短冊状の地割が整然と存在することから、宿又は町屋が整備されていたことも予想される。調査では黒色の覆土をもつピットが国道寄りの地域から検出されたが、個々の建物配置を厳密に確認するには至っていない。

<近世以降> 方形集石下層に集石土坑群が形成され、上層が方形集石として整備される。上層が整備された時期はよくわからないが、明治末の隠衣草地になった段階かと思われる。その後、隠衣草地は昭和40年頃まで使用されている。近世に入ると甲州街道の整備に伴い、台地上から台地下へ集落が移転し、遺跡付近は主に畑地になっ

たと思われる。この時期の遺物は陶磁器類を中心に全域に散在して見られる。

第2節 五輪塔の変遷

五輪塔は方形集石およびその下層土坑群中のみ出土で、それ以外では出ていない(ただし、西地区からは数点の出土があった)。方形集石上層では一部意図的に再配列された地輪があり、何らかの集石上面の遺構に関わる境を示すものと思われたが、いずれにしても原位置を保つ五輪塔は皆無であった。下層土坑中も同様で、時間的なまとまりを示す群はないだろうと考えられる。よってここでは出土地点は考慮せず、時間的な形態変化を考えるために形態分類し、各形態ごとの大きさを検討したい。

五輪塔は空風輪、火輪、水輪、地輪の4つの部位からなる。空風輪144点、105点、水輪90点、地輪67点、計406点を図示し、ほかに図示不可能な小破片が若干ある。ここでは主として断面形による分類を行った。なお実測資料中には破片で分類が不可能なものを含んでいることから、個々の形態の合計は図示点数と一致していない。

<空風輪> 4類に分かれ、裏面に孔をもつ例が5例、溝状の沈線をもつ例が3例存在する。墨書・刻書例はない。

A類—空輪部下半を大きく削り、空輪と風輪間に大きな段差をつける。6/138点(4%)。整形は丁寧である。

B類—空輪が丸く作られる。46/138点(33%)。整形は丁寧。C・D類より大きいものが多い。

C類—全体を砲弾状に作り、溝を入れたもので、頭部は丸く削られる。45/138点(33%)。B類より小さいものが多い。

D類—頭部に稜があり、空風輪の境は溝のみである。41/138点(30%)。整形は荒く、小型例が多い。整形技法の簡略化、小型化、整形の粗雑化傾向がみられ、A類からD類への変遷が予想される。

<火輪> 5類あり、軒幅が一定なもの(A～C類)、軒先の幅が大きいもの(D・E類)の二つに大別できる。後者は下面がほぼ平坦で、高さが高い。

A類—下り棟が直線的。軒幅は一定で、軒先が反る。7/101点(7%)

B類—軒幅が一定で、下り棟、軒裏が反る。60/101点(59%)。高き、幅から4群程度に細分が可能である。

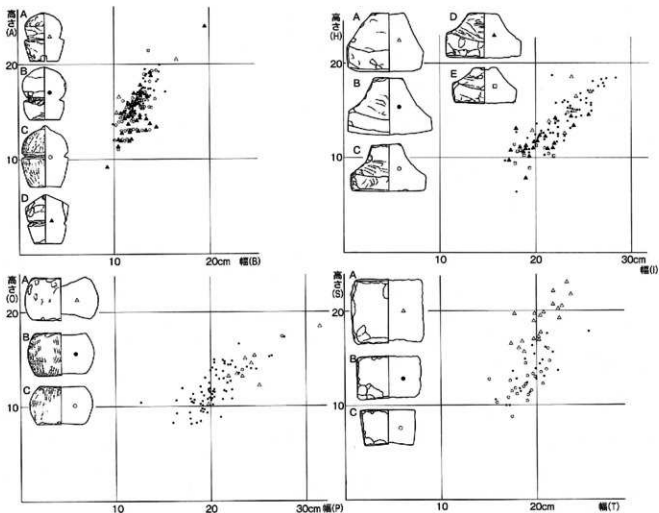


図21 五輪塔 各部位の大きさ(計測位置については図26(第176図)を参照)

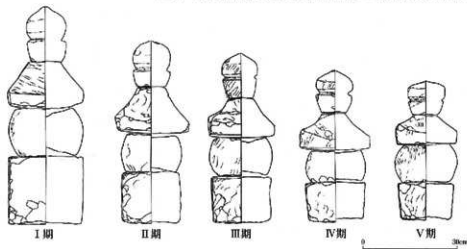


図22 五輪塔の変遷案

C類-軒幅が一定で、下り棟は反り、軒裏はほぼ平坦か極くわずかに反りをもつ。5/101点(5%)。

D類-軒裏はごくわずかに反りがあり、軒先の軒幅が広い。22/101点(22%)。A~C類に比べると小型である。

E類-軒裏が平坦で、軒先の軒幅が広い。7/101点(7%)。最も小型の一群である。

他の遺跡例から推定するとA類が最も古相で、E類が新しい。軒裏面の反りが平坦化し、軒先の幅が大きくな

るという傾向に着目するとA-B-C-D-Eという変遷を辿るのであろう。

<水輪> 上下面の状況で3種に分類可能である。側面に墨書による梵字をもつ例が13点、刻書の梵字をもつ例が2点ある。

A類-上下面が容器状に大きくくぼむ。9/87点(10%)。大型例が多い。

B類-上下面が皿状にわずかにくぼむ。75/87点(86%)。

C類-上下面はほとんど平坦。3/87点(3%)。

A類とB・C類の違いは明確であるが、B類の細分は難しい。おそらく高さ、整形技法を加味することで分類できるだろう。

<地輪> 側面形で3種に分類できる。上下面の区別は難しいが、上面は調整が丁寧なのに対し、下面は調整が荒いままとなり、くぼんでいることが多い。墨書の梵字をもつ例が1例のみある。

A類-高さ、幅が近く(厳密にはわずかに幅が大きい)で、立方体的。20/65点(31%)。大型例が多い。

B類—高さよりも幅が大きい。2165点(32%)。
 C類—高さよりも幅が大きく、上面幅より下面幅が狭い。2465点(37%)。小型例が多く、整形は荒い。
 A・B・Cの順に小型化し、また整形は荒くなっていく。AからCへと変遷するのであろう。またC類の上面と下面の幅の違いは、石材をブロック状に岩盤から切り出す際に見えるものであろう。
 <各期の組み合わせ> 各部位の変遷を並べると以下のようになる。括弧内は割合で、類ごとの割合から組み合わせを想定してみたい。

- 空風輪 A(4)→B(33)→C(33)→D(30)
 火輪 A(7)→B(59)→C(5)→D(27)→E(7)
 水輪 A(10)→B(86)→C(3)
 地輪 A(31)→B(32)→C(37)
- 個別数の多い火輪の変遷を基準にA→EをI→V期とすると次のような組み合わせの変遷が想定される(図22)。
- I期 空風輪A+ 火輪A+ 水輪A+地輪A
 II期 空風輪B+ 火輪B+ 水輪B+地輪A
 III期 空風輪C+ 火輪B+C+ 水輪B+地輪B
 IV期 空風輪C+D+ 火輪D+ 水輪B+地輪C
 V期 空風輪D+ 火輪E+ 水輪C+地輪C

I期では大型品を上として少数の五輪塔が存在し、II～IV期までは同じような数量で推移し、V期には少数となり、衰退の兆しをみせている。実年代を考えるとあたり、高槻町横森赤台遺跡の地輪に書かれた墨書資料が年代観を与える上での地点となる(2000 野代)。26号土坑出土の地輪C類、あるいはその後の段階の資料に「享祿」の年号(1528～1531)があったほか、集中区山土の地輪C類には「永正」(1504～1520)の年号が判読できたとする。したがって本遺跡V期以降を16世紀前半代に置いておきたい。また仮にI期を14世紀後半、II期を15世紀前半、III期を15世紀前半～後半、IV期を15世紀後半としておくと、15世紀を中心に約百数十年の間、盛んに五輪塔が作られたことが推測できる。組み合わせ数は空風輪数から最大145で、各時期の数は最大数でI期6個、II期46個、III期約40個、IV期約40個、V期約7個(火輪数から推測)であり、製作数は平均すると、1年1～2個ではなかったかと思われる。
 <各部位の特徴による組み合わせ想定> 五輪塔の組み合わせを何う手がかりとして、①梵字の字体、大きさの類似性、②石材の共通性、③孔形態の類似性、④整形技法の共通性の4点が考えられる。①については水輪に梵字をもつ例13点に対し、地輪には1点のみ(245)であるが、245に類似した梵字の水輪として167があげられる。②については、木蓮跡の五輪塔が安山岩と火山礫凝灰岩もしくはデイサイトの2種に大きく分けられ、後者の数量が

非常に多いことから、前者の安山岩のみを取り上げる。安山岩に限定すると、空風輪では38・81、火輪では138・145、水輪では198がある。これらのうち38と145は径・深さがほぼ共通した孔があり、組み合わせを示す。したがって残る81と138が組み合う可能性が高く、両者は整形技法も類似する。また198は81・138と整形技法が類似することから81・138・198のセットであろう。③については、前述した38・145は確定済みで別にすると、空風輪に58(太い孔)、334(細く深い孔)、349(中間的な太さの孔)、350(細く深い孔)がある。また火輪には137・359(細い孔)、118(中間的な太さの孔)、394(太い孔)がある。したがって58と394、334と137又は359、349と118の組み合わせが想定できるだろう(図23)。

先に予想した変遷観をこの組み合わせで検証すると、I～II期—38・145、II期—167・245、III期—334・137又は359、58・394、IV期—349・118、81・138・198となり、大きな齟齬はない。
 <製作技法及び生産地> 製作技法に関しては十分検討できなかったが、石材の切り出しから仕上げまでの間にはいくつかの工程があり、新しくなるにつれて工型の省略がうかがえる(1999 榑原b)。この点に関しては後日再検討したい。また石材については、今回は大きく2種に分けたのみであるが、色調、火山礫の混入状況などの観察によっていくつかのタイプの分類が可能である。石材産地および製作地の推定は、今後の大きな課題である。

第3節 方形周溝遺構の基準線

方形周溝遺構の基準線に関し、空伏徹氏(勝沼町教委)より設計案を示唆していただいた。以下は空伏案をもとに整理し直したもので、氏の見解を正しく記したのではないことをことうわべておくとともに、同氏には心より謝意を表する次第である。

この遺構の中では1・2号桶脚状遺構幅が同一で、同じ輪線上に柱穴があることから、かなり厳密な設計のもとで周溝遺構全体の構築が予想される。桶脚幅は2.2mであることから、2.2mを1間として基準値とすると、壇状遺構はちょうど4間四方であり、二つの桶脚状遺構の東辺を方形壇の中心を通る中心線とすることができる。全体では南北9間×東西10間、あるいは10間×10間とみることできる(A案)。別の考え方は、2号桶脚状遺構の南北間がほぼ1.8mであることから、1.8mを基準値とすると、壇状遺構は5間四方、二つの桶脚状遺構の西辺を通過する軸を基準線として東へ6間、西へ5間の位置が

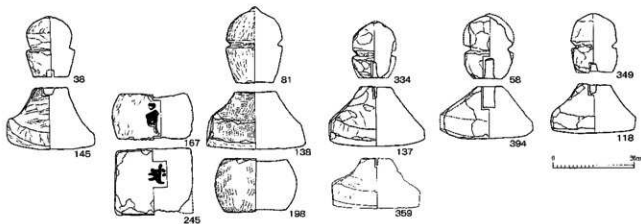


図23 五輪塔の組み合わせ

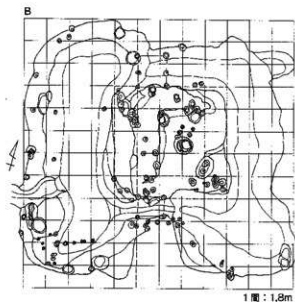
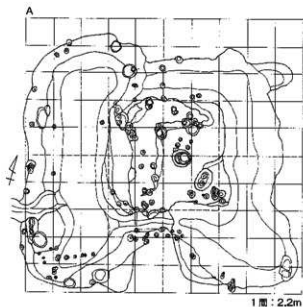


図24 方形周溝遺構の基準線 (A・B)

東西間となる。すると壇状遺構上に3間×3間の建造物が設置可能となる(B案)。ただし両者とも44号土坑(心礎?)とその北西にある礎石(?)には線がうまく乗らないので、その部分については別の設計案が必要となる。44号土坑がわずかに東へずれるのは、当初の意図とは違っていたため、つまり方形周溝遺構の構築と建物の出築の間には時間差があるため、あるいは、西側に大きく池を設けているように、西側から見るという意図をもっていただけとも考えられる。後者については橋が西寄りへ設定されていること、11・12号溝から想定される道が方形周溝遺構の内側を通過していることと無関係ではなく、西からの視線を重視する必要がある。

第4節 胎衣埋納に関する聞き取り

胎衣墓地や胎衣埋納に関する民俗調査はこれまでに各地で行われ、また胎衣容器の廃棄遺構も神奈川県藤沢市池ノ辺遺跡(1980 越川)や横浜市今井町(1996 戸田・小松)などで見つかかり、胎衣容器の変遷等の論考も提出されている。山梨県では、明治20年頃に書かれた山中共古の『甲斐の落葉』(1975 山中)中に、「胎入レニハ上器ヲ用ヒルコトナシ 柄杓ナド遺カ血物屋ニテ岡ノ如キモノヲ作り胎入トス 通例ハ柄杓ノ柄ヲヌキトリ血物シテ用キ並ニ紙ヲモツテヲヒ木引ニテ結ビ地ニ埋ム 胎入 血物カブセ薫燥糠松竹梅鶴亀ヲ削ク」とあり、当時、川府付近で土器を胎衣容器とすることはなかったことがわかる。明治29年には県令「産衣及産汚物取締規則」が出され、胎衣・産汚物などは人家や飲用の井戸・用水路から20間以上隔て、深さ3尺以上の穴に埋めること、などとされた(1981 木下)。したがってその頃、共同の胎衣墓地が各地で出現したのであろう。

石之平遺跡の胎衣容器には、蓋と身の内側に「寿」の押印をもつ合子状の専用容器3種のほか、胎衣容器として転用されたと考えられる土瓶、蓋付の行平、ホーローの洗面器、ビニール袋などがある。それらの多くは散在し、原位置を留めるものは少なかった。容器類以外に胎衣埋納に関連する遺物に、対で立つ瓶、徳利類がある。「帝國鉱泉株式会社」という銘のサイダー(?)瓶と印版の磁器

徳利の2組が正位で立ち、それら以外に組み合わせが想定可能な瓶類がいくつかある。これらは明治～戦前の所産と考えられる。瓶や徳利を立てる習俗については、乳が良くでるように願って1台瓶に水を入れ逆さに立てる例(富士吉田市古原、1996 堀内)、玄間の敷居の下に胎衣を埋め、良く乳が出るようにと膝に1升徳利をいける例(保谷市住吉町、1991 伊藤)があり、また遺跡から出土した例としては清区白金館址で徳利が正位で1本埋設された例がある(1988 中西ほか)。

調査終了後の本年1月、上戸井地区在住の3名の女性の御協力を得て聞き取り調査ができた。調査内容は生年月日、出産歴、出産時の状況、いつ、誰がどのように埋めたか、埋納容器、胎衣墓地の呼び名、胎衣・臍の緒に関する習俗、石之坪付近の記憶・伝承等である。Aさん(昭和5年生まれ、69)は昭和31・34・36年に出産し、3人とも上人が一人で胎衣を埋めに行った。Bさん(大正5年生まれ、83)は昭和22・24・26・28年に出産し、4人とも主人が出産当日、あるいは翌日ひとりで行った。Cさん(明治41年生まれ、92)は昭和7・9・12・15・18・22年に計6人を出産し、当日、あるいは翌日に主人がひとりで行った。聞き取りをした3名とも胎衣容器に関する記憶はなく、出産時に用いた油紙などに包んで埋めたのではないかといい、また瓶を立てる習俗は知らないということであった。石については、野犬等に掘り返されないように家の近所から持って行って、胎衣の上に乗せたのだろうという回答があったが、定かではない。男性からの聞き取りを行う必要性を痛感するとともに、上人が一人で行った行為については婦人側は関知していないことは意外に思われた。

この世代の違う3名からの聞き取りで、昭和7年から36年までの胎衣埋納を連続的につなぐことができた。整理すると次のようになる。胎衣埋納は、産院や病院での出産が普通となる昭和40年頃まで、上戸井地区では一般的に行われ、主人が出産当日あるいは翌朝、暗いころ一人で埋めに行くのが通例であった。特に容器には入れず、副葬品はない。「寿」容器に関する情報は全く得られなかったことから、明治30年代～大正期の所産であろうと考えられる。また埋納後には祀りには行っていない。瓶に関する記憶はなく、今後瓶の時期を特定する必要があるが、

昭和初期以前、おそらく明治～大正期の習俗であろうと思われる。したがって明治～大正期には「寿」印や対の版を添えるなど、胎衣埋納に対する祭祀性が残っていたが、昭和になると単に始末する行為に過ぎなくなっていたようだ。以上、上戸井地区での胎衣埋納の変遷は次のように整理される。

明治29年以前 各戸での埋納、柄杓利用か
明治29年～大正年間 胎衣草地利用開始、祭祀性を伴う埋納、容器に納入
昭和初年～昭和40年頃 処理的埋納
昭和40年以降 胎衣草地の廃用、産院・病院での処理

第5章 成果と課題

石之坪遺跡(東地区)の調査では、縄文時代の前期から新石器時代の長期間に及ぶ遺構が見つかり、多くの墓塚が投げかけられた。整理期間の制約上、遺物の図面作成に終始し、本書の構成も遺物図版に重点を置いたものになったため、考察がきわめて不十分になってしまったが、最後に本調査の成果と今後の課題を羅列し、何らかの機会に個々のテーマについて論考することとした。

(1) 縄文前・中期の竪穴住居 本遺跡では、諸磯c式期の大型住居に地床貯が複数存在したことから、複数居住的な住居形態が想定されるとともに、小型の住居とのセット関係で集落が構成されると考えられる。この前期末から中期初頭にかけては住居数が減少し、見かけ上集落数が激減するといわれるが、居住形態の違いが反映されているのかもしれない。また落沢式期では楕円形4本柱穴を主とし、竪内式期になると楕円形7本柱穴で、壁際にベッド状遺構をもつなど定型化がみられ、中期後半では4本、5本、7本と、床面高さに応じて住居型式が決まってくる。このように住居の大きさや形態は時期によって差異があることから、時期によって住居内構成員の内容、居住形態の違いが想定され、竪穴住居数のみから一律に集落規模を比較できないのではないかと考えられる。

(2) 落沢式～竪内式土器の様相 落沢式土器の細分案については3細分が一般的であるが、新道式～竪内式土器については様々な細分案が提唱されている。竪文技法のみでは時期決定が難しく、明確な時期細分の指標が求められている。また本遺跡では円筒形の抽象土器群が目立ったが、それ以外の類種への竪文例も存在する。その系譜と変遷、分布について、すでにいくつかの論考は見られるところではあるが、改めて考える必要がある。

(3) 土偶裝飾付土器 7・11号住居の土偶裝飾付土器は、竪内式期の上段が土器外面に貼付されたもので、かなり忠実な土偶文様である。土偶には全身像が分かる事例がほとんどない中で、本例は土偶研究に好資料を提供することになった。この種の遺物は近年の波田遺跡からの集積で全国的な把握が行われ、中期に限定すると甲信地方を中心とした分布状況が明らかになっている。県内では大泉村寺所第2遺跡の2例(男女らしき2人の人物が向き合う例、3人が横に手をつないだ例)、櫛形町鉾物師屋遺跡例、明野村諏訪原遺跡例、小淵沢町中原遺跡例(井戸尻考古館)があり、また県外では富士見町竪内遺跡の「神像土器」などがある。古くは原村人石遺跡18号住居の口縁部に内向きの土偶が両面に貼付されている例があり、五ヶヶ台末頃に初源を求めることができる。広くみられるのは落沢式末期から新道式期にかけてで、竪内式期になると背巾の文様が変化し、顔面のみみずく把手になる例が多い。落沢～新道式期の事例では背巾の縦位沈陥(背筋文)、首筋の文様(首筋文)、顔面の丸い眼が特徴的であるが、本例では顔面は通常の十個の丸で、首筋文は二つの楕となり、背筋文はない。顔面把手付土器への系譜をもつと思われる、中期後半ではX把手付土器に変化する

といわれる土器である。土偶裝飾という人体文が長い系譜をもち、各時期に様々な文様要素へ変化を遂げていく様子が興味深い。

(4) 跡生中期のフラスコ状土坑と象徴文土器群 フラスコ状土坑の機能については貯蔵庫と考へ、水洗選別で穂実を抽出した結果、穀類のほかに喫果類が検出されて、喫果類の貯蔵穴としての機能が予想された。フラスコ状土坑は県外でもいくつかの遺跡で検出されているが、集落域から離れて存在するという認識がある一方、当時の住居は検出しにくい構造であったので見つかるてはいないものの土坑群の周辺に住居が存在したであろうという見解もある。本遺跡では37号住居が伊のみではあるが当該期の住居と考えられ、土坑群と住居域がひとつの集落を構成するあり方を示唆している。今後は住居形態および集落構成の把握が急務となる。県内の象徴文土器は、現在適当な型式名称が与えられていないものの、1950年代に山内清男氏らが調査し、また近年本格的に調査された中道町米倉山B遺跡との類似性があることから、いずれ県内の中期前半期の十器型式名としての「米倉山式土器」として呼称される一環となるだろう(1996 森原、1999 坂本)。

(5) 平安時代の住居内の間仕切り・地床炉 3・40・63号住居には間仕切り状の溝が検出され、また33号住居には南側に土間状の段差が認められた。竪穴内の床面はひとつの空間ではなく、機能に応じて細かい小空間に分割されていたことを示し、入り口部の推定も可能となるだろう。また床面に焼上り小規模な地床炉をもつ例がある(9・27号住居等)が、こうした状況は武川郡に散見することから、防寒対策などの地域性を示すものかもしれない。

(6) 平安末～中世初頭の土器群・炭化糧実 2・3・9・33・39号住居、方形周溝遺構に良好な資料がある。2号住居は外耳土器、こね鉢、手づくね土器があり、13世紀後半の棟相を示している。3号住居は柱状高台出現前段階で、口縁部が開いた手づくね土器があり、11世紀後半の棟相がある。また池状遺構は12世紀中葉から13世紀前半を主とし、柱状高台の中段階の資料がともなう。このように11～13世紀頃までの土器群が竪穴をともなって出土したことから、土器群の棟相をより明らかにできそうである。また住居内の遺の有無と土器形態の変化の連動性を捉えられようである。さらに炭化糧実の分析を行い、9号住居床面ではイネが多かったものの、他の住居では雑穀がイネと同程度かそれ以上に見られ、11～13世紀での穀類の比率の高さがうかがえる。土錆の変化・こね鉢の出現と食糧の変化との関連も探ることができそうである。

(7) 平安末～の円形土坑 遺物がほとんど伴わないため時期は明確ではないが、この種の遺構は白州町坂下遺跡(1988 折井)など釜無川流域にみられ、甲府盆地でも一宮町西田町B遺跡では戸敷地の北東に集落域があり、三防壱片など中世陶磁器類が入っていた事例が調査されている(1997 柳原)。北戸摩郡でも台上地域ではほとんど皆無

であるが、これは平安末～鎌倉初期の遺構が台土地域に少ないためである。したがって埋没地点では11～13世紀の土坑墓として理解し、火葬墓の出現前後のひとつの墓制と考えたい。なお、県外でもこうした円形土坑の形例は多く、貯蔵穴の一種と考えられることが多いが、今後その実態把握が急務となる。

(8) 方形周溝遺構と2条平行の区画溝 周溝を持つ墓坑例は東日本に多いが、本例のような大型の墓室的な遺構としては大阪府喜連東遺跡、愛知県田所遺跡、栃木県下古館遺跡が著名である。喜連東遺跡(1987 森・西畑、1999 櫻井)では溝で囲まれた一辺約6mの方形土壇があり、溝中の多量の瓦の出し状況から、12～15世紀に互瓦の堂宇(庵廬)があったと考えられている。またその周囲にも区画溝があり、少なくとも5棟の空の存在が推定されている。溝は南側の幅が狭く、南側が正面と考えられるという。また南東にある長原遺跡では方形区画の溝をもつ同時期の遺構群が検出されている(1996 佐藤)。田所遺跡(1993 愛知県埋文センター、1997 小沢)では13×15mの土壇(墳墓)周囲を溝が囲み、内部に3間×4間隔の掘立柱建物址がある。その周辺には20m前後の区画内に集石墓、火葬施設等があり、墳墓堂を中心に墓域が形成され、時期は13～14世紀前半(13世紀後半主体)という。また南側は居住域で、大溝(田所大溝)によって約400m四方にわたり集落域を取り囲んでいるという。下古館遺跡(1987 栃木県文化振興事業団)は道に沿って160×480mの長方形の区画を作り、区画内部西側の中央に20m四方の「土壇」を溝で囲んだ方形周溝遺構があり、その北側に隣接して横石塚があって、周囲に墓坑が多数検出された。時期はおおむね13～15世紀という。以上のように各地の事例には方形周溝遺構と墓域が伴う事例があることから、方形周溝遺構に隣接する五輪塔を主とした中世墓群は、断片的に1世紀以上の差があるものの無関係とは思われない。すなわち富裕層などの有力者、高僧等の墓域(円山塔、開山堂、墓堂)として方形周溝遺構が構築され、その脇に結縁を求めた民衆の墓域が形成されたのであろう。なお、心礎を伴う方形周溝遺構は類例がないが、方形壇は亀腹基礎的な土壇として理解し、上層構造を持っていたと考えらるべきで、小型の塔、もしくは堂的な建築物が予想され、さらに西側に池状の水を湛える構造となっていることから、仏教的思想がうかがわれる。また礎石が入られた土坑(44号)については、柱ではなく火葬骨を納めた炭骨器の埋納坑であった可能性がある。なお、田所遺跡や下古館遺跡と類似する点として、本道跡にも方形周溝遺構の南側に90m四方の区画溝で囲まれた範囲があり、また後には田山甲街道と考えられる道に面した宿的な町屋が想定され、道と宿あるいは集落、という場の両機能が予想される。なお基点出土した丸瓦は県内では初度で、方形周溝遺構上に想定される堂の一部に用いられていたと思われる。方形周溝遺構に堂が伴っていた証左となっている。おそらく職人を招いて地元で焼いた製品であろうが、鎌倉方面との結びつきの表れとも理解でき、造営者層を知る手がかりになる。平行する方形の溝については時期が明確ではないが、方形周溝遺構と同時期と考えると12世紀後半～13世紀前半と考えたい。

(9) 五輪塔 420点近い点数は県内でも最大級であるが、これは地割から想定される宿、または町屋形成後の墓域としてのあり方と考えられる。町屋自体の遺構としての把握が不十分であるもの、おそらく現境付近、あるいは11・12号溝間を道として想定した場合、五輪塔群は町屋域の東側、台地縁道と想定町屋域の境に位置するこ

ととなる。時期は第4章で述べたとおりで、14世紀後半から16世紀前半を主とすると思われる。各地の五輪塔との比較検討、石材産地、五輪塔製作場の探索、石工集団の動向・技術的な系譜分析などが課題となる。また技術的な粗粒化については十分検討できなかったが、新しくなるにつれていくつかの工程を徐々に簡略化する傾向がうかがえる。なお、組のみ存在した安置印塔は時期不明ながら古相を呈し、五輪塔群のなかでのような位置づけがされるのか考えねばならない。

(10) 胎衣墓 第4章に述べたように聞き取り可能な範囲での様相が明らかとなったが、実際に埋納に携わった男性側の話も聞いておく必要がある。昭和以降、祭祀性が薄れていく傾向については、何を契機にそうなったのかかわらないが、胎衣に対する意識の大きな変換点を示している。立派遺構とした遺構について記憶されている方はなかったが、富士吉田市方面の民俗事例から乳の出を祈る行為と見なした。このように民俗誌と考古学的調査の整合がみられた希少な調査事例となった。また今日としては、昭和7年以前の状況については聞き取りが不可能であり、胎衣埋納に限らず、こうした民俗的な調査の各地での早急な実施の必要性を痛感した。

〈引用参考文献〉(第3章第1・2節を除く)

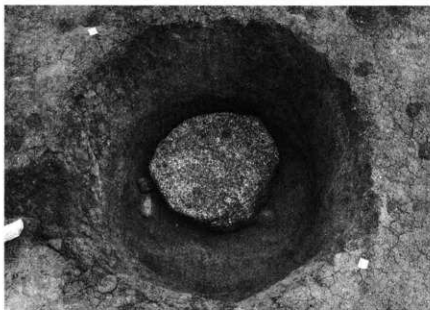
- 1975 山中共吉『甲斐の葬墓』有峰書店
 1979 内藤末共『民話・伝説』『韭崎市史 下巻』 韭崎市誌編纂委員会
 1979 久島節郎『墓相と供養』 永河書店
 1980 越川敏夫『山ノ辺―神奈川県藤沢市池ノ辺遺跡の調査―』 池ノ辺遺跡調査会
 1981 木下忠『埋堂―古代の出産習俗―』 雄山閣
 1983 佐藤八郎校訂『甲斐国志』 猿山閣
 1987 栃木県文化振興事業団『下古館遺跡』『季刊 自然と文化―中世への回廊―』18 日本ナショナルトラスト
 1987 森蔵・西畑信志『喜連東遺跡「南堂」跡の調査』『葦花』9 (財)大阪市文化財協会
 1988 折井教『坂下遺跡』 白州教育委員会ほか
 1988 中西眞也ほか『白金館址遺跡Ⅱ』 白金館址遺跡調査会
 1991 伊藤敏行『胎衣習俗と胎衣容器―東京都内遺跡出土の考古諸例を中心として―』『学芸研究紀要』8 東京都教育庁生涯学習部文化課
 1992 山下孝司『堂地遺跡』 韮崎市教育委員会ほか
 1992 磯部洋一『群馬県における五輪塔の編年』『高崎市史研究』2 高崎市史編纂委員会
 1993 荒川正夫『中世における「周溝に囲まれた小型建物」の問題について―「屋敷神信仰」との関係において―』『翔古論叢―久保哲一先生追悼論文集』久保哲一先生追悼論文集刊行会
 1993 山下孝司『堂地遺跡Ⅱ』 韮崎市教育委員会ほか
 1993 小林健二『外來系から在来系へ―甲斐のS字堂の変遷―』『研究紀要』9 山梨考古学博物館・山梨県埋文文化財センター
 1993 愛知県埋文文化財センター『田所遺跡の中世墳墓』『全国埋文協会報』36 全国埋文文化財法人連絡協議会事務局
 1994 渡辺誠・吉本洋子『人面・上装飾付土器の基礎的研究』『日本考古学』1

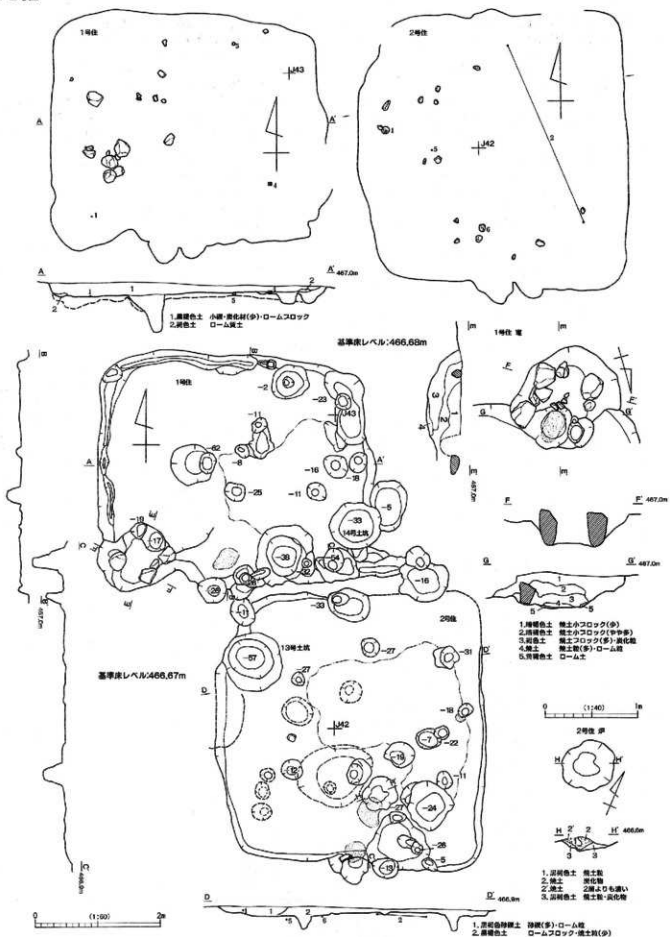
- 1996 佐藤隆「大阪市内における中世集落の動向の1例—中国製磁器の出土傾向を中心に—」『中近世土器の基礎研究Ⅻ』日本中世土器研究会
- 1996 永井久美男『日本出土銭総覧』兵庫埋蔵銭調査会
- 1996 戸田哲也・小松清「胎衣容器についての一考察—横浜市今井町出土土器を中心として—」『考古論叢 神奈川』5 神奈川県考古学会
- 1996 堀内真『富士吉田市史 民俗編 第1巻』富士吉田市史編さん委員会
- 1996 森原明廣『菖蒲池遺跡—米倉山ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』山梨県教育委員会ほか
- 1997 小沢一弘『田所遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター
- 1997 太田三喜「中世の周溝墓」『堅田直先生古希記念論文集』真陽社
- 1997 柳原功一『西田町遺跡調査報告書』西田町遺跡発掘調査団ほか
- 1998 新津健『鯉沢河岸跡』山梨県教育委員会
- 1998 中島英子「対面所遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書14—中野市内その3・豊田村内—』長野県教育委員会ほか
- 1998 井上智博・山本美野里『楠木石切場跡』（財）大阪府文化財調査研究センター
- 1999 櫻井久之ほか「喜連東遺跡発掘調査報告」『長原遺跡発掘調査報告Ⅶ』（財）大阪市文化財協会
- 1999 渡辺誠・吉本洋子「人面・土偶裝飾付深鉢土器の基礎的研究(G追補)」『日本考古学』8
- 1999 柳原功一 a「曾利式土器の編年私案」『山梨考古学論集Ⅳ』山梨県考古学協会
- 1999 柳原功一 b「五輪塔にみる製作法の変化」『帝京大学山梨文化財研究所報』36 帝京大学山梨文化財研究所
- 1999 坂本美夫『米倉山B遺跡—米倉山ニュータウン造成に伴う発掘調査報告書—』山梨県教育委員会ほか
- 2000 野代幸和『横森赤台(東下)遺跡』山梨県教育委員会ほか



写真16 44号土坑断面および発掘状況

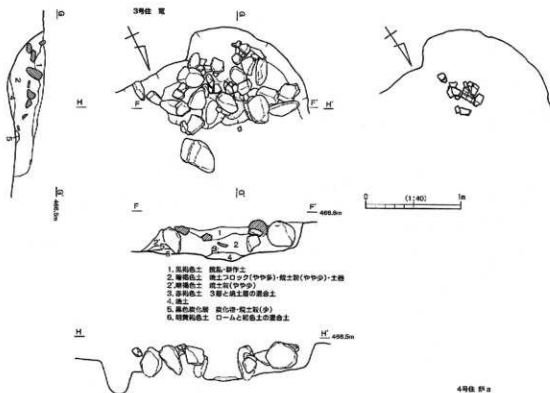
44号土坑は壇状遺構の中央やや東寄りに位置する、直径1.4m、深さ90cmの円筒形の土坑である。坑底に80×65cmの平坦な花崗岩を置き、断面には35～45cmの太さの柱痕が大きく2層に分かれ、柱痕周囲の土層は大きく2層に分かれ、上層(10層)は締まり・粘性が強いが、下層(11層)は粗い砂質土で、締まり・粘性はやや弱く、柱の周囲を突き留めた状況ではない。



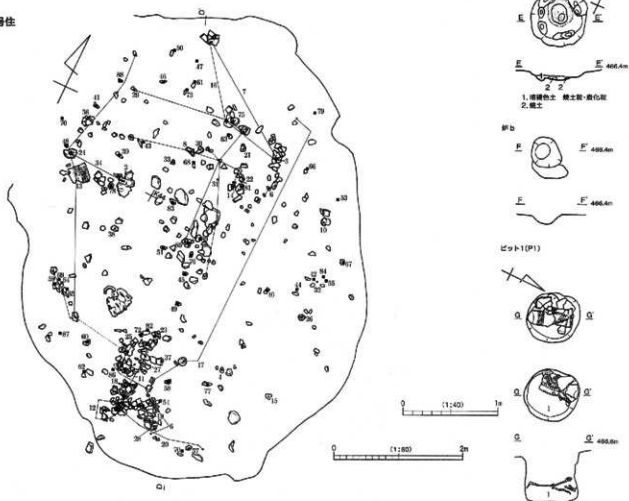


第1図 1・2号住 遺構

3号住

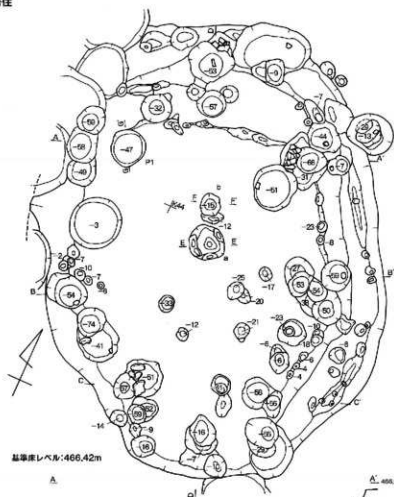


4号住



第3図 3・4号住 遺構

4号住

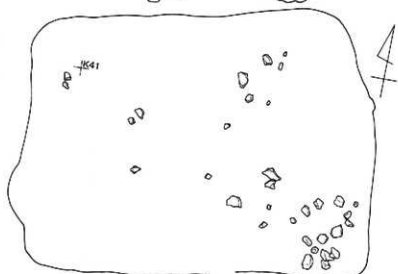


基準高レベル:466.42m

A 466.0m



6号住



0 1:400 2m

6号住 甲

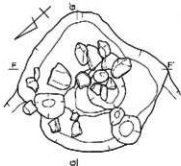


1. 赤土
2. 赤褐色土 焼土層(少)
3. 灰色黄褐色土 焼土層(多)
4. 褐色土 ローム



466.4m

6号住 乙



466.0m

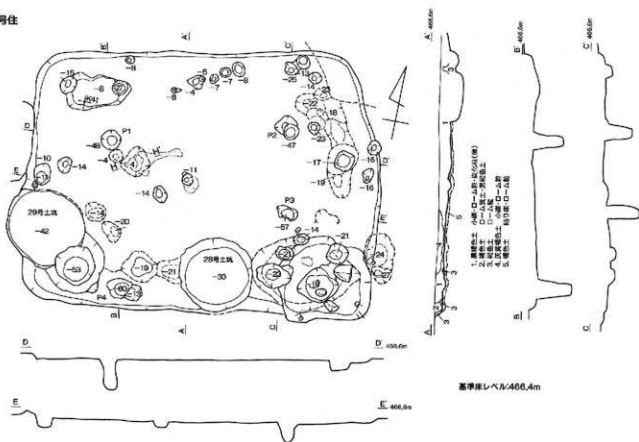


1. 赤褐色土 焼土層(少) 赤化層(少)
2. 赤褐色土 焼土層(多) ローム層
3. 灰色灰化層 焼土小ブロック

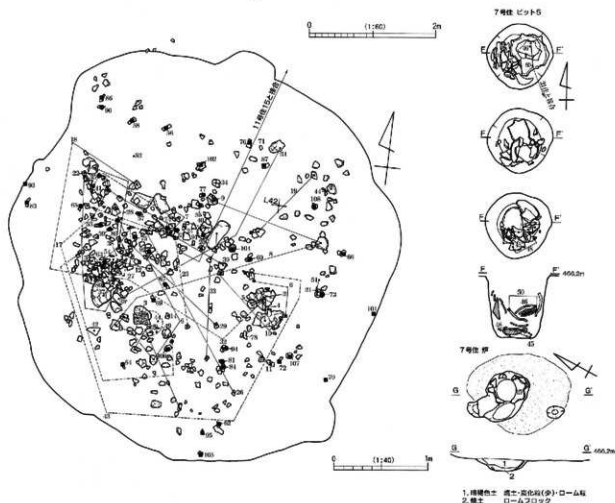
0 1:400 2m

第4図 4・6号住 遺構

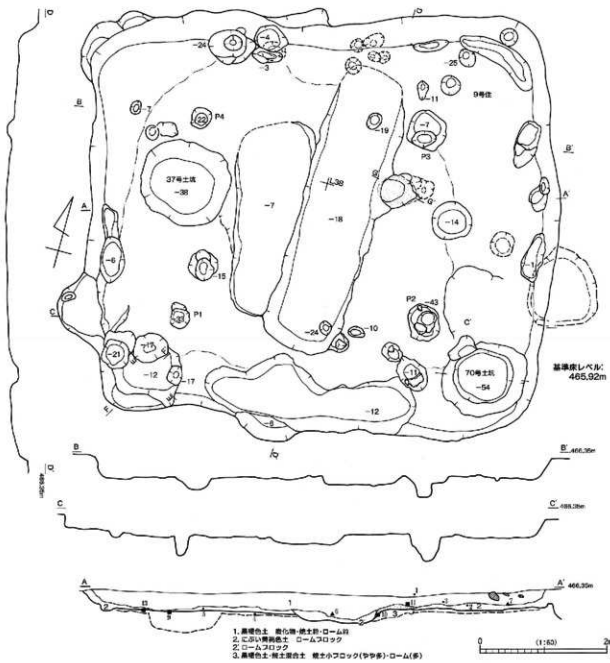
6号住



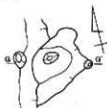
7号住



第5図 6・7号住 遺構

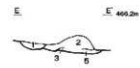
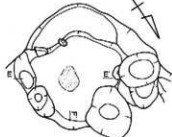


9号住 北



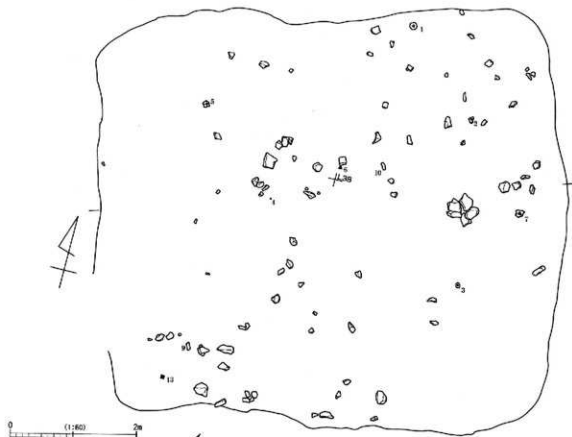
P1 P2 P3 P4 P5 P6 P7 P8 P9 P10 P11 P12
 P13 P14 P15 P16 P17 P18 P19 P20 P21 P22
 P23 P24 P25 P26 P27 P28 P29 P30 P31 P32
 P33 P34 P35 P36 P37 P38 P39 P40 P41 P42
 P43 P44 P45 P46 P47 P48 P49 P50 P51 P52
 P53 P54 P55 P56 P57 P58 P59 P60 P61 P62
 P63 P64 P65 P66 P67 P68 P69 P70 P71 P72
 P73 P74 P75 P76 P77 P78 P79 P80 P81 P82
 P83 P84 P85 P86 P87 P88 P89 P90 P91 P92
 P93 P94 P95 P96 P97 P98 P99 P100

9号住 南

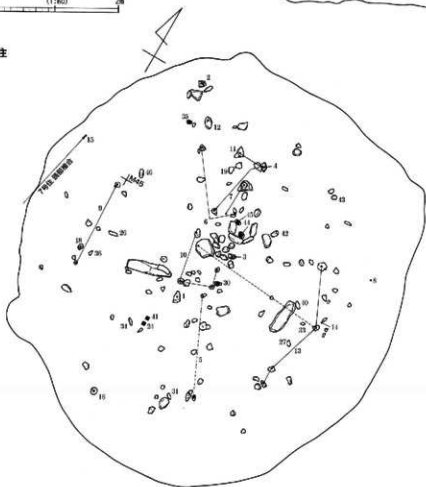


第7回 9号住 遺構

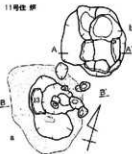
9号住



11号住



11号住 伊



A' 400.4m

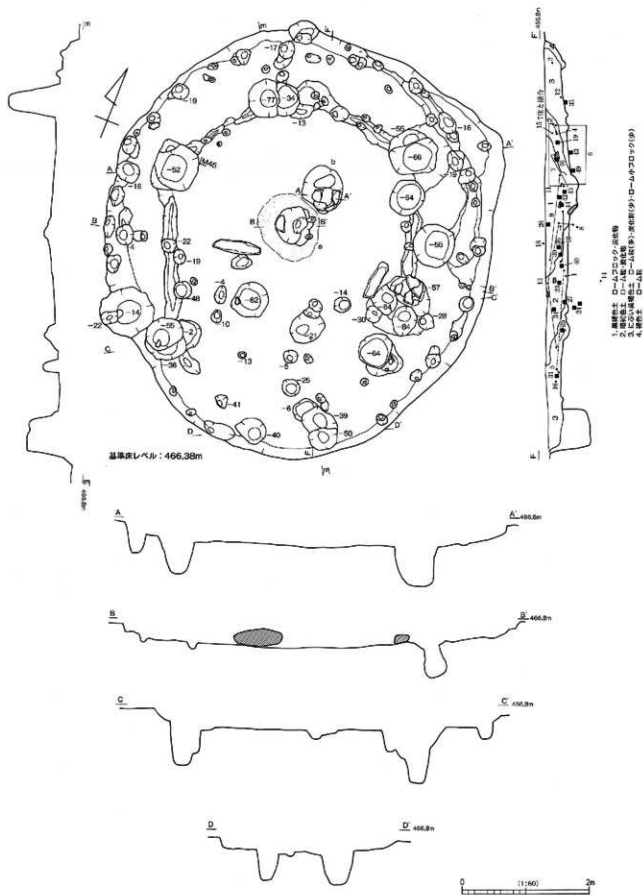
1. 堆積色土 瓦土小フロック 板
2. 赤褐色土 瓦土・ローム割(多)
3. 暗褐色土 ローム小フロック

II 499.4m

1. 堆積色土 赤褐色・黒土層(中々多)
2. 赤褐色土 腐土

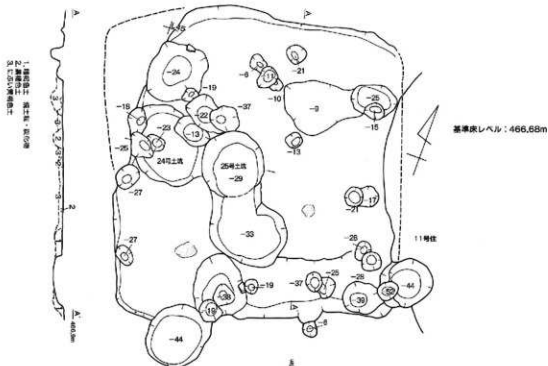
0 (1:40) 1m

第8図 9-11号住 遺構

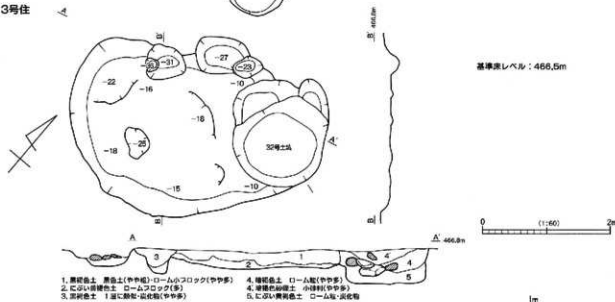


第9図 11号住 遺構

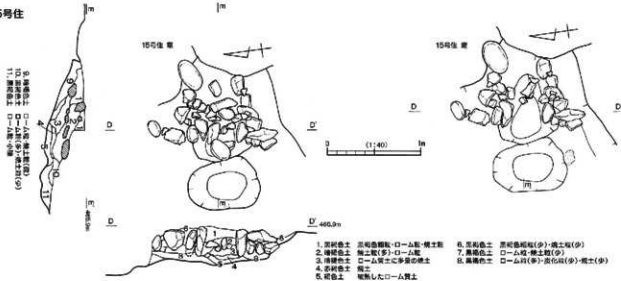
12号住



13号住

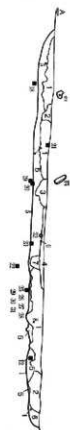


15号住



第10図 12-13-14号住 遺構

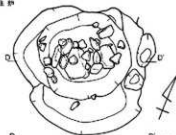
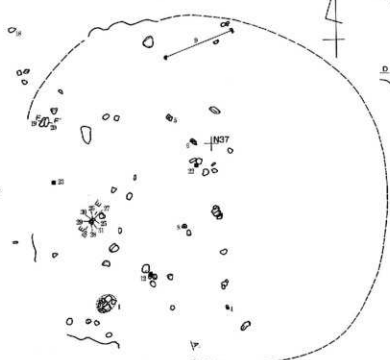
18号住



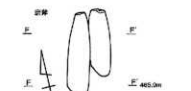
- 1 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 2 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 3 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 4 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 5 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 6 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 7 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 8 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 9 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 10 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 11 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 12 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 13 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 14 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 15 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 16 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 17 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 18 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 19 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 20 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 21 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 22 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 23 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 24 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 25 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 26 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 27 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 28 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 29 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 30 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 31 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 32 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 33 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 34 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 35 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 36 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 37 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 38 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 39 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 40 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 41 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 42 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 43 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 44 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 45 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 46 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 47 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 48 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 49 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 50 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 51 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 52 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 53 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 54 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 55 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 56 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 57 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 58 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 59 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 60 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)



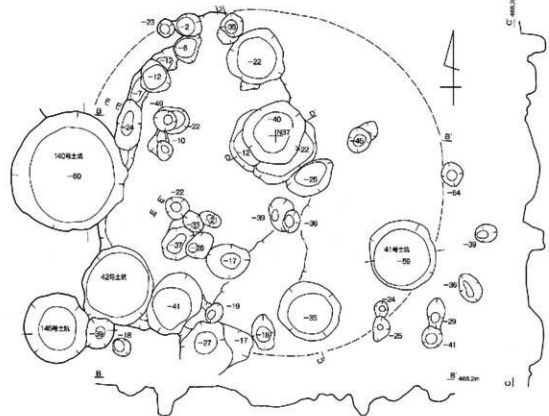
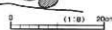
18号住 跡



- 1. 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 2. 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)
- 3. 瓦葺土 (層) (C-A層) (S)

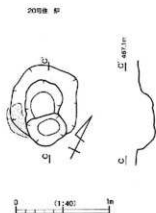
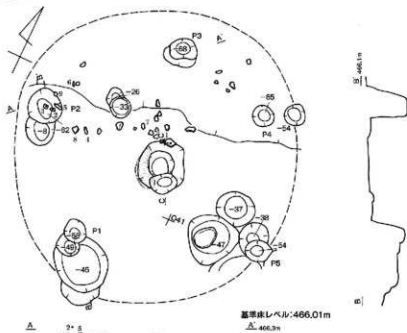


基準床レベル:485.70m

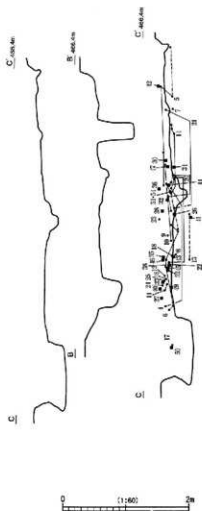
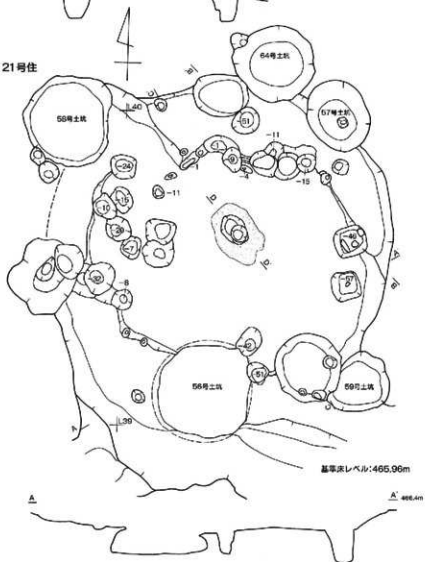


第13図 18号住 遺構

20号住

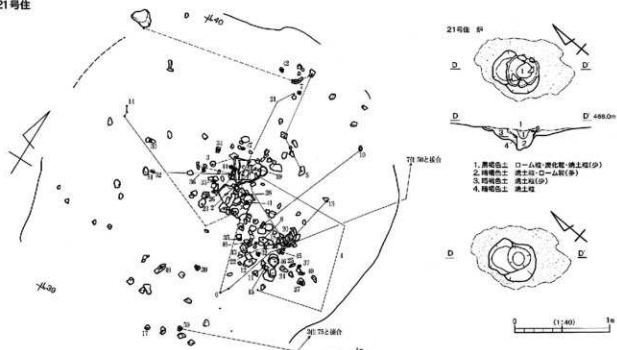


21号住

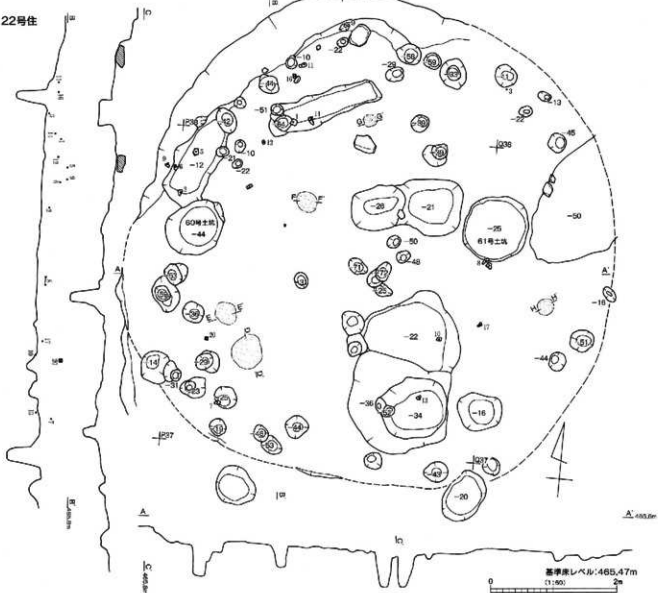


第14図 20・21号住 遺構

21号住

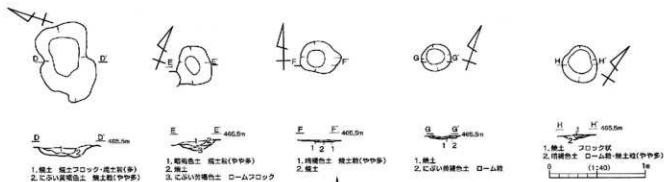


22号住

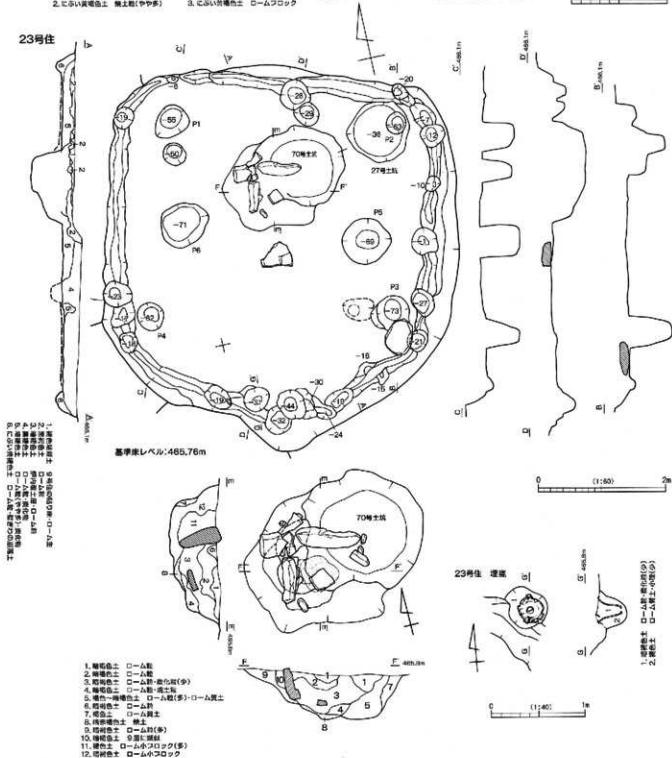


第15図 21・22号住 遺構

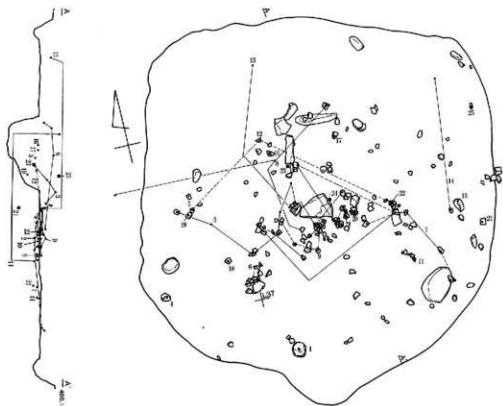
22号住



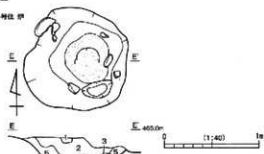
23号住



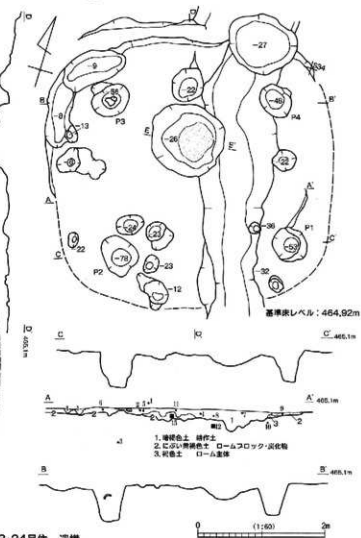
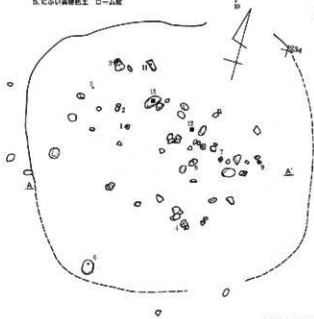
第16図 22・23号住 透構



24号住 甲

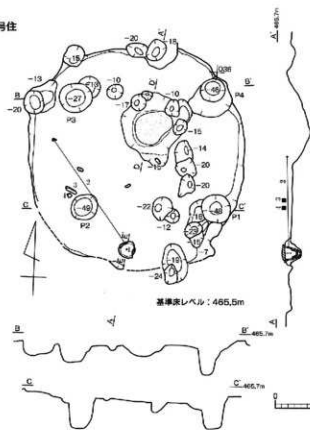


1. 灰褐色土 灰質土
2. 薄緑色土 炭化層・灰土層・ローム層
3. 褐色土 土層・ロームブロック
4. 灰褐色土 土層と柱状物(多)・構土層(多)・心フロック(多)
5. 濃い黄緑色土 ローム層

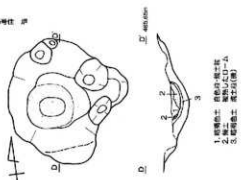


第17図 23・24号住 遺構

25号住

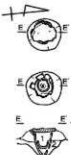


25号住 跡



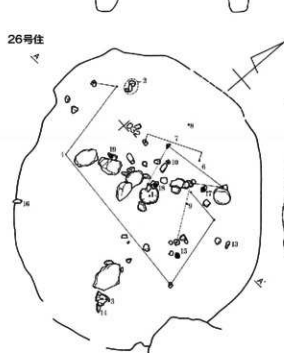
1. 黄褐色土 壁面(中心部)
2. 黄褐色土 壁面(中心部)
3. 黄褐色土 壁面(中心部)

25号住 礎盤



1. 黄褐色土 ローム層
2. 灰褐色土 ローム層(中砂多)

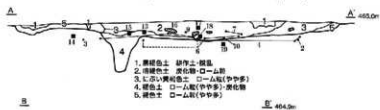
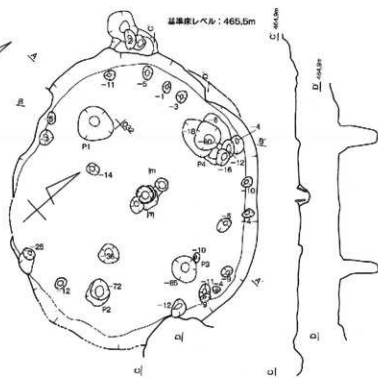
26号住



26号住 跡

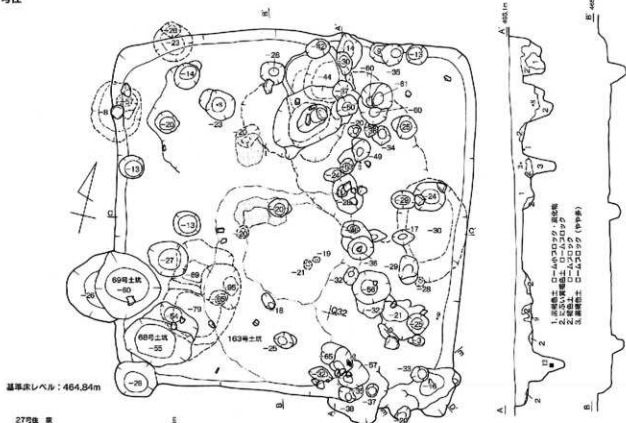


1. 黄褐色土 礎土層(中心部)
2. 灰褐色土 礎土層(中心部)



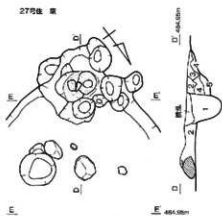
1. 黄褐色土 礎土層(中心部)
2. 灰褐色土 礎土層(中心部)
3. 灰褐色土 礎土層(中心部)
4. 黄褐色土 礎土層(中心部)
5. 黄褐色土 礎土層(中心部)

第18図 25-26号住遺構

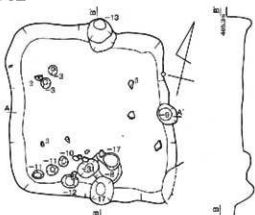


基準床レベル：464.84m

27号住 南

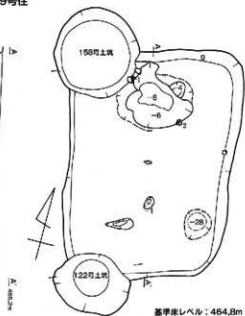


28号住



基準床レベル：464.96m

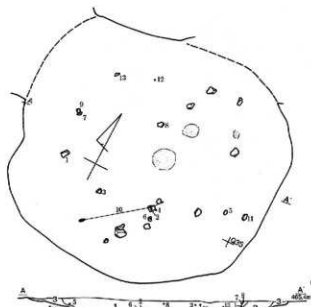
29号住



基準床レベル：464.8m

第19図 27～29号住 遺構

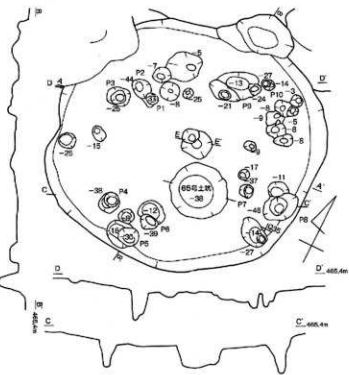
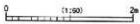
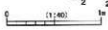
30号住



- 30号住 断
1. 焼成土 焼土角・炭化物(燻)
 2. 濃い灰褐色土 ローム層(やや多)・炭化物
 3. 黄褐色土 ローム

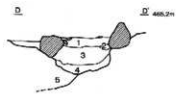
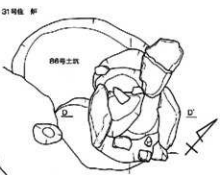
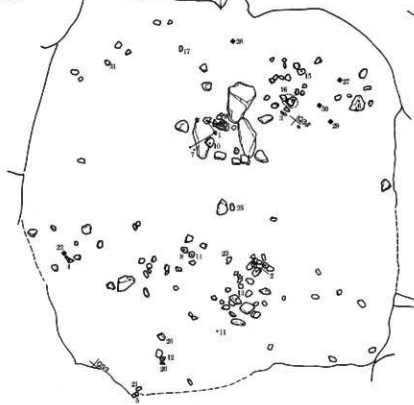


- 30号住 断
1. 焼成土 焼土角・ローム層・炭化物(燻)
 2. 黄土 ローム層が焼成土化

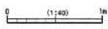


基準床レベル: 465.1m

31号住

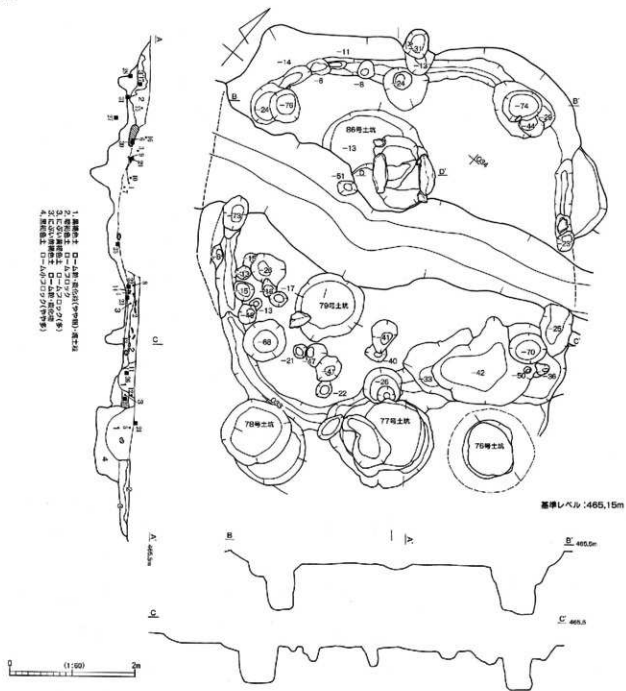


- 31号住 断
1. 焼成土 燻(ローム層・焼土角・炭化物)
 2. 褐色土 ローム層
 3. 焼成土 焼土角(やや多)・ローム層・炭化物
 4. 黄土 中硬土
 5. 黄褐色土 66号土坑の厚土



第20図 30・31号住 遺構

31号住

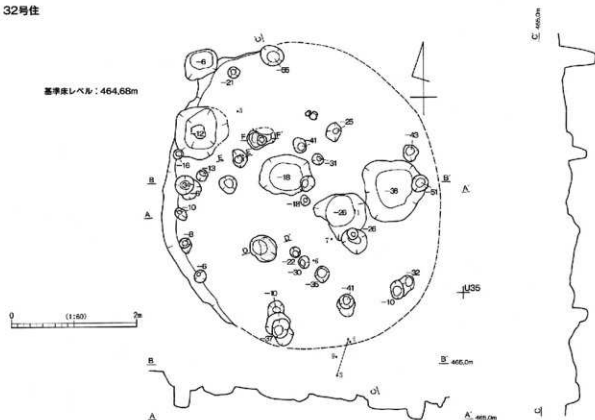


32号住



第21図 31・32号住 遺構

32号住



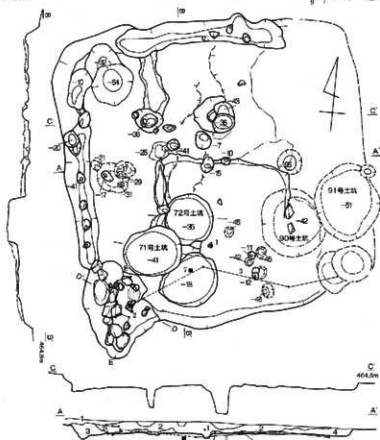
基準床レベル: 464.68m

0 (1:800) 2m

US5

1. 黄褐色ローム土 堆山のロームブロック
2. 黄褐色土 ロームブロック
3. 灰褐色土 粘土砂・ローム(塊)
4. にごり質褐色土 ローム(多)

33号住



1. 灰褐色土 耕作跡
2. 黄褐色土 ローム(やや多)
3. 黄褐色土 ローム(やや多) 粘土(少)
4. 黄褐色土 ローム小ブロック

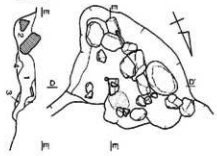
基準床レベル464.35m

33号住 南庭



0 (1:400) 2m

33号住 東

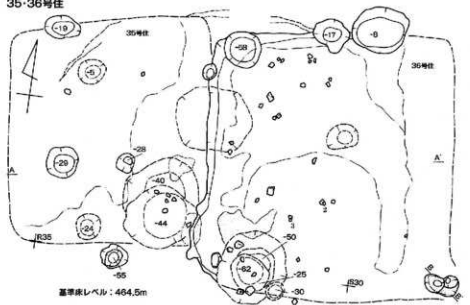


0 (1:400) 2m

1. 灰褐色土 粘土小ブロック・ローム
2. 黄褐色土 ローム小ブロック(やや多)
3. 黄土
4. にごり質褐色土 ローム
5. 黄褐色土 ローム

第22図 32・33号住 遺構

35-36号住



基準床レベル: 464.29m

36号住 縦断



36号住 横断

基準床レベル: 464.3m

1. 褐色土 縄文
2. 褐色土 ローム質土

37号住 縦断



37号住 横断

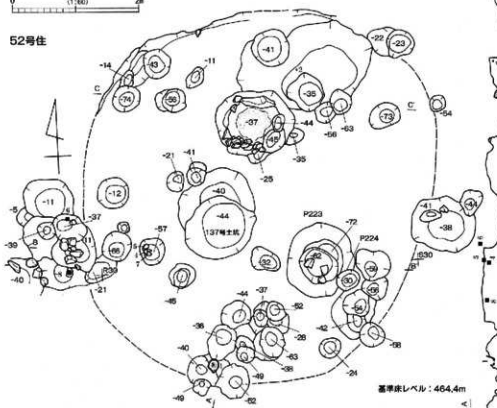
基準床レベル: 464.6m

1. 濃い黄褐色土 ロームブロック
2. 黄褐色土 雑土(砂)・ロームブロック・炭化物
3. 黄褐色土 炭化物(砂)
4. 黄褐色土 ロームブロック

1. 褐色土 ローム質・粘り厚・炭化物・雑土類

0 1:100 2m

52号住



52号住 縦断



52号住 横断

基準床レベル: 464.3m

1. 褐色土 ロームブロック
2. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土

0 1:100 1m

基準床レベル: 464.4m

52号住 縦断



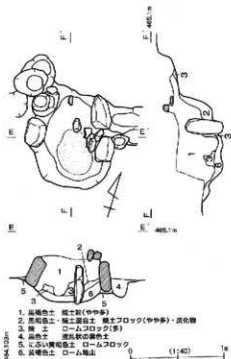
52号住 横断

基準床レベル: 464.5m

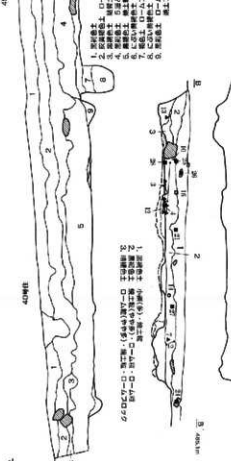
1. 褐色土 ロームブロック
2. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
3. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
4. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
5. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
6. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
7. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
8. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
9. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
10. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
11. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
12. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
13. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
14. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
15. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
16. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
17. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
18. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
19. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土
20. 褐色土 ローム(やや多)・褐色土

第23図 35-36-52号住 遺構

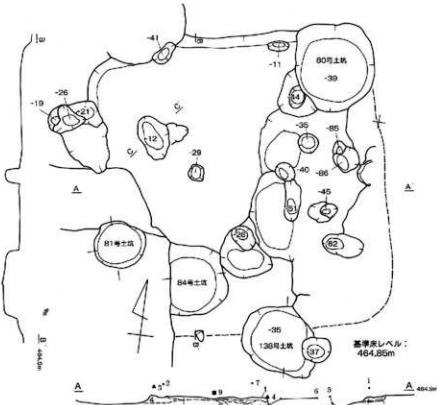
40号住居



1. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多)
2. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多) 凝土ブロック(ヤヤ多) 炭化物
3. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多) ロームブロック(多)
4. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多) ロームブロック
5. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多) ロームブロック
6. 黒褐色土 ローム凝土



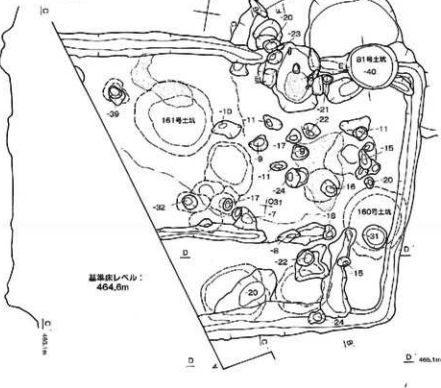
39号住



1. 黒褐色土 凝土製
2. 黒褐色土 炭化物
3. 黒褐色土 凝土製(ヤヤ多) ローム小ブロック(ヤヤ多)
4. 黒褐色土 ローム凝土 炭化物



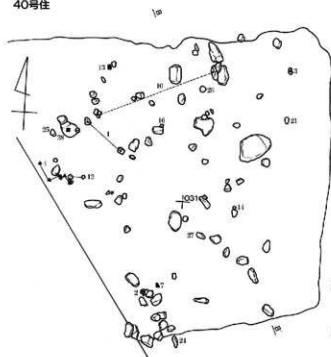
40号住



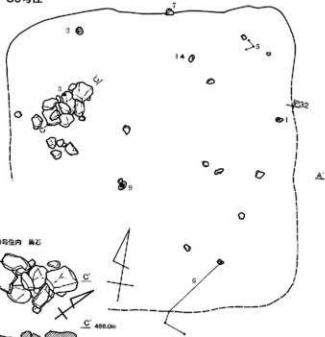
基準床レベル：
464.8m

第24図 39-40号住 遺構

40号住

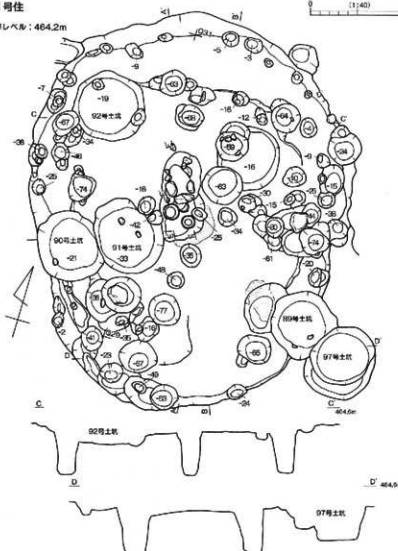


39号住

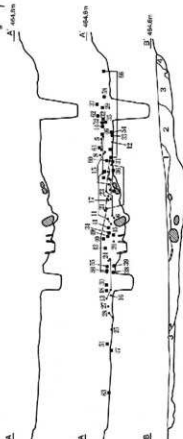
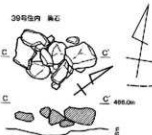


41号住

基準レベル: 464.2m



39号住内 概観



1. 92号土坑
2. 97号土坑
3. 90号土坑
4. 91号土坑
5. 93号土坑
6. 94号土坑
7. 95号土坑
8. 96号土坑
9. 98号土坑
10. 99号土坑
11. 100号土坑
12. 101号土坑
13. 102号土坑
14. 103号土坑
15. 104号土坑
16. 105号土坑
17. 106号土坑
18. 107号土坑
19. 108号土坑
20. 109号土坑
21. 110号土坑
22. 111号土坑
23. 112号土坑
24. 113号土坑
25. 114号土坑
26. 115号土坑
27. 116号土坑
28. 117号土坑
29. 118号土坑
30. 119号土坑
31. 120号土坑
32. 121号土坑
33. 122号土坑
34. 123号土坑
35. 124号土坑
36. 125号土坑
37. 126号土坑
38. 127号土坑
39. 128号土坑
40. 129号土坑
41. 130号土坑
42. 131号土坑
43. 132号土坑
44. 133号土坑
45. 134号土坑
46. 135号土坑
47. 136号土坑
48. 137号土坑
49. 138号土坑
50. 139号土坑
51. 140号土坑
52. 141号土坑
53. 142号土坑
54. 143号土坑
55. 144号土坑
56. 145号土坑
57. 146号土坑
58. 147号土坑
59. 148号土坑
60. 149号土坑
61. 150号土坑
62. 151号土坑
63. 152号土坑
64. 153号土坑
65. 154号土坑
66. 155号土坑
67. 156号土坑
68. 157号土坑
69. 158号土坑
70. 159号土坑
71. 160号土坑
72. 161号土坑
73. 162号土坑
74. 163号土坑
75. 164号土坑
76. 165号土坑
77. 166号土坑
78. 167号土坑
79. 168号土坑
80. 169号土坑
81. 170号土坑
82. 171号土坑
83. 172号土坑
84. 173号土坑
85. 174号土坑
86. 175号土坑
87. 176号土坑
88. 177号土坑
89. 178号土坑
90. 179号土坑
91. 180号土坑
92. 181号土坑
93. 182号土坑
94. 183号土坑
95. 184号土坑
96. 185号土坑
97. 186号土坑
98. 187号土坑
99. 188号土坑
100. 189号土坑
101. 190号土坑
102. 191号土坑
103. 192号土坑
104. 193号土坑
105. 194号土坑
106. 195号土坑
107. 196号土坑
108. 197号土坑
109. 198号土坑
110. 199号土坑
111. 200号土坑

第25図 39~41号住 遺構

41号住

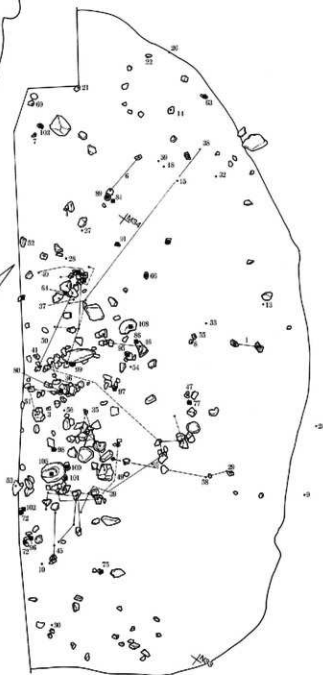
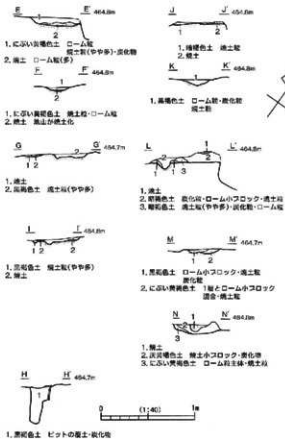


41号住 跡



1. 赤い黄褐色土
 2. 黄土
 3. 赤い黄褐色土
 4. 赤い黄褐色土
 5. 赤い黄褐色土
 6. 赤い黄褐色土
 7. 赤い黄褐色土
 8. 赤い黄褐色土
 9. 赤い黄褐色土
 10. 赤い黄褐色土
 11. 赤い黄褐色土
 12. 赤い黄褐色土
 13. 赤い黄褐色土
 14. 赤い黄褐色土
 15. 赤い黄褐色土
 16. 赤い黄褐色土
 17. 赤い黄褐色土
 18. 赤い黄褐色土
 19. 赤い黄褐色土
 20. 赤い黄褐色土
 21. 赤い黄褐色土
 22. 赤い黄褐色土
 23. 赤い黄褐色土
 24. 赤い黄褐色土
 25. 赤い黄褐色土
 26. 赤い黄褐色土
 27. 赤い黄褐色土
 28. 赤い黄褐色土
 29. 赤い黄褐色土
 30. 赤い黄褐色土
 31. 赤い黄褐色土
 32. 赤い黄褐色土
 33. 赤い黄褐色土
 34. 赤い黄褐色土
 35. 赤い黄褐色土
 36. 赤い黄褐色土
 37. 赤い黄褐色土
 38. 赤い黄褐色土
 39. 赤い黄褐色土
 40. 赤い黄褐色土
 41. 赤い黄褐色土
 42. 赤い黄褐色土
 43. 赤い黄褐色土
 44. 赤い黄褐色土
 45. 赤い黄褐色土
 46. 赤い黄褐色土
 47. 赤い黄褐色土
 48. 赤い黄褐色土
 49. 赤い黄褐色土
 50. 赤い黄褐色土
 51. 赤い黄褐色土
 52. 赤い黄褐色土
 53. 赤い黄褐色土
 54. 赤い黄褐色土
 55. 赤い黄褐色土
 56. 赤い黄褐色土
 57. 赤い黄褐色土
 58. 赤い黄褐色土
 59. 赤い黄褐色土
 60. 赤い黄褐色土
 61. 赤い黄褐色土
 62. 赤い黄褐色土
 63. 赤い黄褐色土
 64. 赤い黄褐色土
 65. 赤い黄褐色土
 66. 赤い黄褐色土
 67. 赤い黄褐色土
 68. 赤い黄褐色土
 69. 赤い黄褐色土
 70. 赤い黄褐色土
 71. 赤い黄褐色土
 72. 赤い黄褐色土
 73. 赤い黄褐色土
 74. 赤い黄褐色土
 75. 赤い黄褐色土
 76. 赤い黄褐色土
 77. 赤い黄褐色土
 78. 赤い黄褐色土
 79. 赤い黄褐色土
 80. 赤い黄褐色土
 81. 赤い黄褐色土
 82. 赤い黄褐色土
 83. 赤い黄褐色土
 84. 赤い黄褐色土
 85. 赤い黄褐色土
 86. 赤い黄褐色土
 87. 赤い黄褐色土
 88. 赤い黄褐色土
 89. 赤い黄褐色土
 90. 赤い黄褐色土
 91. 赤い黄褐色土
 92. 赤い黄褐色土
 93. 赤い黄褐色土
 94. 赤い黄褐色土
 95. 赤い黄褐色土
 96. 赤い黄褐色土
 97. 赤い黄褐色土
 98. 赤い黄褐色土
 99. 赤い黄褐色土
 100. 赤い黄褐色土

42号住

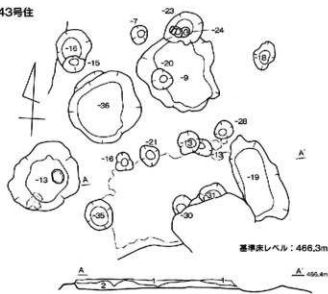


第26図 41・42号住 遺構



第27回 42号住 遺構

43号住

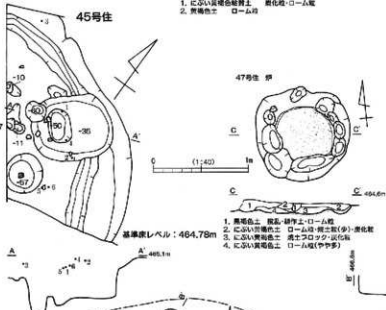


44号住



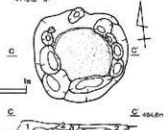
1. 瓦葺土 2. ロームブロック敷地盤

45号住



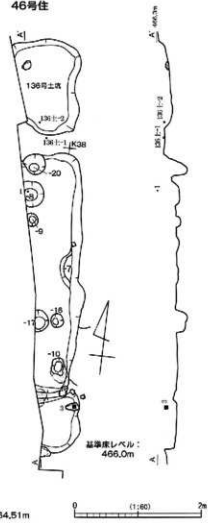
1. にびい炭褐色粘質土 敷化板・ローム敷
2. 黄褐色土 ローム床

47号住 卵

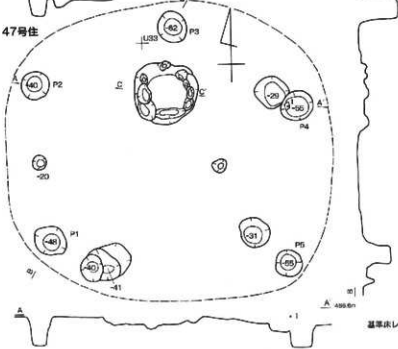


1. 黒褐色土 瓦葺・砂作土・ローム敷
2. にびい黄褐色土 ローム床 粘土(少)・炭化板
3. にびい黄褐色土 透土ブロック(炭化板)
4. にびい炭褐色土 ローム敷(やや多)

46号住

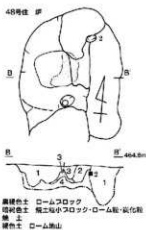
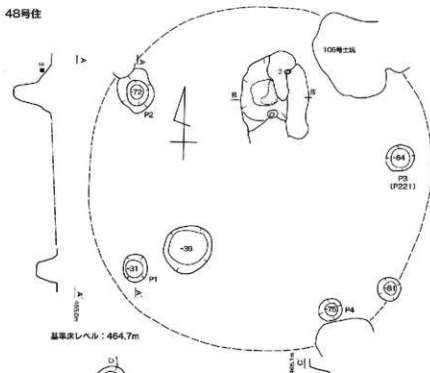


47号住



第28図 43~46号住 遺構

48号住

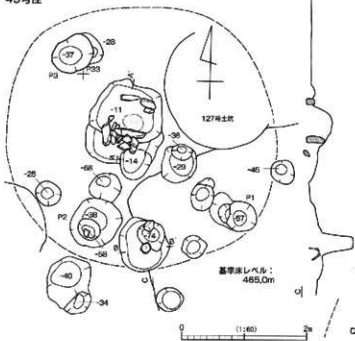


1. 黒褐色土 ロームブロック
2. 暗褐色土 焼土短小ブロック・ローム製・炭化灰
3. 黄土
4. 硬物土 ローム地山



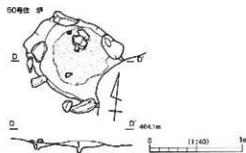
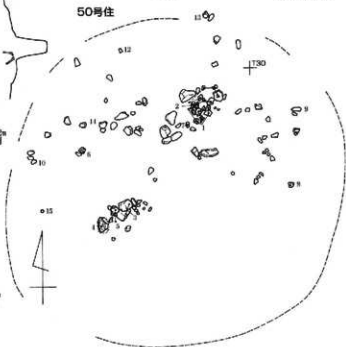
1. 暗褐色土 ローム小ブロック
2. 濃い黄褐色土 ローム小ブロック
3. 硬物土 ローム製

49号住



1. 暗褐色土 ローム小ブロック
2. 濃い黄褐色土 ローム小ブロック
3. 硬物土 ローム製
4. 硬物土 ローム製
5. 硬物土 ローム製
6. 硬物土 ローム製
7. 濃い黄褐色土
8. 濃い黄褐色土
9. 濃い黄褐色土
10. 濃い黄褐色土
11. 濃い黄褐色土
12. 濃い黄褐色土
13. 濃い黄褐色土
14. 濃い黄褐色土
15. 濃い黄褐色土
16. 濃い黄褐色土
17. 濃い黄褐色土
18. 濃い黄褐色土
19. 濃い黄褐色土
20. 濃い黄褐色土
21. 濃い黄褐色土
22. 濃い黄褐色土
23. 濃い黄褐色土
24. 濃い黄褐色土
25. 濃い黄褐色土
26. 濃い黄褐色土
27. 濃い黄褐色土
28. 濃い黄褐色土
29. 濃い黄褐色土
30. 濃い黄褐色土
31. 濃い黄褐色土
32. 濃い黄褐色土
33. 濃い黄褐色土
34. 濃い黄褐色土
35. 濃い黄褐色土
36. 濃い黄褐色土
37. 濃い黄褐色土
38. 濃い黄褐色土
39. 濃い黄褐色土
40. 濃い黄褐色土
41. 濃い黄褐色土
42. 濃い黄褐色土
43. 濃い黄褐色土
44. 濃い黄褐色土
45. 濃い黄褐色土
46. 濃い黄褐色土
47. 濃い黄褐色土
48. 濃い黄褐色土
49. 濃い黄褐色土
50. 濃い黄褐色土
51. 濃い黄褐色土
52. 濃い黄褐色土
53. 濃い黄褐色土
54. 濃い黄褐色土
55. 濃い黄褐色土
56. 濃い黄褐色土
57. 濃い黄褐色土
58. 濃い黄褐色土
59. 濃い黄褐色土
60. 濃い黄褐色土
61. 濃い黄褐色土
62. 濃い黄褐色土
63. 濃い黄褐色土
64. 濃い黄褐色土
65. 濃い黄褐色土
66. 濃い黄褐色土
67. 濃い黄褐色土
68. 濃い黄褐色土
69. 濃い黄褐色土
70. 濃い黄褐色土
71. 濃い黄褐色土
72. 濃い黄褐色土
73. 濃い黄褐色土
74. 濃い黄褐色土
75. 濃い黄褐色土
76. 濃い黄褐色土
77. 濃い黄褐色土
78. 濃い黄褐色土
79. 濃い黄褐色土
80. 濃い黄褐色土
81. 濃い黄褐色土
82. 濃い黄褐色土
83. 濃い黄褐色土
84. 濃い黄褐色土
85. 濃い黄褐色土
86. 濃い黄褐色土
87. 濃い黄褐色土
88. 濃い黄褐色土
89. 濃い黄褐色土
90. 濃い黄褐色土
91. 濃い黄褐色土
92. 濃い黄褐色土
93. 濃い黄褐色土
94. 濃い黄褐色土
95. 濃い黄褐色土
96. 濃い黄褐色土
97. 濃い黄褐色土
98. 濃い黄褐色土
99. 濃い黄褐色土
100. 濃い黄褐色土

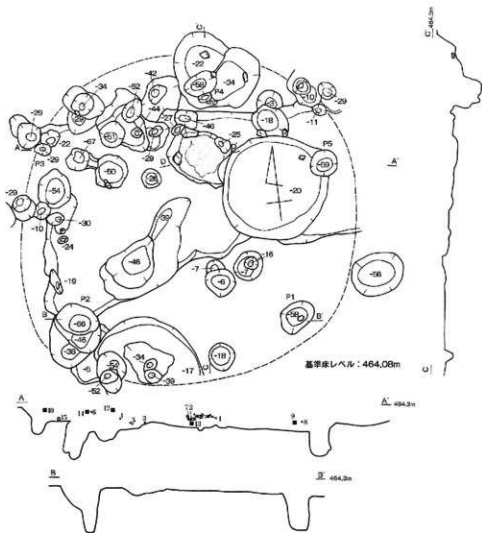
50号住



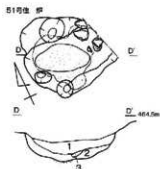
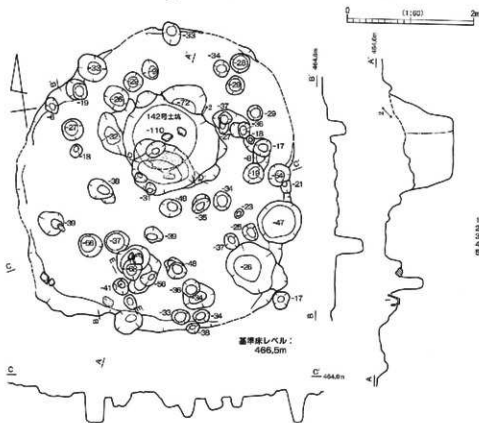
1. 黄褐色土 ローム製(少)・焼土ブロック・焼灰したロームブロック(少)

第29図 48~50号住 遺構

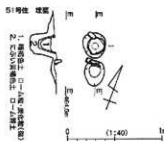
50号住



51号住

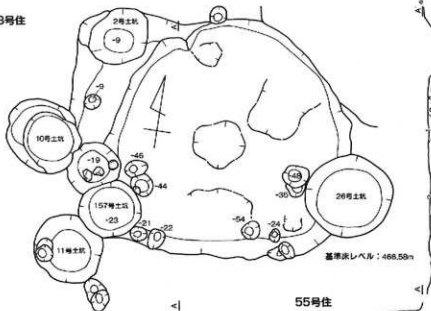


1. 凝結土 粘土胎(多)・ローム胎
2. 凝結土 粘土胎(多)・ローム胎(多)・破損したローム胎(多)
3. 凝結土 粘土胎(多)・ローム胎(多)・破損したローム胎(多)
4. 凝結土 粘土胎(多)・ローム胎(多)・破損したローム胎(多)
5. 凝結土 粘土胎(多)・ローム胎(多)



第30図 50・51号住 遺構

53号住

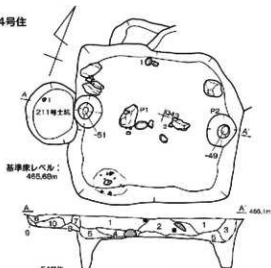


1. 原状土 2. 原状土
3. 原状土 4. 原状土
5. 原状土 6. 原状土
7. 原状土 8. 原状土
9. 原状土 10. 原状土
11. 原状土 12. 原状土
13. 原状土 14. 原状土
15. 原状土 16. 原状土
17. 原状土 18. 原状土
19. 原状土 20. 原状土
21. 原状土 22. 原状土
23. 原状土 24. 原状土
25. 原状土 26. 原状土
27. 原状土 28. 原状土
29. 原状土 30. 原状土
31. 原状土 32. 原状土
33. 原状土 34. 原状土
35. 原状土 36. 原状土
37. 原状土 38. 原状土
39. 原状土 40. 原状土
41. 原状土 42. 原状土
43. 原状土 44. 原状土
45. 原状土 46. 原状土
47. 原状土 48. 原状土
49. 原状土 50. 原状土
51. 原状土 52. 原状土
53. 原状土 54. 原状土
55. 原状土 56. 原状土
57. 原状土 58. 原状土
59. 原状土 60. 原状土
61. 原状土 62. 原状土
63. 原状土 64. 原状土
65. 原状土 66. 原状土
67. 原状土 68. 原状土
69. 原状土 70. 原状土
71. 原状土 72. 原状土
73. 原状土 74. 原状土
75. 原状土 76. 原状土
77. 原状土 78. 原状土
79. 原状土 80. 原状土
81. 原状土 82. 原状土
83. 原状土 84. 原状土
85. 原状土 86. 原状土
87. 原状土 88. 原状土
89. 原状土 90. 原状土
91. 原状土 92. 原状土
93. 原状土 94. 原状土
95. 原状土 96. 原状土
97. 原状土 98. 原状土
99. 原状土 100. 原状土

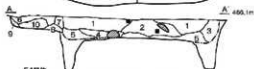
基準床レベル：466.58m

0 (1:80) 2m

54号住



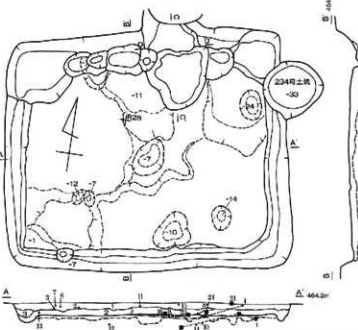
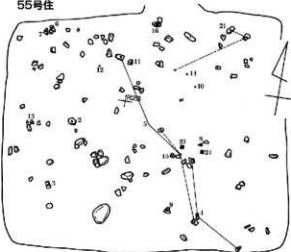
基準床レベル：
465.60m



54号住

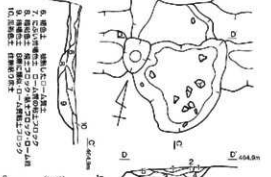
1. 原状土 ロームブロック・炭灰敷(少)・小礎
2. 原状土 ロームブロック(少)・小礎
3. 原状土 ロームブロック(少)・小礎
4. 原状土 乾煎ロームブロック・炭灰敷(少)
5. 原状土 ロームブロック・炭灰敷(少)・焼土敷
- 211号土坑
6. 原状土 ロームブロック(少)
7. 原状土 ローム小礎
8. 原状土 ロームブロック(少)
9. 原状土 ローム小礎(多)
10. 原状土 ロームブロック(少)・小礎

55号住



464.20m

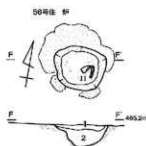
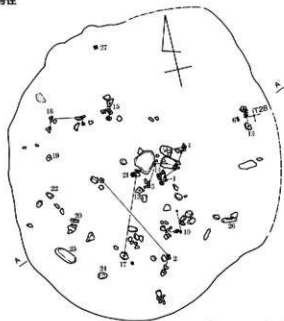
基準床レベル：466.58m



0 (1:40) 1m

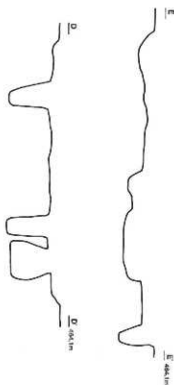
1. 原状土 ローム小礎
2. 原状土 小礎・ロームブロック(少)
3. 原状土 ローム小礎(少)
4. 原状土 ローム小礎・炭灰敷(少)

第31図 53~55号住 遺構

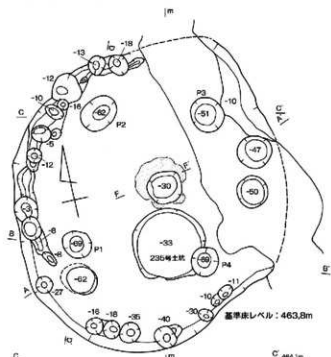


1. 黒褐色土 □-ム瓶-焼土片
2. 赤褐色土 □-ムフロツク(多)-焼土片

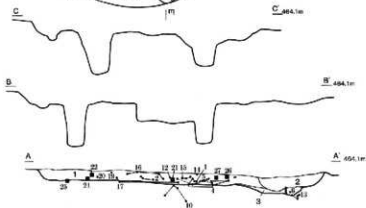
0 (1:40) 1m



0 (1:50) 2m



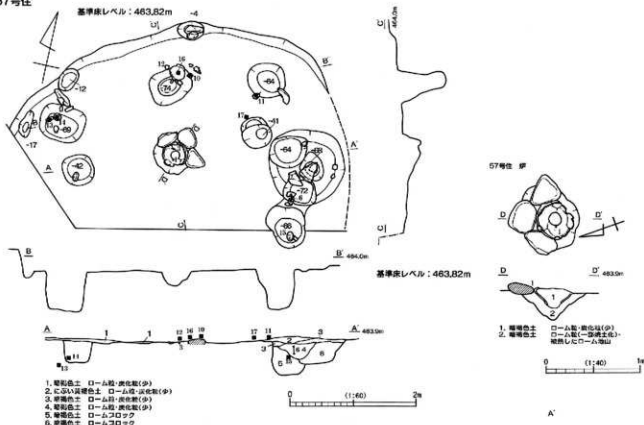
基準面レベル: 463.8m



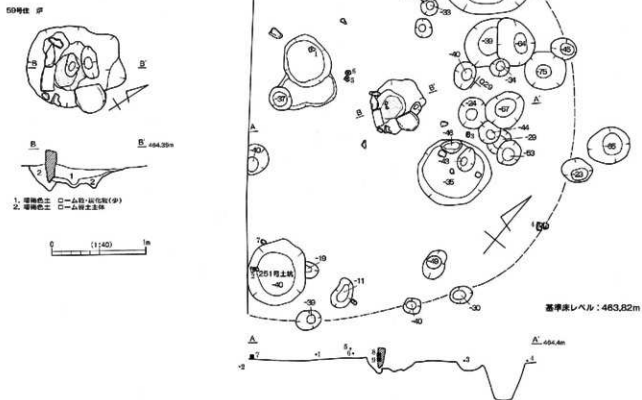
1. 黒褐色土 □-ム瓶-炭化粒(多)
2. 赤褐色土 □-ム瓶
3. 黒褐色土 □-ムフロツク
4. 黒褐色土 □-ムフロツク

第32図 56号住 遺構

57号住

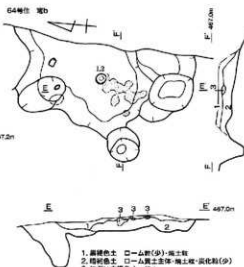
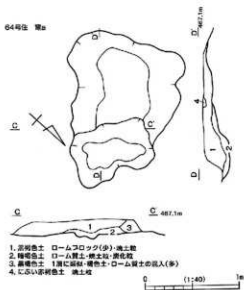
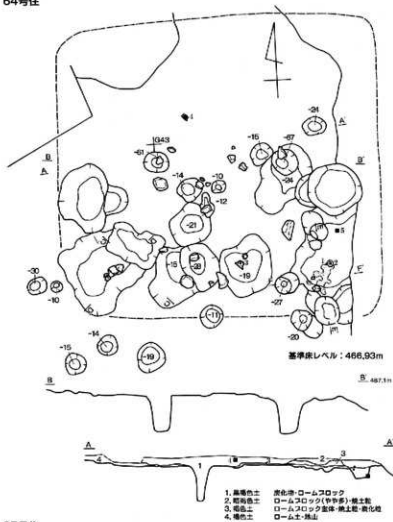


59号住

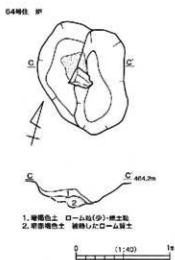
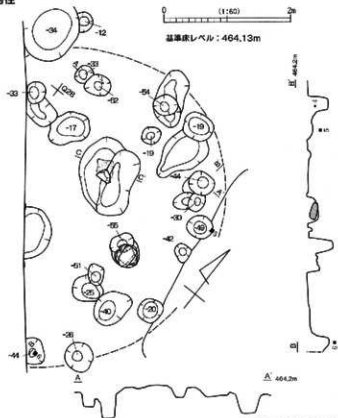


第33図 57・59号住 遺構

64号住



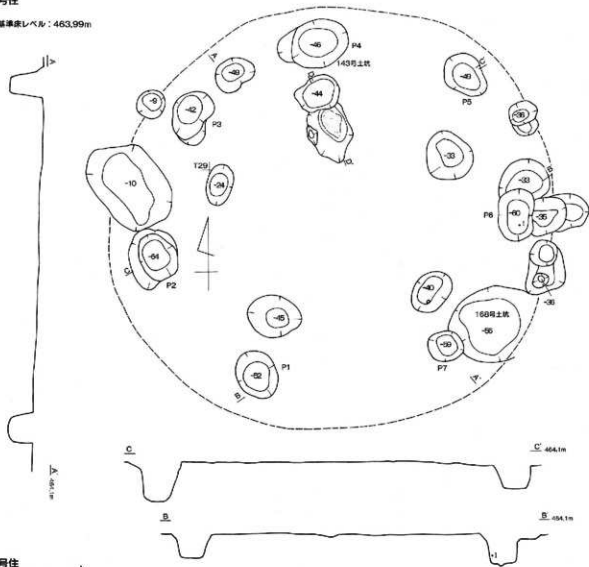
65号住



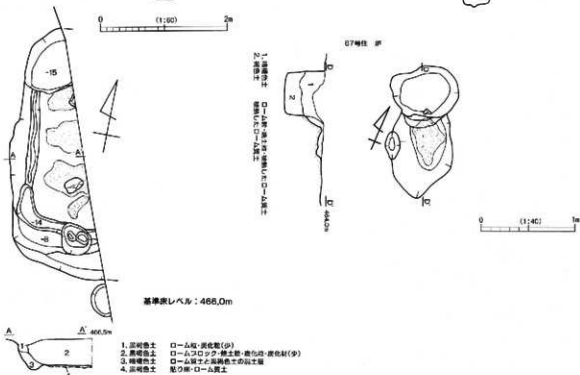
第36図 64-65号住 遺構

67号住

基準高レベル：463.99m



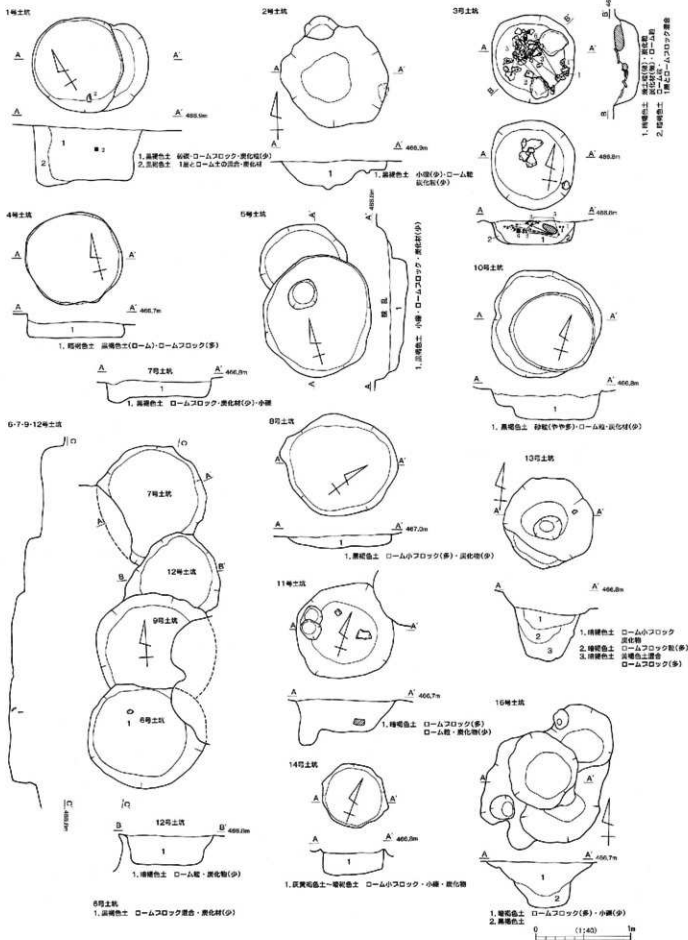
68号住



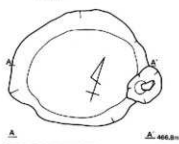
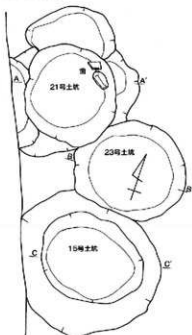
基準高レベル：466.0m

- | | |
|---------|------------------------|
| 1. 赤褐色土 | ローム地、炭化層(伊) |
| 2. 黒褐色土 | ロームブロック、粘土質、炭化層、炭化材(伊) |
| 3. 雑褐色土 | ローム質または黒褐色土の粘土層 |
| 4. 黒褐色土 | 肥り地、ローム質土 |

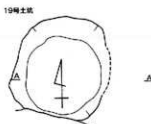
第37図 67-68号住 遺構



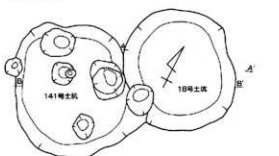
第38図 1~14-16号土坑 遺構



1. 暗褐色土 小砂利(多)・ローム粒
2. 暗褐色土 ローム粒(多)



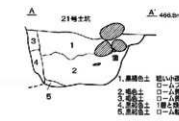
1. 暗褐色土 ローム小ブロック(多)
2. 暗褐色土 ローム小ブロック(1層より少)



1. 暗褐色土 ローム小ブロック(多)
2. 暗褐色土 ローム小ブロック(1層より少)



1. 暗褐色土 ローム混合土・ロームブロック(多)
2. 暗褐色土 ローム小ブロック(1層より少)
3. 暗褐色土 ローム粒



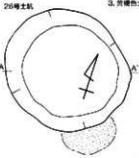
1. 暗褐色土 細かい小砂利・灰色砂利
ロームブロック
2. 暗褐色土 ローム質土・暗褐色土層
3. 暗褐色土 暗褐色土層
4. 暗褐色土 暗褐色土層
5. 暗褐色土 ローム粒(少)



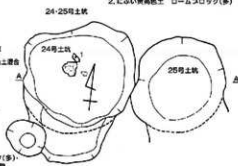
1. 暗褐色土 ローム小ブロック(多)
ローム混合土・灰色砂利



1. 暗褐色土 ローム粒・炭化物
2. 暗褐色土 暗褐色土層
3. 暗褐色土 ローム粒



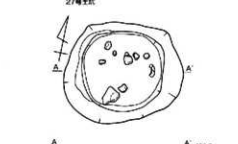
1. 暗褐色土 ロームブロック混合土・ロームブロック(多)
2. 暗褐色土 ロームブロック(多)・炭化物・焼土粒



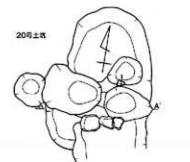
1. 暗褐色土 炭化物(多)・ローム小ブロック
2. 暗褐色土 ローム小ブロック
3. 暗褐色土 炭化物(多)・ローム小ブロック(少)



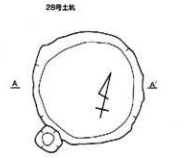
1. 暗褐色土 ローム粒(少)・小砂利(少)



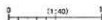
1. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)
炭化物



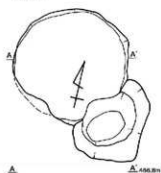
1. 暗褐色土 ローム混合土・ロームブロック(多)
2. 暗褐色土 ローム小ブロック(1層より少)
3. 暗褐色土 ローム粒



1. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)
炭化物



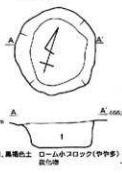
29号土坑



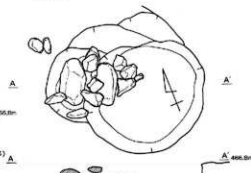
30号土坑



31号土坑



32号土坑

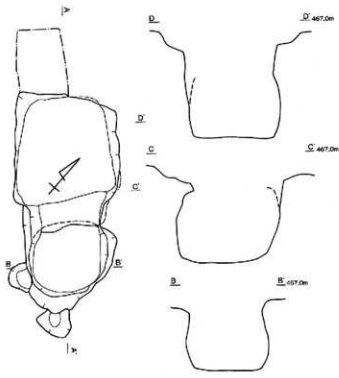


1. 瓦葺色土 小溝・ロームブロック
炭化物(少)

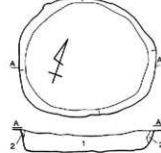
1. 黒褐色土 ローム小ブロック(やや多)
炭化物

1. 葺葺色土 ローム混色土・ロームブロック(多)
炭化物(やや多)
2. 黒褐色土 ロームブロック(多)・炭化物
3. 瓦葺色土 ロームブロック(多)・炭化物

34号土坑

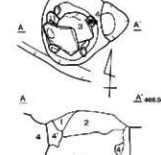


33号土坑



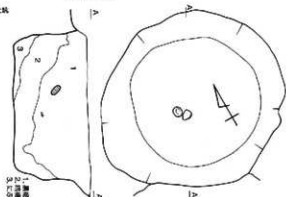
1. 葺葺色土・黒褐色土 遺物土・ロームブロック(多)
2. 葺葺色土 ローム土

35号土坑



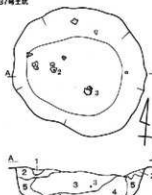
1. 葺葺色土
2. 濃い黒褐色土 ローム混・炭化物
3. 黒褐色土 ロームブロック(やや多)
4. 葺葺色ローム土
5. 黒色ローム土

36号土坑



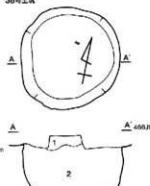
37号土坑
38号土坑

37号土坑



1. 葺葺色土
2. 濃い黒褐色土 ローム
3. 黒褐色土 ローム混・炭化物
4. 葺葺色土 炭化物・炭化物(多)・ローム混(少)
5. 濃い黒褐色土 ローム混(多)・炭化物(少)

38号土坑

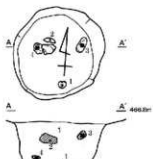


1. 葺葺色土 餅作土・石炭粉
2. 黒褐色土 ローム混色土・ローム小ブロック(やや多)
小砂利(やや多)



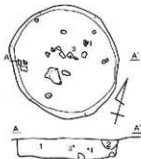
第40図 29~38号土坑 遺構

39号土坑



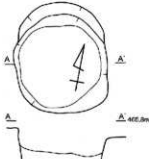
1. 黒褐色土 ローム層状土・ローム小フロック混合

40号土坑



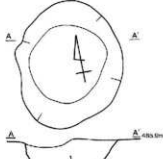
1. 黒褐色土 小礫・ローム粒・炭化材
2. 褐色土 ローム粒(多)

41号土坑



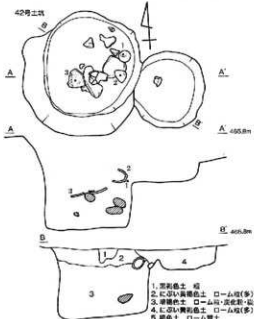
1. 黒褐色土 小礫・ローム粒・炭化材(少)
2. 灰色黄褐色土 ローム質土

43号土坑



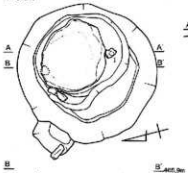
1. 黒褐色土 磁粒・小礫

42号土坑



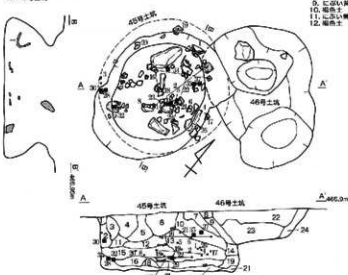
1. 黒褐色土 磁
2. 灰色黄褐色土 ローム粒(多)・炭化材
3. 黒褐色土 ローム粒・炭化材・磁粒(少)
4. 灰色黄褐色土 ローム粒(多)
5. 褐色土 ローム質土

44号土坑



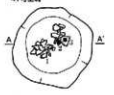
1. 灰黄褐色土 シルト質
2. 灰黄褐色土 磁粒・砂質土・ローム小フロック
3. 褐色土 ローム小フロック(多)
4. 灰黄褐色土 砂質土・ローム小フロック
5. 灰黄褐色土 砂質土・ローム粒
6. 砂質土 ローム小フロック
7. 灰黄褐色土 磁
8. 灰黄褐色土 ローム小フロック
9. 灰色黄褐色土 10層と砂質土・ローム小フロック
10. 褐色土 ローム小フロック
11. 灰色黄褐色土 磁・磁質
12. 褐色土 ローム粒(多)

45-46号土坑

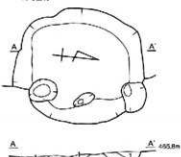


1. 褐色土 □ローム質土
2. 褐色土 □ローム質土
3. 褐色土 □ローム質土
4. 砂質土 □ローム・炭化材(少)
5. 褐色土 □ローム・炭化材(少)
6. 褐色土 □ローム・炭化材(少)
7. 砂質土 □ローム・炭化材・炭化材(少)
8. 褐色土 □ローム質土
9. 褐色土 □ローム質土・ローム小フロック(少)
10. 黒褐色土 □ローム質土
11. 褐色土 □ローム質土
12. 黒褐色土 □ローム質土
13. 黒褐色土 □ローム質土
14. 灰色黄褐色土 □ローム質土
15. 黒褐色土 □ローム粒・砂土粒(少)・炭化材(多)
16. 灰色黄褐色土 磁土層
17. 砂質土 □ローム粒(少)・砂土粒(少)・炭化材
18. 黒褐色土 □ローム粒(少)・砂土粒・炭化材
19. 黒褐色土 □ローム粒・炭化材(多)
20. 砂質土 □ローム粒・炭化材(少)
21. 灰色黄褐色土 □ローム質土
22. 褐色土 □ローム粒・小礫
23. 黒褐色土 □ローム粒(多)・小礫(少)
24. 黒褐色土 □ローム粒(多)・炭化材(多)

47号土坑

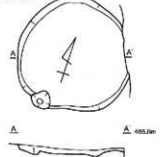


48号土坑



1. 黒褐色土 □ローム小礫
2. 黒褐色土 □ローム粒(多)・砂土粒・炭化材(少)
3. 黒褐色土 □ローム粒(多)
4. 褐色土 □ローム粒(多)・砂土粒(多)

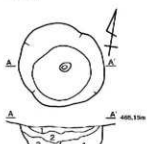
49号土坑



1. 黒褐色土 □ローム粒・炭化材(多)
2. 褐色土 □ローム質土

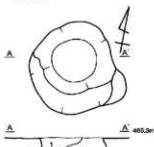
第41図 39~49号土坑 遺構

66号土坑



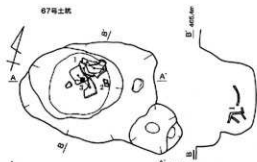
1. 黒褐色土 炭化物(やや多)・ローム粒
2. 濃い灰褐色土 ロームブロック(やや多)・炭化物(やや多)
3. 暗褐色土 ローム粒・炭化物(少)
4. 暗褐色土 ローム粒(やや多)・炭化物

66号土坑



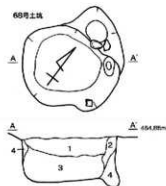
1. 暗褐色土 ローム粒・炭化物
2. 暗褐色土 炭化物・ロームブロック
3. 濃い灰褐色土 ローム粒(やや多)・ロームブロック
4. 暗褐色土 炭化物・ローム粒(やや多)
5. 濃い灰褐色土 ローム粒(やや多)

67号土坑



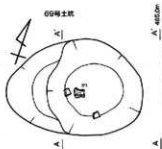
1. 暗褐色土 ローム粒
2. 暗褐色土 ローム粒
3. 暗褐色土 ローム粒・炭化物
4. 暗褐色土 炭化物・ローム粒
5. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)・炭化物・土器

69号土坑

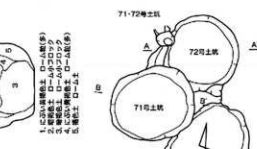


1. 黒褐色土 ローム粒
2. 暗褐色土 ローム粒(やや多)
3. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)・機土粒
4. 暗褐色土 ロームブロック(多)

69号土坑



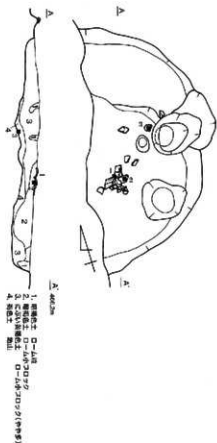
71-72号土坑



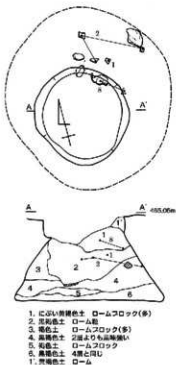
1. 黒褐色土 ローム粒(多)
2. 暗褐色土 ローム粒(多)
3. 暗褐色土 ローム小ブロック(多)
4. 暗褐色土 ローム粒(多)

71-72号土坑

75号土坑

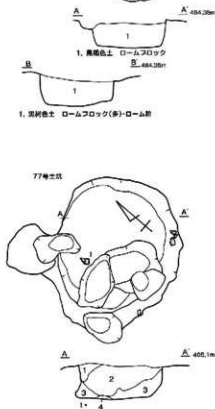


76号土坑



1. 濃い灰褐色土 ロームブロック(多)
2. 灰褐色土 ローム粒
3. 暗褐色土 ローム小ブロック(多)
4. 暗褐色土 炭化物・ローム粒(多)
5. 暗褐色土 ローム小ブロック
6. 暗褐色土 4層と同シ
7. 暗褐色土 ローム

77号土坑

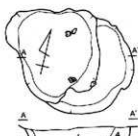


1. 濃い灰褐色土 ロームブロック(やや多)
2. 暗褐色土 ローム粒
3. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)
4. 暗褐色土 ロームブロック

0 1:40 1m

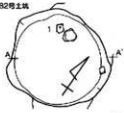
第43図 65~69・71・72・75~77号土坑 遺構

76号土坑



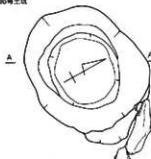
1. 黒褐色土 小砂子(やや多)
2. 褐色土 ロームブロックと2層の混合土
3. 黒褐色土
4. 黒褐色土 ローム小ブロック
5. 褐色土 ローム小ブロック(多)
6. 濃い黄褐色土 ローム

82号土坑



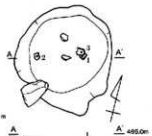
1. 褐色土 ロームブロック
2. 黒褐色土 ローム小ブロック(多)
3. 黒褐色土 ローム小ブロック(少)

86号土坑



1. 褐色土 ロームブロック 褐色土
2. 褐色土 ローム小ブロック 褐色土
3. 濃い黄褐色土 ローム(多) 炭化物
4. 褐色土 ローム小ブロック 炭化物-ローム粒
5. 褐色土 炭化物
6. ロームブロック 褐色土

79号土坑



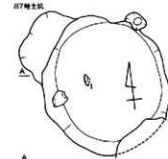
1. 濃い黄褐色土 ローム粒
2. 褐色土 ローム小ブロック-炭化物
3. 褐色土 ローム粒
3. 褐色土-褐色土混和

83号土坑



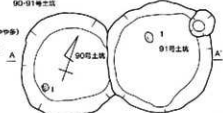
1. 黒褐色土 ローム小ブロック

87号土坑



1. 褐色土 ローム小ブロック-黄土粒
2. 褐色土 黄土粒
3. 濃い黄褐色土 ロームブロック
4. 濃い黄褐色土 ローム(やや多)-2層と動床
5. 褐色土 ローム小ブロック-炭化物-土層

90-91号土坑



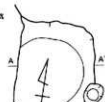
1. 黒褐色土 ローム小ブロック-炭化物(多)
2. 褐色土 ローム(やや多)
3. 黒褐色土 ローム粒-黄土粒
4. 黄土
5. 褐色土 ロームブロックと2層の混合土
6. 褐色土 ローム(やや多)

80号土坑



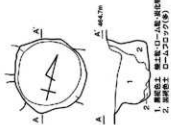
1. 黒褐色土
2. 黒褐色土 ローム小ブロック-土層
3. 褐色土 ローム(やや多)-土層

84号土坑



1. 黒褐色土 褐色土とローム粒の混合土-小砂
2. 褐色土 黄土のローム土

81号土坑



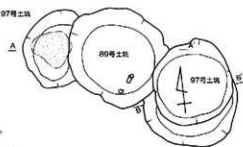
1. 褐色土
2. 褐色土
3. 褐色土
4. 褐色土
5. 褐色土
6. 褐色土
7. 褐色土
8. 褐色土
9. 褐色土
10. 褐色土
11. 褐色土
12. 褐色土
13. 褐色土
14. 褐色土
15. 褐色土
16. 褐色土
17. 褐色土
18. 褐色土
19. 褐色土
20. 褐色土
21. 褐色土
22. 褐色土
23. 褐色土
24. 褐色土
25. 褐色土
26. 褐色土
27. 褐色土
28. 褐色土
29. 褐色土
30. 褐色土
31. 褐色土
32. 褐色土
33. 褐色土
34. 褐色土
35. 褐色土
36. 褐色土
37. 褐色土
38. 褐色土
39. 褐色土
40. 褐色土
41. 褐色土
42. 褐色土
43. 褐色土
44. 褐色土
45. 褐色土
46. 褐色土
47. 褐色土
48. 褐色土
49. 褐色土
50. 褐色土
51. 褐色土
52. 褐色土
53. 褐色土
54. 褐色土
55. 褐色土
56. 褐色土
57. 褐色土
58. 褐色土
59. 褐色土
60. 褐色土
61. 褐色土
62. 褐色土
63. 褐色土
64. 褐色土
65. 褐色土
66. 褐色土
67. 褐色土
68. 褐色土
69. 褐色土
70. 褐色土
71. 褐色土
72. 褐色土
73. 褐色土
74. 褐色土
75. 褐色土
76. 褐色土
77. 褐色土
78. 褐色土
79. 褐色土
80. 褐色土
81. 褐色土
82. 褐色土
83. 褐色土
84. 褐色土
85. 褐色土
86. 褐色土
87. 褐色土
88. 褐色土
89. 褐色土
90. 褐色土
91. 褐色土
92. 褐色土
93. 褐色土
94. 褐色土
95. 褐色土
96. 褐色土
97. 褐色土
98. 褐色土
99. 褐色土
100. 褐色土

85号土坑



1. 黒褐色土 黄土粒
2. 褐色土 黄土粒-ローム小ブロック(少) 炭化物
3. 濃い黄褐色土 黄土

89-97号土坑



1. 褐色土 ローム小ブロック(やや多)
2. 黄土
3. 黒褐色土 ローム粒

92号土坑

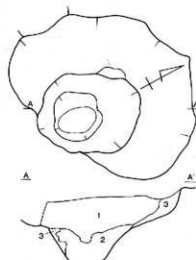


1. 黒褐色土 ローム(やや多)
2. 黒褐色土 ローム小ブロック
3. 黒褐色土 ローム(やや多)



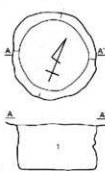
第44図 78~87-89~92-97号土坑 遺構

93号土坑



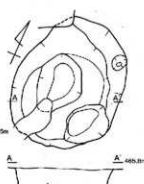
1. 黒褐色土 ロームブロック(やや多)
2. 暗褐色土 ロームブロック(少)
3. 黄褐色土 ローム塊山

94号土坑



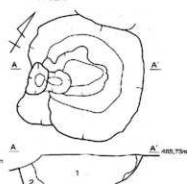
1. 黒褐色土 やや粗・ローム小ブロック 散在物

95号土坑



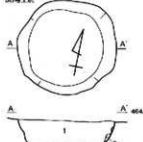
1. 黒褐色土 ローム小ブロック(小粗)多
2. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)

96号土坑



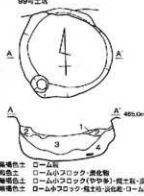
1. 黒褐色土 ローム小ブロック(少)・小粗・やや粗
2. 濃い黄褐色土 ローム断片・ロームブロック・1層と2層物

99号土坑



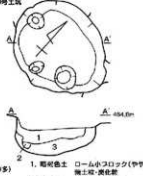
1. 黒褐色土 ローム小ブロック(小粗)
2. 暗褐色土 ロームブロック

99号土坑



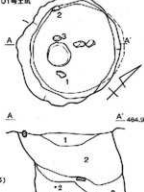
1. 黒褐色土 ローム塊
2. 暗褐色土 ローム小ブロック・黄褐色土
3. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多)・硬さ粒・流石類
4. 暗褐色土 ローム小ブロック・粘土状・炭化木・ローム殻(3層より多)

100号土坑



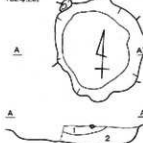
1. 暗褐色土 ローム小ブロック(やや多) 黄土質・黄土層
2. 黄土 3層と黄土の混在
3. 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物 散在物

101号土坑



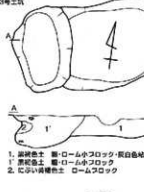
1. 暗褐色土 ローム断片
2. 暗褐色土 ローム小ブロック・炭化物
3. 濃い黄褐色土 ローム断片(やや多)
4. 暗褐色土 ローム塊

102号土坑



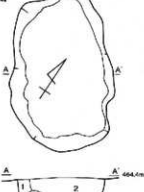
1. 暗褐色土 ローム小ブロック
2. 濃い黄褐色土 ローム断片(やや多)

103号土坑



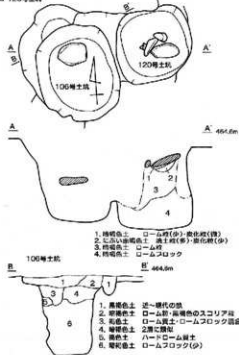
1. 暗褐色土 断片・ローム小ブロック・灰白色粘土・小ブロック
2. 濃い黄褐色土 断片・ローム小ブロック

107号土坑



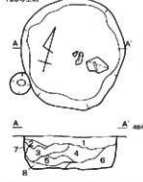
1. 黒褐色土 ローム断片(多)
2. 暗褐色土 ローム断片(小粗)
3. 暗褐色土 ローム塊土
4. 暗褐色土 ローム塊土

106-120号土坑



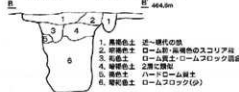
1. 暗褐色土 ローム断片(少)・炭化物(薄)
2. 濃い黄褐色土 黄土断片(多)・炭化物(少)
3. 暗褐色土 ローム断片・ロームブロック散在物
4. 暗褐色土 ロームブロック

105号土坑



1. 暗褐色土 ローム塊・炭化物
2. 暗褐色土 ロームブロック(少)
3. 暗褐色土 ロームブロック(少)
4. 暗褐色土 4層に類似・ローム小ブロック(少)・炭化物
5. 暗褐色土 ローム塊・炭化物(薄)
6. 暗褐色土 ローム小ブロック(少)
7. 暗褐色土 ローム塊土・ローム小ブロック混在
8. 暗褐色土 ローム断片

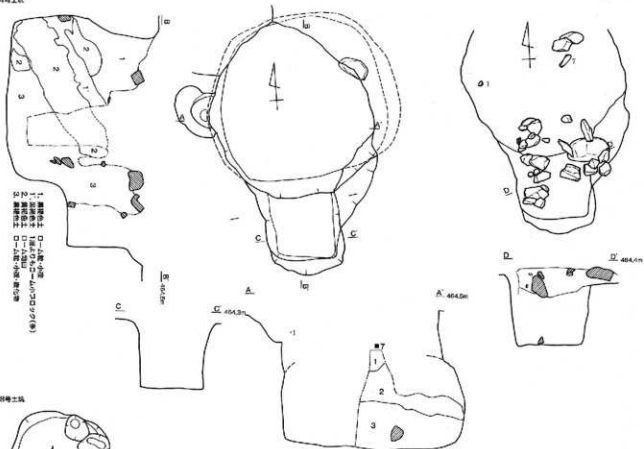
106号土坑



1. 黒褐色土 逆ノ標的の類
2. 暗褐色土 ローム断片・高橋物(多)・コリア泥
3. 暗褐色土 ローム断片・ローム小ブロック混在
4. 暗褐色土 2層に類似
5. 暗褐色土 ハードローム断片
6. 暗褐色土 ローム小ブロック(少)

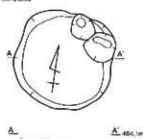
第45図 93~96・98~103・105~107・120号土坑 遺構

104号土坑



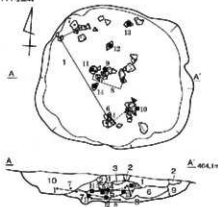
104号土坑の断面図
 1. 土坑の断面図
 2. 土坑の断面図
 3. 土坑の断面図
 4. 土坑の断面図
 5. 土坑の断面図
 6. 土坑の断面図
 7. 土坑の断面図
 8. 土坑の断面図
 9. 土坑の断面図
 10. 土坑の断面図
 11. 土坑の断面図
 12. 土坑の断面図
 13. 土坑の断面図
 14. 土坑の断面図
 15. 土坑の断面図
 16. 土坑の断面図
 17. 土坑の断面図
 18. 土坑の断面図
 19. 土坑の断面図
 20. 土坑の断面図
 21. 土坑の断面図
 22. 土坑の断面図
 23. 土坑の断面図
 24. 土坑の断面図
 25. 土坑の断面図
 26. 土坑の断面図
 27. 土坑の断面図
 28. 土坑の断面図
 29. 土坑の断面図
 30. 土坑の断面図
 31. 土坑の断面図
 32. 土坑の断面図
 33. 土坑の断面図
 34. 土坑の断面図
 35. 土坑の断面図
 36. 土坑の断面図
 37. 土坑の断面図
 38. 土坑の断面図
 39. 土坑の断面図
 40. 土坑の断面図
 41. 土坑の断面図
 42. 土坑の断面図
 43. 土坑の断面図
 44. 土坑の断面図
 45. 土坑の断面図
 46. 土坑の断面図
 47. 土坑の断面図
 48. 土坑の断面図
 49. 土坑の断面図
 50. 土坑の断面図
 51. 土坑の断面図
 52. 土坑の断面図
 53. 土坑の断面図
 54. 土坑の断面図
 55. 土坑の断面図
 56. 土坑の断面図
 57. 土坑の断面図
 58. 土坑の断面図
 59. 土坑の断面図
 60. 土坑の断面図
 61. 土坑の断面図
 62. 土坑の断面図
 63. 土坑の断面図
 64. 土坑の断面図
 65. 土坑の断面図
 66. 土坑の断面図
 67. 土坑の断面図
 68. 土坑の断面図
 69. 土坑の断面図
 70. 土坑の断面図
 71. 土坑の断面図
 72. 土坑の断面図
 73. 土坑の断面図
 74. 土坑の断面図
 75. 土坑の断面図
 76. 土坑の断面図
 77. 土坑の断面図
 78. 土坑の断面図
 79. 土坑の断面図
 80. 土坑の断面図
 81. 土坑の断面図
 82. 土坑の断面図
 83. 土坑の断面図
 84. 土坑の断面図
 85. 土坑の断面図
 86. 土坑の断面図
 87. 土坑の断面図
 88. 土坑の断面図
 89. 土坑の断面図
 90. 土坑の断面図
 91. 土坑の断面図
 92. 土坑の断面図
 93. 土坑の断面図
 94. 土坑の断面図
 95. 土坑の断面図
 96. 土坑の断面図
 97. 土坑の断面図
 98. 土坑の断面図
 99. 土坑の断面図
 100. 土坑の断面図

109号土坑



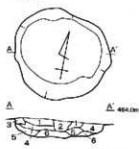
1. 土坑の断面図
2. 土坑の断面図

111号土坑



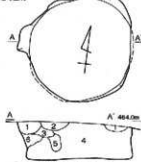
1. 土坑の断面図
2. 土坑の断面図
3. 土坑の断面図
4. 土坑の断面図
5. 土坑の断面図
6. 土坑の断面図
7. 土坑の断面図
8. 土坑の断面図
9. 土坑の断面図
10. 土坑の断面図

109号土坑



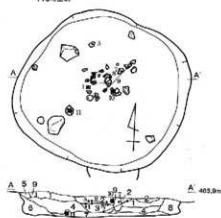
1. 土坑の断面図
2. 土坑の断面図
3. 土坑の断面図
4. 土坑の断面図
5. 土坑の断面図
6. 土坑の断面図

112号土坑



1. 土坑の断面図
2. 土坑の断面図
3. 土坑の断面図
4. 土坑の断面図
5. 土坑の断面図
6. 土坑の断面図

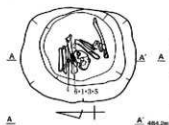
110号土坑



1. 土坑の断面図
2. 土坑の断面図
3. 土坑の断面図
4. 土坑の断面図
5. 土坑の断面図
6. 土坑の断面図
7. 土坑の断面図
8. 土坑の断面図
9. 土坑の断面図

第46図 104・108~112号土坑 遺構

113号土坑



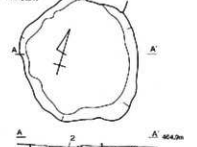
1. 濃い赤褐色土 漆土・漆片土・燻
2. 褐色土 ローム粒 燻
3. 濃い赤褐色土 ロームブロック・燻
4. 濃い赤褐色土 ロームブロック・漆土・ロームブロック(多)
5. 褐色土 ロームブロック(やや多)
6. 褐色土 ロームブロック・漆土・ロームブロック(多)

110号土坑



1. 黒褐色土 燻
2. 黒褐色土 ローム粒・炭化粒(燻)
3. 黒褐色土 ローム粒・炭化粒(燻)
4. 濃い赤褐色土 ローム質土
5. 褐色土 ローム粒・炭化粒・炭化粒
6. 褐色土 漆片土・漆土・ローム質土・ロームブロック・燻・漆土・漆片土

110号土坑



1. 黒褐色土 燻
2. 黒褐色土 ローム粒
3. 赤褐色土 ローム粒
4. 黒褐色土 ロームブロック(少)
5. 赤褐色土 ローム粒(多)

114号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒・小燻
2. 黒褐色土 ローム粒
3. 黒褐色土 ローム粒
4. 黒褐色土 ロームブロック(少)
5. 黒褐色土 ローム粒(多)

117号土坑



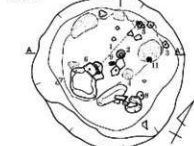
1. 黒褐色土 ロームブロック
2. 褐色土 ローム
3. 黒褐色土 ローム粒

121号土坑



1. 赤褐色土 ロームブロック・小燻・炭化粒(燻)
2. 黒褐色土 ローム粒
3. 赤褐色土・褐色土 燻褐色土・ローム質土の層

123号土坑



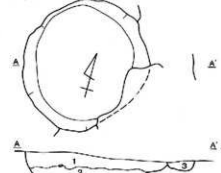
1. 黒褐色土 ロームブロック(多)
2. 赤褐色土 ローム小ブロック(やや多)
3. 赤褐色土 炭化粒(多)・燻(少)
4. 燻土層 燻片・燻土層
5. 赤褐色土 漆土と赤褐色土の層
6. 赤褐色土 炭化層・ローム小ブロック
7. 黒褐色土 漆土層(やや多)・ローム小ブロック
8. 褐色土 燻の一部
9. 黒褐色土 ローム粒(多)・燻土層

115号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒
2. 赤褐色土 ローム粒・炭化粒(燻)
3. 黒褐色土 1層に燻粒・ローム粒(多)
4. 黒褐色土 ローム質土・ロームブロック
5. 赤褐色土 ローム質土
6. 赤褐色土 ローム粒・炭化粒(少)・燻土層
7. 黒褐色土 ローム粒・炭化粒・燻土層
8. 褐色土 ローム質土・ロームブロック(少)

118号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒・燻粒(少)
2. 黒褐色土 ロームブロック(少)・炭化粒(燻)
3. 赤褐色土 ローム粒(多)

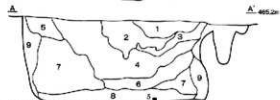
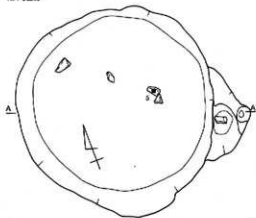
122号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒
2. 赤褐色土 ローム小ブロック
3. 黒褐色土 ローム粒
4. 濃い赤褐色土 燻土層上

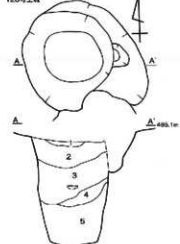
第47図 113~119・121~123号土坑 遺構

124号土坑



1. 黒褐色土 小礫・ローム層・赤色腐
2. 黒褐色土 ローム層・赤色腐
3. 黒褐色土 ローム層土・焼土粒(少)・炭化粒
4. 黒褐色土 ローム層・焼土粒(少)・炭化粒(腐)
5. 黒褐色土 ローム層・焼土粒(少)・炭化粒(腐)
6. 黒褐色土 ローム層(多)・赤色腐(少)
7. 黒褐色土 ローム層(少)・赤色腐(少)
8. 黒褐色土 ローム層(少)・赤色腐(少)・炭化粒(腐)
9. 黒褐色土 ローム層土・ロームフロック

125号土坑



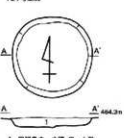
1. 灰色土 赤褐色土・ローム層
2. 褐色土 ローム層(多)・赤色腐(少)
3. 灰色土 赤褐色土・ローム層・炭化粒
4. 褐色土 ローム層(多)
5. 褐色土 ローム層

130号土坑



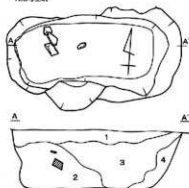
1. 黒褐色土 ローム層・小礫
2. 黒褐色土 ローム層・小礫(多)
3. 灰色土 炭化粒(腐)

131号土坑



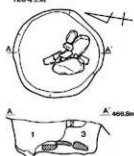
1. 黒褐色土 小礫・ローム層

126号土坑



1. 黒褐色土 ロームフロック・炭化粒(少)
2. 黒褐色土 ロームフロック・炭化粒(少)
3. 黒褐色土 ロームフロック・小礫
4. 黒褐色土 ローム層

127号土坑



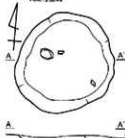
1. 黒褐色土 ロームフロック・焼土粒(腐)
2. 黒褐色土 ロームフロック(多)
3. 黒褐色土 ロームフロック(少)

129号土坑



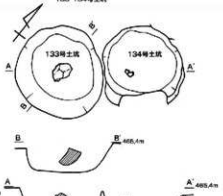
1. 褐色土 ロームフロック
2. 灰色土 赤褐色土・ロームフロック(中や多)
3. 灰色土 赤褐色土・ロームフロック(多)
4. 黒褐色土 ロームフロック(多)・赤色腐
5. 褐色土 ロームフロック
6. 黒褐色土 炭化粒・ロームフロック
7. 黒褐色土 ローム層(多)
8. 黒褐色土 腐土と赤褐色土・炭化粒・ローム層
9. 黒褐色土 7層と赤褐色土・ローム層(中や多)・炭化粒
10. 黒褐色土 6・9層と赤褐色土・ローム層(少)
11. 褐色土 ローム層土

132号土坑



1. 黒褐色土 ローム層・焼土粒(少)
2. 黒褐色土 ローム層(多)
3. 褐色土 ローム層(多)
4. 褐色土 ローム層
5. 褐色土 ローム層土

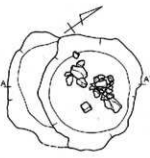
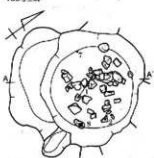
133・134号土坑



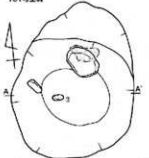
0 1 (1:40) 1m

第48図 124~134号土坑 遺構

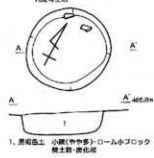
150号土坑



151号土坑



152号土坑



1. 黒褐色土 小鏡(やや多)・ローム小フロック
粘土質・炭化灰



△ 484.7m
1. 黒褐色土 炭化灰(やや多)・ローム粒
2. 黒褐色土 ローム小フロック



△ 485.0m
1. 褐色土 ローム小フロック
2. 濃い黄褐色土 粘土質・炭化灰
3. 赤色土 炭化灰・粘土粒・ローム小フロック(やや多)
4. 黒褐色土 炭化灰・粘土粒・粘土小フロック・ローム小フロック(やや多)

153号土坑



154号土坑



1. 黒褐色土 ローム粒・炭化灰
2. 赤色土 ローム粒



1. 黒褐色土 ローム小フロック・小鏡(やや多)
炭化灰(少)



△ 485.8m
1. 黒褐色土 ローム小フロック・炭化灰
2. 濃い黄褐色土 ローム粒(やや多)・炭化灰
3. 黄褐色土 ローム小フロック・炭化灰



△ 485.8m
1. 濃い黄褐色土 粘土質・ローム粒(やや多)
2. 黒褐色土 炭化灰・ローム粒(やや多)
3. 赤色土 粘土

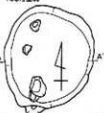
155号土坑



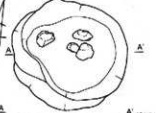
159号土坑

1. 濃い黄褐色土 ローム粒(多)
2. 黒褐色土 ローム小フロック
3. 黒褐色土 ローム粒・炭化灰(少)・粘土粒
4. 褐色土 ローム粒(多)

160号土坑



161号土坑



1. 濃い黄褐色土 ローム粒・粘土粒(多)・炭化灰(多)
2. 濃い黄褐色土 ローム小フロック



△ 485.2m
1. 濃い黄褐色土 ローム粒(多)
2. 黒褐色土 ローム小フロック
3. 黒褐色土 ローム粒・炭化灰(少)・粘土粒
4. 褐色土 ローム粒(多)

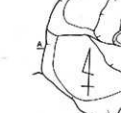
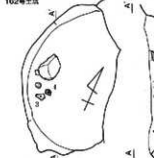


△ 484.7m
1. に近い黄褐色土 ローム粒・粘土粒(多)・炭化灰(多)
2. 褐色土 ローム土



△ 484.6m
1. 黒褐色土 粘土粒(多)・炭化灰(多)・ローム小フロック
2. に近い黄褐色土 ローム小フロック

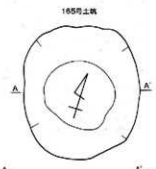
162号土坑



1. 黒褐色土 粘土質・ローム粒(多)
2. 赤色土 土層厚かたい
3. 黒褐色土 褐色土(やや多)
4. 赤色土 ローム小フロック
5. 黒褐色土 ローム小フロック・ローム粒・炭化灰
6. 黄褐色土 ローム粒・粘土質・粘土粒
7. 黄褐色土 石灰と厚層土



△ 484.9m
△ 485.8m

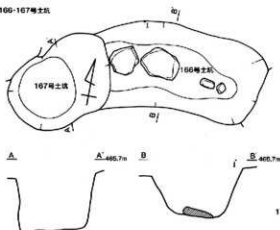


△ 485.1m

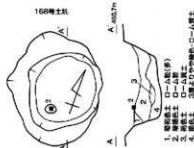


第50図 150~155・157~165号土坑 選掲

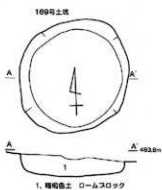
166-167号土坑



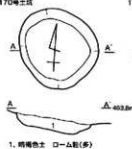
168号土坑



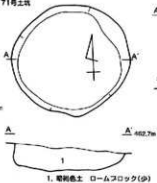
169号土坑



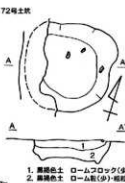
170号土坑



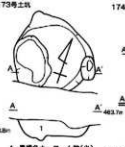
171号土坑



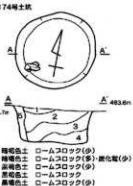
172号土坑



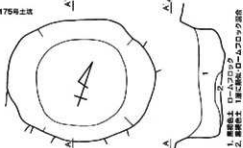
173号土坑



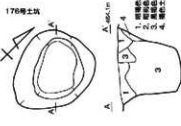
174号土坑



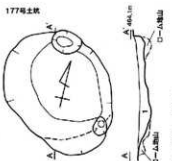
175号土坑



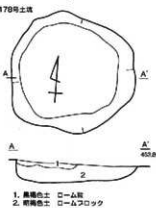
176号土坑



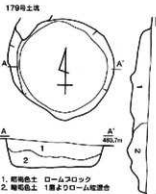
177号土坑



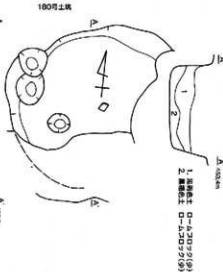
178号土坑



179号土坑



180号土坑

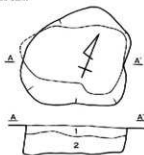


181号土坑



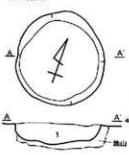
第51図 166~181号土坑 遺構

183号土坑



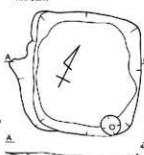
1. 濃い黄褐色土 ローム層(多)
2. 暗褐色土 ローム層(多)・ローム層と黒褐色土がブロック状に混在

184号土坑



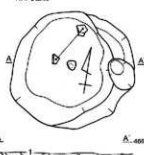
1. 暗褐色土 ローム層(多)・表化層(少)

185号土坑



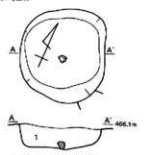
1. 黄褐色土 腐植層
2. 黄褐色土 ロームブロック
3. 暗褐色土 ロームブロック
4. 褐色土 ローム層
5. 黄褐色土 ローム層

186号土坑



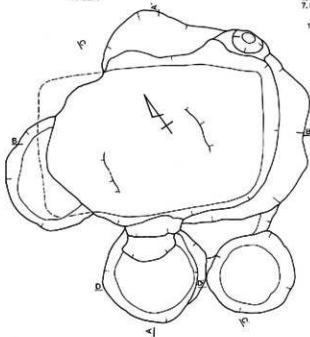
1. 濃い黄褐色土 ローム層
2. 濃い黄褐色土 ローム層
3. 褐色土 ローム層
4. 褐色土 ローム層
5. 褐色土 ローム層
6. 暗褐色土 ローム層(多)
7. 暗褐色土 ローム層
8. 暗褐色土 ローム層
9. 暗褐色土 ローム層(多)
10. 暗褐色土 腐植土層
11. 黄褐色土 ローム層
12. 褐色土 ローム層
13. 褐色土 ローム層

187号土坑

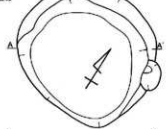


1. 暗褐色土 ロームブロック

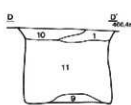
190号土坑



188号土坑

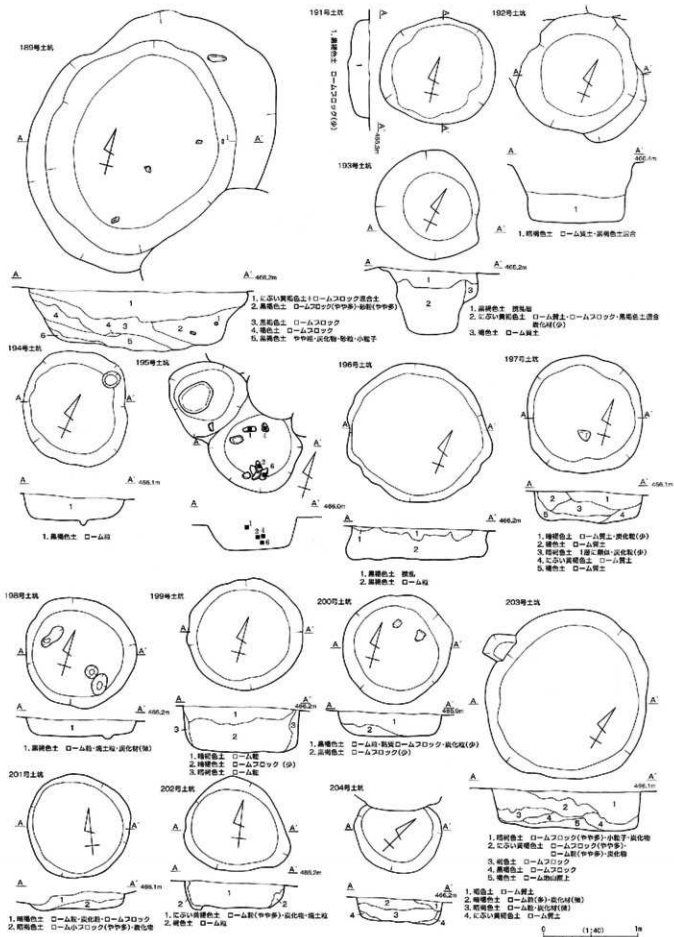


1. 黄褐色土 耕作による混在
2. 暗褐色土 ローム層
3. 暗褐色土 ローム層
4. 暗褐色土 ローム層
5. 暗褐色土 ローム層(多)
6. 暗褐色土 ローム層
7. 暗褐色土 ローム層(多)
8. 暗褐色土 ローム層
9. 暗褐色土 ローム層

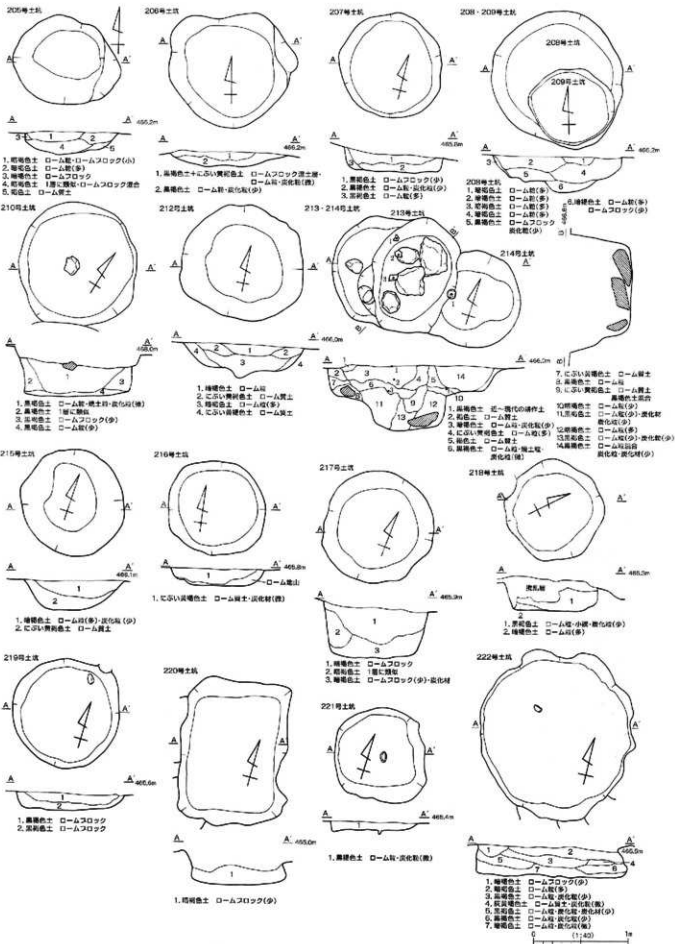


1. 黄褐色土 ローム層・白色土(少)・腐植
2. 黄褐色土 ローム層・表化層(多)
3. 黄褐色土 黄褐色土とブロック状のローム層の混在
4. 褐色土 ローム層
5. 黄褐色土 ロームブロック
6. 濃い黄褐色土 ローム層
7. 濃い黄褐色土 ローム層と黄褐色土混在 硬質ロームブロック
8. 褐色土 ローム層
9. 褐色土 ローム層
10. 黄褐色土 腐植土層
11. 黄褐色土 腐植土層・ロームブロック

第52図 183~188・190号土坑 遺構

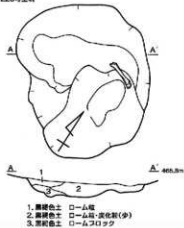


第53図 189・191~204号土坑 遺構



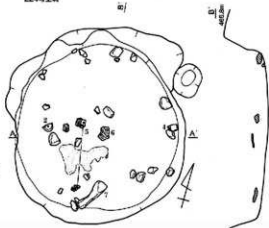
第54図 205~210・212~222号土坑 遺構

223号土坑



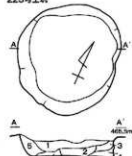
1. 黒褐色土 ローム殻
2. 黒褐色土 ローム殻・炭化粒(少)
3. 黒褐色土 ロームフロク

224号土坑



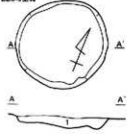
1. 灰褐色土 腐土
2. におい黄褐色土 ローム小フロク・焼土・焼土粒・炭化物
3. 赤褐色土 ローム殻・炭化土フロク
4. におい黄褐色土 ローム小フロク・炭化物
5. 黒褐色土 焼土粒・ロームフロク・土層
6. におい黄褐色土 ローム小フロク・炭化物
7. 灰土 ローム殻(少)
8. 灰褐色土 ローム山

225号土坑



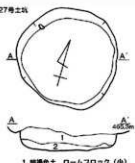
1. におい黄褐色土 ローム質土
2. におい黄褐色土 ローム質土
3. 黒褐色土 ローム(多)・炭化粒(黄)
4. 黒褐色土 ローム殻
5. 赤褐色土 ローム殻

226号土坑



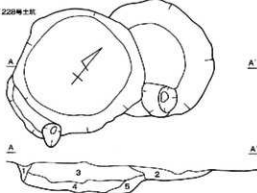
1. におい黄褐色土 ローム質土・炭化粒(黄)

227号土坑



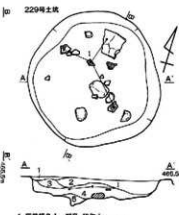
1. 黒褐色土 ロームフロク(少)
2. 黒褐色土 ロームフロク(少)

228号土坑



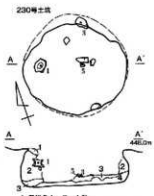
1. 黒褐色土 腐土
2. におい黄褐色土 3層と灰土・ローム小フロク
3. におい黄褐色土 小フロク(やや多)・炭化粒・焼土
4. 黒褐色土 ローム小フロク
5. 黒褐色土 ローム小フロク・4層と鉄線跡(U)

229号土坑



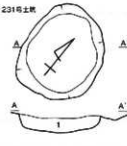
1. 灰褐色土 腐土・砂中土
2. 赤褐色土 ローム殻・炭化粒・土層
3. 赤褐色土 ロームフロク
4. 黒褐色土 ローム殻・炭化粒(やや多)・焼土・土層・埋灰土土層

230号土坑



1. 黄褐色土 ローム殻
2. 黄褐色土 ローム小フロク・炭化粒
3. 黒褐色土 ローム殻
4. 赤褐色土

231号土坑



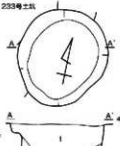
1. におい黄褐色土 ローム(やや多)・焼土・炭化粒

232号土坑



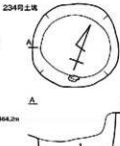
1. 黒褐色土 ロームフロク

233号土坑



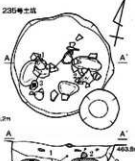
1. 黒褐色土 ロームフロク
2. 灰褐色土 ロームフロク(少)

234号土坑



1. 黒褐色土 ロームフロク
2. 灰褐色土 ロームフロク

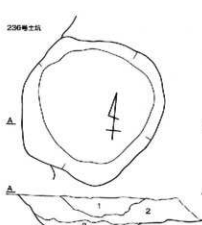
235号土坑



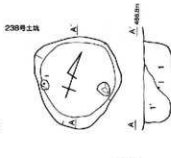
1. 黒褐色土 ロームフロク(少)・炭化粒
2. 黒褐色土 1層と埋灰・ローム殻・炭化粒(少)・焼土粒(黄)
3. におい黄褐色土 ローム質土

0 (1:40) 1m

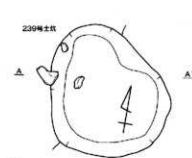
第55図 223～235号土坑 遺構



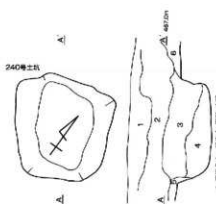
1. 灰色黄褐色土 空層と埋積(ローム版・小磁子(少))
 2. 黄褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土
 3. 黄褐色土+褐色土 灰色土・褐色土のロームブロック



1. 灰色黄褐色土 空層と埋積(ローム版・小磁子(少))
 2. 黄褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土
 3. 黄褐色土+褐色土 灰色土・褐色土のロームブロック



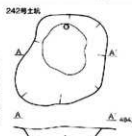
1. 黄褐色土 ローム版
 2. 黄褐色土 ローム版
 3. 灰色土 ローム



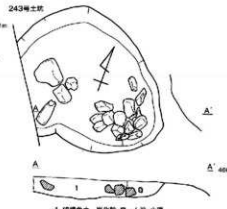
1. 黄褐色土 漆喰の褐色土・小磁子(少)
 2. 黄褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土
 3. 黄褐色土+褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土
 4. 黄褐色土+褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土



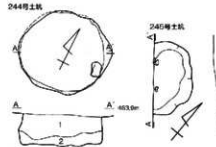
1. 黄褐色土 小磁子・ロームブロック・漆喰の褐色土
 ローム大ブロック(少)



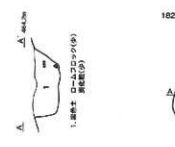
1. 灰色土 ローム版(少)・磁化版(少)



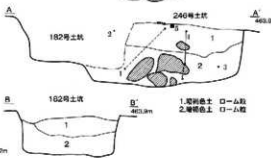
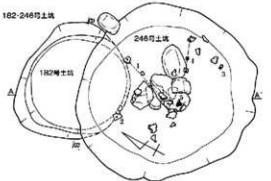
1. 黄褐色土 漆喰の褐色土・ローム版・小磁子



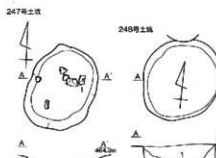
1. 黄褐色土 ロームブロック
 2. 灰色土 ロームブロック(少)



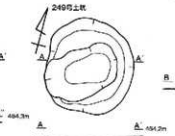
1. 黄褐色土 漆喰の褐色土・小磁子(少)
 2. 黄褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土
 3. 黄褐色土+褐色土 漆喰の褐色土・灰白色の磁い土



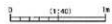
1. 黄褐色土 ローム版
 2. 黄褐色土 ローム版



1. 黄褐色土 ローム版
 2. 黄褐色土 1層に漆喰・ロームブロック
 3. 黄褐色土 ロームブロック

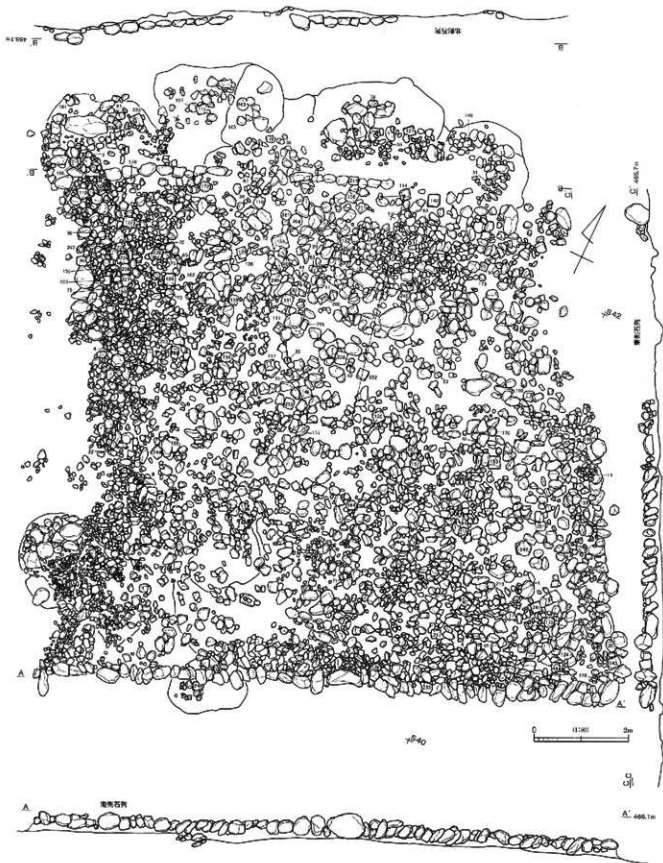


1. 黄褐色土 ロームブロック(少)
 2. 灰色黄褐色土 ローム版土・ロームブロック
 3. 灰色黄褐色土 空層と埋積(ロームブロック(少))
 4. 褐色土 ローム版土



第56図 182・236・238~249号土坑 遺構

方形集石

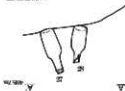


第58圖 方形集石 遺構(1)

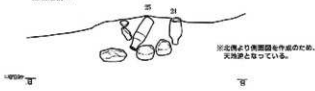
方形集石



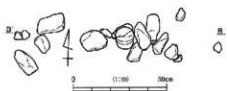
立板造構A



立板造構B

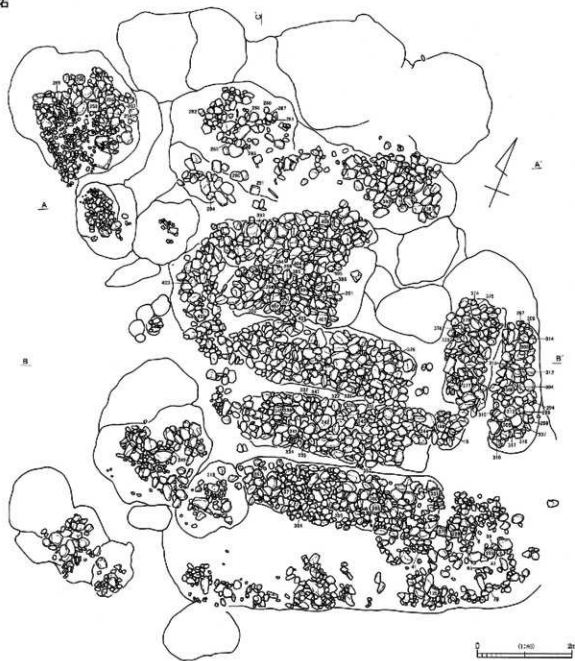


※立板より表面部を析出のため、
天球形となっている。



第59図 方形集石 造構(2)

方形集石

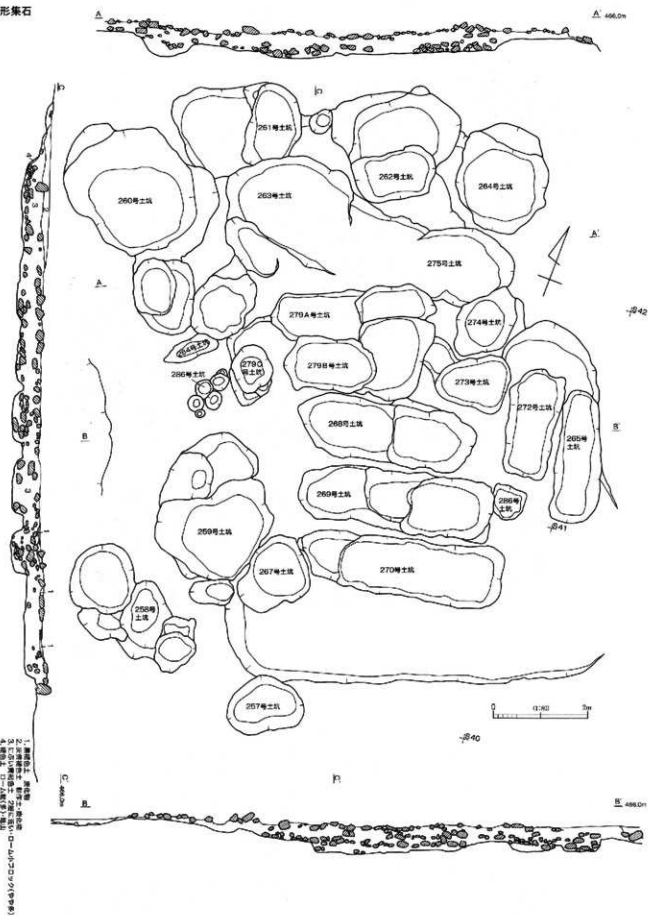


第60図 方形集石 遺構(3)

o)



写真15 立瓶遺構



第61圖 方形集石 遺構(4)

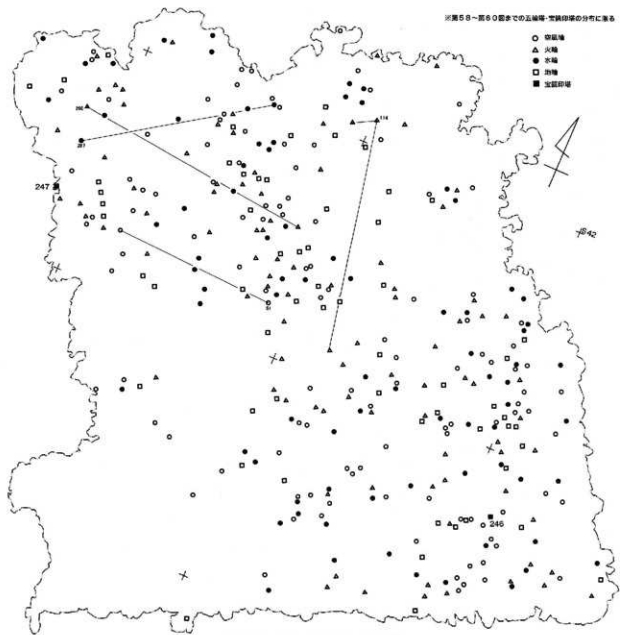
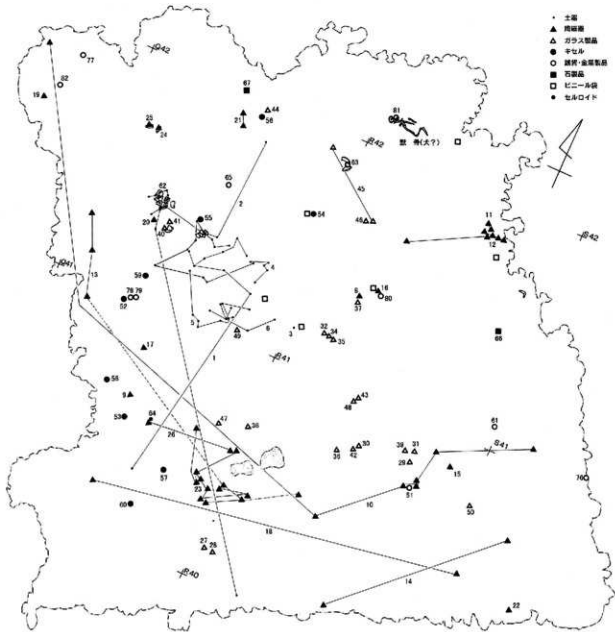


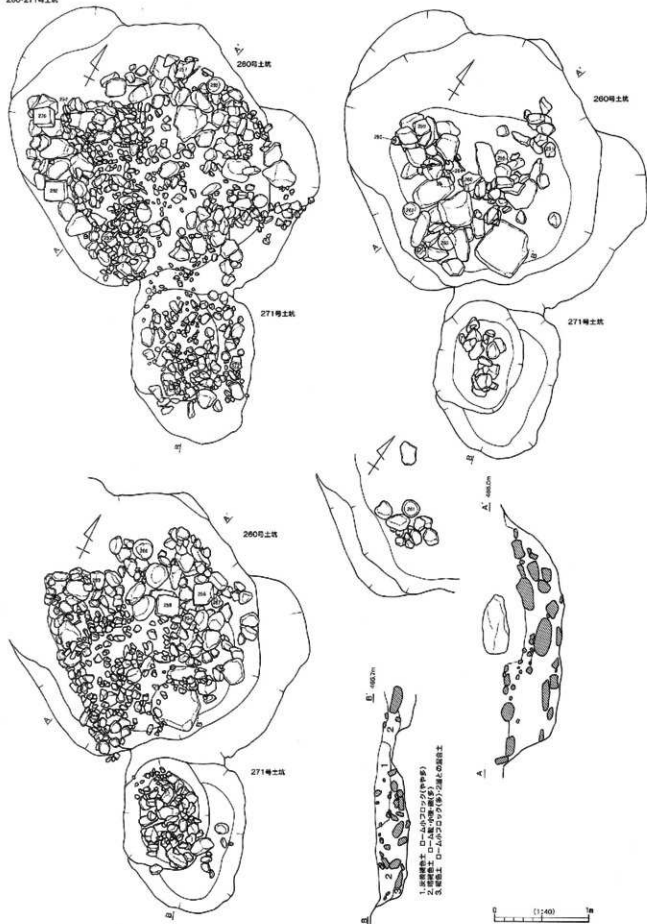
写真17 方形集石(西から)



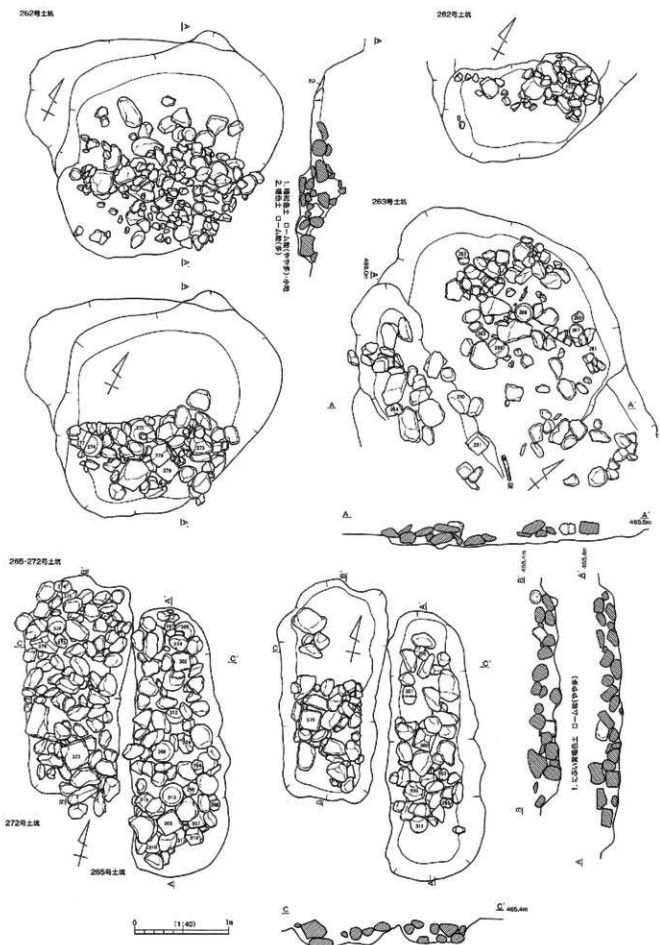
第63図 方形象石 遺物出土状況



写真18 方形象石(南西から)

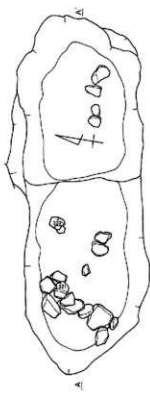
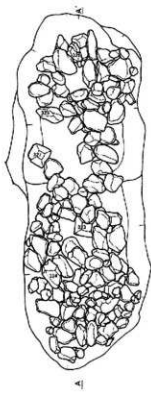
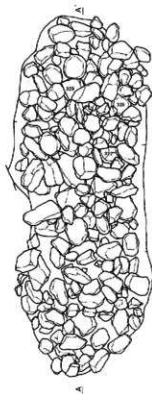


第65图 方形集石下層土坑 遺構(2)

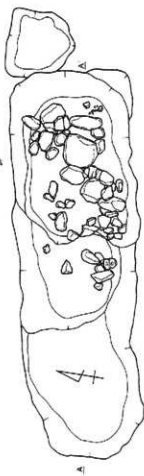
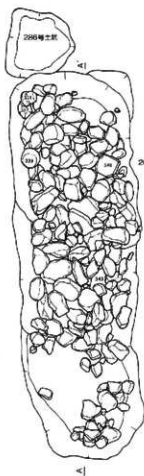


第66图 方形集石下層土坑 遺構(3)

260号土坑

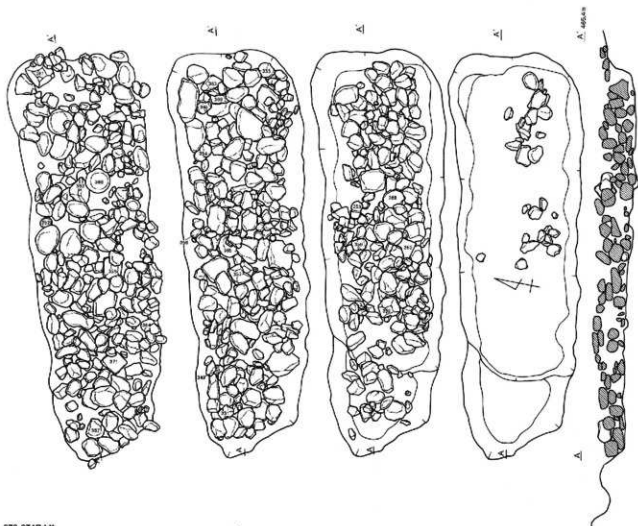


260-280号土坑

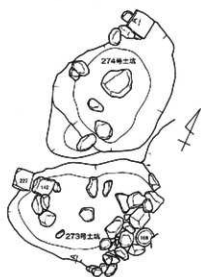


0 (1:400) 1m

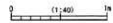
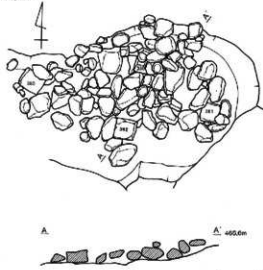
第67图 方形集石下層土坑 遺構(4)



273-274号土坑

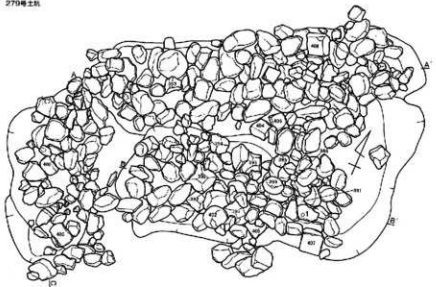


275号土坑

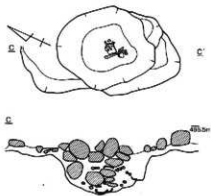
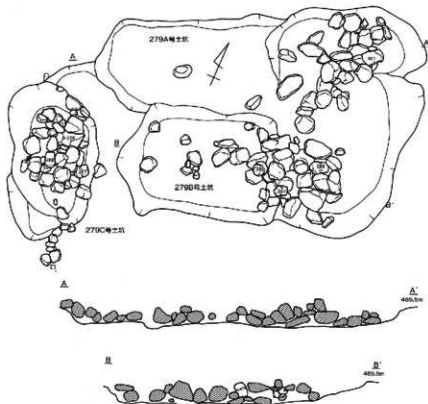
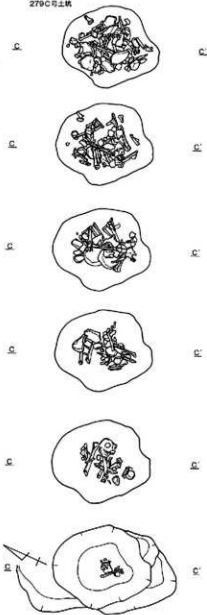


第68图 方形聚石下層土坑 遺構(5)

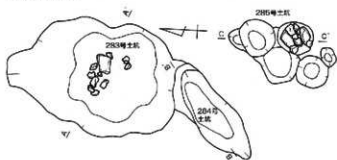
279号土坑



279C号土坑



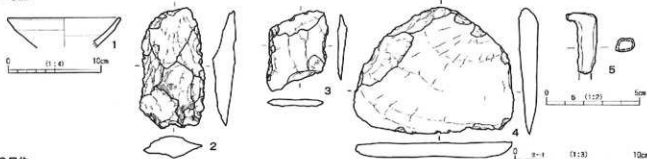
283-284-285号土坑



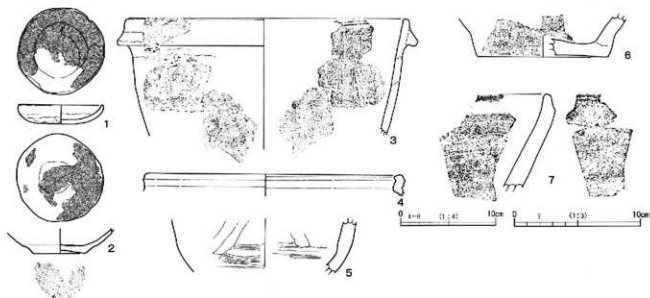
0 1:40 1m

第69图 方形集石下層土坑 遺構(6)

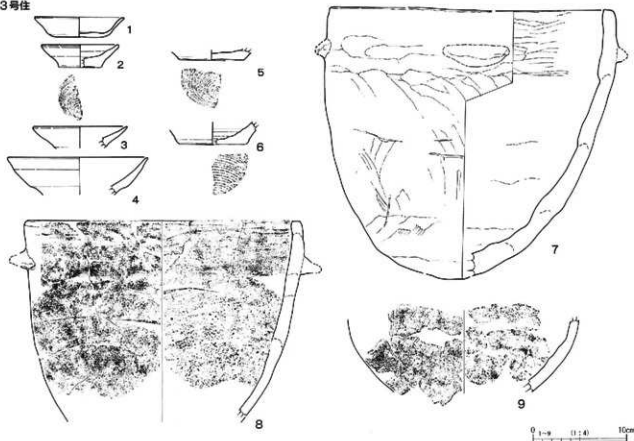
1号住



2号住

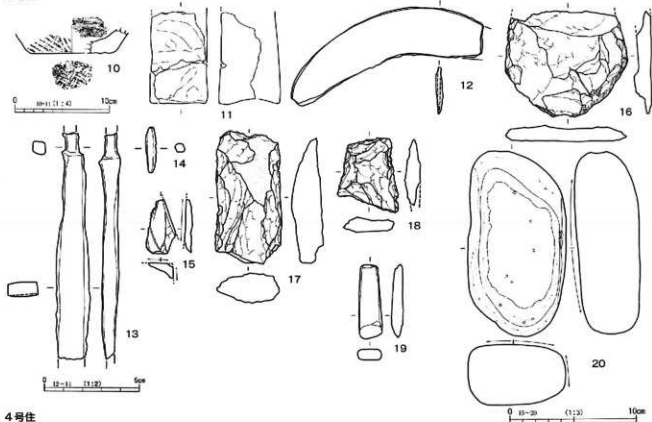


3号住

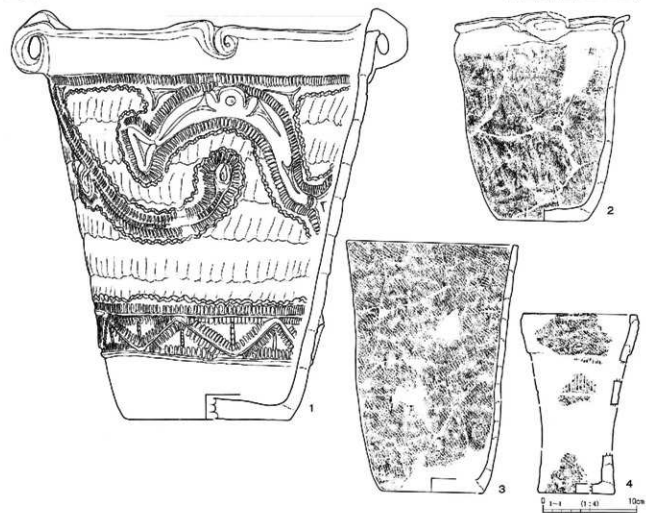


第72図 1~3号住 遺物

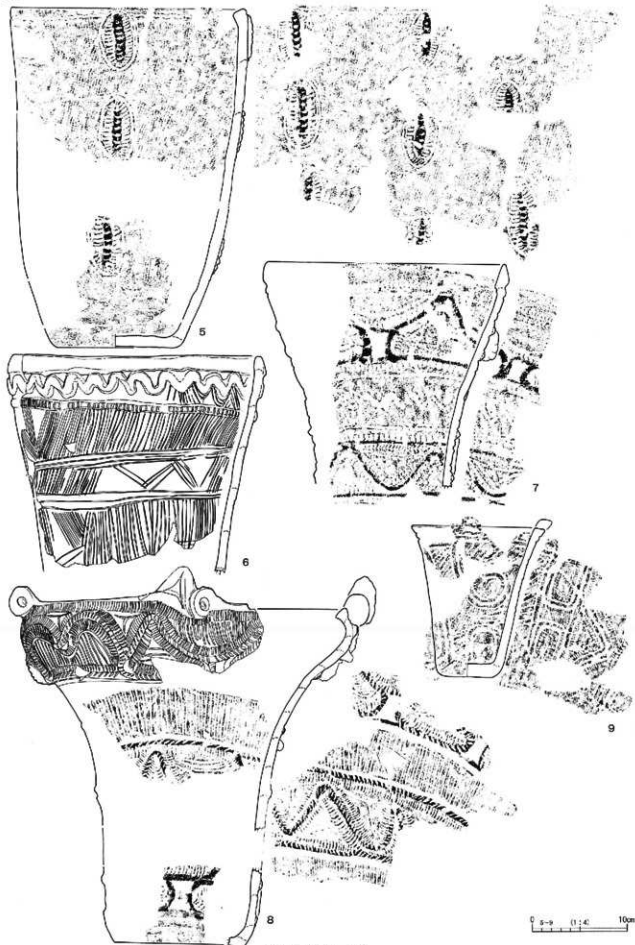
3号住



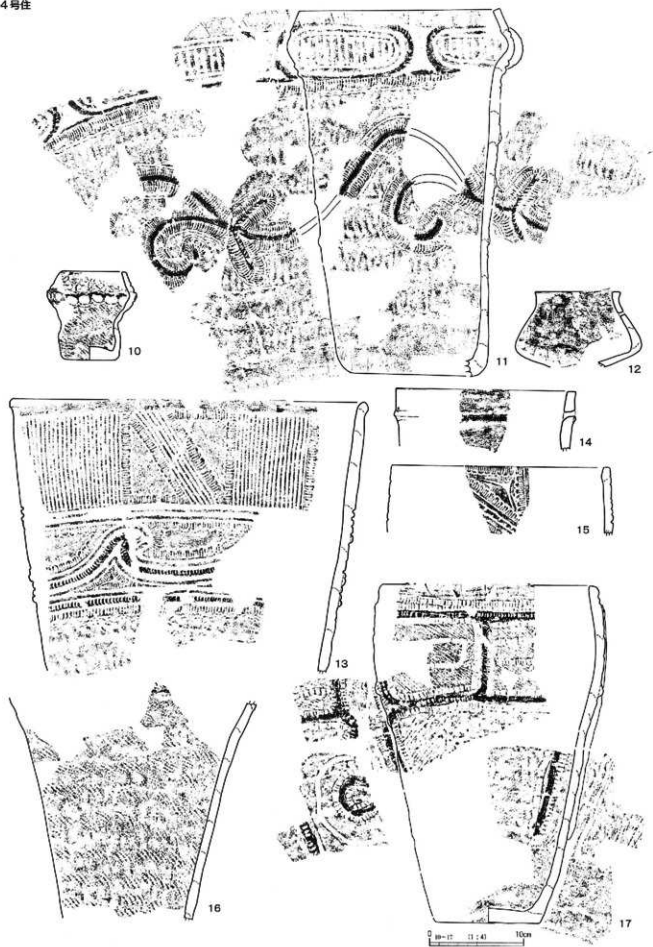
4号住



第73図 3・4号住 遺物

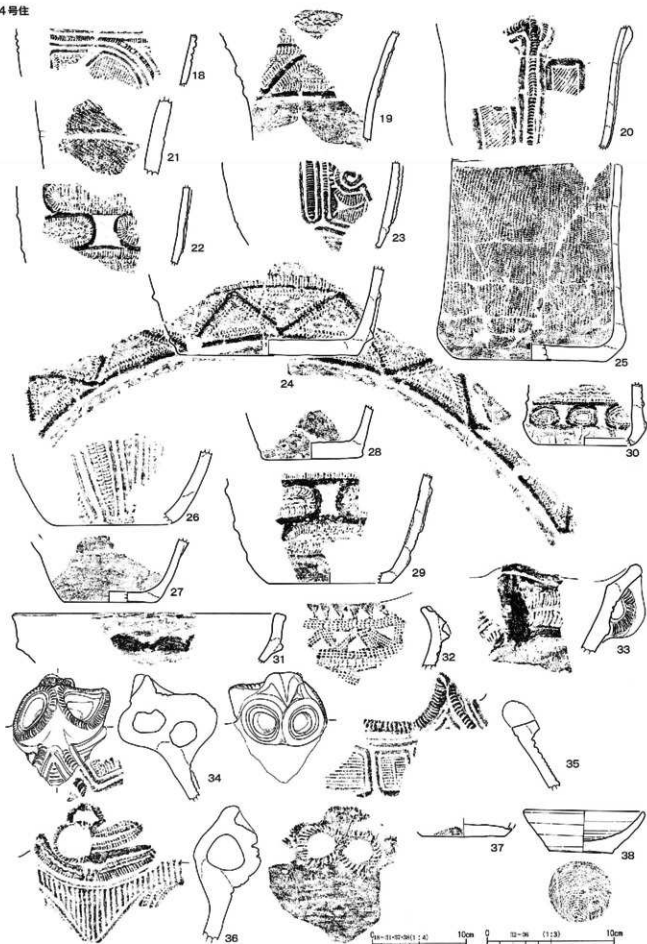


第74图 4号住 遺物

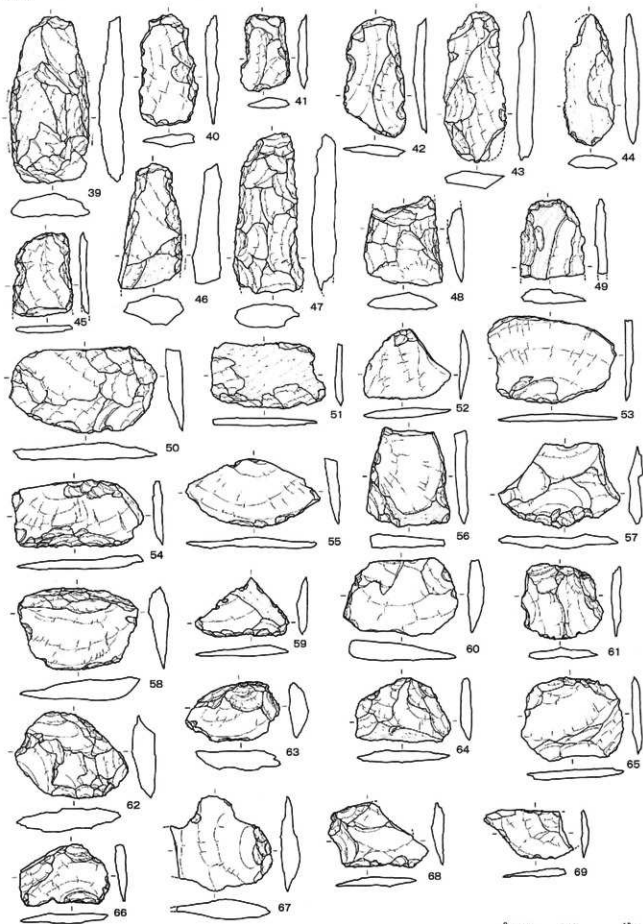


第75图 4号住 遺物

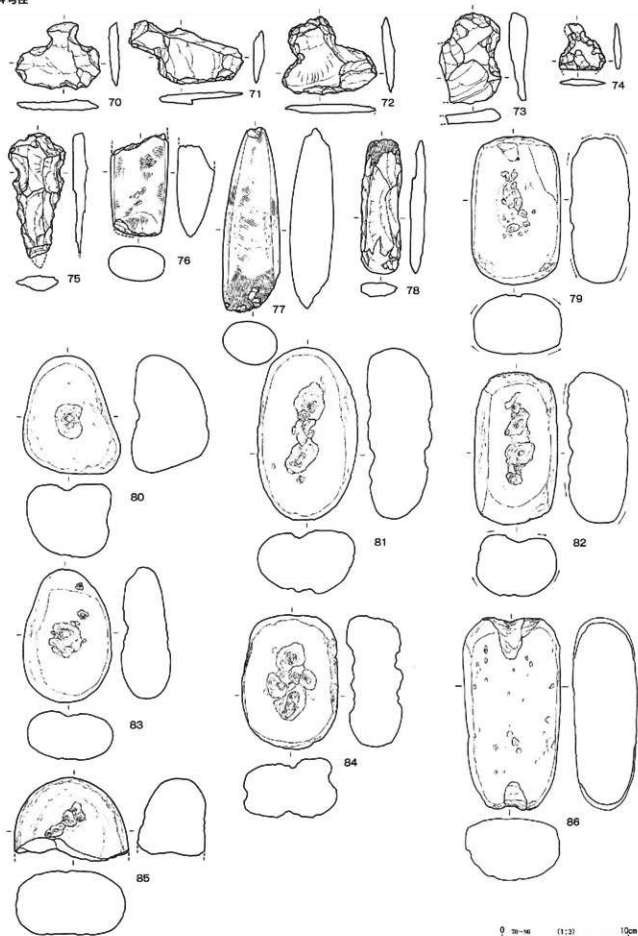
4号住



第76图 4号住 遺物

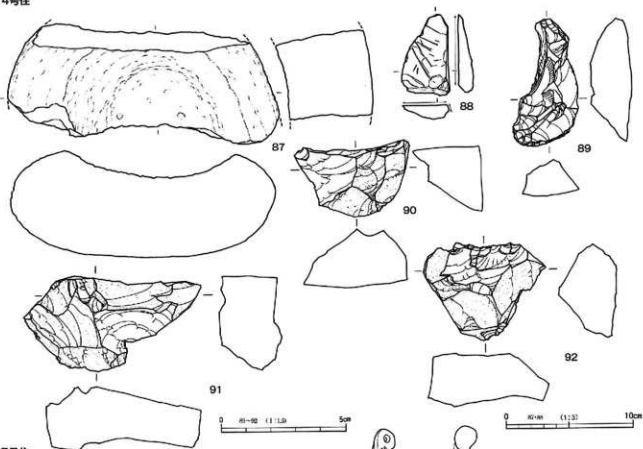


第77图 4号住 遺物

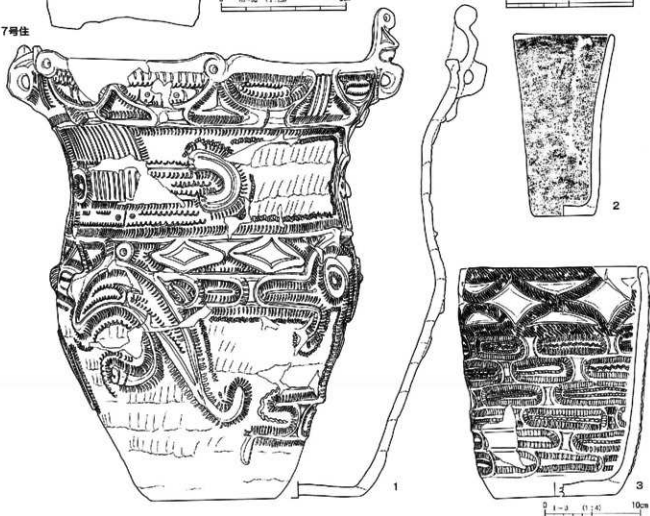


第78图 4号住 遗物

4号住



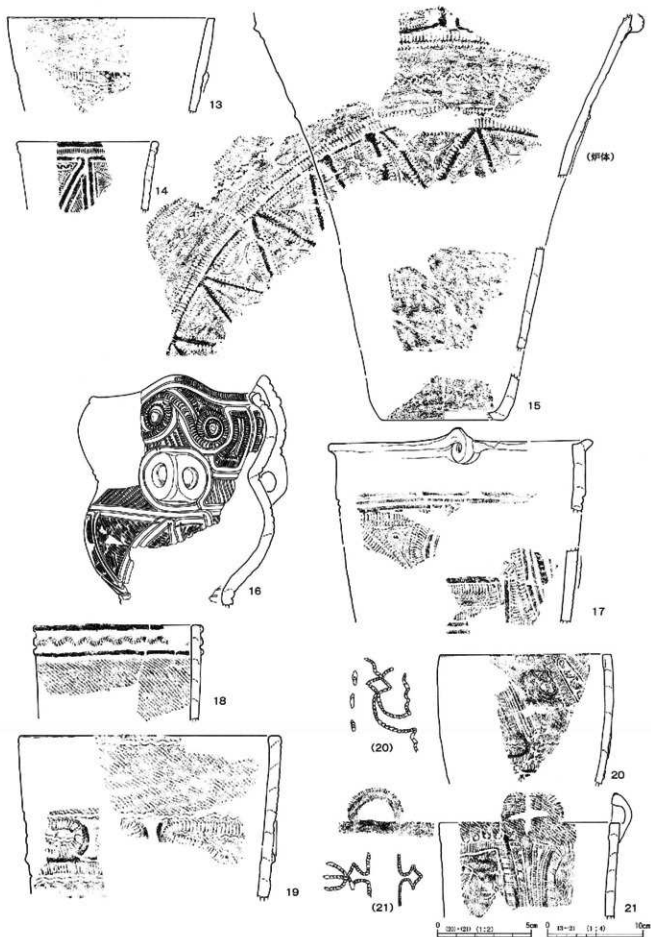
7号住



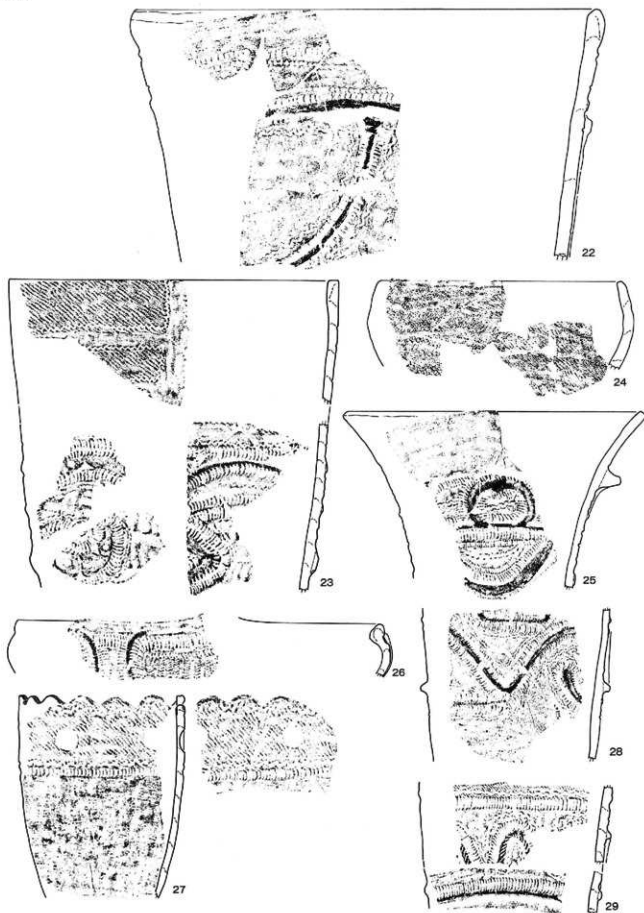
第79图 4·7号住 遗物



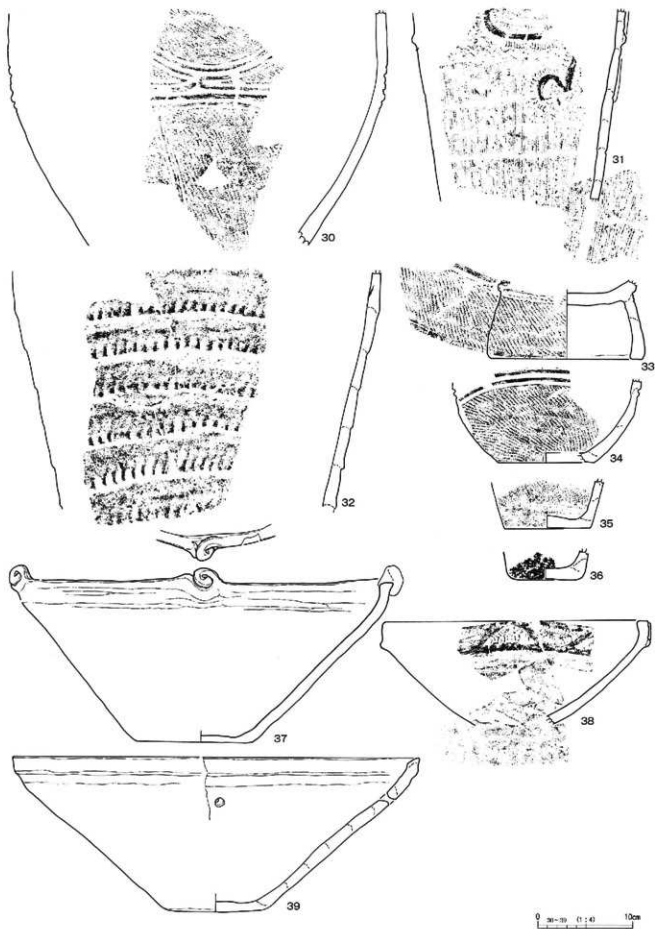
第80图 7号住 遺物



第81图 7号住 遗物

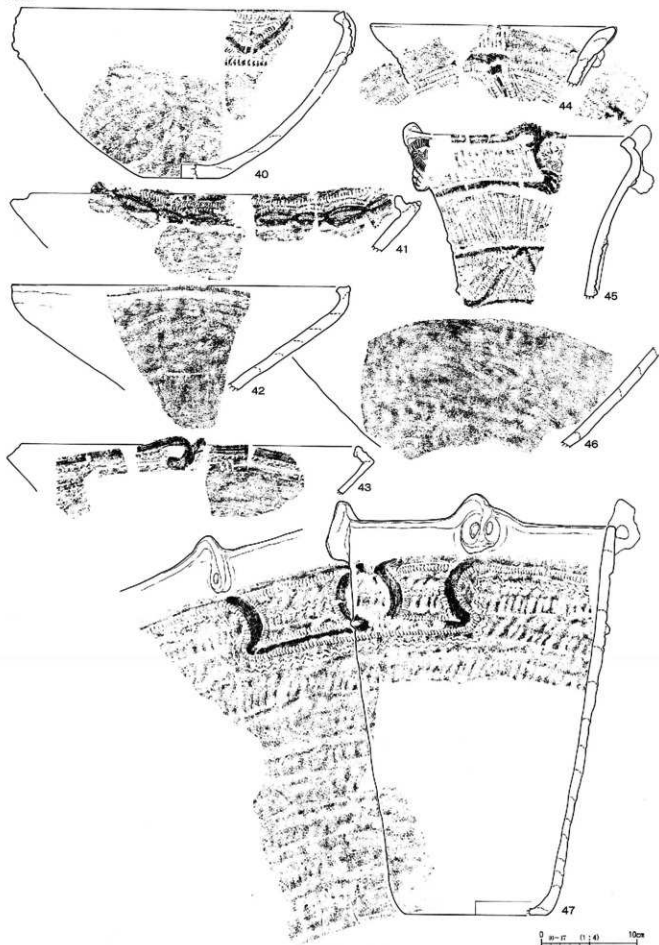


第82图 7号住 遺物



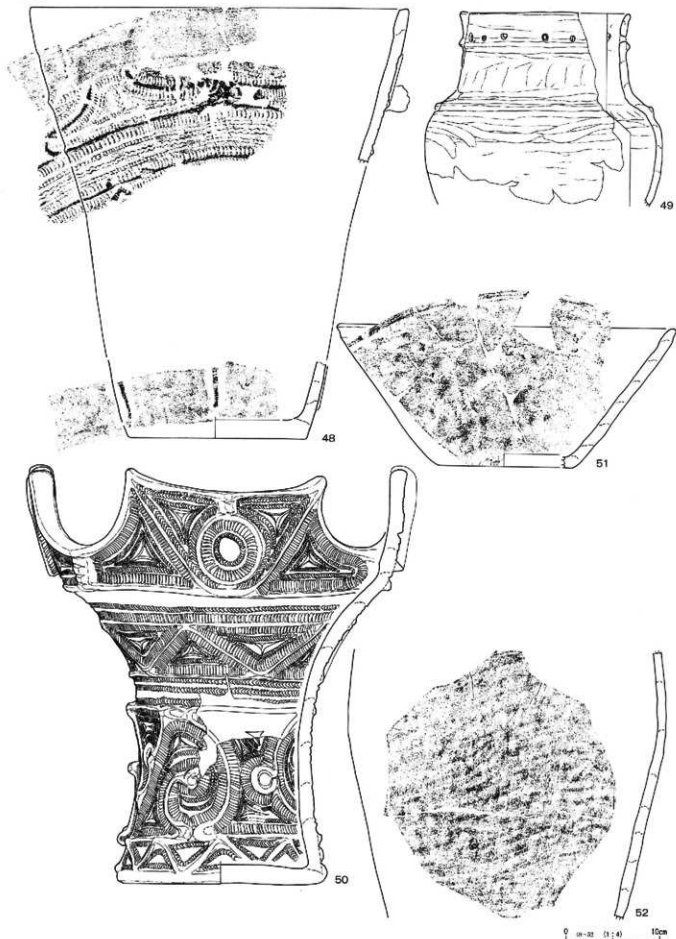
第83图 7号住 遗物

7号住

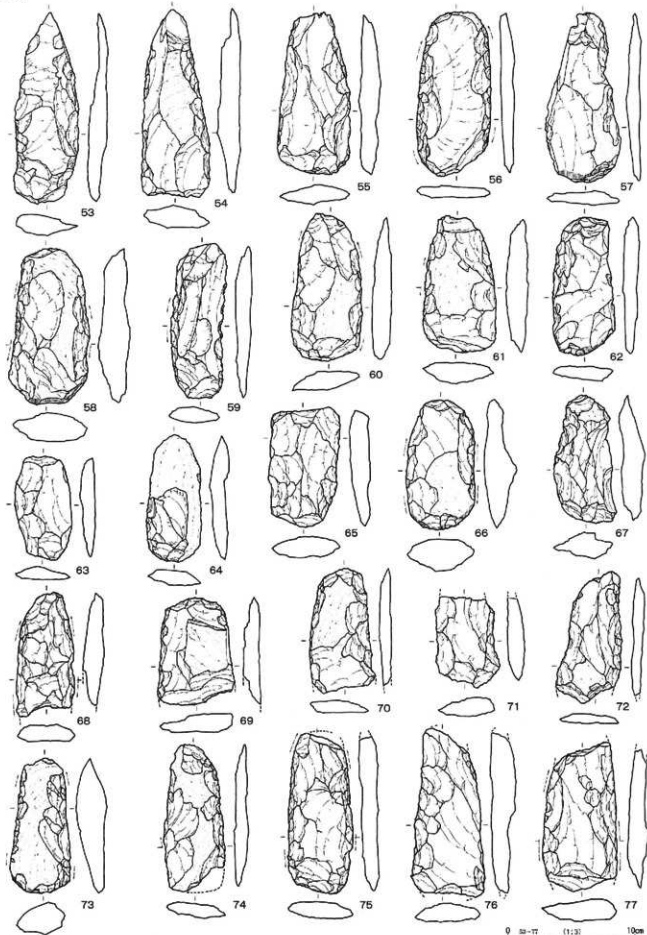


第84图 7号住 遺物

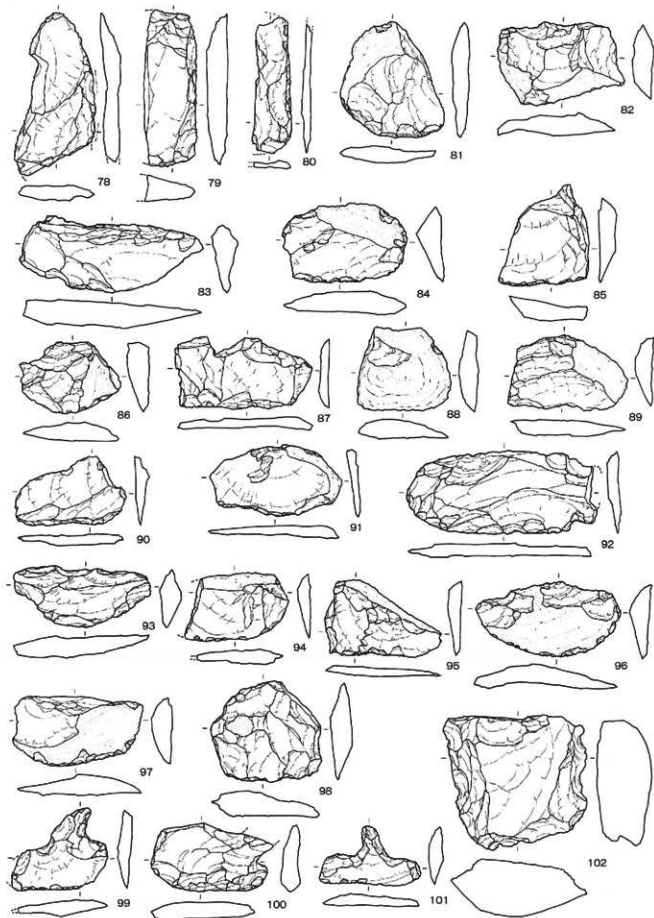
7号住



第85图 7号住 遗物

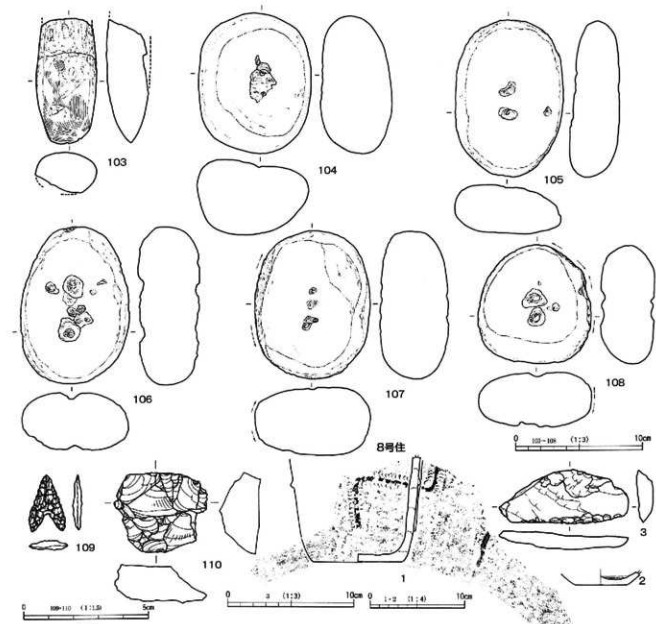


第86图 7号住 遺物

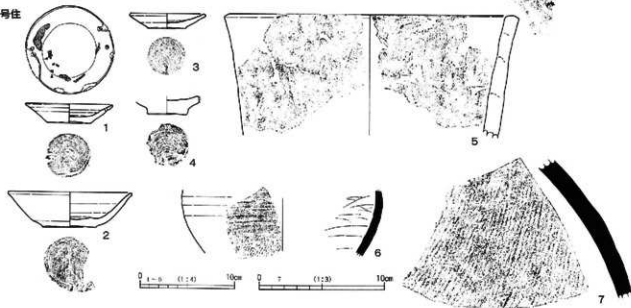


第87图 7号住 遺物

7号住

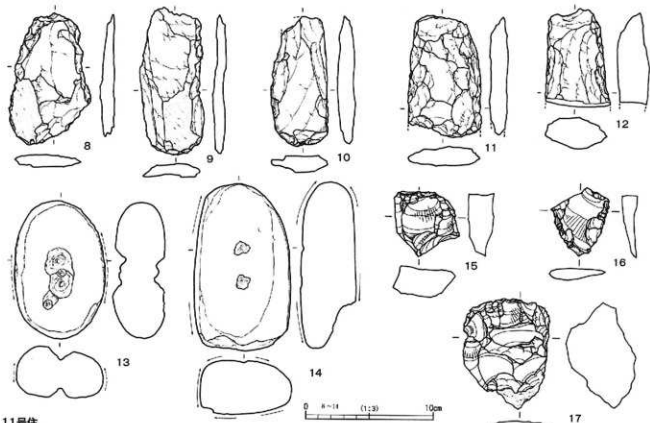


9号住

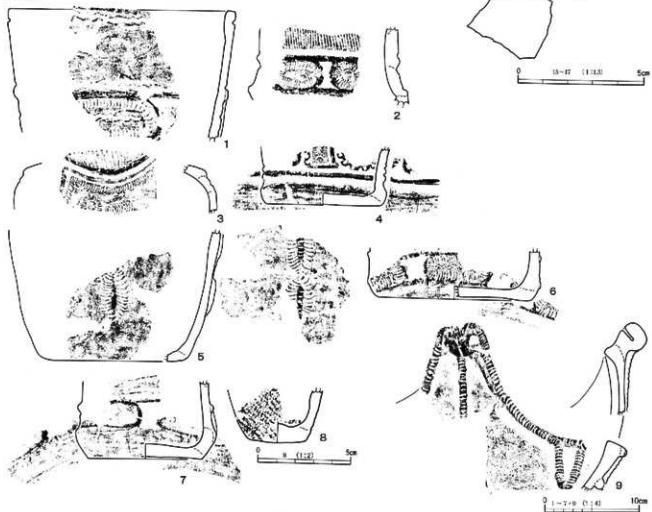


第88图 7~9号住 遺物

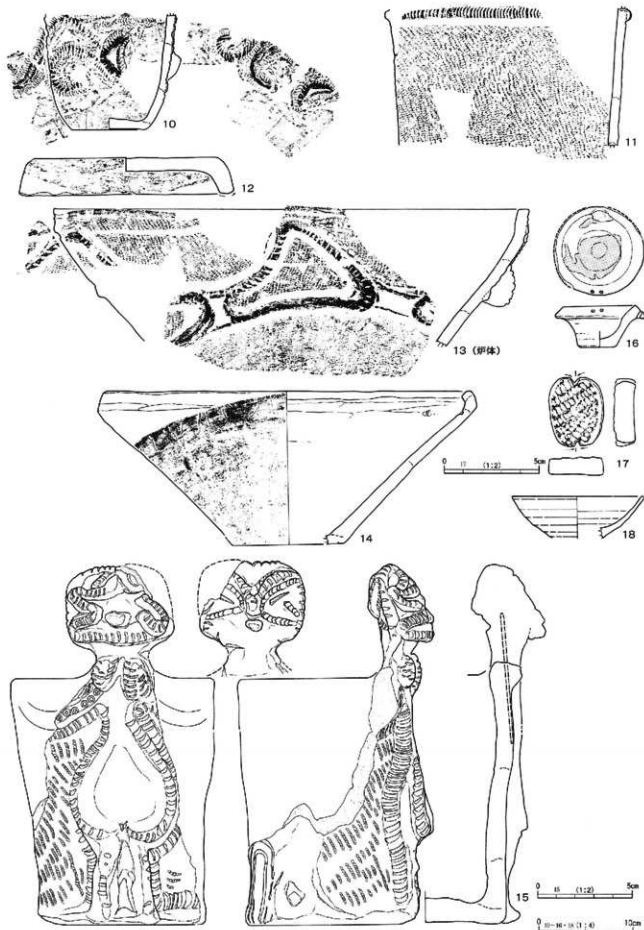
9号住



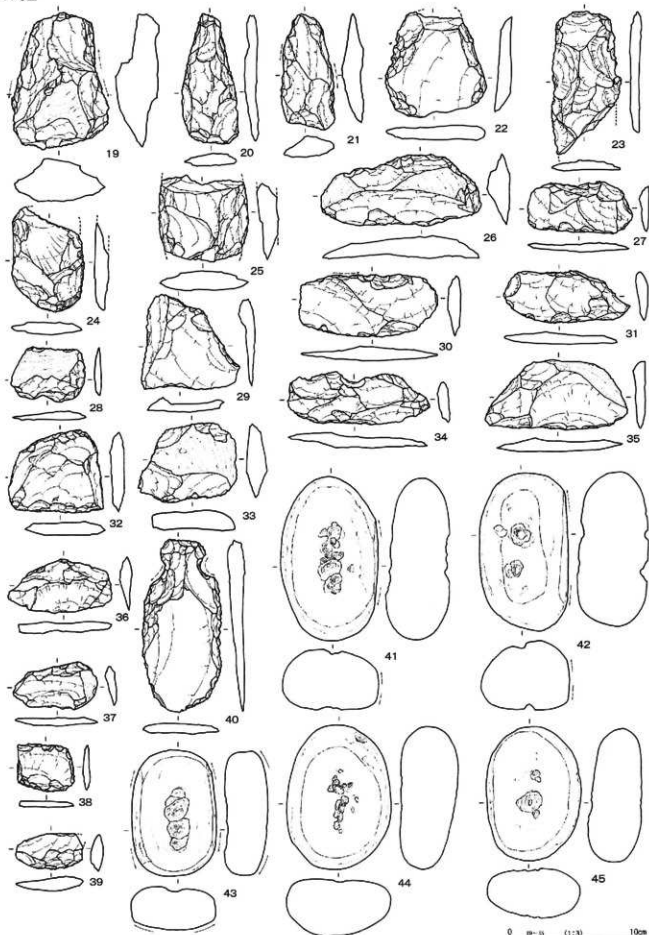
11号住



第89图 9・11号住 遺物

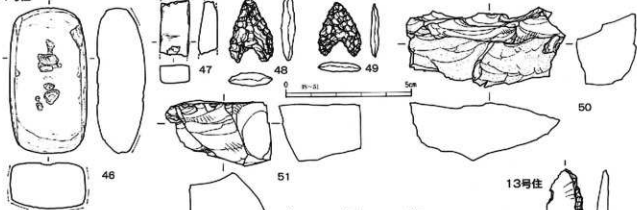


第90图 11号住 遺物



第91图 11号住 遺物

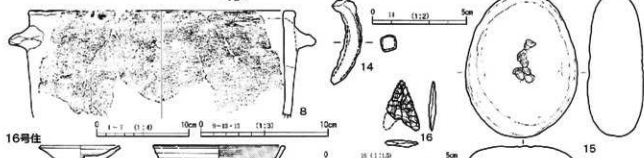
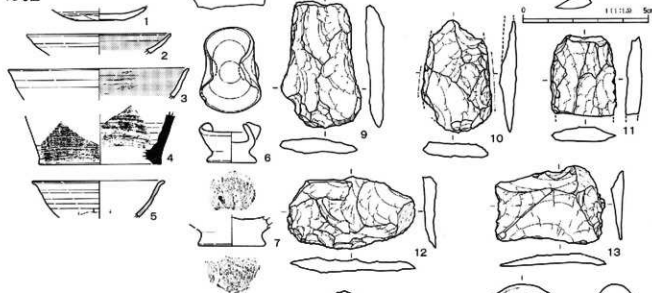
11号住



13号住



15号住

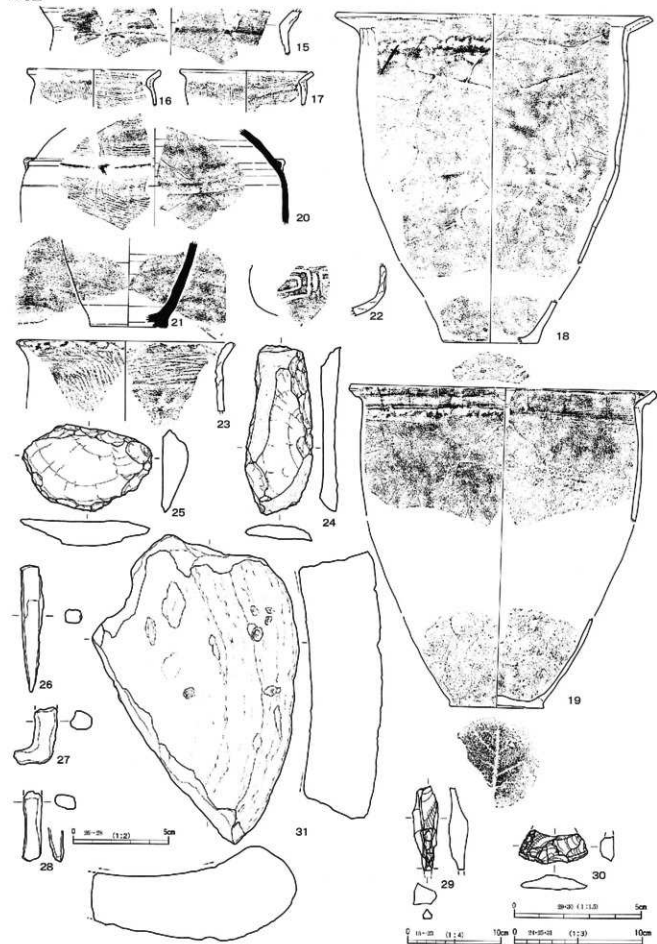


16号住



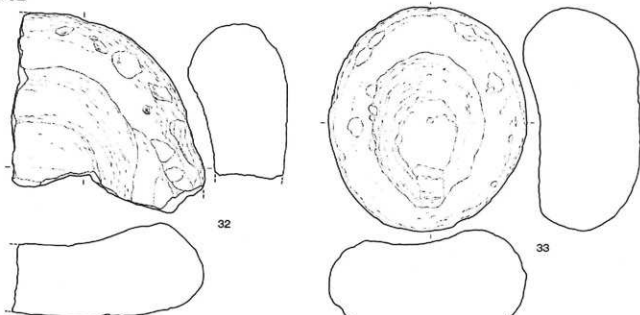
第92图 11·13·15·16号住 遺物

16号住

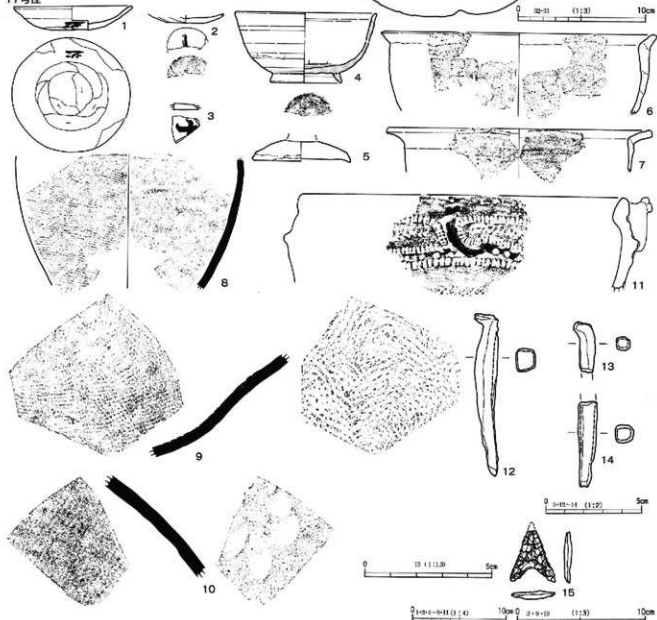


第93图 16号住 遗物

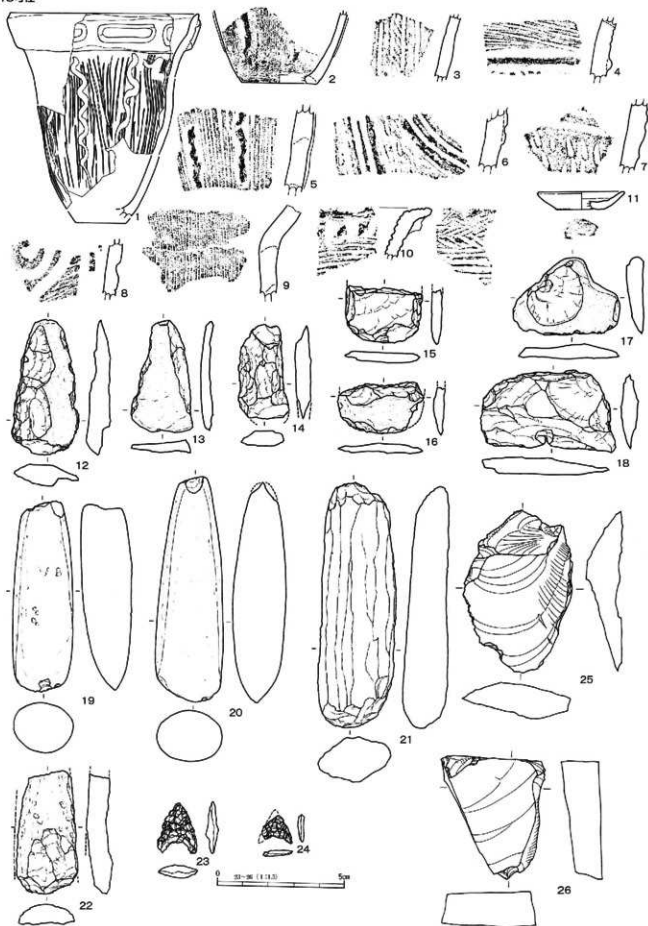
16号住



17号住

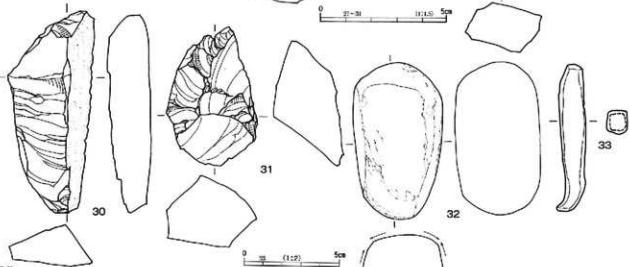
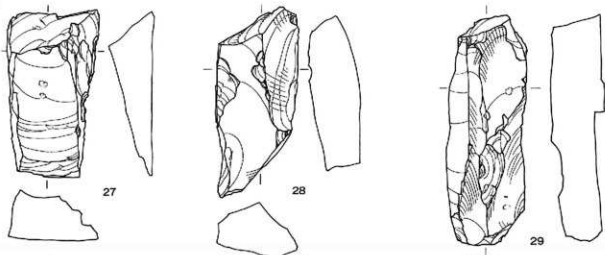


第94图 16·17号住 遺物

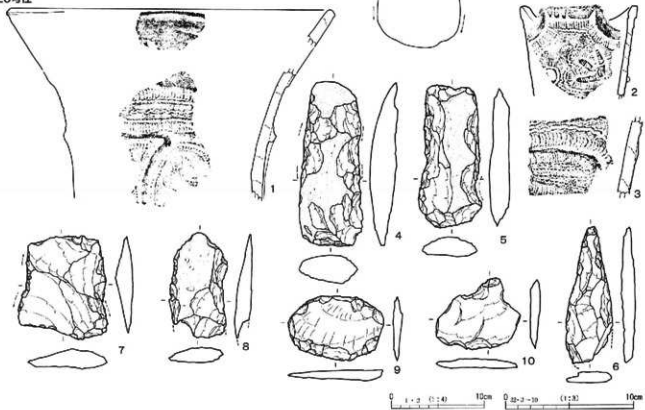


第95图 18号住 遗物

18号住



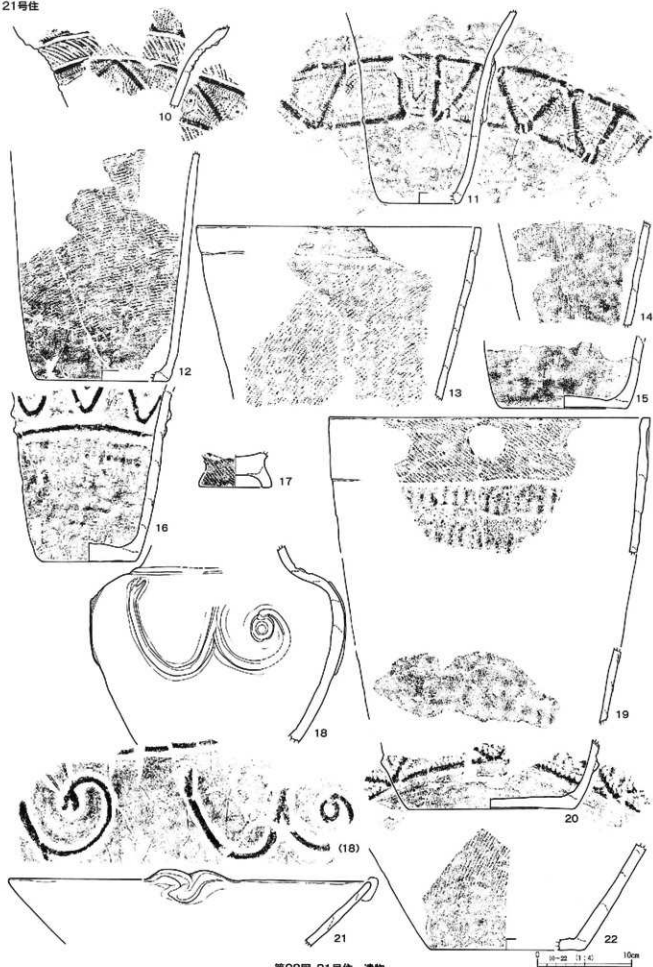
20号住



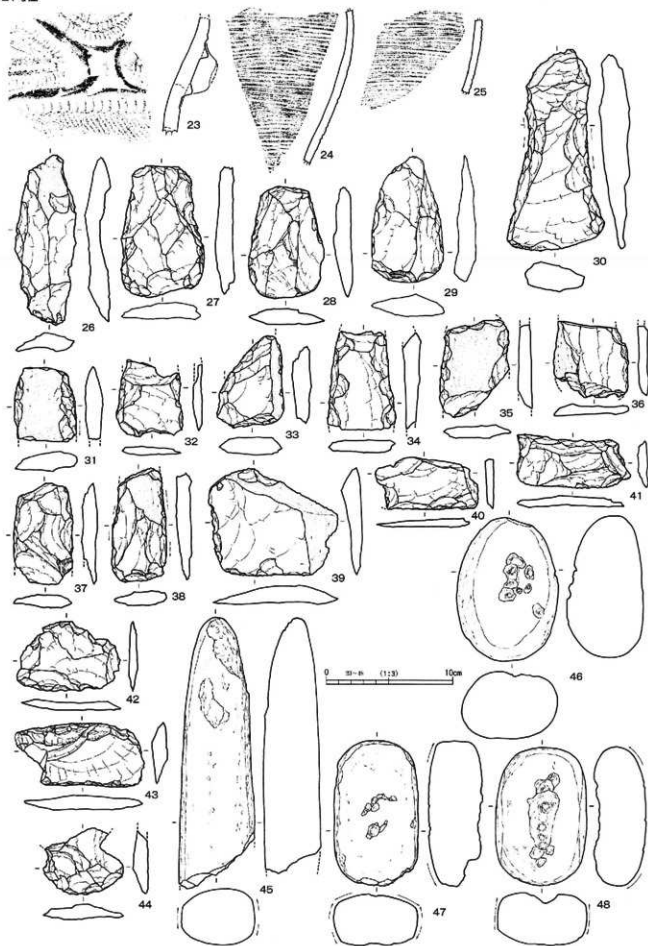
第96图 18·20号住 遺物



第97图 21号住 遗物

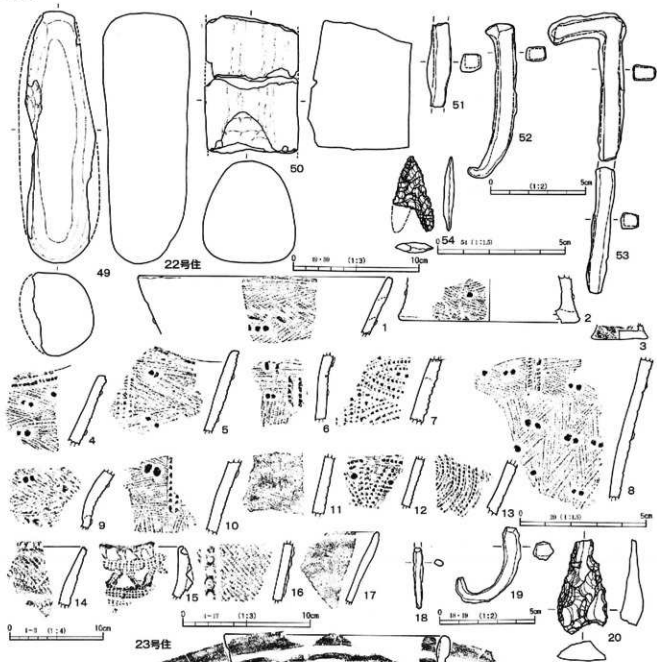


第98图 21号住 遺物

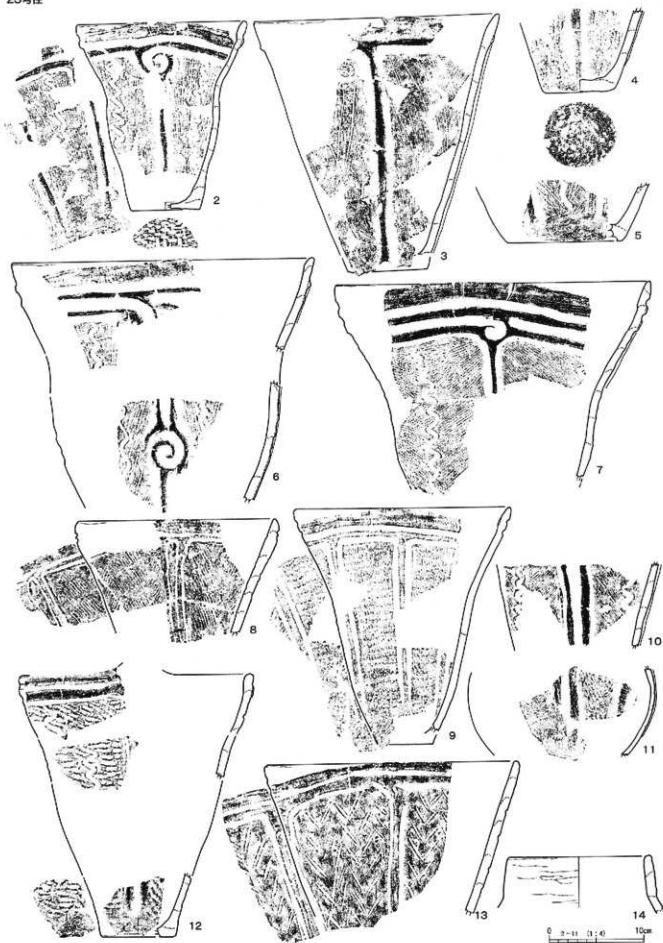


第99图 21号住 遗物

21号住

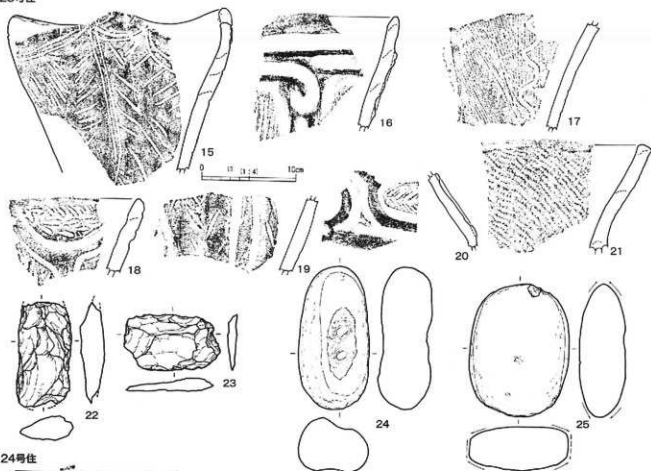


第100图 21~23号住 遺物

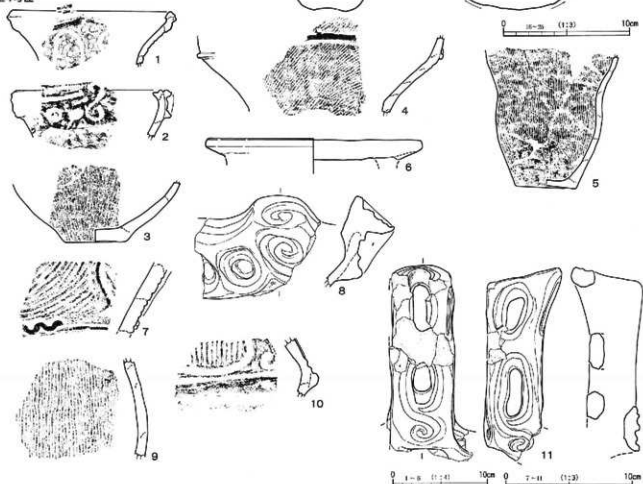


第101图 23号住 遺物

23号住

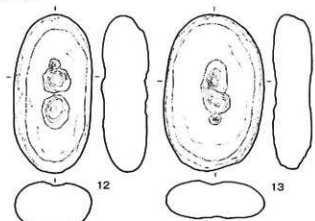


24号住

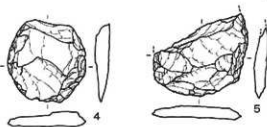
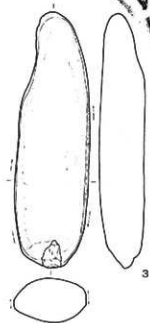


第102图 23・24号住 遺物

24号住

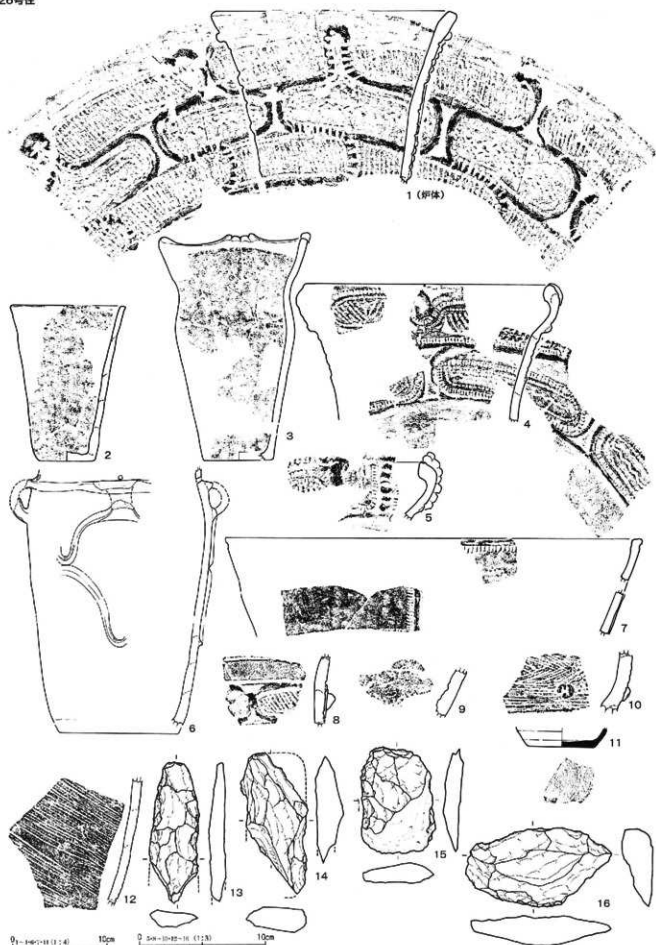


25号住



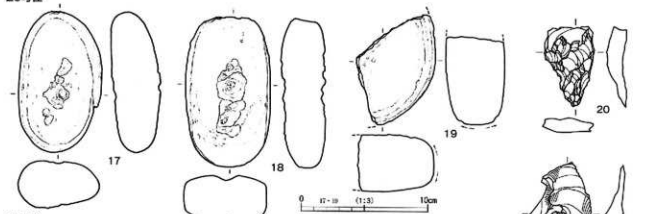
0 1-2 (1:4) 10cm 0 3-5 (1:3) 10cm

第103图 24-25号住 遺物

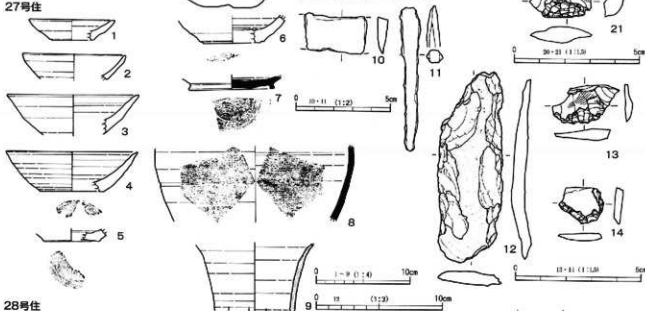


第104图 26号住 遺物

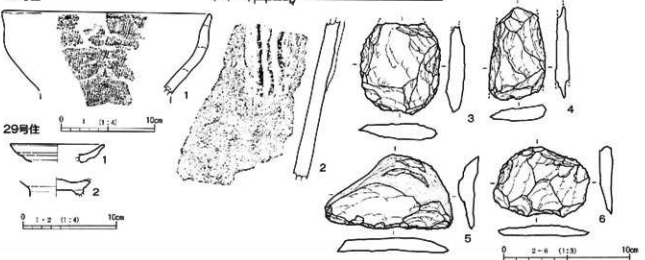
26号住



27号住



28号住



29号住



30号住

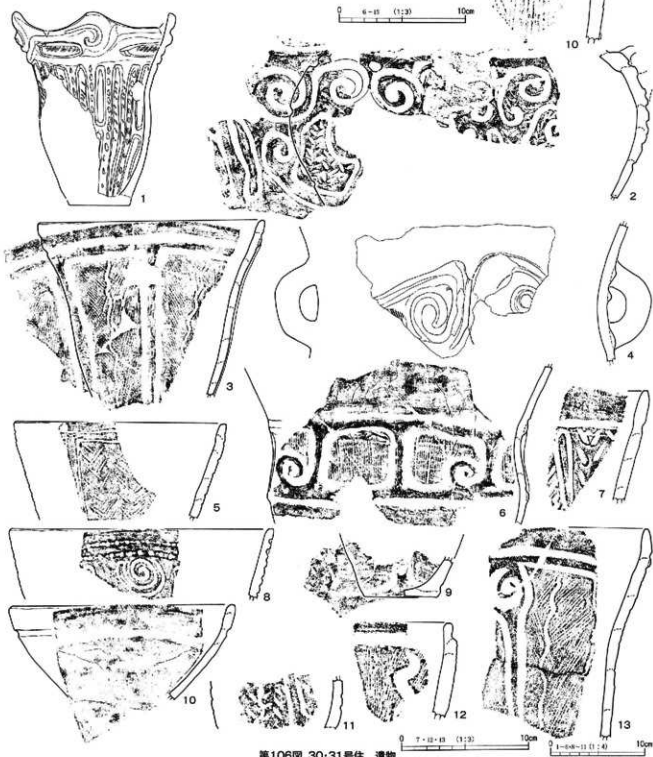


第105図 26~30号住 遺物

30号住

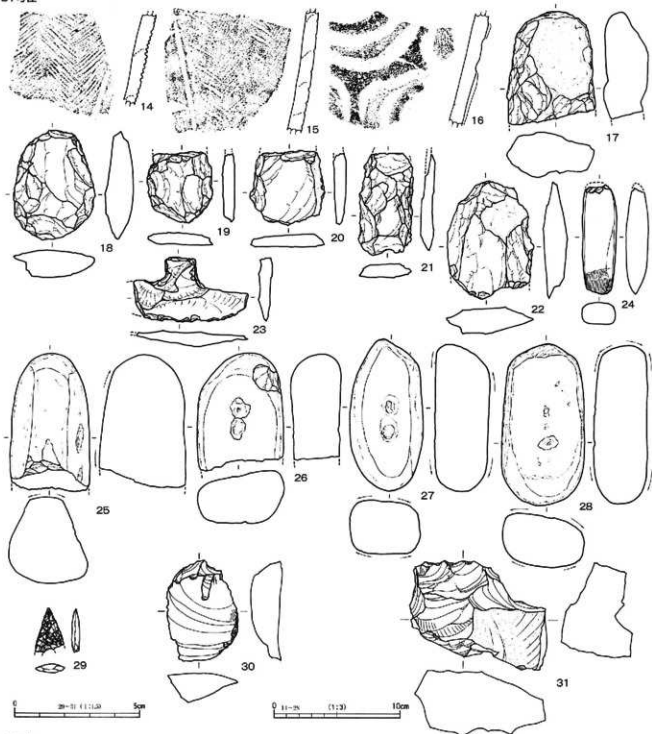


31号住

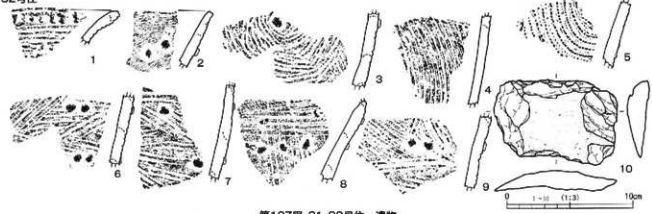


第106图 30-31号住 遺物

31号住

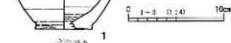
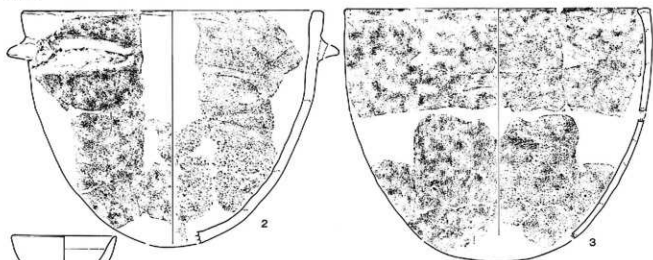


32号住

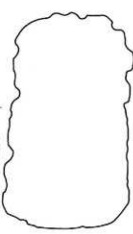
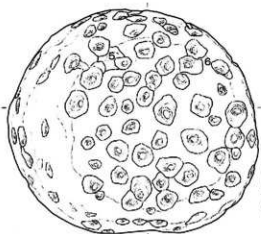
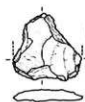


第107图 31-32号住 遺物

33号住

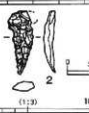


1



5cm

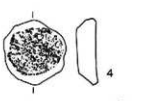
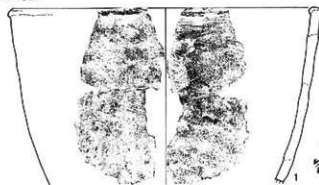
35号住



5cm

10cm

36号住



5cm

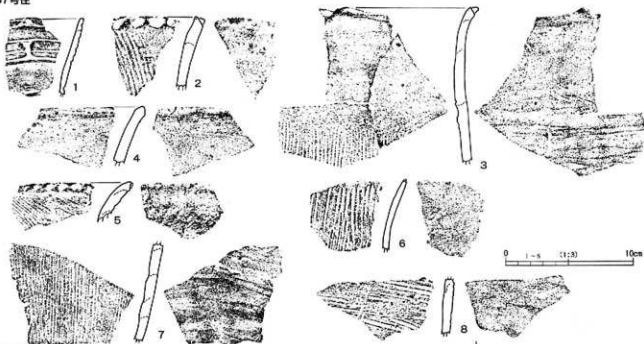


10cm

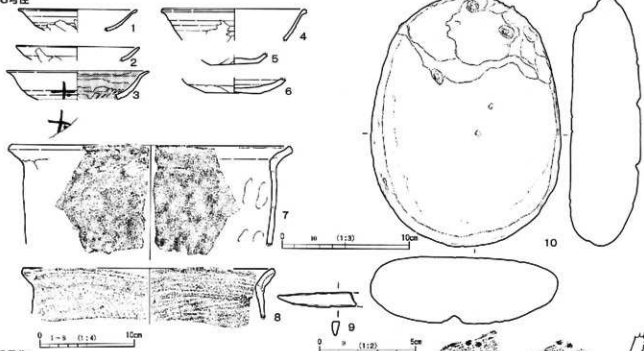
10cm

第108図 33-35-36号住 遺物

37号住



38号住

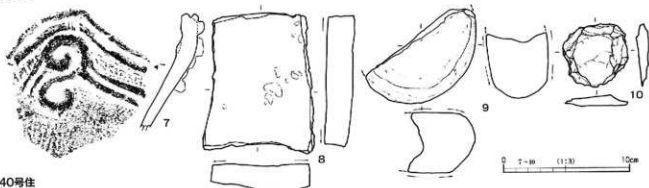


39号住

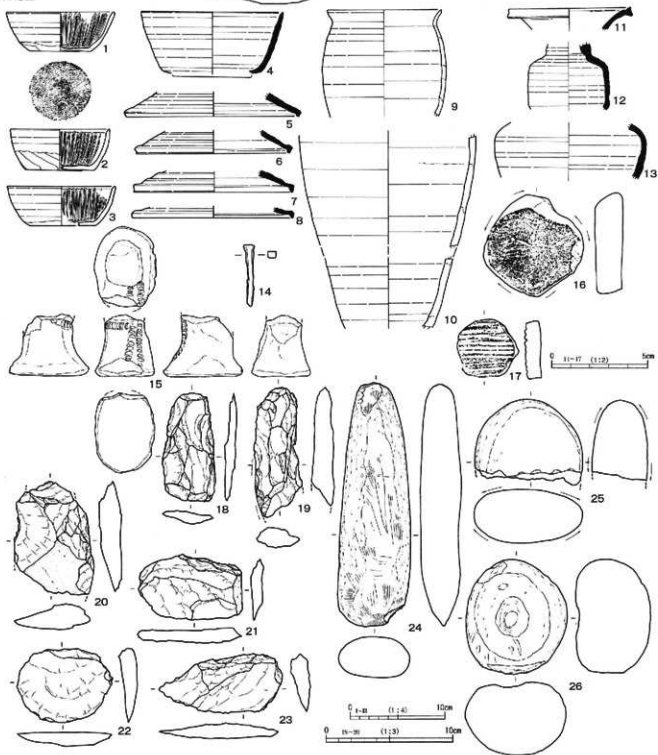


第109回 37~39号住 遺物

39号住

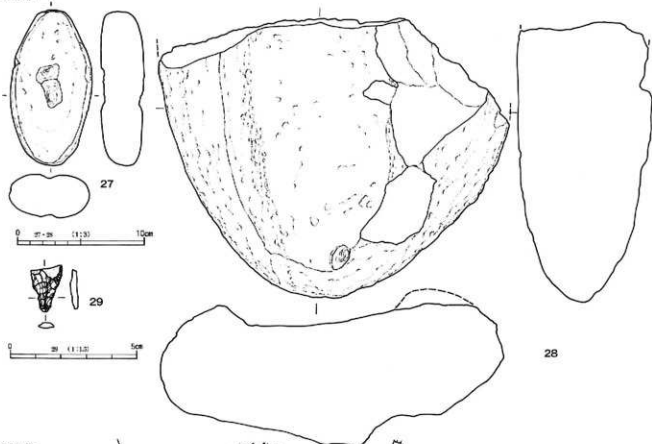


40号住

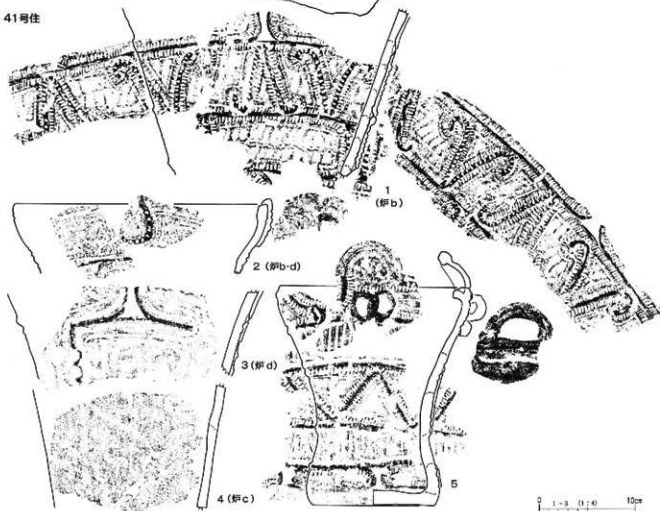


第110图 39-40号住 遺物

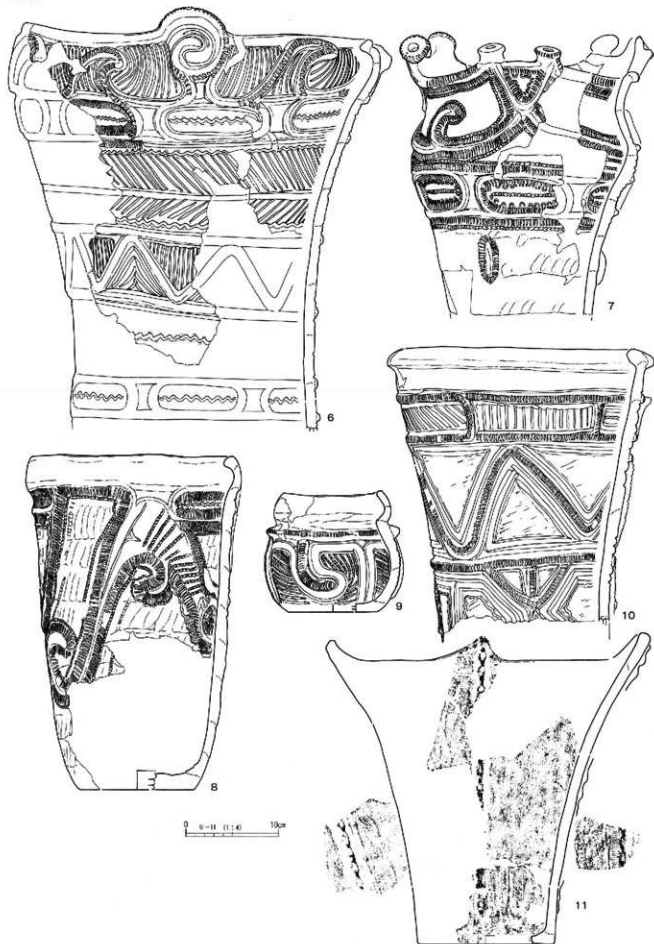
40号住



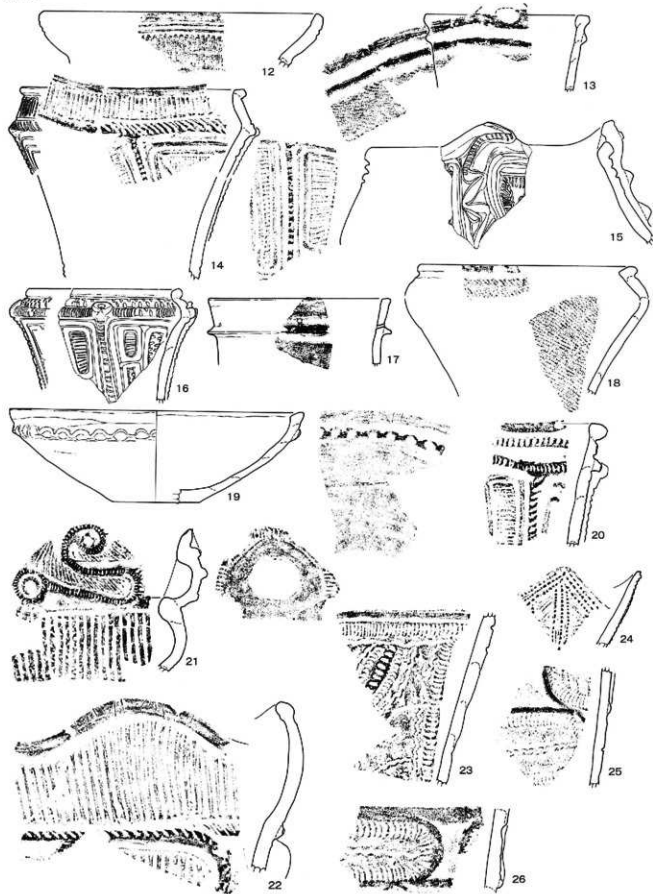
41号住



第111图 40-41号住 遺物



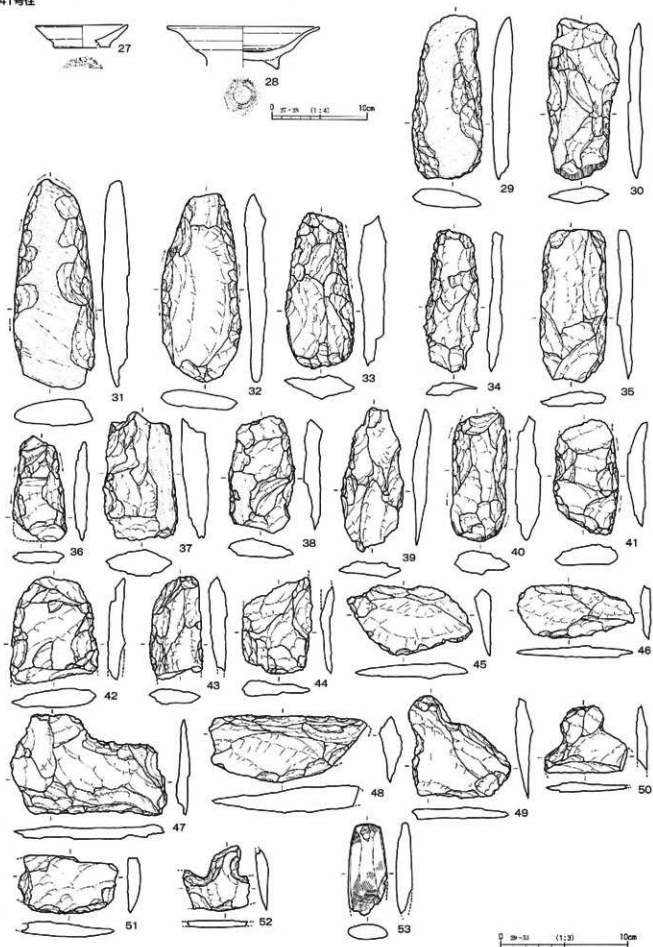
第112图 41号住 遺物



第113图 41号住 遗物

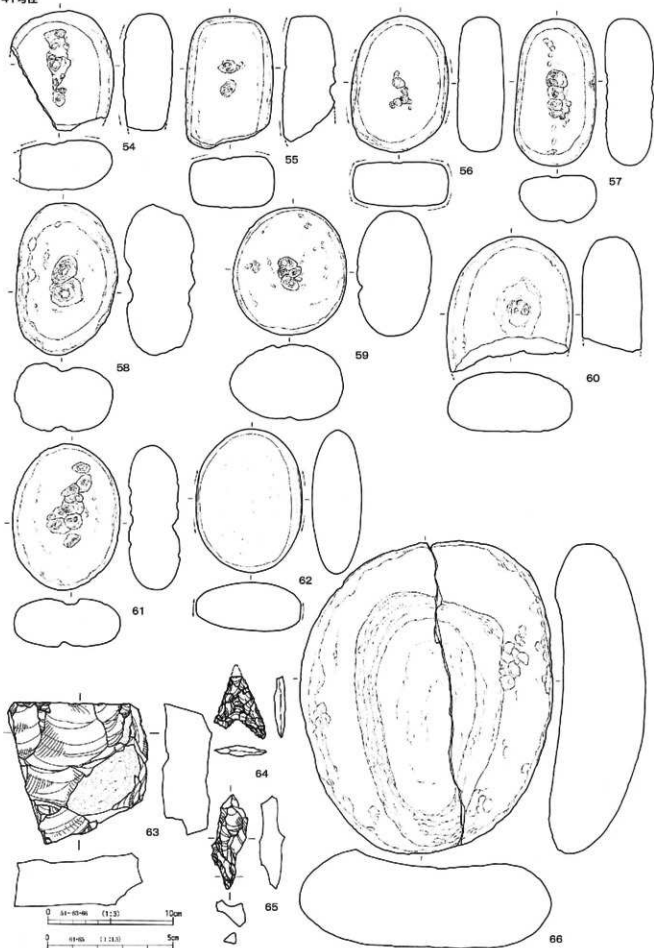
0 10-18 (1:4) 10cm

0 20-36 (1:3) 10cm

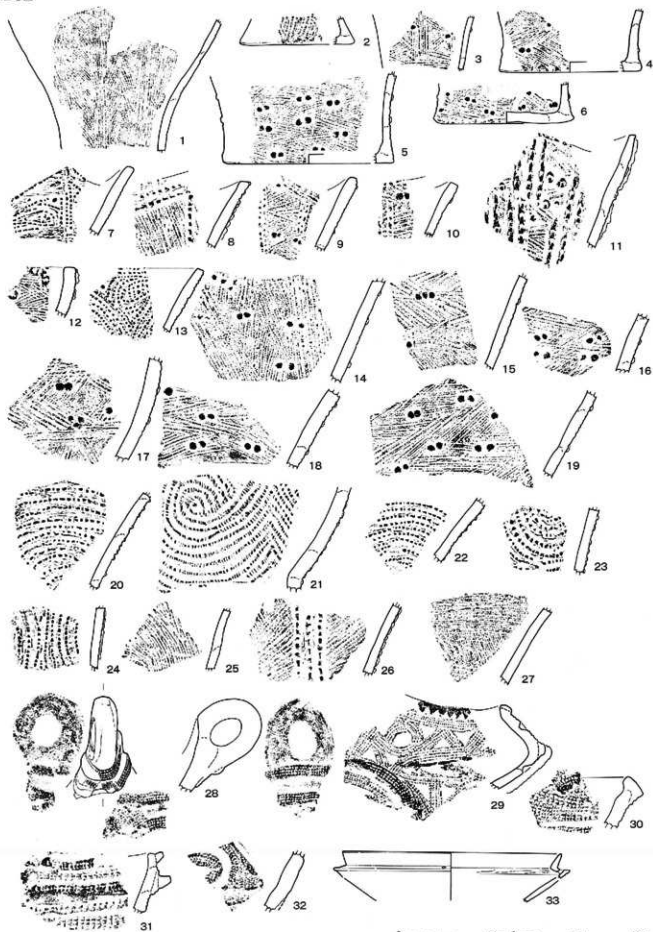


第114图 41号住 遺物

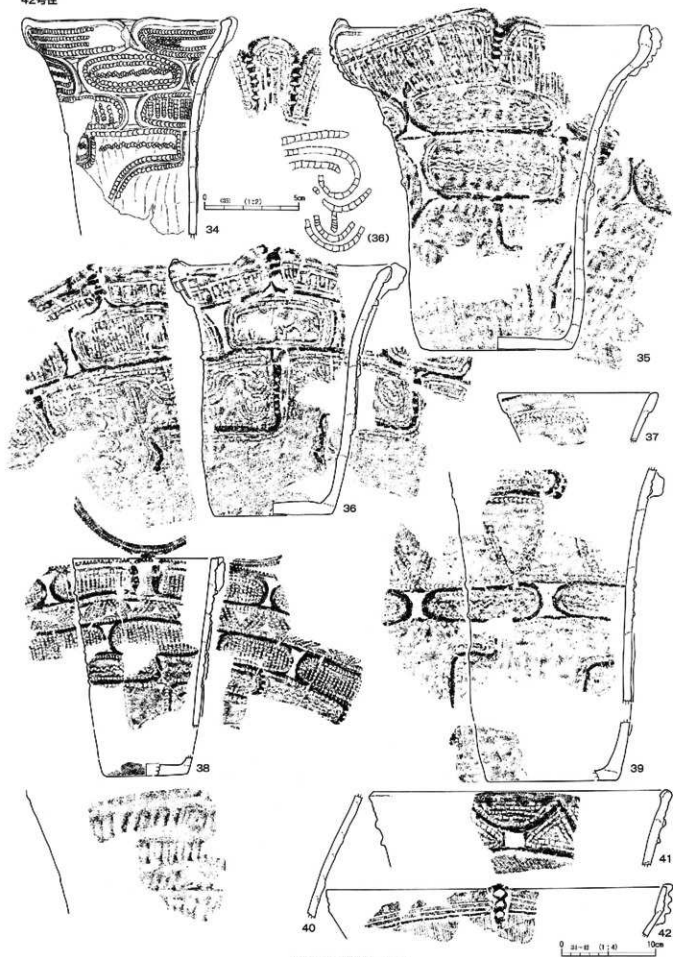
41号住



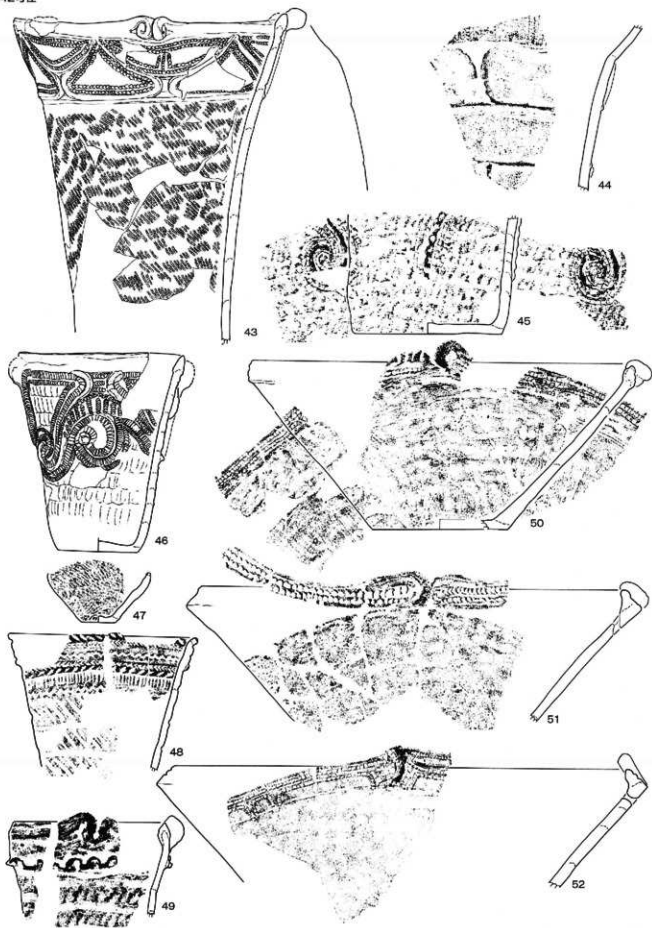
第115图 41号住 遗物



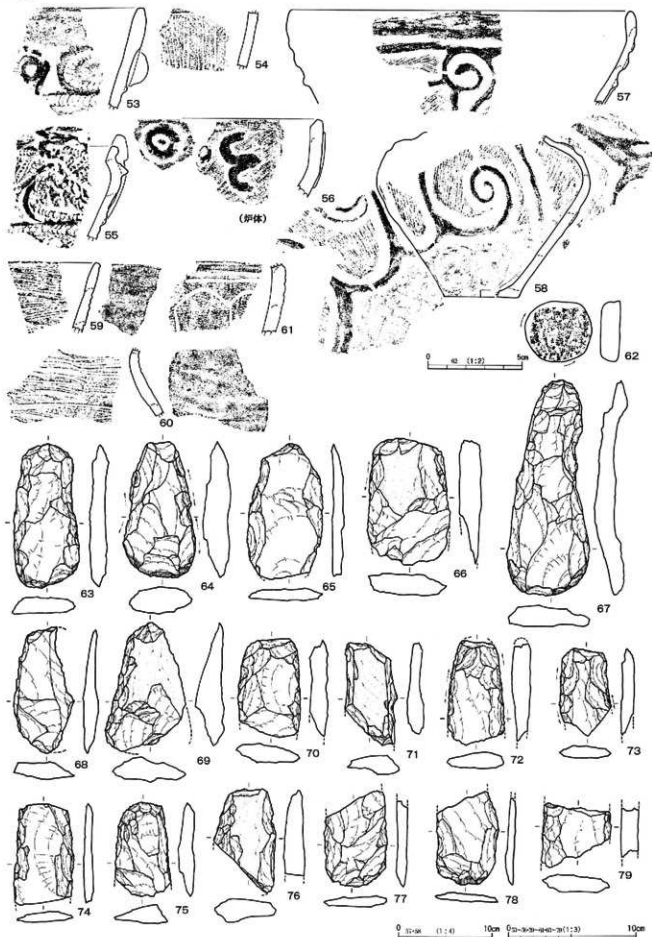
第116图 42号住 遺物



第117图 42号住 遺物

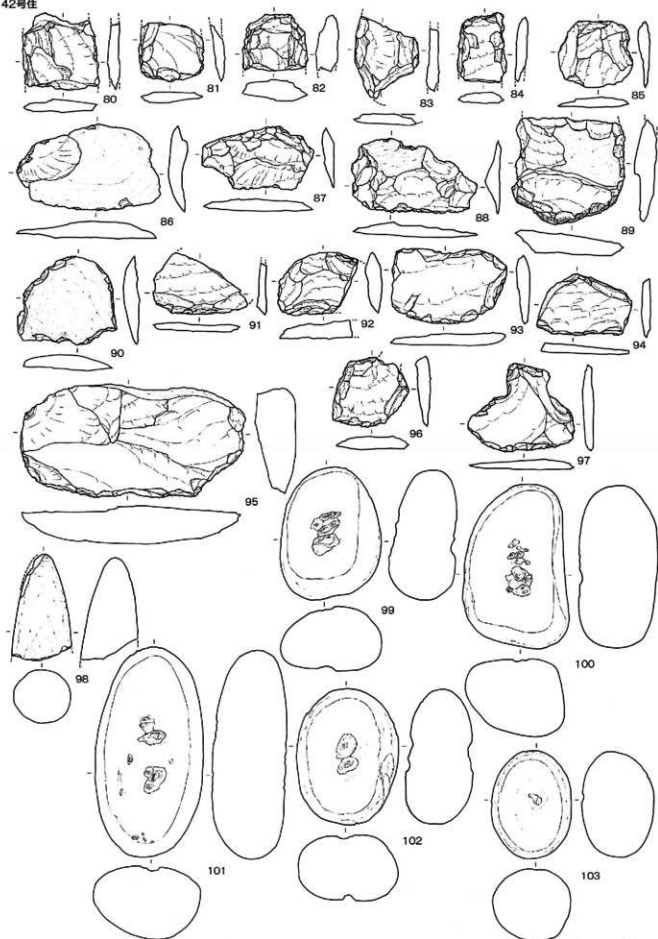


第118图 42号住 遺物

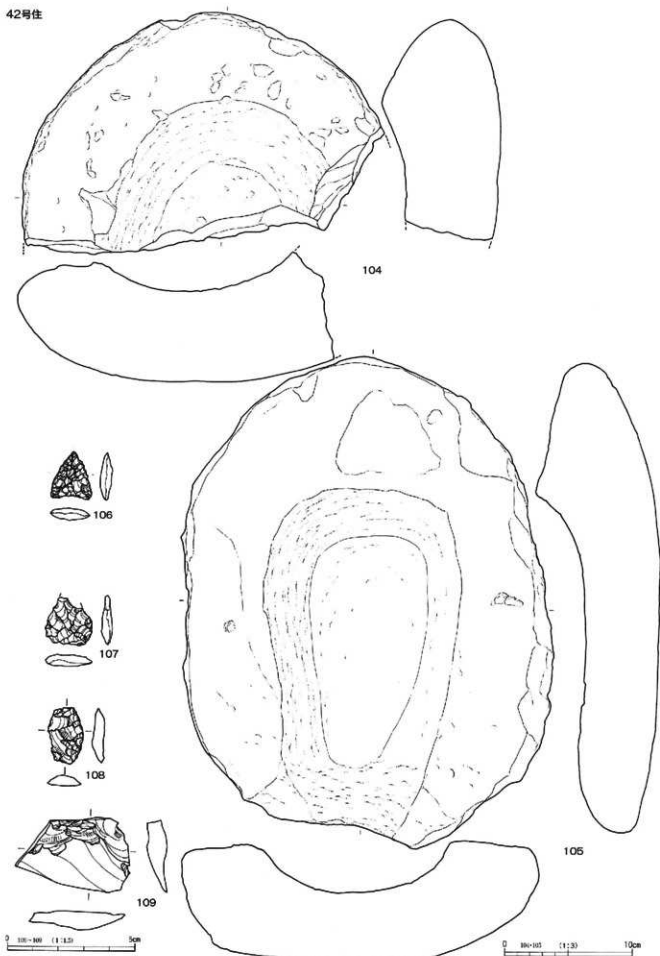


第119图 42号住 遺物

42号住

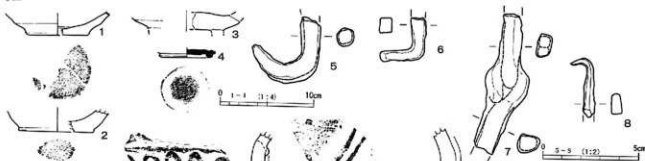


第120图 42号住 遺物



第121图 42号住 遺物

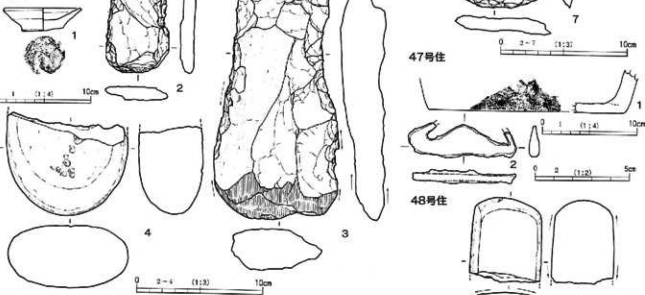
44号住



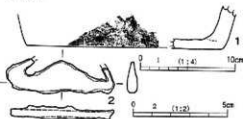
45号住



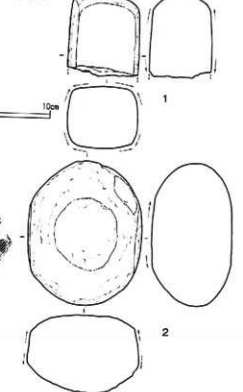
46号住



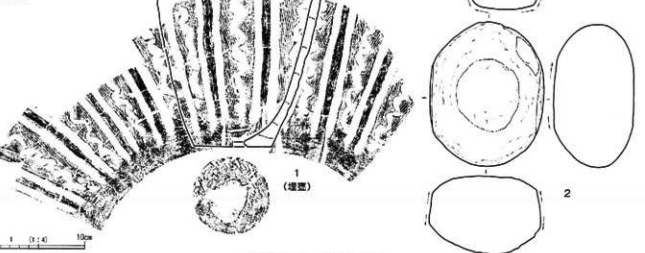
47号住



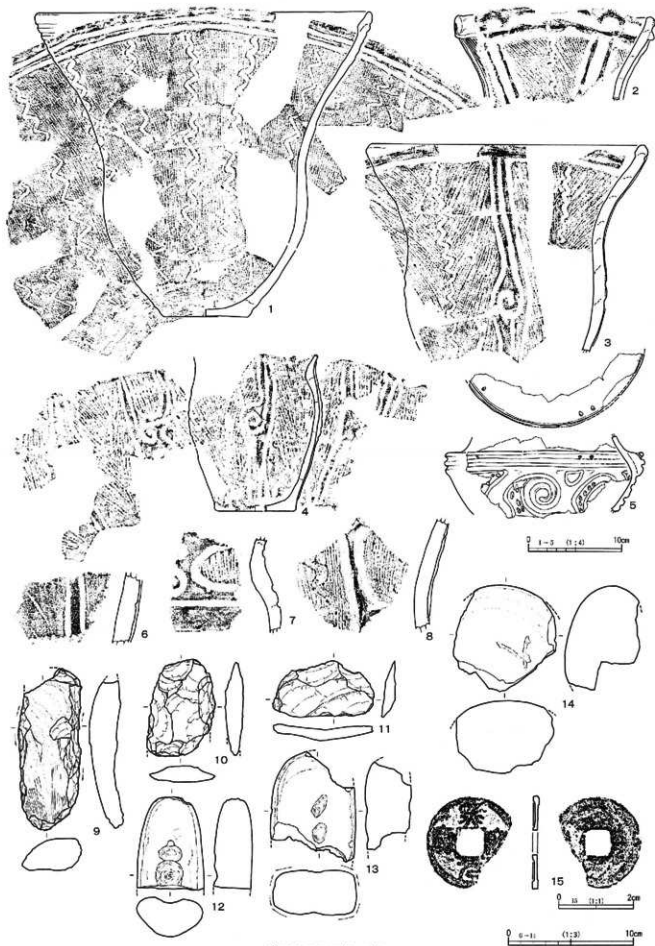
48号住



49号住

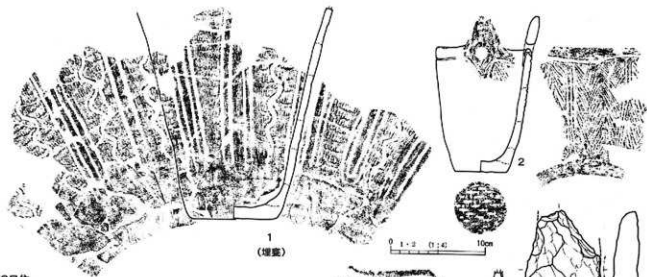


第122图 44~49号住 遺物

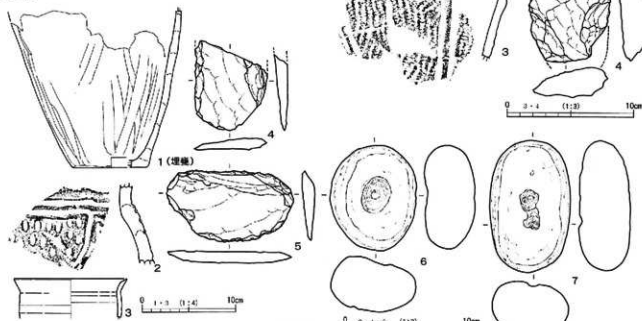


第123图 50号住 遺物

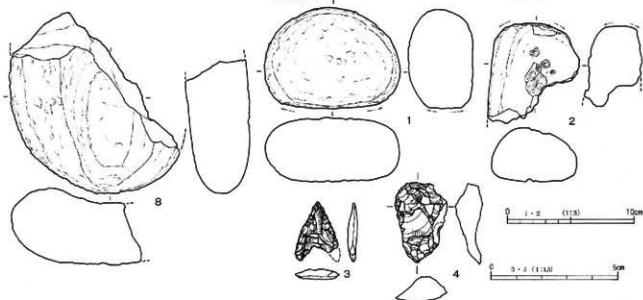
51号住



52号住



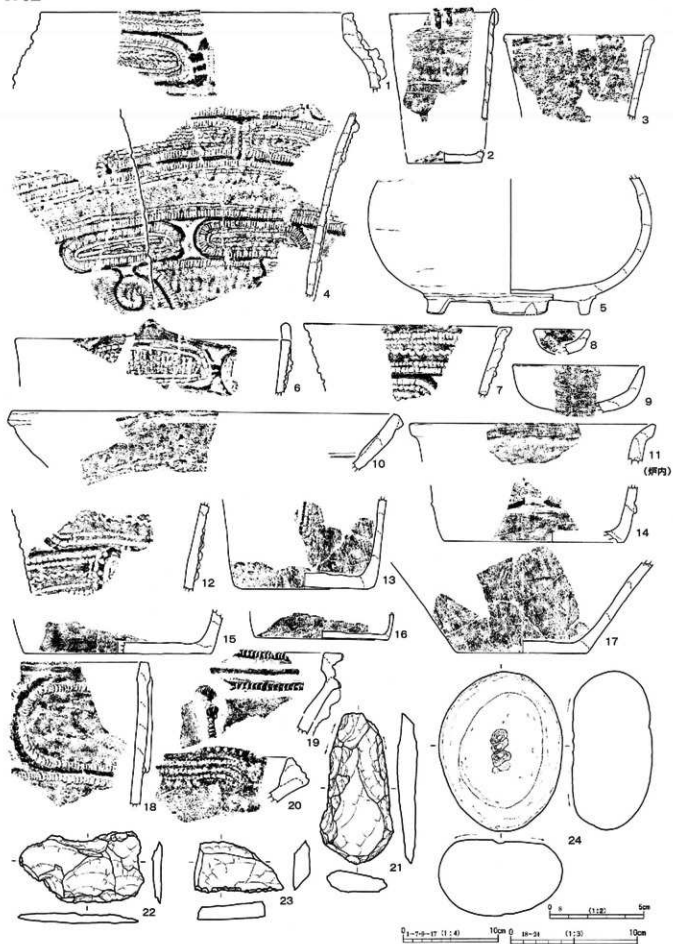
54号住



第124图 51-52-54号住 遗物

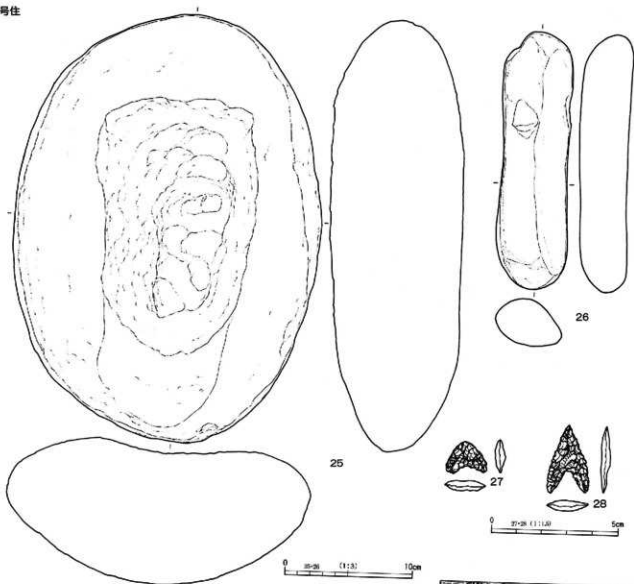


第125图 55号住 遺物

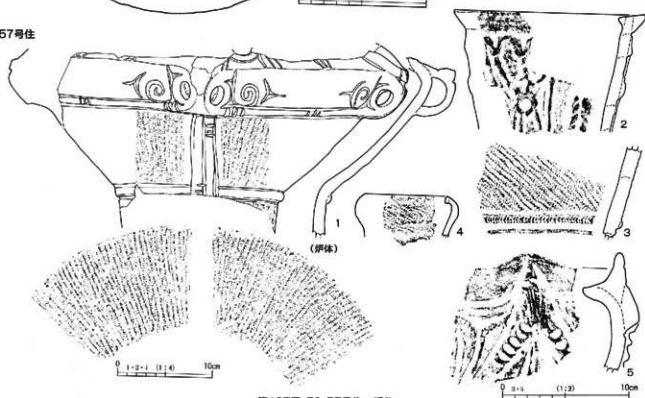


第126图 56号住 遺物

56号住

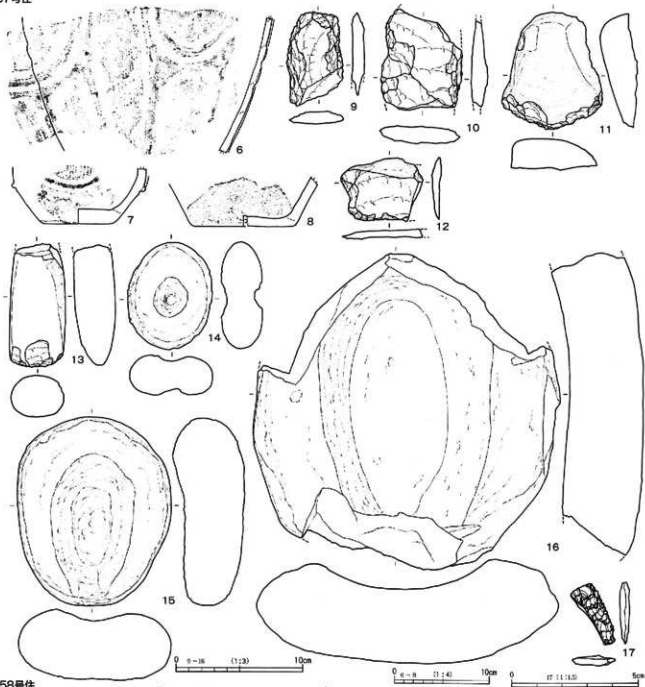


57号住

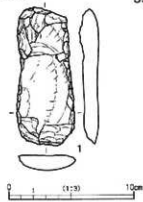


第127图 56-57号住 遺物

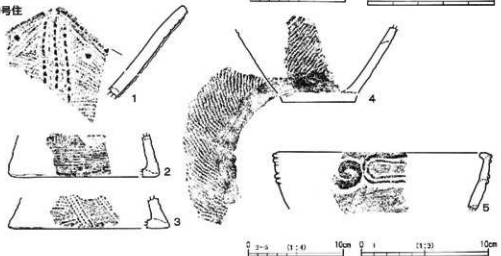
57号住



58号住

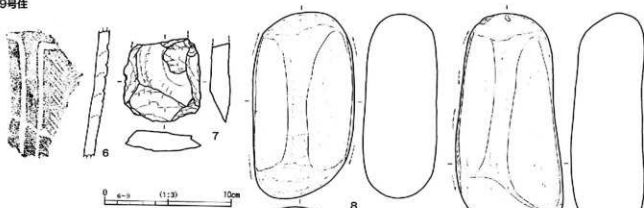


59号住



第128图 57-58-59号住 遗物

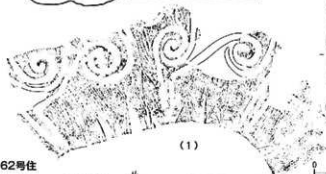
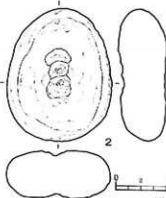
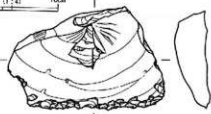
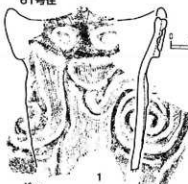
59号住



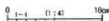
60号住



61号住

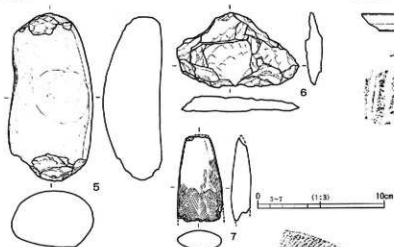


62号住

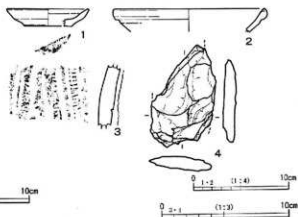


第129图 59~62号住 遺物

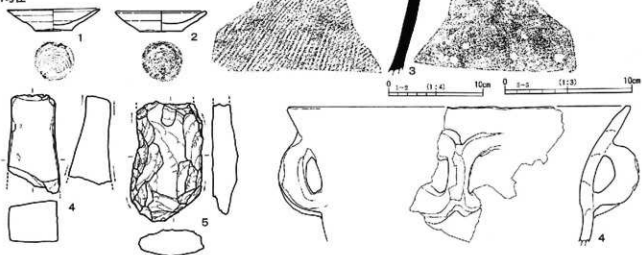
62号住



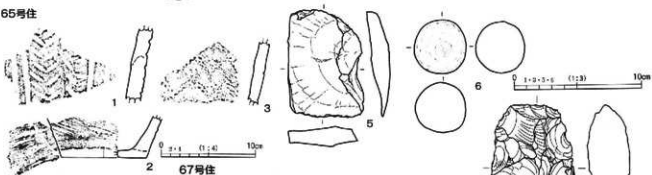
63号住



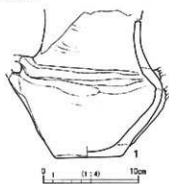
64号住



65号住



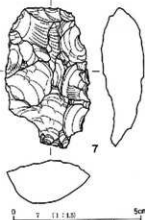
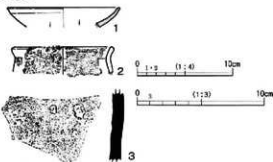
66号住



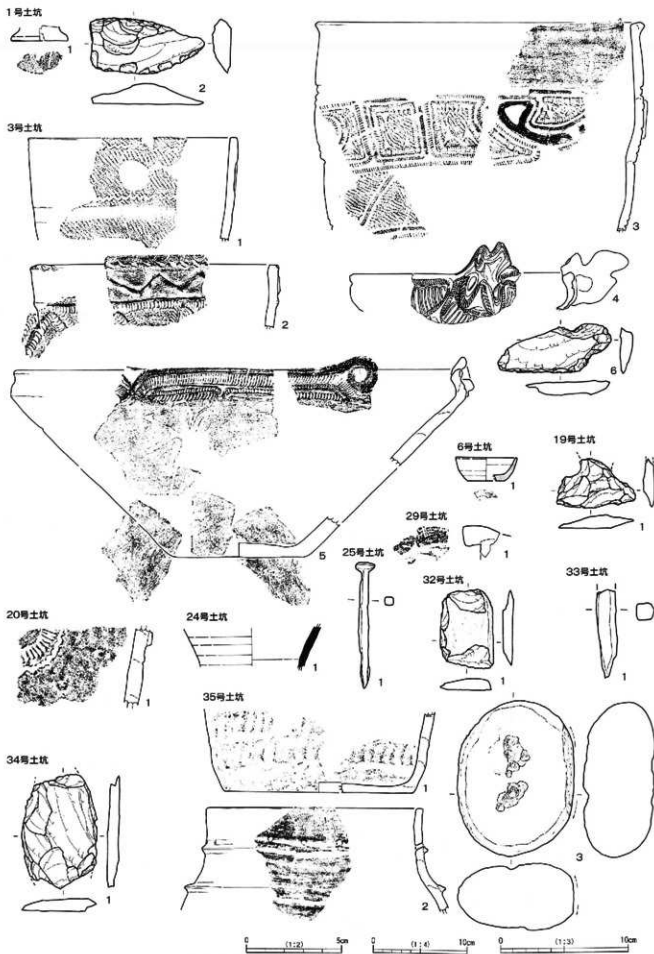
67号住



68号住

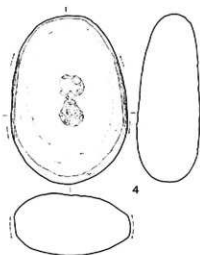


第130图 62~68号住 遺物

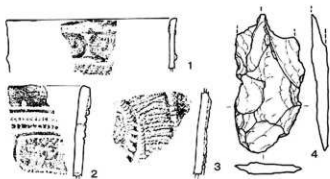


第131图 1·3·6·19·20·24·25·29·32~35号土坑 遗物

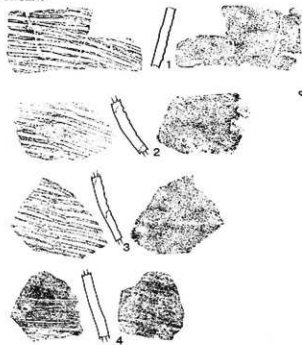
35号土坑



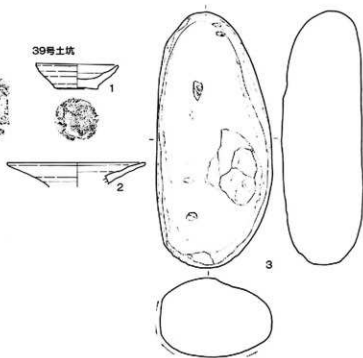
38号土坑



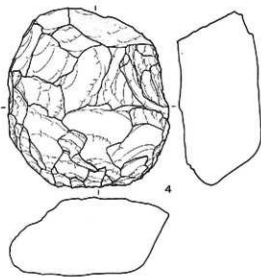
37号土坑



39号土坑

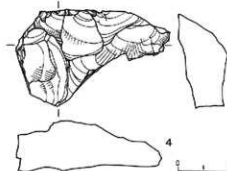
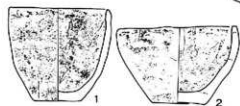


40号土坑



第132图 35·37·39·40号土坑 遗物

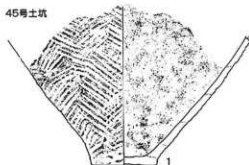
42号土坑



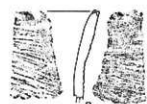
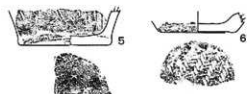
44号土坑



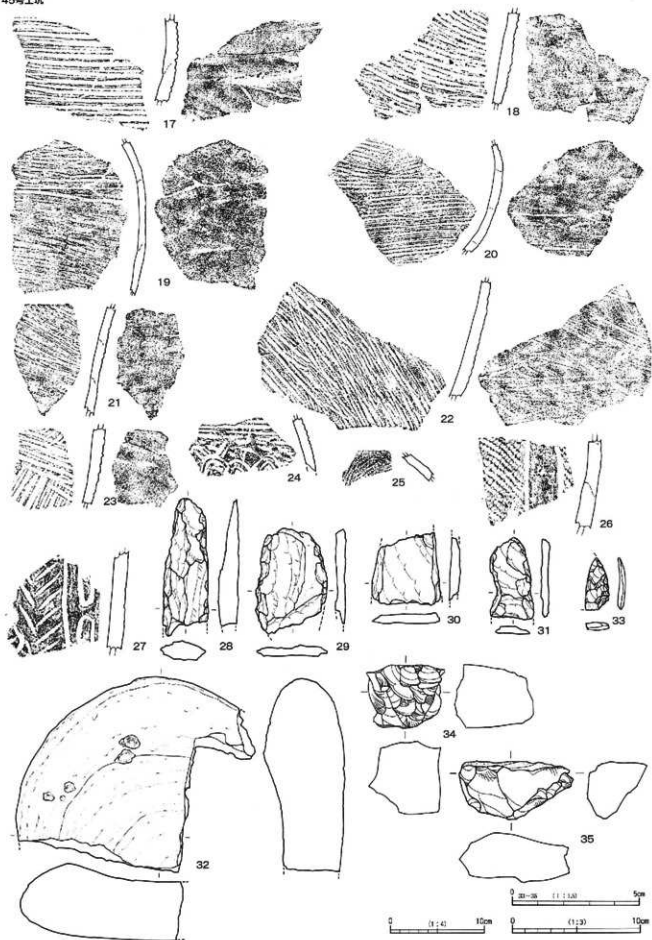
45号土坑



45号土坑

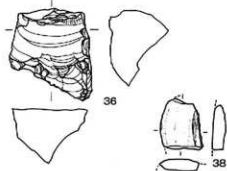


第133图 42-44-45号土坑 遗物

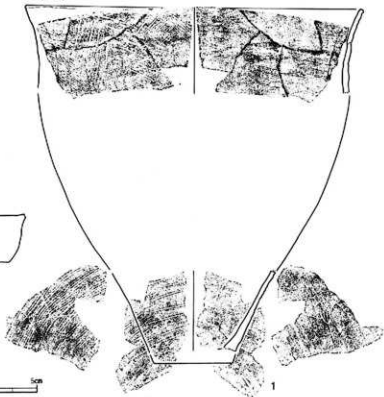


第134图 45号土坑 遗物

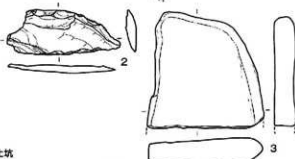
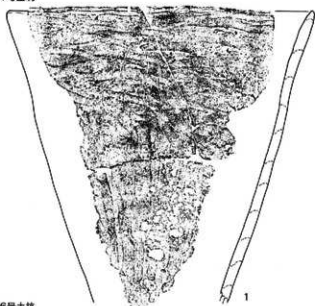
45号土坑



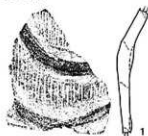
47号土坑



51号土坑



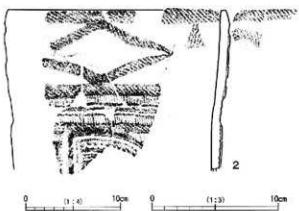
53号土坑



54号土坑

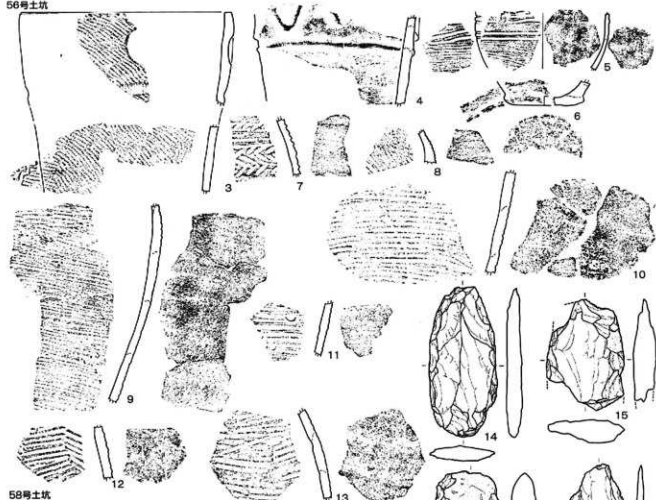


56号土坑

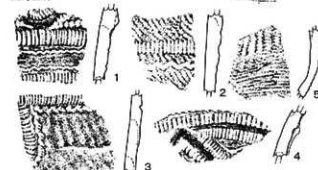


第135图 45·47·51·53·54·56号土坑 遺物

56号土坑



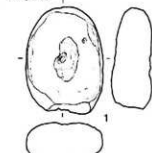
58号土坑



59号土坑



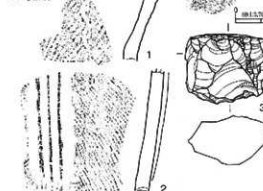
60号土坑



63号土坑



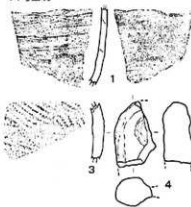
69号土坑



70号土坑

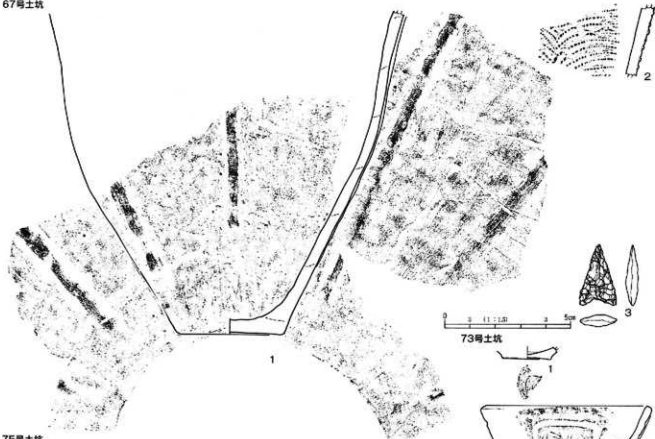


71号土坑

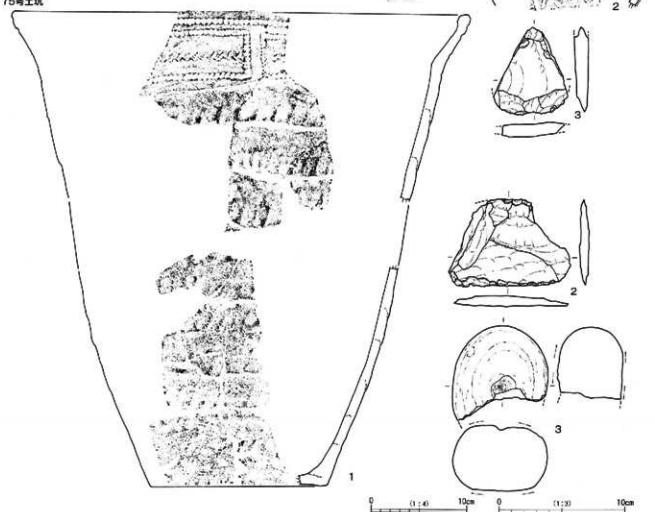


第136图 56-58~60-63-69~71号土坑 遗物

67号土坑

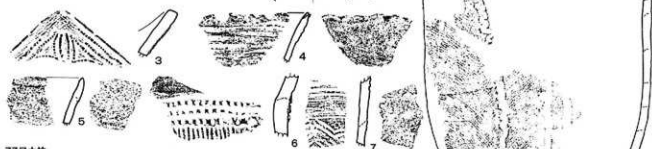
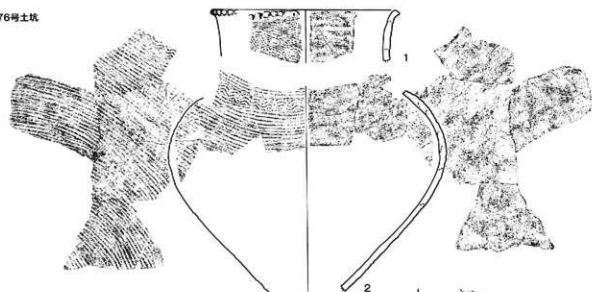


75号土坑



第137图 67-73-75号土坑 遺物

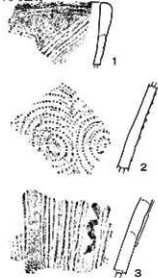
76号土坑



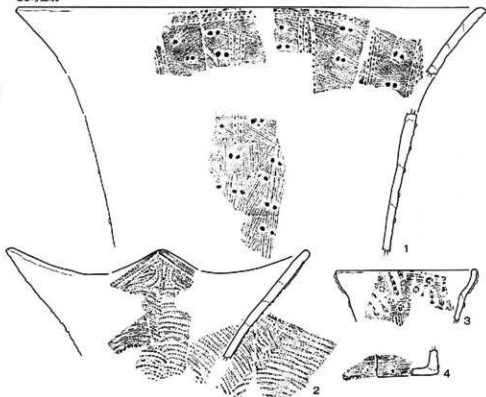
77号土坑



79号土坑



80号土坑

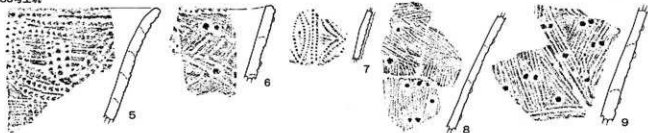


0 1:40 10cm

0 1:30 10cm

第138图 76-77-79-80号土坑 遗物

80号土坑



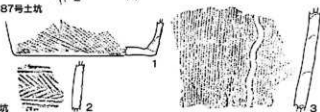
82号土坑



83号土坑



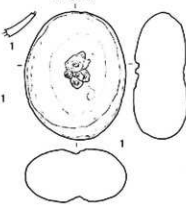
87号土坑



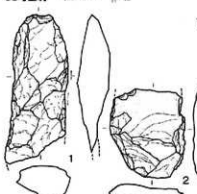
89号土坑



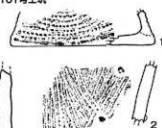
91号土坑



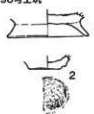
93号土坑



101号土坑



90号土坑



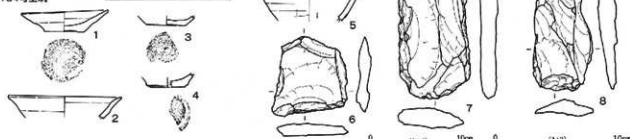
99号土坑



100号土坑

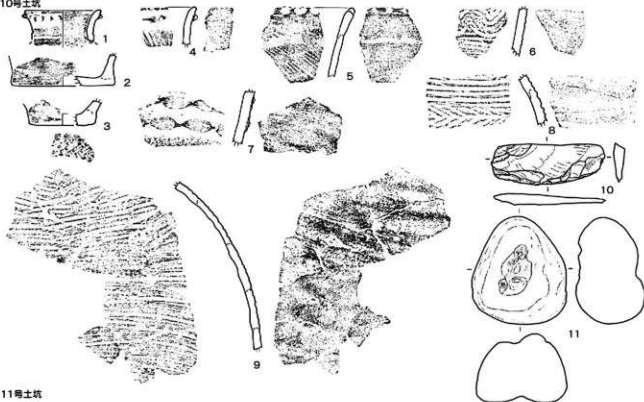


104号土坑

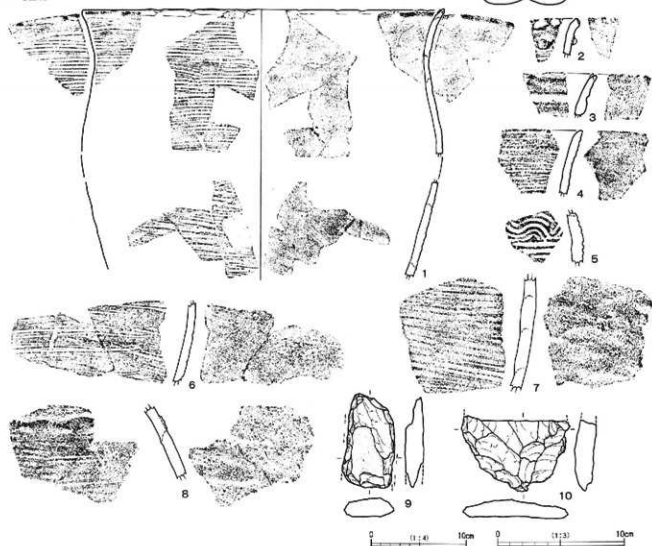


第139图 80-82-83-87-89-91-93-99~101-104号土坑 遗物

110号土坑

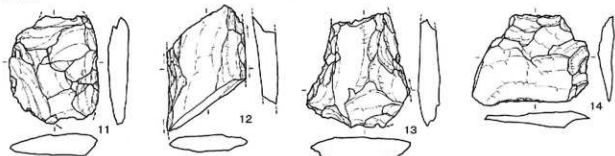


111号土坑

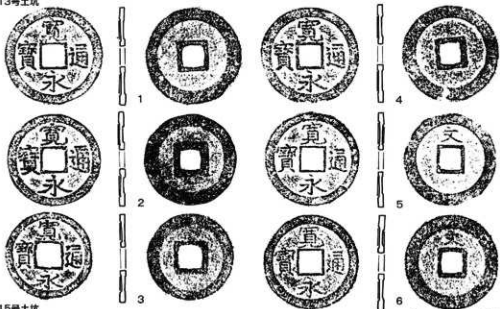


第140图 110-111号土坑 遗物

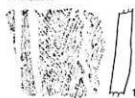
111号土坑



113号土坑



116号土坑



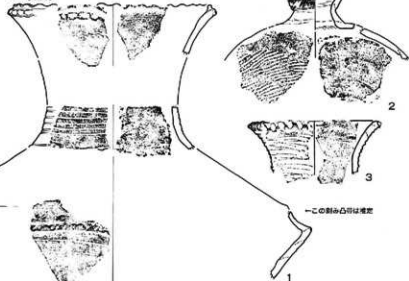
115号土坑



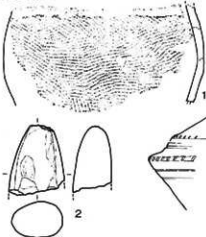
118号土坑



123号土坑

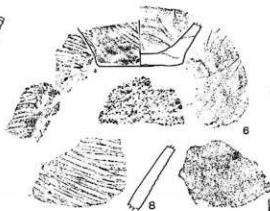
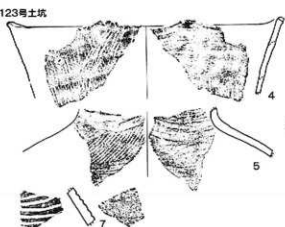


121号土坑

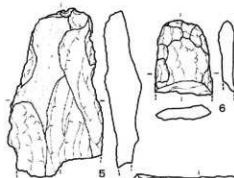
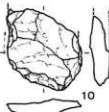


第141图 111·113·115·116·118·121·123号土坑 遗物

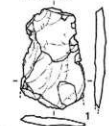
123号土坑



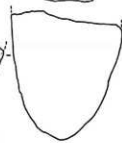
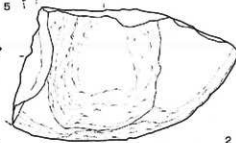
124号土坑



125号土坑



127号土坑

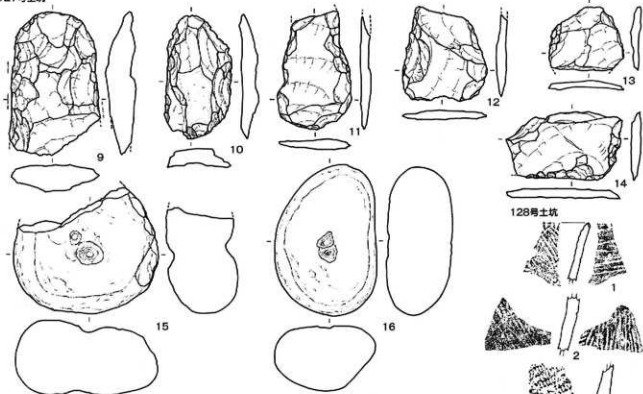


0 10cm (1:4)

0 10cm (1:3)

第142图 123~125·127号土坑 遺物

127号土坑



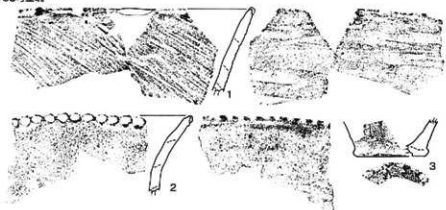
136号土坑



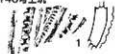
137号土坑



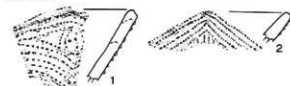
138号土坑



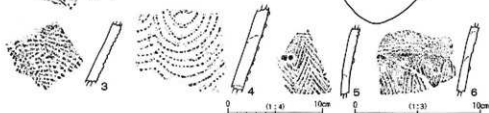
140号土坑



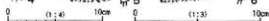
146号土坑



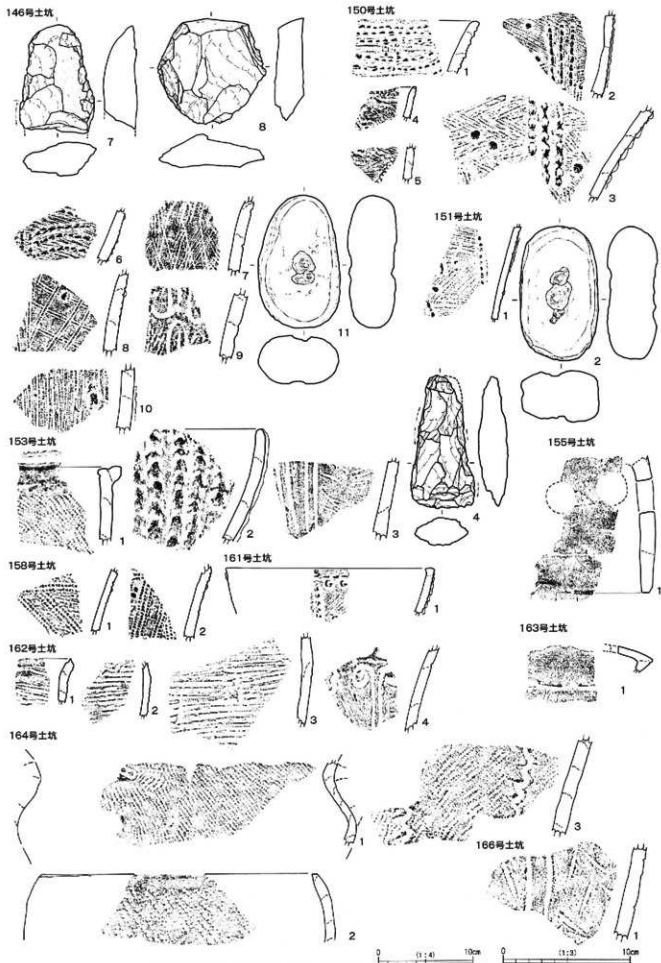
143号土坑



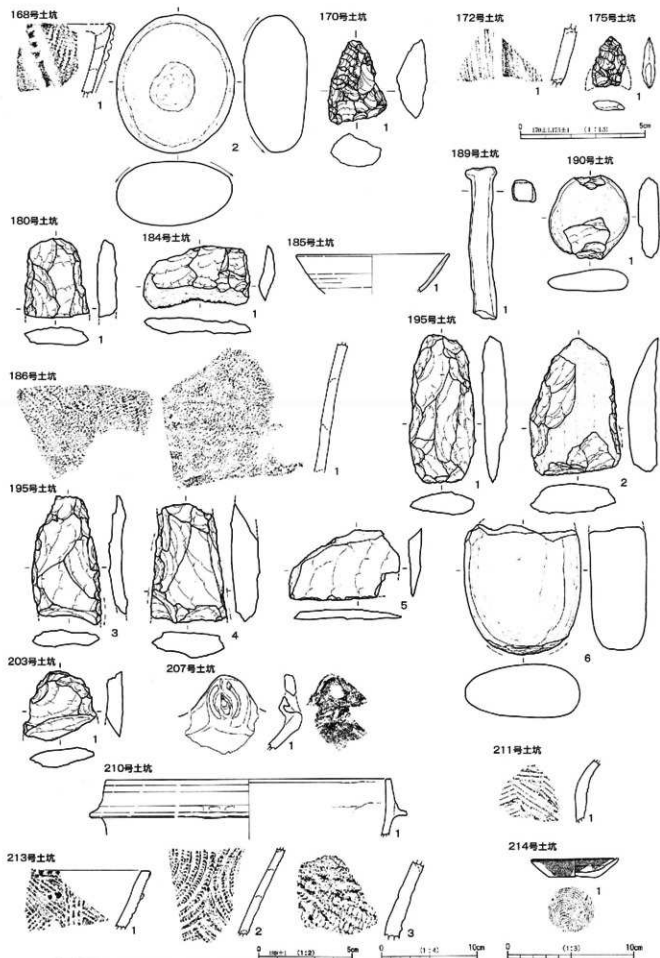
142号土坑



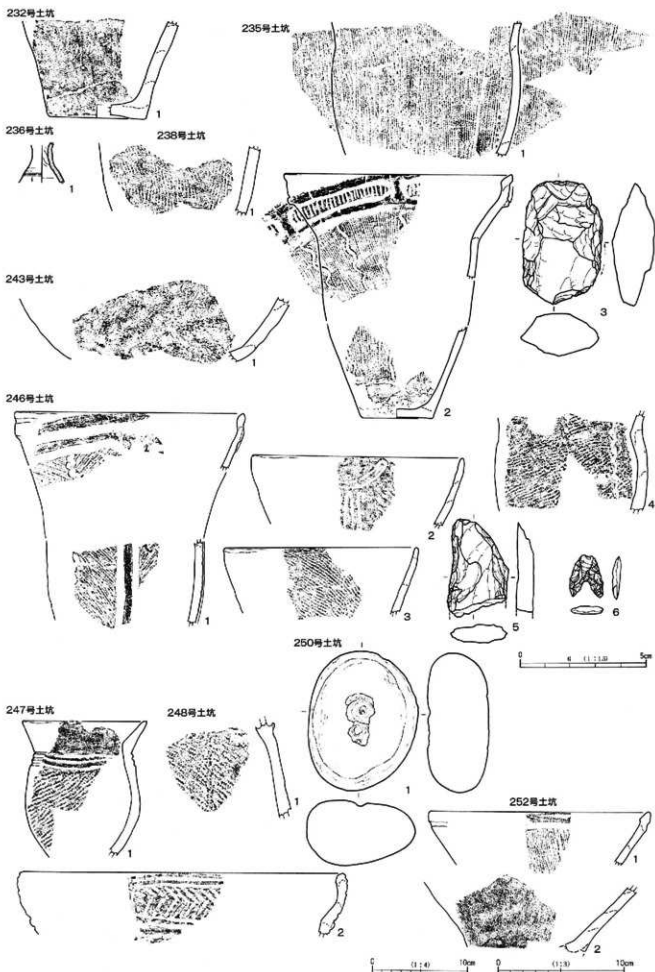
第143图 127·128·136~138·140·142·143·146号土坑 遺物



第144图 146·150·151·153·155·158·161~164·166号土坑 遗物

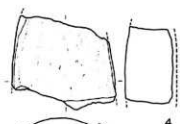


第145图 168·170·172·175·180·184~186·189·190·195·203·207·210·211·213·214号土坑 遗物



第147图 232·235·236·238·243·246~248·250·252号土坑 遗物

252号土坑



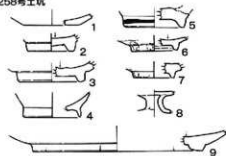
254号土坑



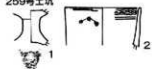
253号土坑



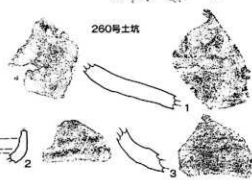
258号土坑



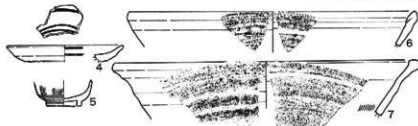
259号土坑



260号土坑

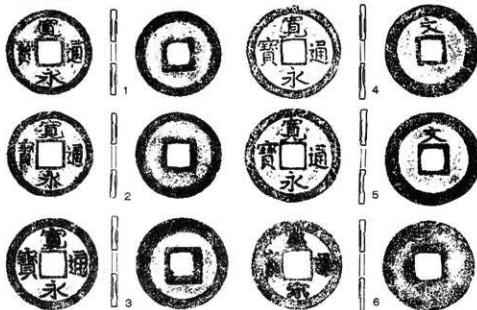


264号土坑



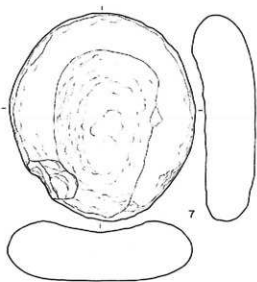
268号土坑

267号土坑

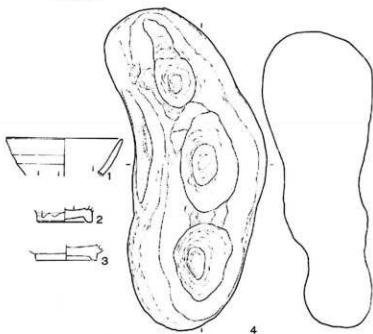


第148图 252~254·258~260·264·267·268号土坑 遗物

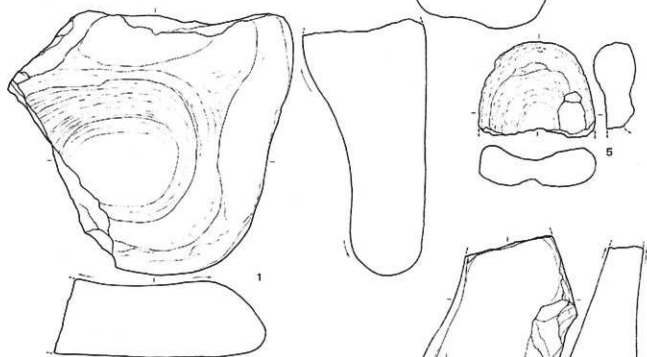
268号土坑



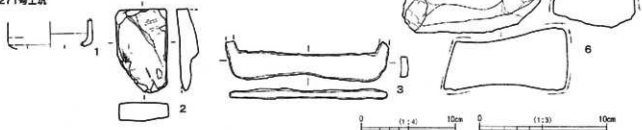
270号土坑



269号土坑

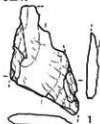


271号土坑

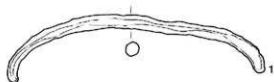


第149图 268~271号土坑 遗物

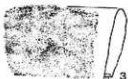
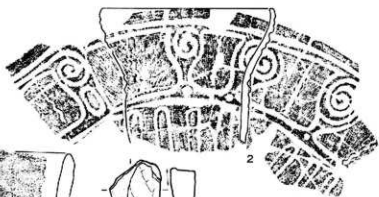
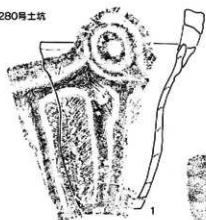
276号土坑



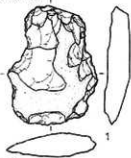
279号土坑



280号土坑



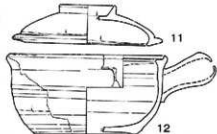
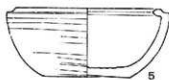
283号土坑



284号土坑



方形集石



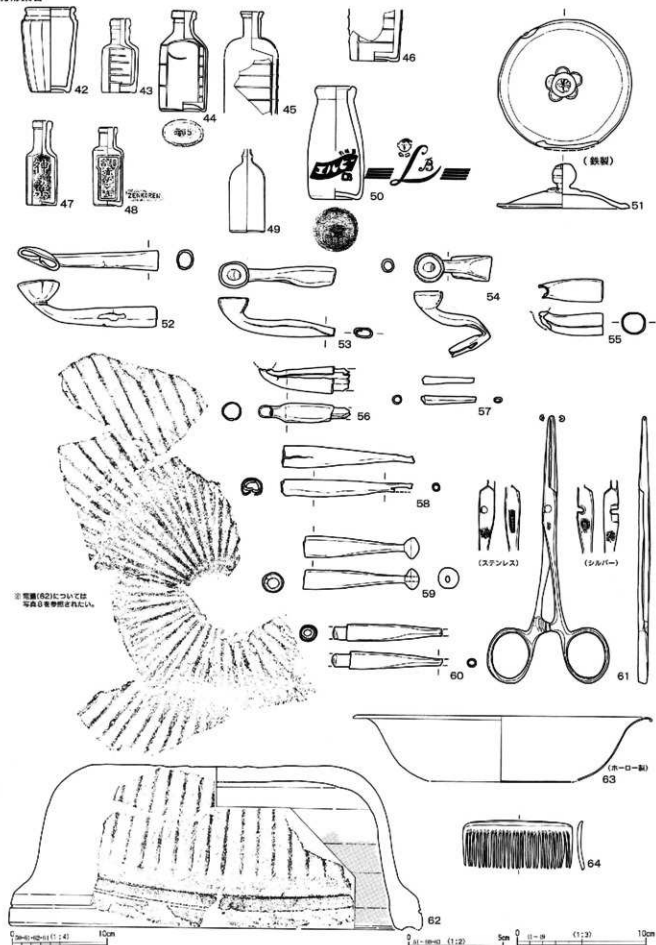
第150图 276·279·280·283·284号土坑·方形集石·遗物

方形集石

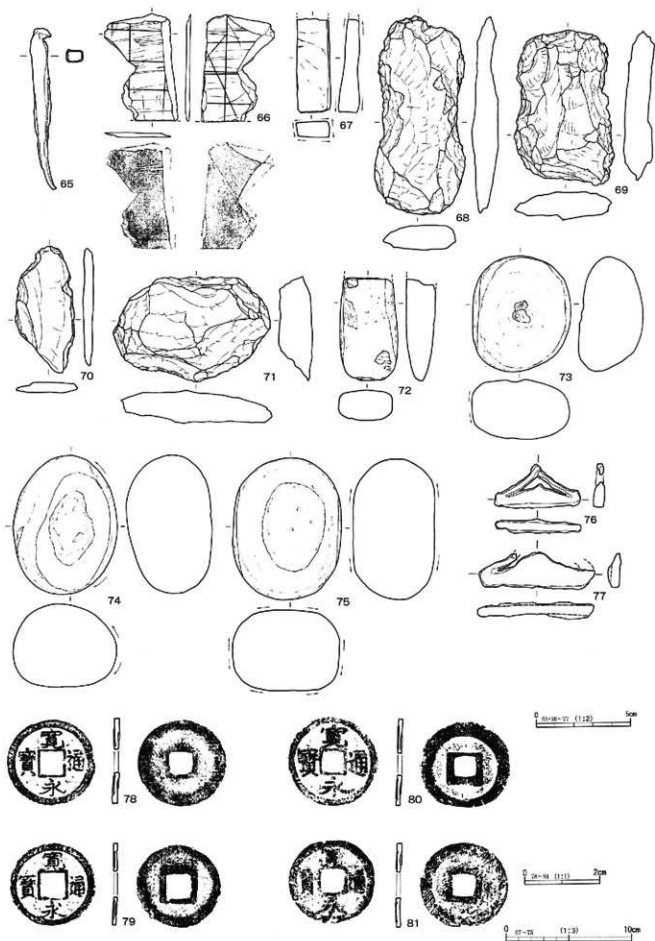


第151图 方形集石 遺物

方形集石



第152図 方形集石 遺物

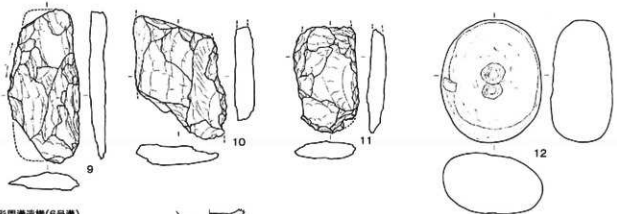
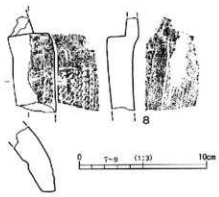
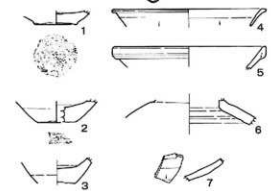


第153图 方形穿孔石 遗物

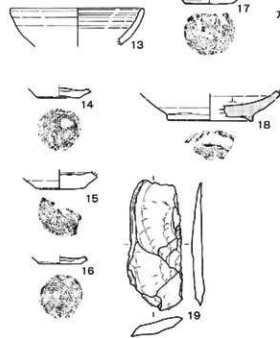
方形集石



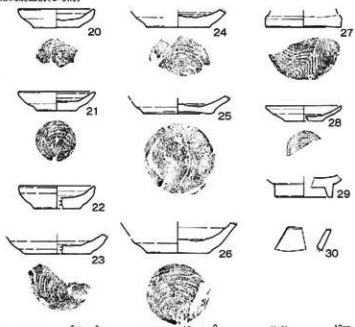
方形陶器遺構(2号溝)



方形陶器遺構(6号溝)

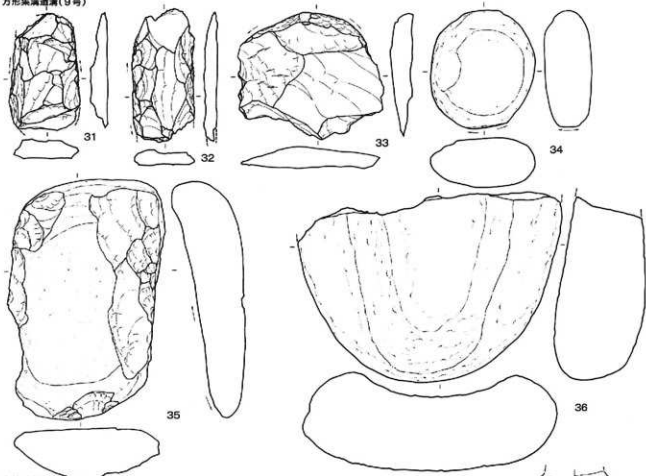


方形陶器遺構(9号溝)

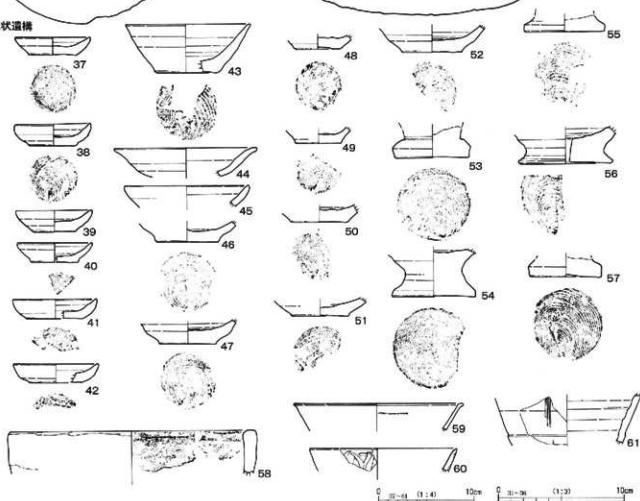


第154図 方形集石・2・6・9号溝 遺物

方形集溝遺溝(9号)



池状遺構

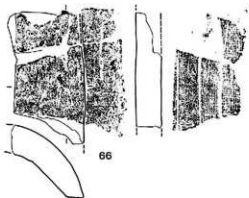
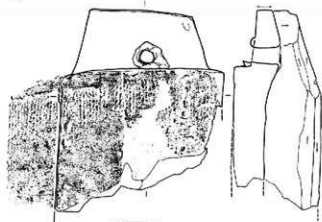


0 10cm (1:4)

0 10cm (1:3)

第155图 9号溝・池状遺構 遺物

池伏遺構

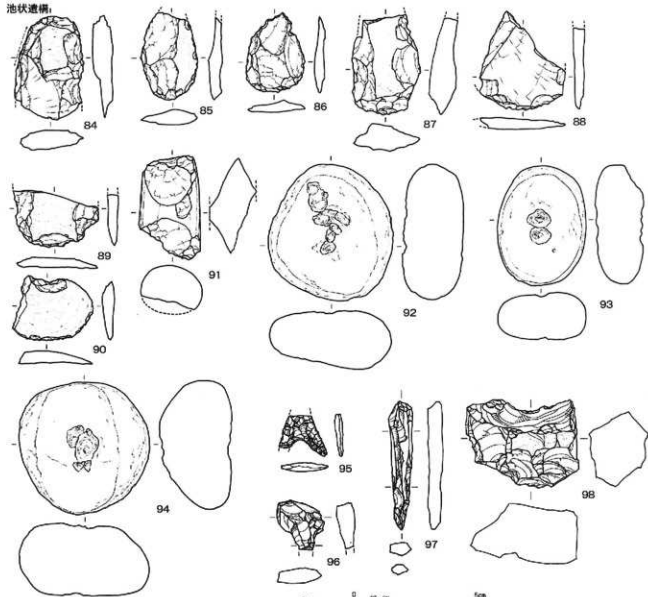


0 5 10 cm (1:3)

0 5 10 cm (1:3)

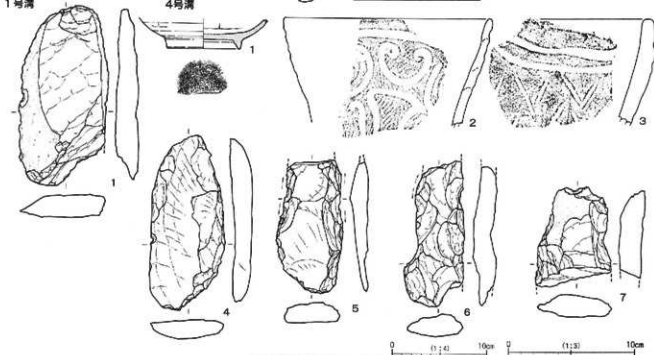
第156図 池伏遺構 遺物

池状遺構



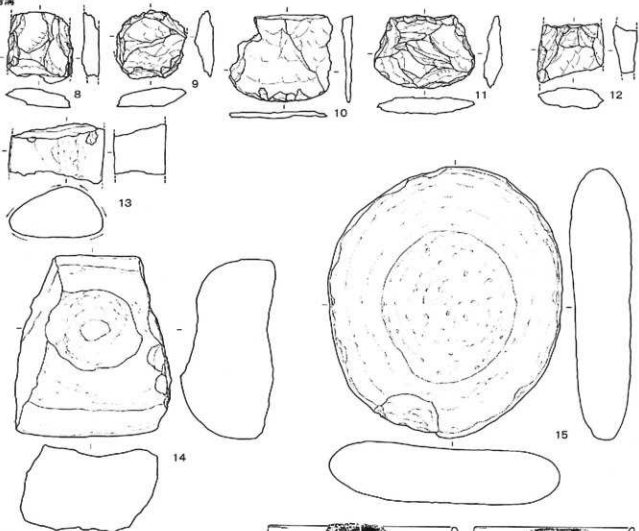
1号溝

4号溝

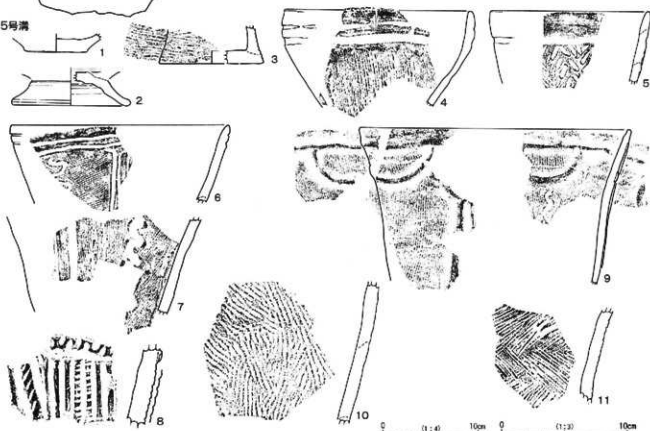


第157图 池状遺構・1-4号溝 遺物

4号溝

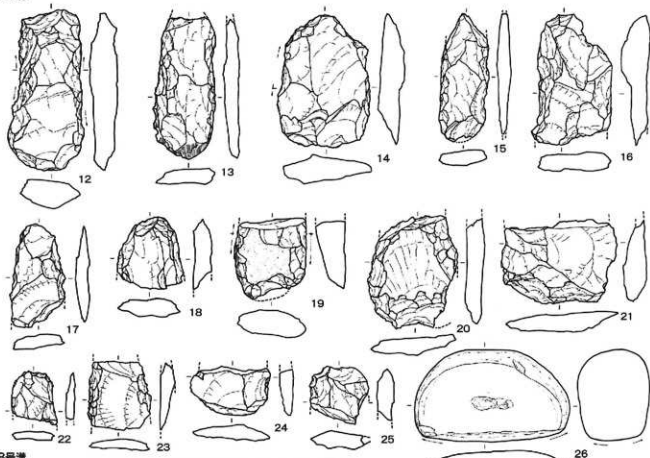


5号溝

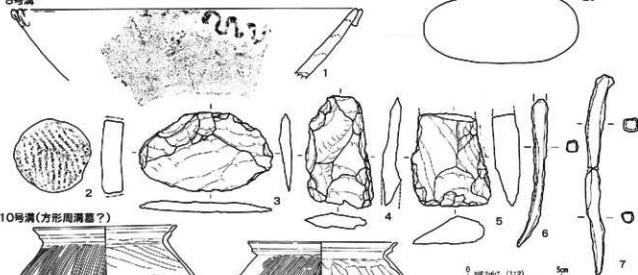


第158図 4・5号溝 遺物

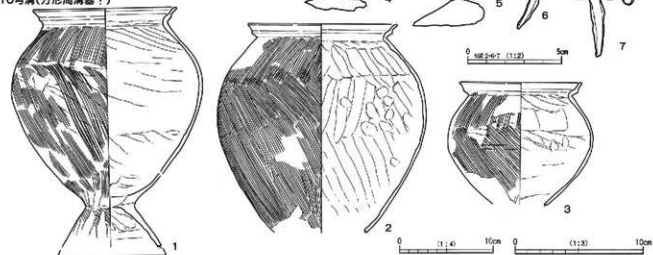
5号溝



8号溝

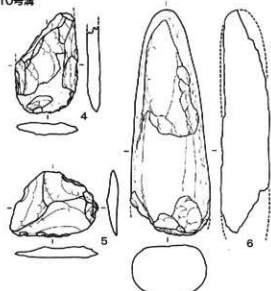


10号溝(方形周溝蓋?)

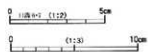
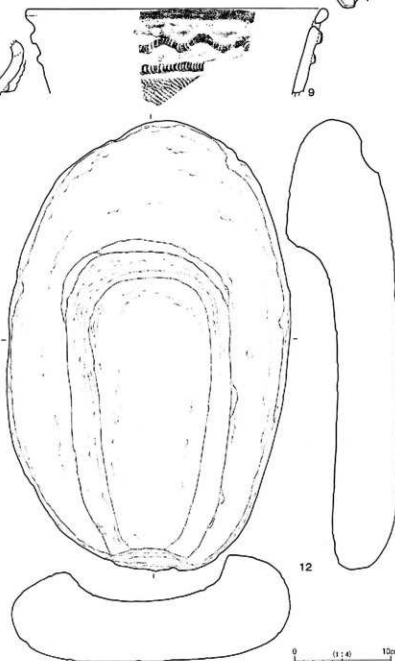
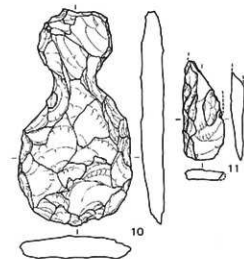
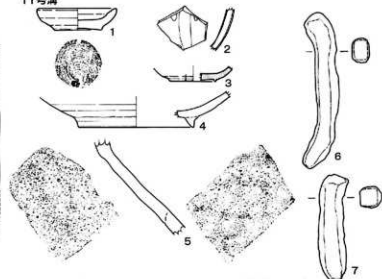


第159图 5·8·10号溝 遺物

10号溝



11号溝

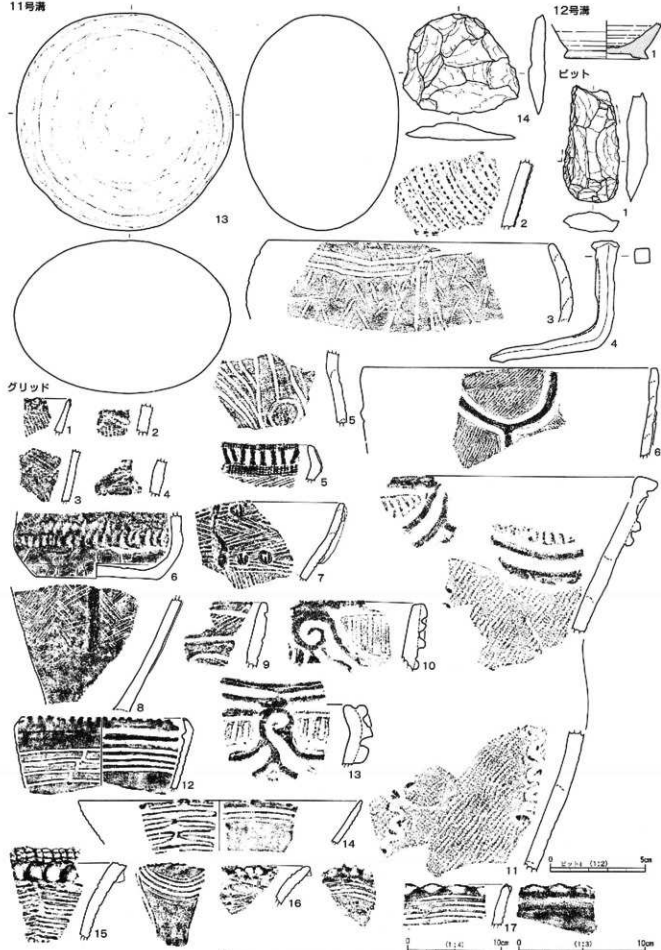


第160图 10·11号溝 遺物

11号溝

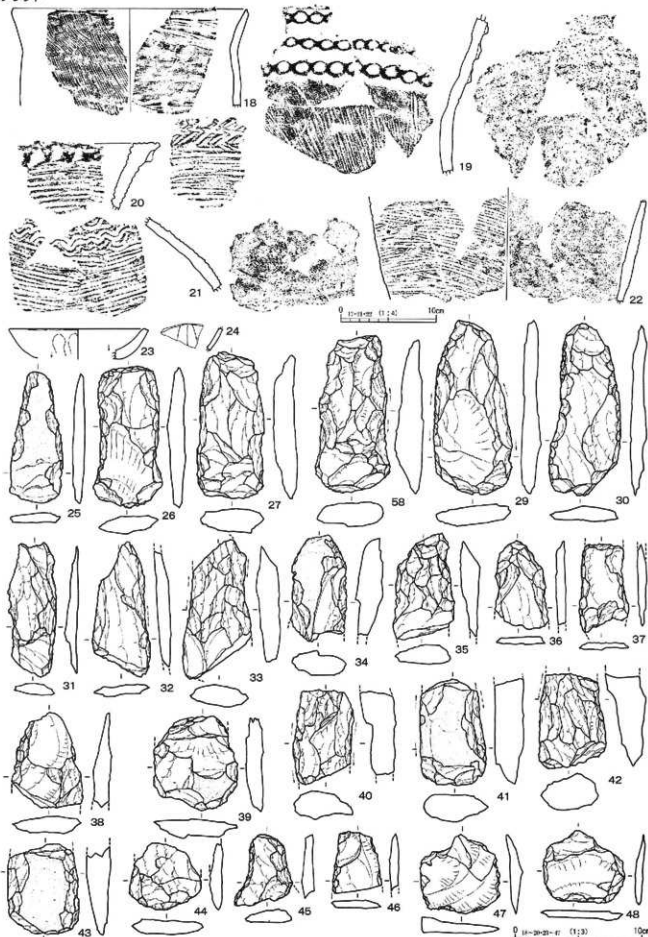
12号溝

ビット



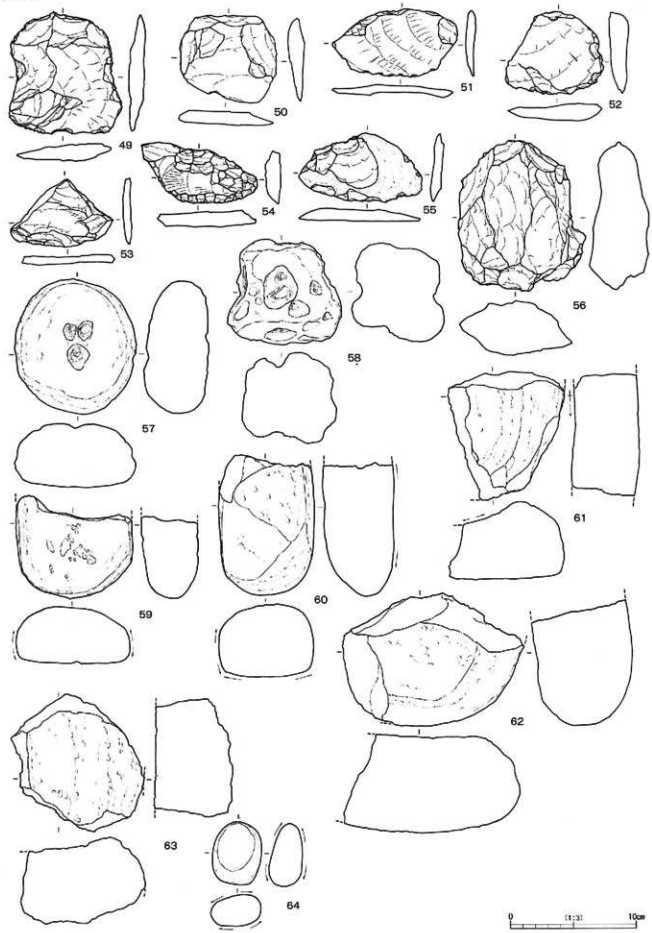
第161図 11・12号溝・ビット・グリッド 遺物

グリッド



第162図 グリッド 遺物

グリッド



第163図 グリッド 遺物

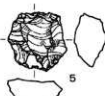
4号溝



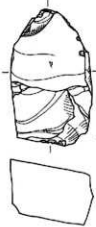
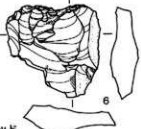
5号溝



8号溝



9号溝



ピット



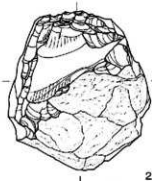
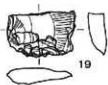
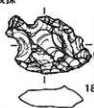
11号溝



グリッド



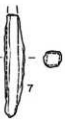
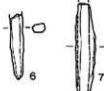
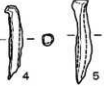
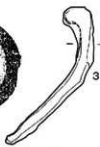
表探



22

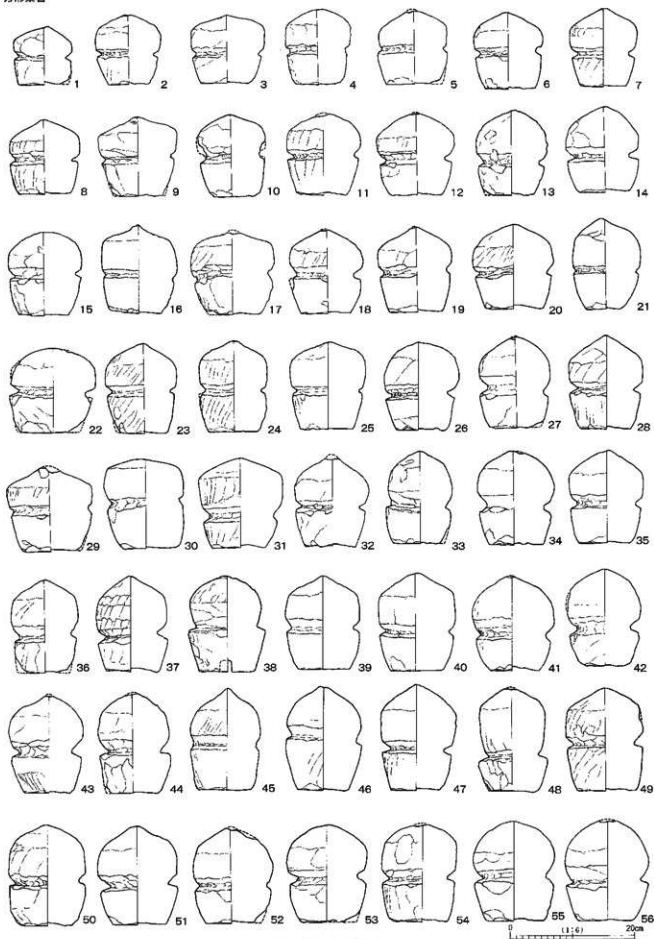


グリッド

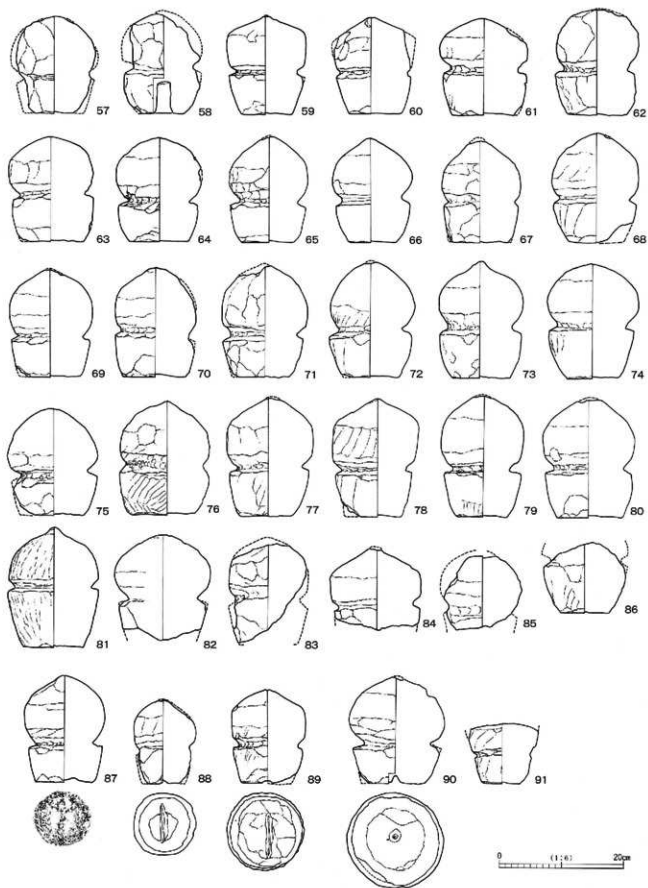


第164図 溝・ピット・グリッド 遺物

方形兼石

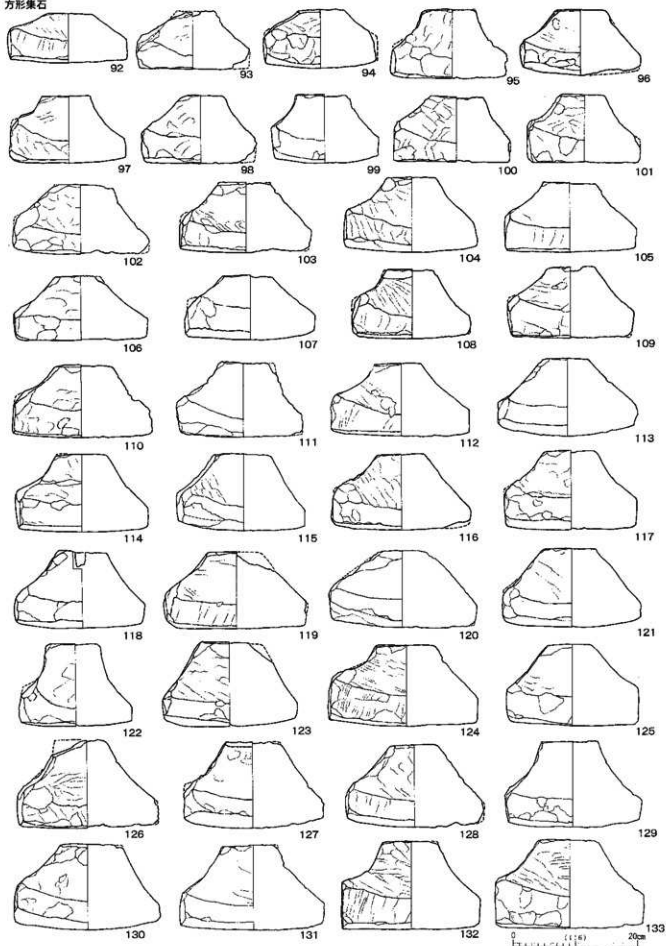


第165圖 五輪塔(1)



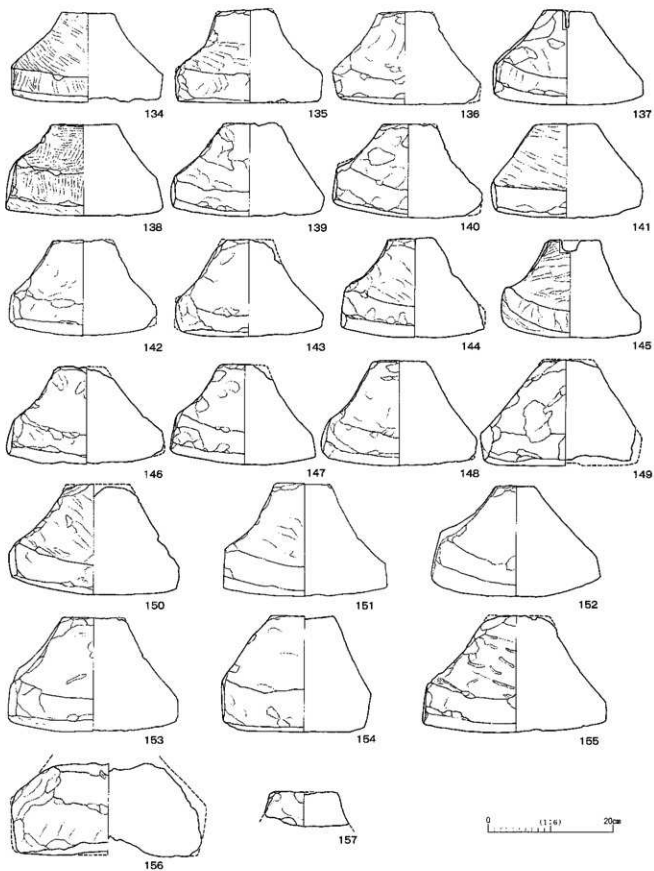
第166圖 五輪塔 (2)

方形集石



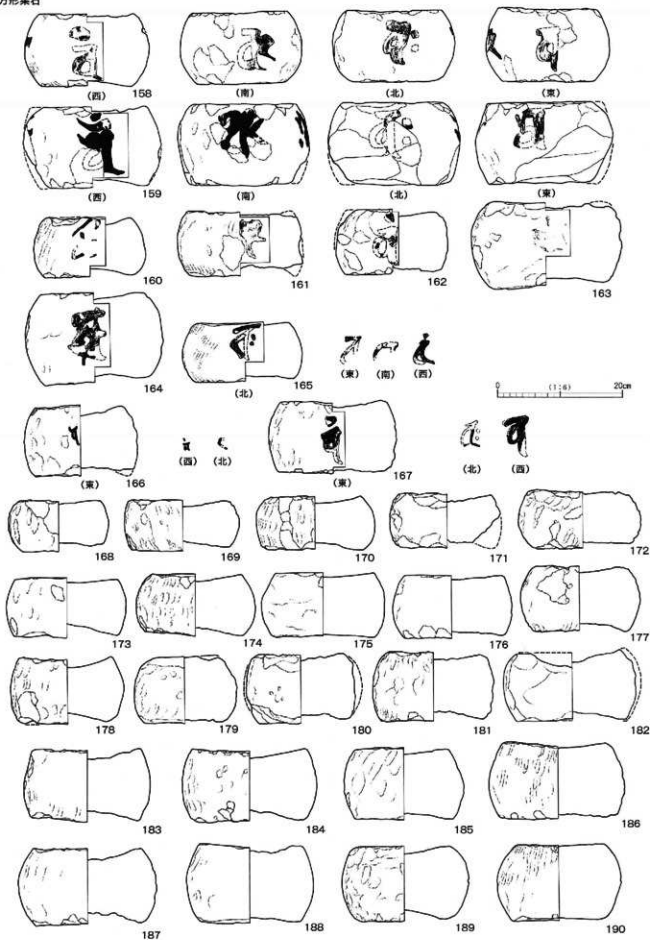
第167圖 五輪塔 (3)

方形集石



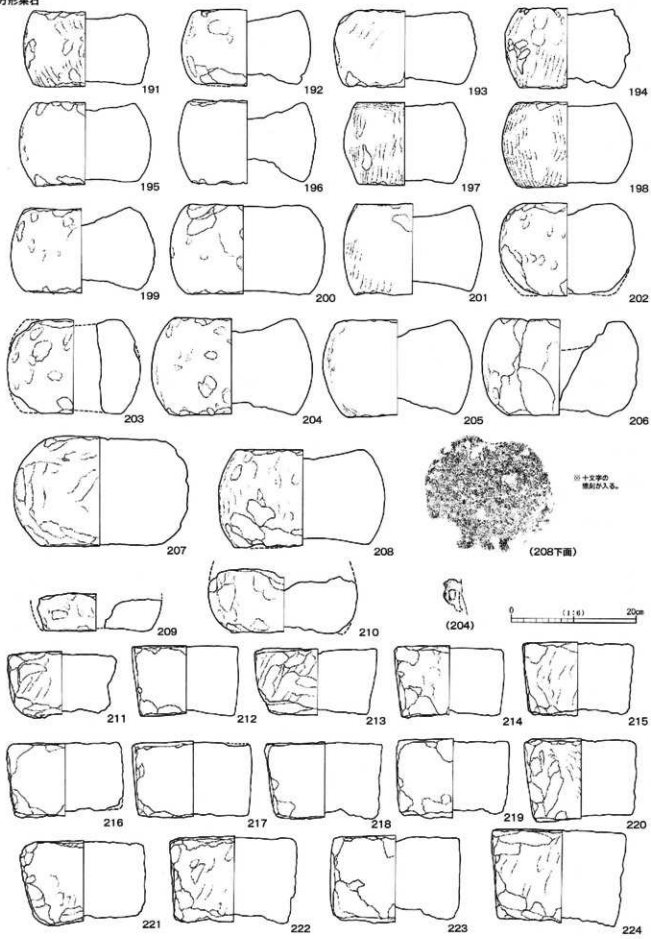
第168図 五輪塔(4)

方形隸石



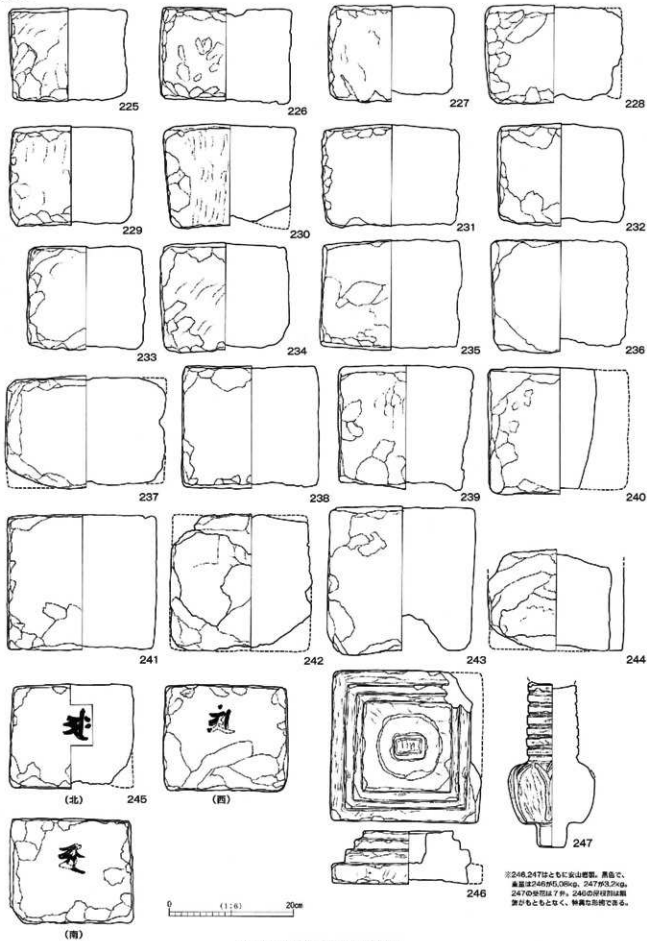
第169圖 五輪塔 (5)

方形集石



第170図 五輪塔 (6)

方形集石



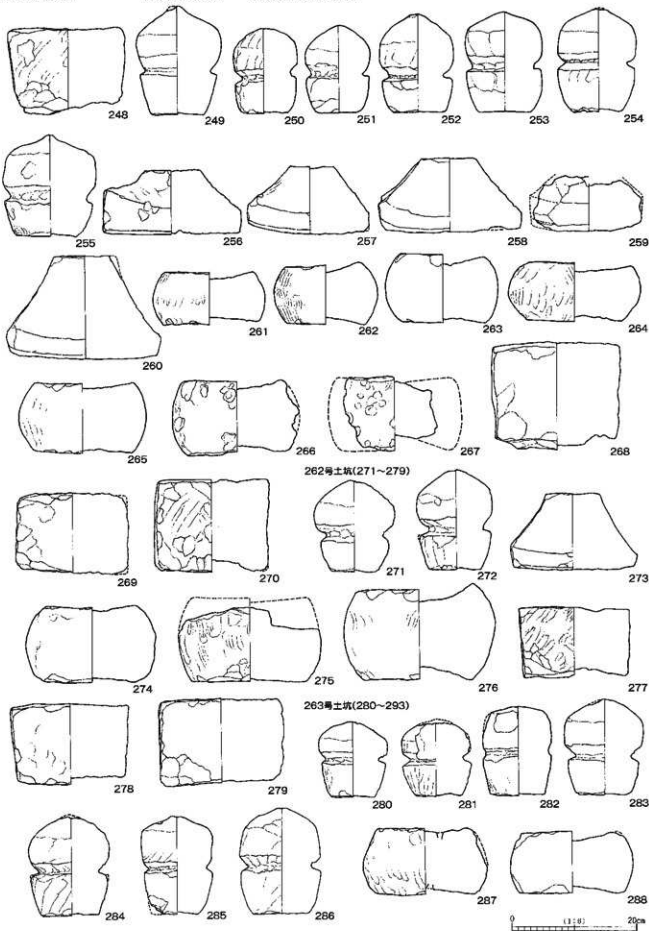
※246, 247ともに実山形跡。黒色で、
重量は246が5.08kg, 247が3.2kg。
247の全高は7cm。246の厚程度は測
量がともとならず、判真ら形跡である。

第171図 五輪塔及び宝篋印塔 (7)

257号土坑(248)

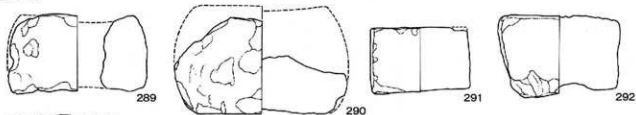
259号土坑(249)

260号土坑(250~270)

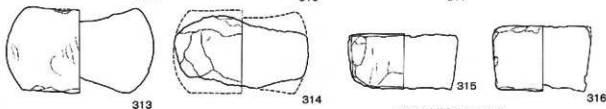
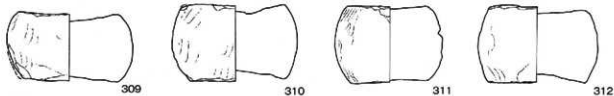
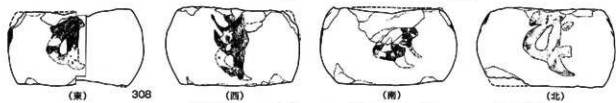
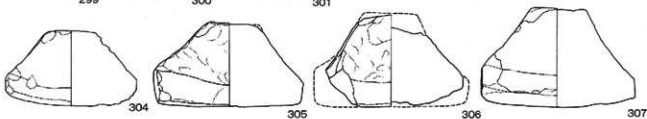
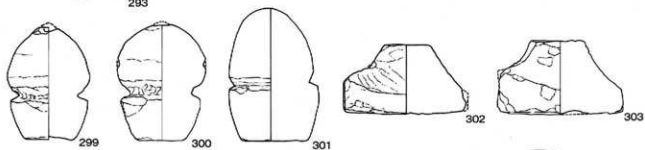
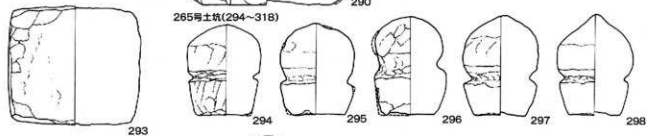


第172图 五輪塔(8)

263号土坑

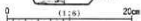
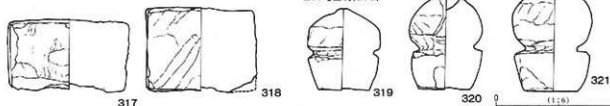


265号土坑(294~318)

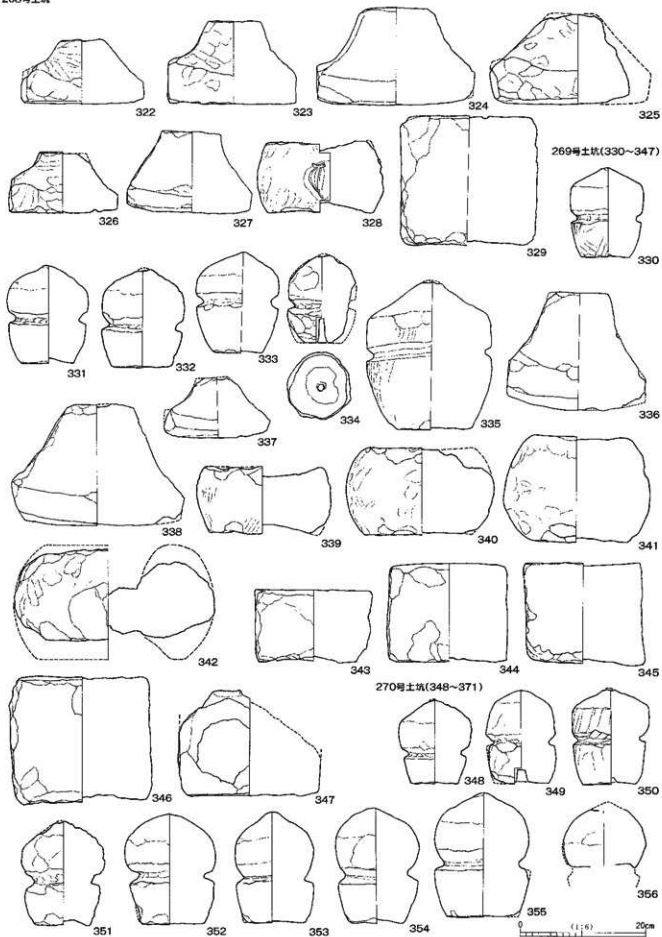


267号土坑(319)

268号土坑(320~329)

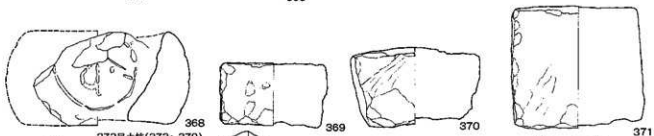
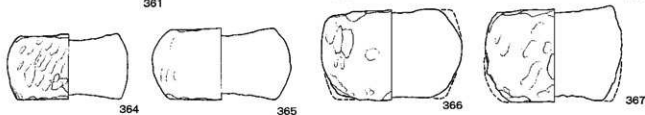
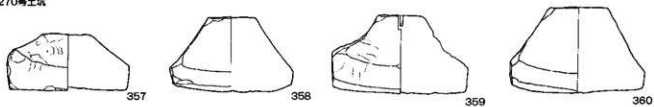


第173图 五輪塔(9)

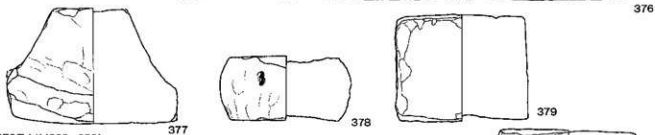
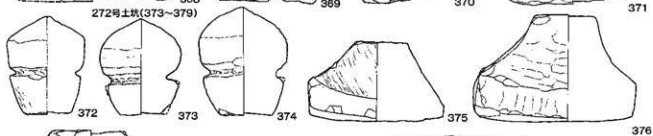


第174图 五輪塔 (10)

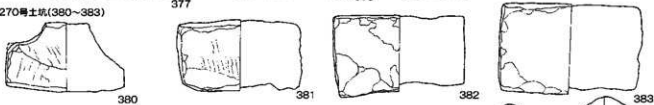
270号土坑



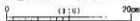
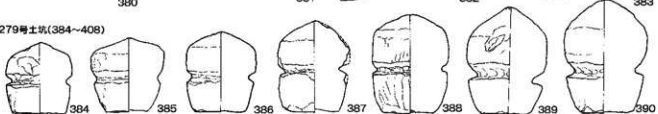
272号土坑(373~379)



270号土坑(380~383)



279号土坑(384~408)



第175图 五輪塔(12)

報告書抄録

ふりがな	いしのつぼいせき (ひがしちく)
書名	石之坪遺跡(東地区)
副題名	ー 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ー
巻次	ー
シリーズ名	ー
シリーズ番号	ー
編著者名	柳原功一・河西学・吉川純子
編集機関	石之坪遺跡発掘調査会
所在地	〒406-0032 山梨県東八代郡石和町四日市場1566 (財)山梨文化財研究所
発行機関	山崎市教育委員会
所在地	〒407-8501 山梨県山崎市水神1-3-1
発行年月日	2000年3月31日
ふりがな	いしのつぼいせきひがしちく
所収遺跡名	石之坪遺跡(東地区)
ふりがな	やまなしけんらさきしまるのちょうかみつぶらいあざいしのつぼ
所在地	山梨県山崎市門野町上内井字石之坪 1520 ほか
市町村コード	19207
遺跡番号コード	52 (若神子5338-53)
北緯	北緯 35° 45' 39"
東経	東経 138° 24' 2"
調査期間	1998年5月18日～1999年3月9日
調査面積	4928㎡
調査原因	県営圃場整備事業にともなう調査
種別	集落址・墓地・宗教施設・胎衣墓地
標高	463～467m
主な時代	縄文時代前・中期、弥生時代中期前半、古墳時代前期、平安～中世、近世～近代
主な遺構	縄文時代・平安～中世竪穴住居(建物)址、中世方形周溝遺構、中世区画溝、方形集石、胎衣墓地、弥生時代フラスコ状土坑、中世地下式坑、土坑墓、集石墓、土坑
主な遺物	縄文土器・石器・土偶裝飾付土器・土偶・土師器・灰釉陶器・山茶碗・須恵器・古瀬戸・常滑・買易陶磁(青磁・白磁)・中世瓦・土師質土器・五輪塔(約420点)・宝篋印塔・鉄製品・銭貨・胎衣容器・ガラス瓶・徳利・土瓶ほか
特記事項	12～13世紀の方形周溝遺構。館跡と思われる2条の区画溝、五輪塔群、火山灰分析、炭化種実分析、人骨鑑定

1: 調査区遠景
(東から)



2: 調査区全景
(東から)



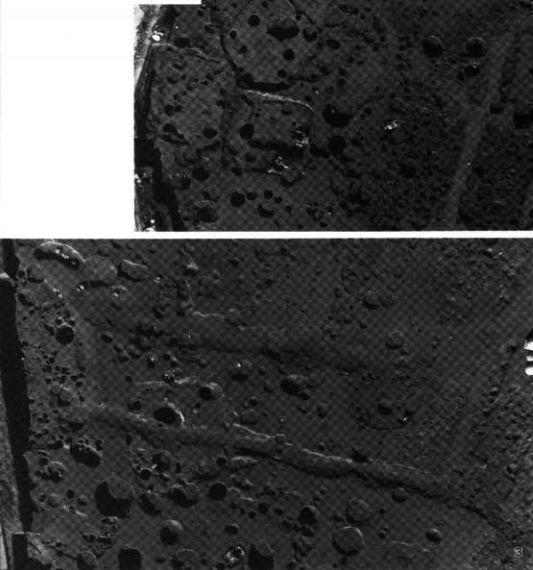
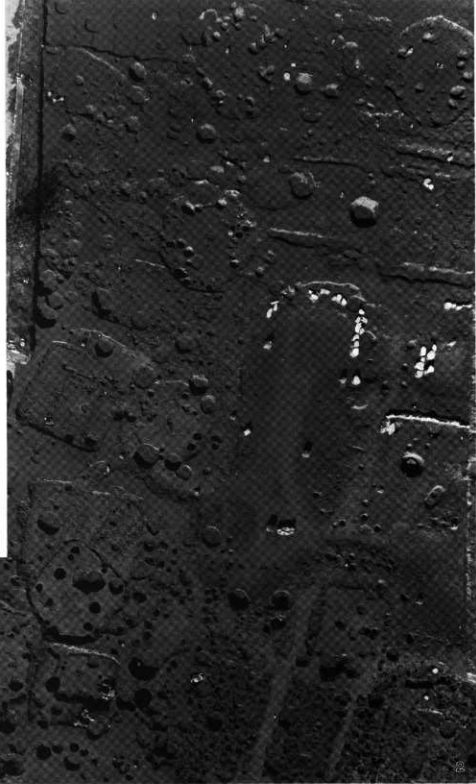


1:調査区全景
(南から)



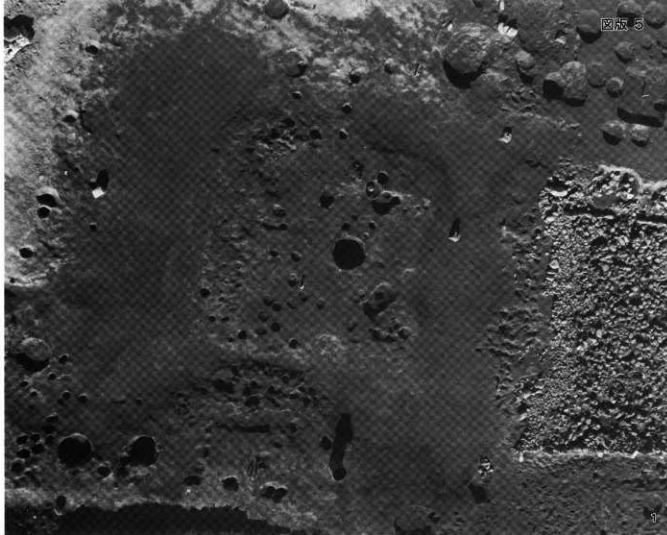
2:調査区全景
(北から)





- 1: 调查区全景
- 2: 调查区中央付近
- 3: 4・5号溝付近

1: 方形周溝
遺構
(壇状遺構)

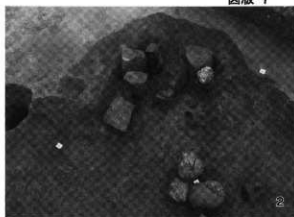
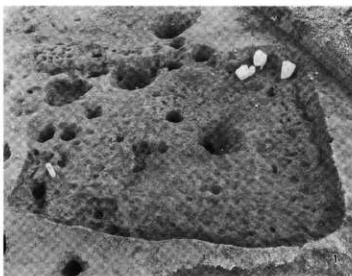


2: 方形集石
上層

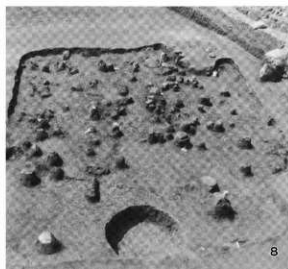
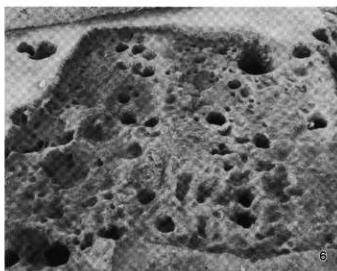
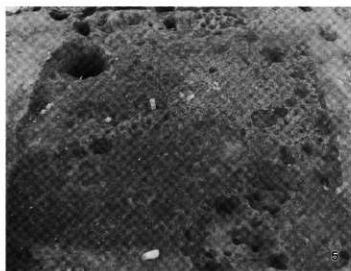
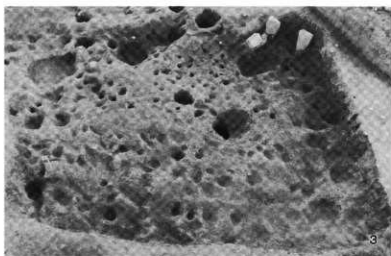


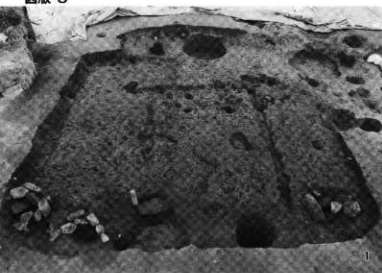


- 1: 方形集石下層 土坑群
- 2: 方形集石付近
- 3: 土坑群及びび方形周溝遺構
- 4: 調査前風景

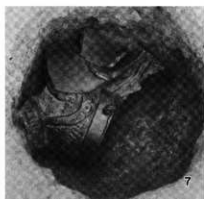
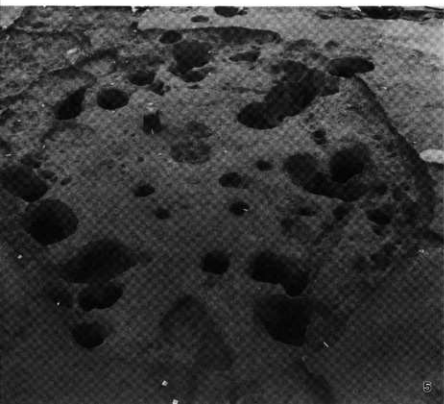


- 1: 1号住 完掘
- 2: 1号住 竈
- 3: 1号住 掘り方
- 4: 2号住内
- 5: 2号住 完掘
- 6: 2号住 掘り方
- 7: 3号住
間仕切り溝確認状況
- 8: 3・8号住
遺物出土状況

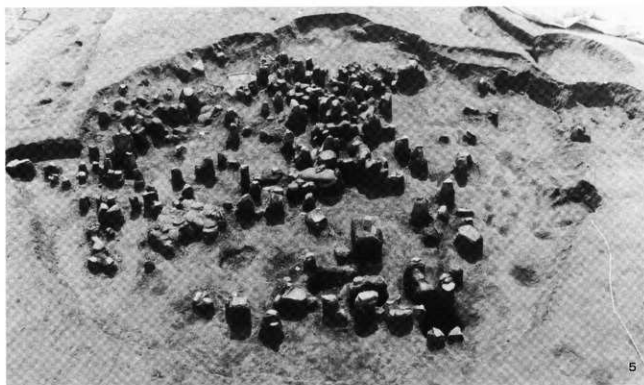
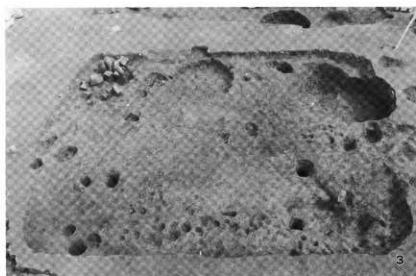
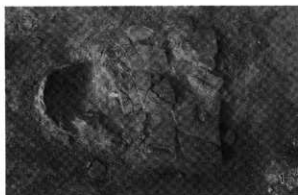




- 1: 3号住 完掘
 2: 3号住 竈
 3: 3号住 竈正面
 4: 4号住
 遺物出土状況
 5: 4号住 完掘
 6-7: 4号住 ピット1

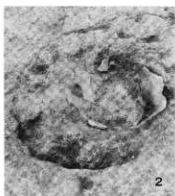


- 1・2：4号住内
 3：6号住 完掘
 4：6号住 電
 5：7号住 完掘
 遺物出土状況

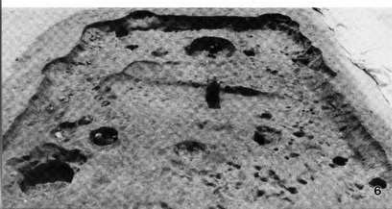
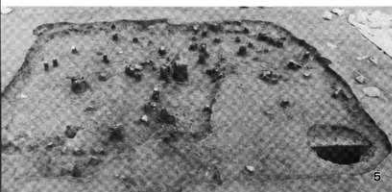
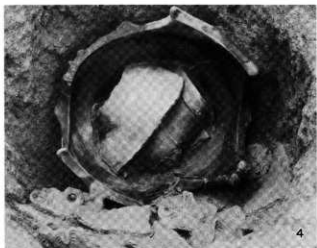


- 6~8：7号住内

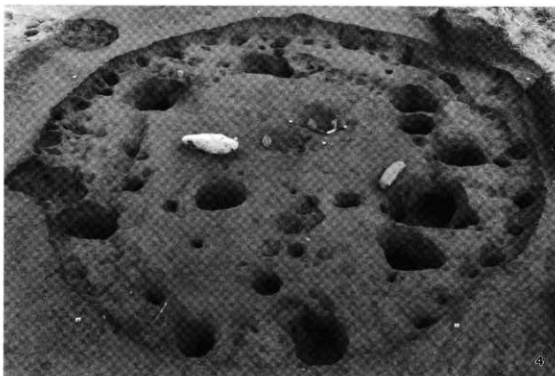
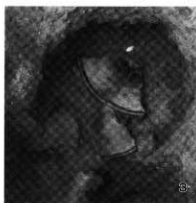
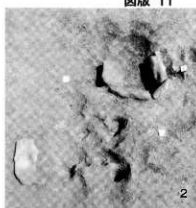




1: 7号住 完掘
2: 7号住 炉
3・4: 7号住
ピット5 遺物出土状況



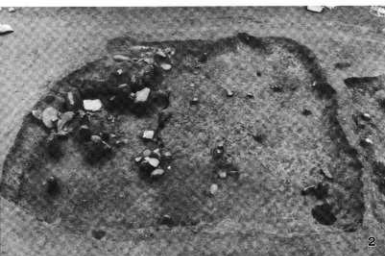
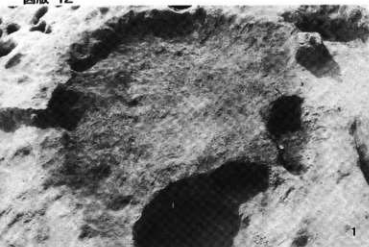
5: 9号住 遺物出土状況
6: 9号住 完掘
7: 9号住 掘り方



- 1: 11号住 遺物出土状況
- 2: 11号住 炉
- 3: 11号住 ビット
- 4: 11号住 完掘
- 5: 11号住内
- 6: 12号住



1: 13号住 完掘



2: 15・16号住 遺物出土状況
 3: 16号住 遺物出土状況
 4: 15・16号住 掘り方
 5~7: 16号住 竈
 8: 15号住内

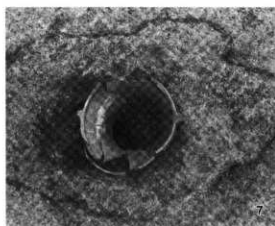
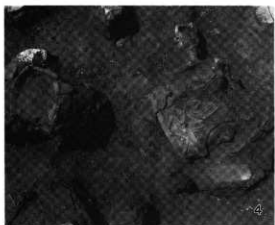


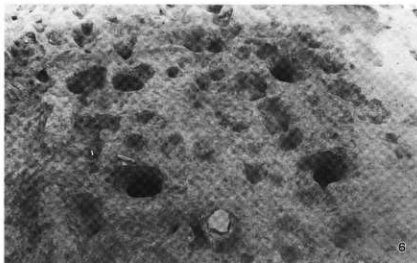
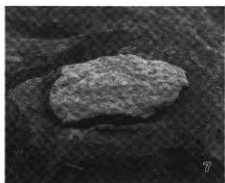
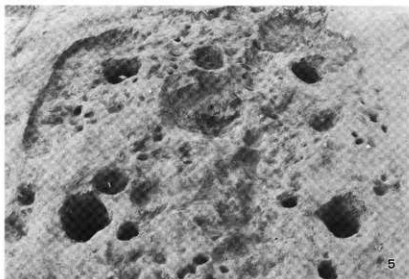
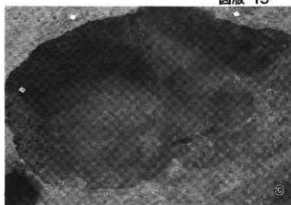
- 1: 17・38号住
遺物出土状況
- 2: 17・38号住
- 3: 17号住 完掘
- 4: 17号住 電付近
- 5: 18号住
遺物出土状況
- 6・7: 18号住内
- 8: 18号住 完掘
- 9: 18号住 炉



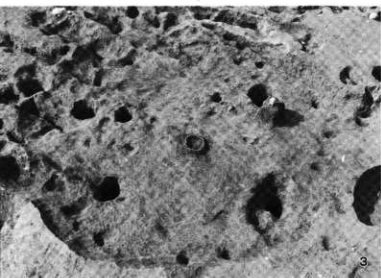


- 1: 20号住
- 2: 21号住 遺物出土状況
- 3: 21号住 完掘
- 4・5: 21号住内
- 6・7: 21号住 炉
- 8: 22号住 完掘

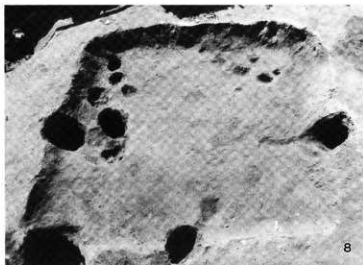
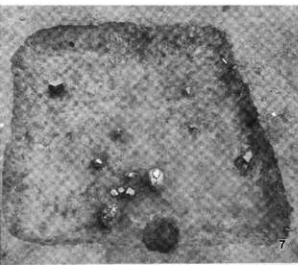




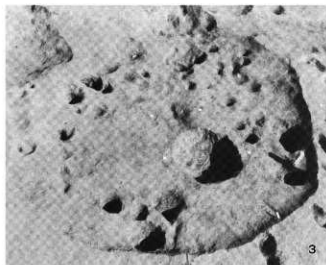
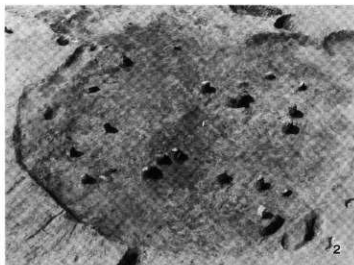
- 1: 23号住 遺物出土状況
 2: 23号住 完制
 3: 23号住 掘り方
 4: 23号住 埋甕
 5: 24号住 完制
 6: 25号住
 7: 25号住 埋甕・石蓋
 8: 25号住 埋甕

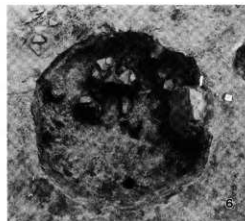
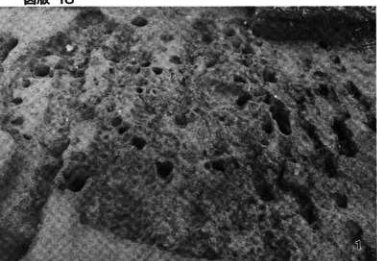


- 1: 26号住 遺物出土状況
- 2: 26号住 遺物出土状況
- 3: 26号住 完掘
- 4: 26号住内
- 5: 26号住 炉
- 6: 27号住 完掘
- 7: 28号住 遺物出土状況
- 8: 28号住 完掘



- 1: 29号住 完掘
- 2: 30号住 遺物出土状況
- 3: 30号住 完掘
- 4: 31号住 遺物出土状況
- 5: 31号住 炉 完掘
- 6: 31号住 炉
- 7: 31号住 調査風景



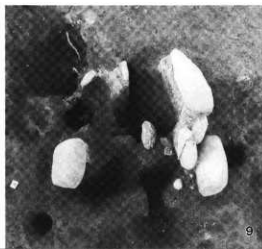


- 1: 32号住 完掘
- 2: 33号住 完掘
- 3: 33号住 竈
- 4: 35・36号 完掘
- 5: 35・36・52号住
- 6: 37号住 炉 遺物出土状況

- 1: 38号住 完掘
- 2: 38号住 竈
- 3: 39号住 遺物出土状況
- 4: 39号住内
- 5: 39号住内 集石

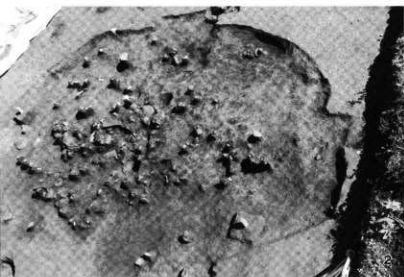


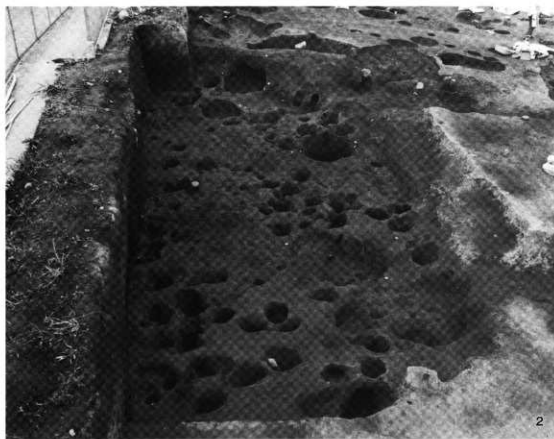
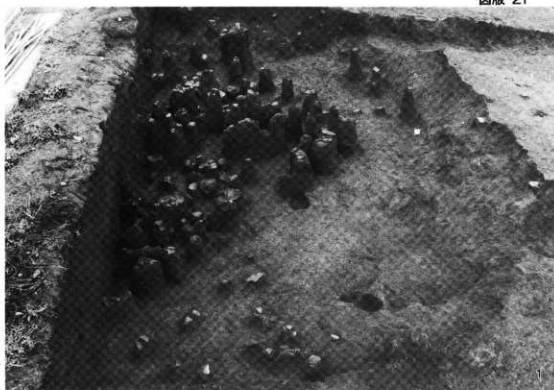
- 6: 40号住 遺物出土状況
- 7: 40号住 間仕切り溝 確認状況
- 8: 40号住 完掘
- 9: 40号住 竈



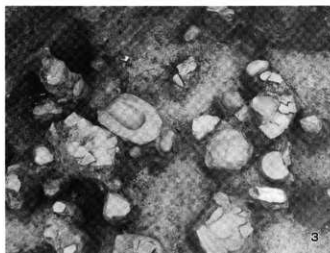


- 1: 40号住付近 調査風景
- 2: 41号住 遺物出土状況
- 3: 41号住 完掘
- 4: 41号住 炉
- 5・6: 41号住内
- 7: 41号住 調査風景





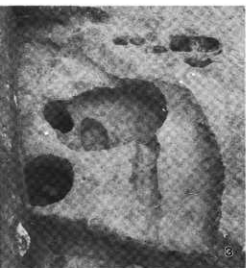
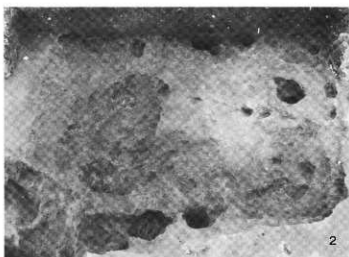
1: 42号住
道物出土状况
2: 42号住 完掘
3·4: 42号住内



2

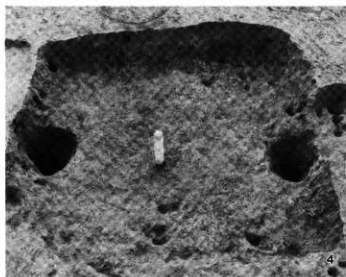
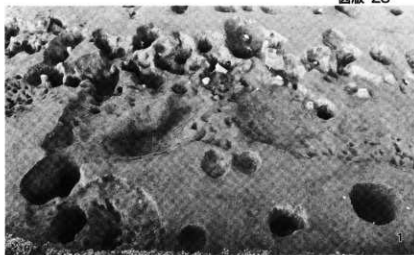
3

4

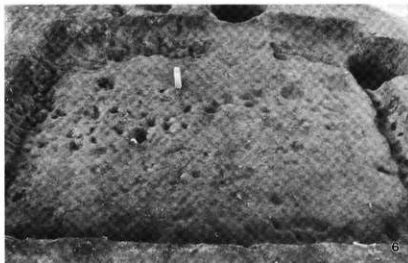


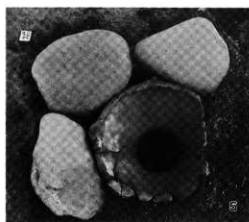
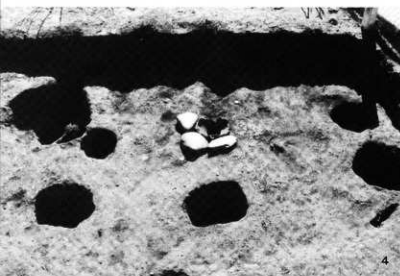
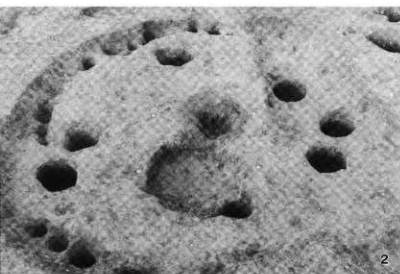
- 1: 43号住 掘り方
 2: 44号住 完掘
 3: 45号住 完掘
 4: 46号住 完掘
 5: 47号住 完掘
 6: 49号住 完掘
 7: 49号住 炉
 8: 49号住 完掘



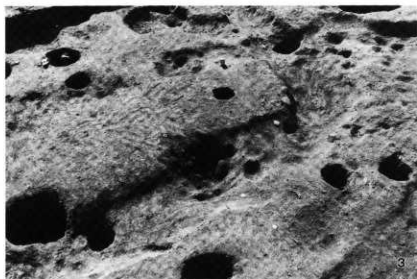


- 1: 50号住 完掘
- 2: 51号住 完掘
- 3: 51号住 埋甕
- 4: 54号住 完掘
- 5: 55号住 遺物出土状況
- 6: 55号住 完掘



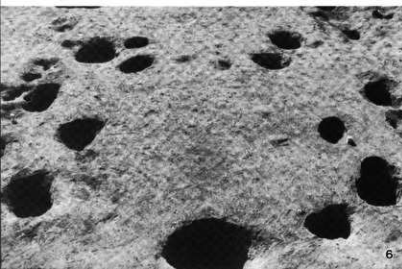
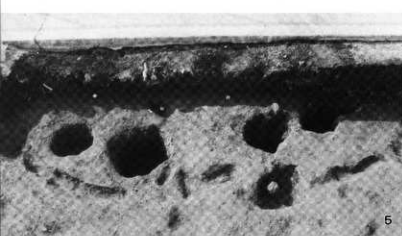


- 1: 56号住 遺物出土状況
2: 56号住 完掘
3: 56号住 炉
4: 57号住 完掘
5: 57号住 炉
6: 58号住 完掘

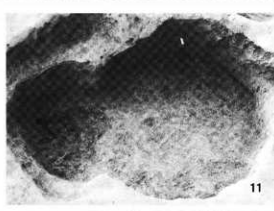
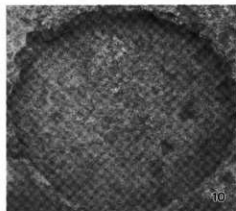
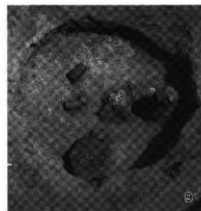
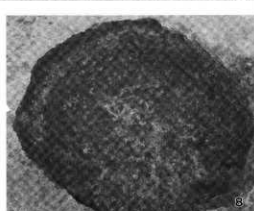
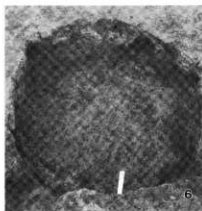
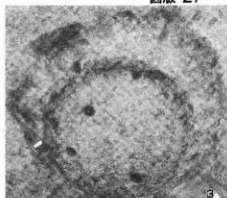


- 1: 59号住
- 2: 59号住 炉
- 3: 61号住
- 4: 61号住 炉 遺物出土状況
- 5: 62号住 完掘
- 6: 63号住 完掘

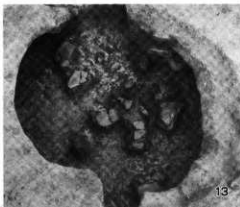
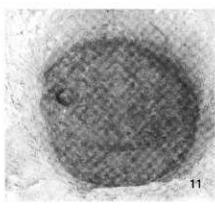
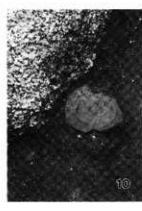
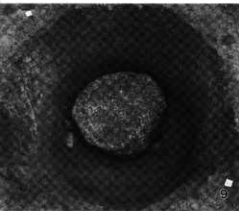
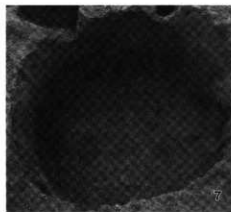
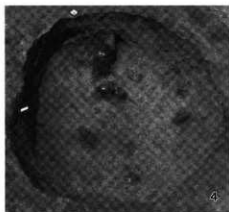
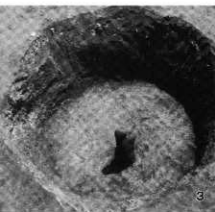
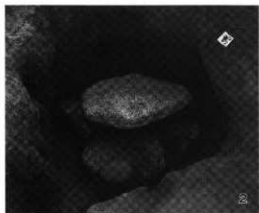
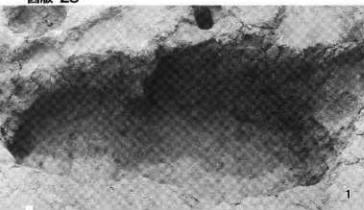




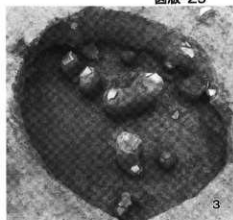
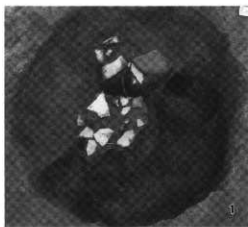
- 1: 64号住 遺物出土状況
- 2: 64号住 竈b内皿出土状況
- 3: 64号住 掘り方
- 4: 65号住 遺物出土状況
- 5: 66号住 完掘
- 6: 67号住 完掘
- 7: 68号住 掘り方



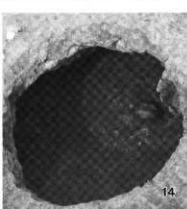
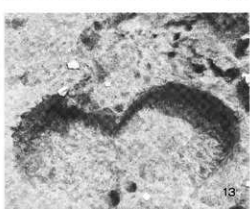
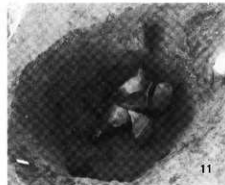
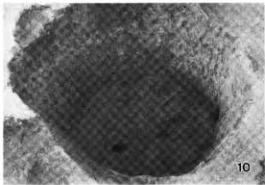
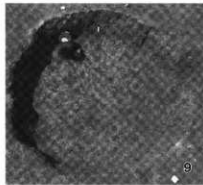
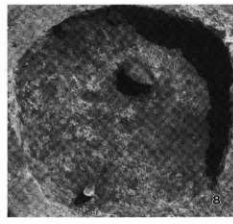
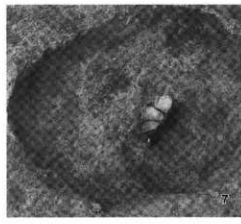
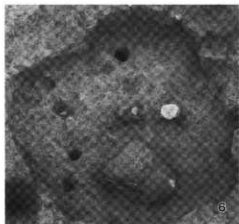
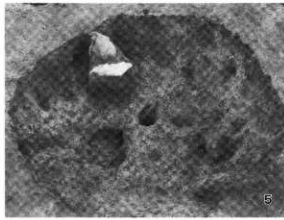
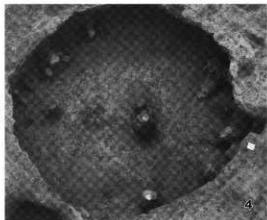
1 : 1号土坑 2 : 3号土坑
 3 : 10号土坑 4 : 15·21·23号土坑
 5 : 6·7·9·12号土坑
 6 : 14号土坑 7 : 21号土坑内菌
 8 : 26号土坑 9 : 27号土坑
 10 : 28号土坑 11 : 29号土坑
 12 : 32号土坑 13 : 32号土坑



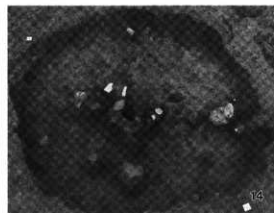
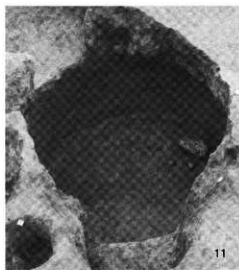
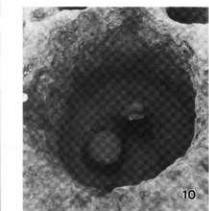
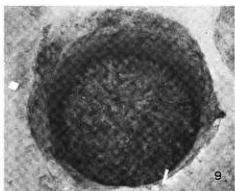
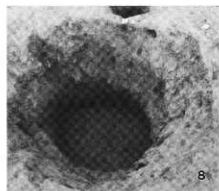
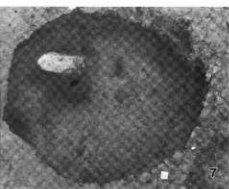
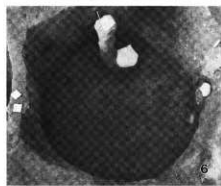
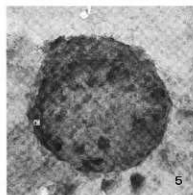
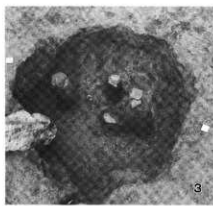
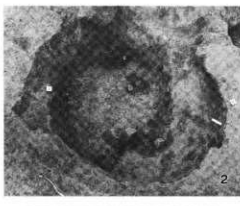
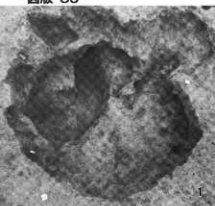
1 : 34号土坑 2 : 35号土坑
 3 : 36号土坑 4 : 37号土坑
 5 : 39号土坑 6 : 40号土坑
 7 : 41号土坑 8 : 42号土坑
 9~11 : 44号土坑
 12~13 : 45号土坑



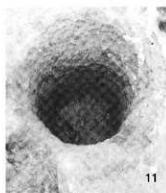
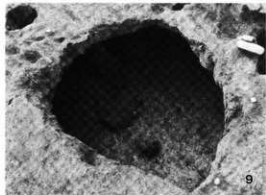
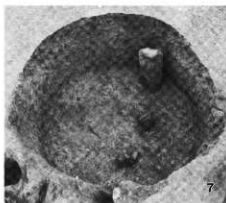
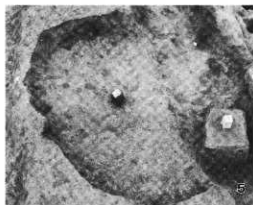
- 1 : 47号土坑 2 : 51号土坑
 3-4 : 56号土坑
 5 : 57号土坑 6 : 58号土坑
 7 : 59号土坑 8 : 62号土坑
 9 : 63号土坑 10 : 64号土坑
 11 : 67号土坑 12 : 68-69号土坑
 13 : 71-72号土坑 14 : 76号土坑



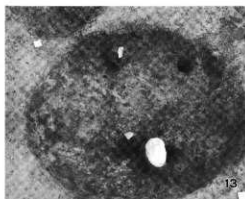
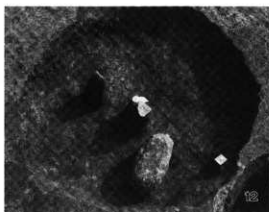
图版 30

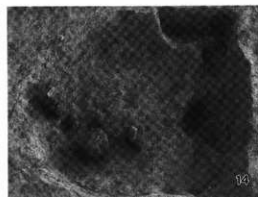
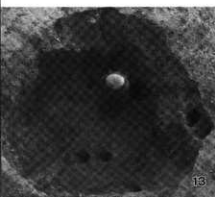
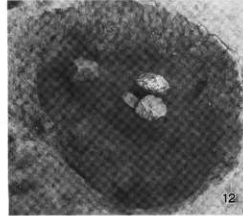
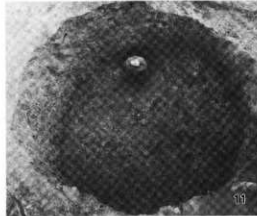
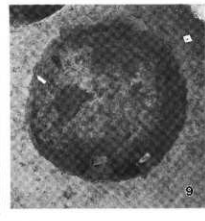
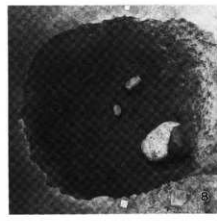
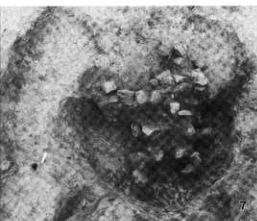
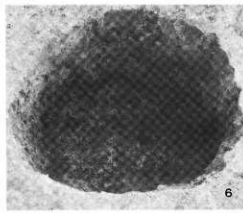
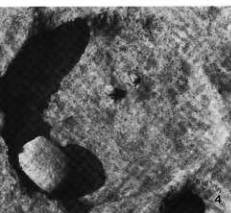
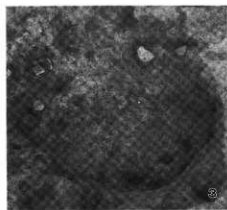


- 1 : 77号土坑 2 : 78号土坑
3 : 79号土坑 4 : 80号土坑
5 : 81号土坑 6 : 82号土坑
7 : 85号土坑 8 : 86号土坑
9 : 94号土坑 10 : 101号土坑
11 : 104号土坑 12 : 105号土坑
13 : 106-120号土坑
14 : 110号土坑

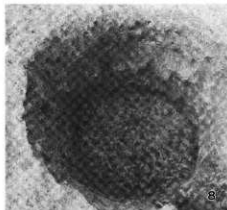
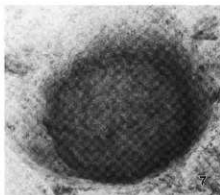
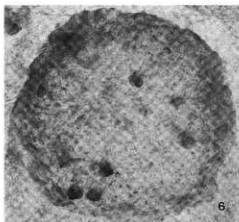
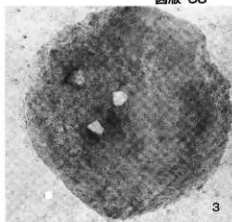
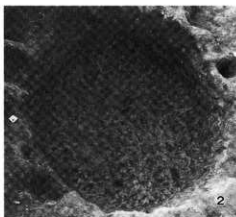
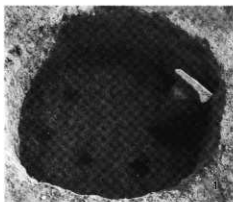


- 1 : 111号土坑 2·3 : 113号土坑
 4 : 115号土坑 5 : 116号土坑
 6 : 123号土坑 7 : 124号土坑
 8 : 126号土坑 9 : 127号土坑
 10 : 127号土坑 11 : 128号土坑
 12 : 130号土坑 13 : 132号土坑

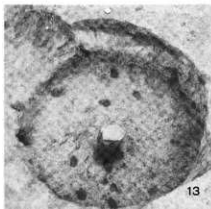
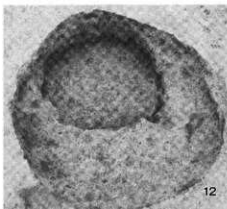
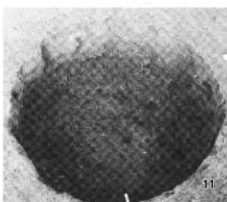
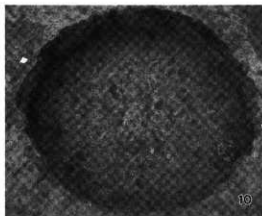


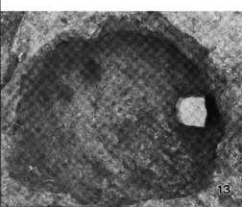
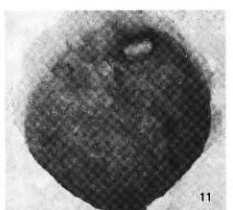
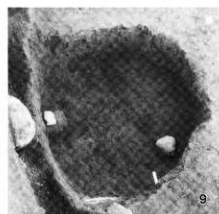
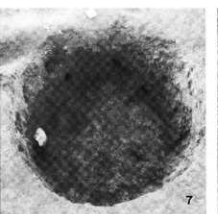
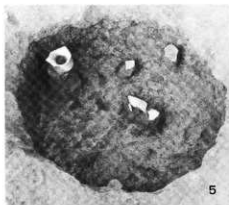
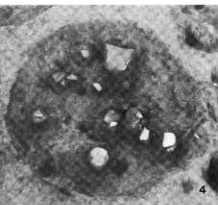
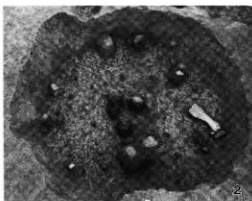


1 : 133·134号土坑 2 : 135号土坑
 3 : 137号土坑 4 : 139号土坑
 5 : 104号土坑 6 : 143号土坑
 7 : 150号土坑 8 : 151号土坑
 9 : 152号土坑 10 : 153号土坑
 11 : 159号土坑 12 : 161号土坑
 13 : 168号土坑 14 : 172号土坑



- 1 : 174号土坑 2 : 175号土坑
 3 : 186号土坑 4 : 190号土坑
 5 : 190号土坑 6 : 191号土坑
 7 : 192号土坑 8 : 193号土坑
 9 : 195号土坑 10 : 196号土坑
 11 : 199号土坑 12 : 208·209号土坑
 13 : 210号土坑

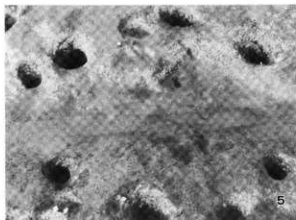
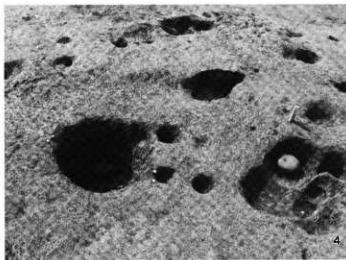
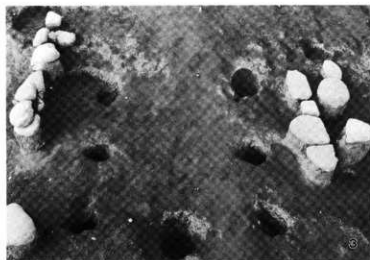




1 : 223号土坑 2 : 224号土坑
 3 : 224号土坑 4 : 229号土坑
 5 : 230号土坑 6 : 230号土坑
 7 : 234号土坑 8 : 235号土坑
 9 : 238号土坑 10 : 243号土坑
 11 : 244号土坑 12 : 246号土坑
 13 : 256号土坑 14 : 280号土坑



- 1 : 方形周溝遺構
- 2 : 方形周溝遺構
(壇状遺構)
- 3 : 1号橋脚状遺構
- 4 : 方形周溝遺構
(壇状遺構)
- 5 : 2号橋脚状遺構
- 6 : 池状遺構
(雨水の溜まり状況)





1~4: 方形周溝遺構(池状遺構)

5~7: 池状遺構内

8: 方形周溝遺構
(1号榎脚状遺構付近)

9: 1号石列

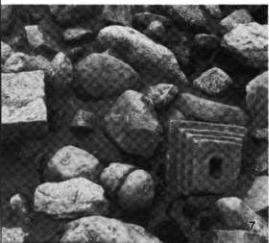
10: 方形周溝遺構(9号溝)

1・2：竪状遺構
及び方形集石



3：方形集石
(南より)





1~8:
方形集石上層



1·2：方形集石下層 土坑群

3：259号土坑

4：258号土坑

5：260·271号土坑

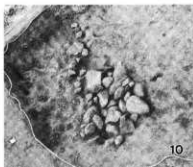
6：260·271号土坑下層

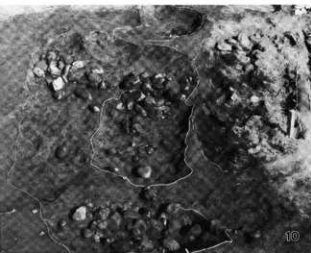
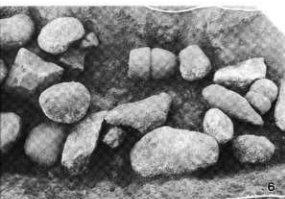
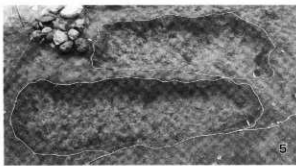
7：260号土坑最下層

8：261号土坑

9：262号土坑

10：262号土坑下層





- 1 : 263号土坑
- 2 : 263号土坑下層
- 3 : 264号土坑
- 4 : 265·272号土坑
- 5 : 265·272号土坑
- 6·7 : 265号土坑内
- 8 : 275号土坑
- 9 : 268~270号土坑
- 10 : 268·279A~C号土坑
- 11 : 268~270·279号
土坑附近

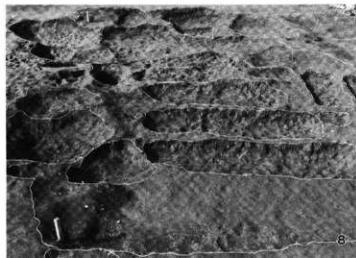


1~3 : 268~270号土坑

4 : 269号土坑内

5 : 268号土坑内

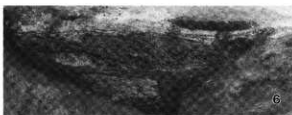
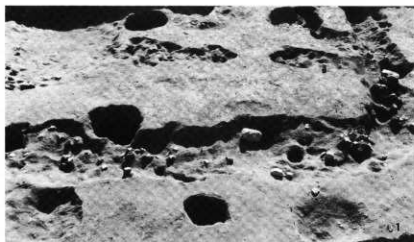
6~8 : 268~270·279号土坑付近 完棚





1·2 : 279C号土坑(1)
3·4 : 279C号土坑(2)
5·6 : 279C号土坑(3)
7 : 279C号土坑(4)
8 : 279C号土坑(5)
9 : 279C号土坑(6)
10 : 285号土坑付近





- 1-2: 10号溝
(方形周溝墓?)
- 3: 4-5号溝
- 4-5: 11号溝
- 6: 11号溝 断面
- 7: 深掘り断面
- 8: 調査区南端

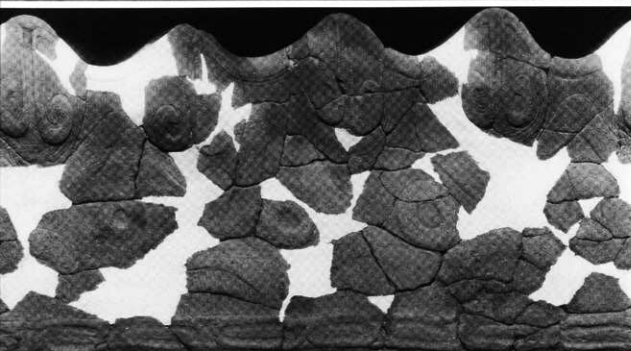




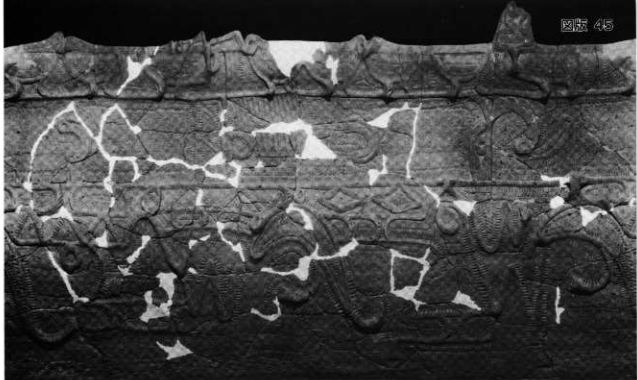
4号住 1



7号住 50



7号住 5





4号住 1



7号住 16



7号住 1



7号住 3



7号住 5



7号住 4



7号住 50



21号住 4



21号住 2



21号住 1



4号住 6



41号住 6



41号住 7



41号住 8



41号住 9



41号住 10



42号住 34



42号住 46



42号住 43

石之坪遺跡(東地区)

— 県営園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成12年(2000) 3月31日発行

- 編 集 石之坪遺跡発掘調査会
〒406-0032 山梨県東八代郡石和町四日市場1566
(財)山梨文化財研究所内 TEL 055-263-6441
- 発 行 韮崎市教育委員会
〒407-8501 山梨県韮崎市水神1-3-1 TEL 0551-22-1111(代)
- 印 刷 有限会社タクト
〒407-0034 山梨県韮崎市大草町下條中割711-6 TEL 0551-22-9633(代)
-



7号住出土土器の抽象文